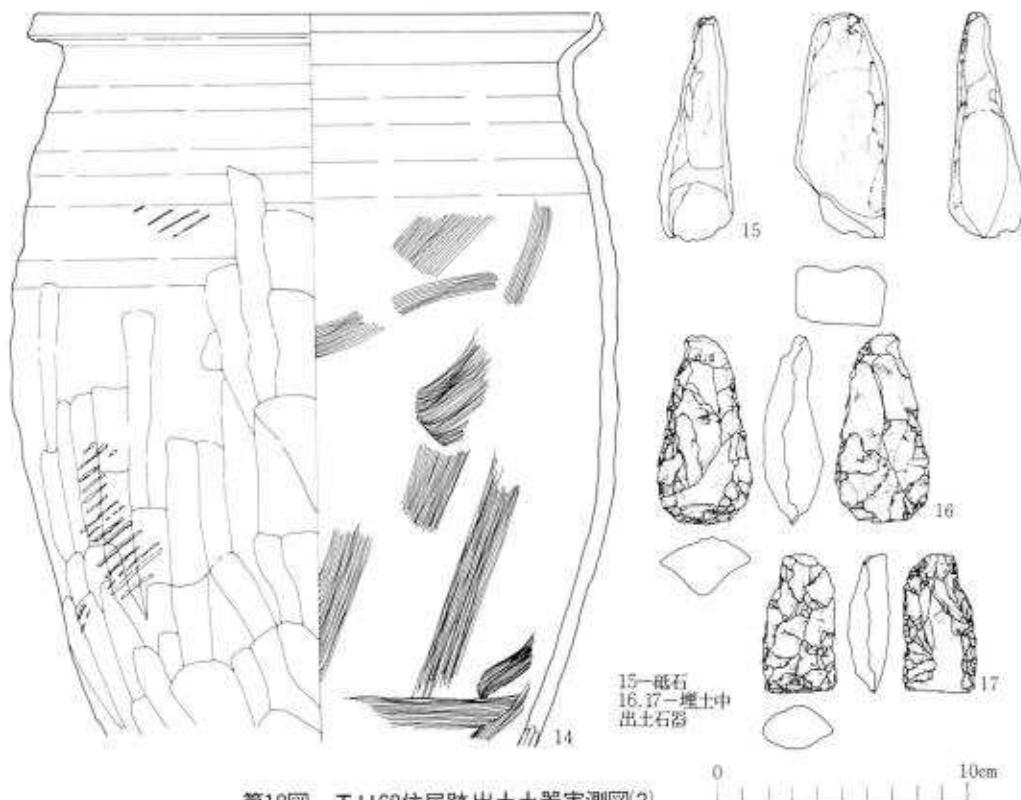


第17図 T H68住居跡出土土器実測図(1)



第18図 T H68住居跡出土土器実測図(2)

て堅緻である。また胴部中央辺に数条の平行叩き目が残り下方はヘラナデの調整がタテまたは横方向に認められる。

石器 16～18、16は紙石で3面に使用痕が残されている。17・18は遺構に伴ったものとは思われないが一応共伴遺物として参考までに図示した。両者は不定形石器の類で横長の剥片を利用して刃部を作り出し両面からの剥離調整を行っている。材質は頁岩である。

(2) 遺構と遺物に関する問題点

遺構

検出された遺構は竪穴住居跡2棟であるが、これら両住居遺構の相互間にみられる異同及び他遺跡の住居跡遺構との比較等をとおして若干の問題点を指摘したい。

両住居跡のプランは隅丸長方形を呈しているが長軸方向に差異がみられT H68住は東西、Y D56住は南北に傾いている。柱穴はY D56住は4本が想定されこのうち1本だけが対角線上にのり他はやゝずれる傾向をみせている。またT H68住では主柱穴と想定されるものは発見できない。

— 西田遺跡 —

当地域における一般的住居構造では主柱穴のうち2本が方形プランの対角線上にのることを例とすれば若干の問題を提起することになる。カマドは夫々の住居跡に付帯されるがTH68住では3基、YD56住では2基検出されこれらは時期差をもつものと推測される。TH68住における3基の新旧関係は、北カマド→南カマド→東カマドの順であろう。またYD56住は南カマド→東カマドへの移行と想定できる。以上からカマド付設の位置が、北または南が古く最終的には東カマドへの定着が普遍化されるものと思われる。さらにカマド位置が夫々の壁の中央に構築されず偏在する共通性をみせている。このような類例は県内に多く、土器製作にロクロ技術が定着した段階の住居構造といえる。次にTH68住の東カマドにみられる3個の小形ピットの性格は不明であるがこれについては今後の課題として問題提起だけにとどめる。

出土遺物

出土遺物は土器を主体とし他に数点の石器がある。これらの遺物は堆積土内及び床面、カマドからの出土である。

壺は土師器、須恵器、赤焼き土器の三類である。個体数、破片数とも多いのが赤焼き土器で土師器と須恵器はほぼ同数である。土師器は内面だけに調整があり内黒処理を施している。また器形は内輪気味に外傾し器高もやや高い、底部は回転糸切りで二次調整は認められない。この類例は相去遺跡の壺形土器A₂類に相当するものである。須恵器はやや軟質のものが目立ち色調に白黄色または灰白色のものがある。これらは全てロクロ成形により底部は回転糸切りの切り離しに終るものである。赤焼き土器は数的に最も多いものであるがいずれもロクロ成形で内外面の調整は認められずまた黒色処理もない。

甕は小形と中形のものではとんど占められ、成形にロクロ未使用のものが割合多く巻き上げ技法によっている。小形甕には木葉底のもの1点が含まれている。しかし甕類の時期については年代間に幅があり即答はできない。ここでは出土事例を掲げ今後の土師器甕類の編年作業の進行の中で位置づけてほしい。各住居跡の所属時期は、TH68住が9世紀中葉、YD56住が10世紀中葉ごろと一応想定しておく。

土器破片数

T H 68 住 居 跡			Y D 56 住 居 跡		
種類	器種	破片数	種類	器種	破片数
土 師 器	壺	10	土 師 器	壺	8
	甕(小形)	23	甕(小形)	8	
	甕(大形)	268	甕(大形)	85	
須 恵 器	壺	7	須 恵 器	壺	4
	甕(大形)	7	甕(大形)	3	
赤土 燒 器	壺	24	赤土 燒 器	壺	5

北 部 地 区

土層注記表

(I) 土色

基 本 土 色		黑 褐 色		褐 綠 色		紅 紫 黃 褐 色				黃 黃 褐 色					
		10YR 2.2	10Y-R 2.3	10YR 3.2	10YR 3.3	10Y-R 3.4	10Y-R 4.3	10Y-R 4.4	10Y-R 4.6	10Y-R 5.3	10Y-R 5.4	10YR 5.6	10YR 5.8	10Y-R 6.6	10Y-R 6.8
黑 褐 色 (1~4%)	少 (1~4%)	14	27	49	51	66	79	90	105	118	131				
	小 (5~10%)			41	54	67	80	93	106	119	132				
	中 (11~25%)			42	55	68	81	94	107	120	133				
	多 (26~40%)			43	56	69	82	95	108	121	134				
褐 綠 色	極 少	2	15	28	44	57	20	33	36	109	122	135			
	少	3	16	29			71	84	97	110	123	136			
	中	4	17	30			72	85	98	111	124	137			
	多	5	18	31			73	86	99	112	125	138			
褐 綠 色 (41~50%)	極 少	6	19	32	45	58	74	87	100	113	126	139			
	少	7	20	33	46	59				114	127	140			
	中	8	21	34	47	60				115	128	141			
	多	9	22	35	48	61				116	129	142			
黃 黃 褐 色 色	極 少	10	23	36	49	62	75	88	101	117	136	143			
	少	11	24	37	50	63	76	89	102						
	中	12	25	38	51	64	77	90	103						
	多	13	26	39	52	65	78	91	104						

(II) 土性

シルト質 塚上: SiL — a
 シルト質砂上: SiCL — b
 シルト質粘土: SclC — c
 砂 塚 上: Si — d
 砂質 塚 上: SCL — e
 砂 質 上: SC — f
 砂 上: S — g
 重 塚 上: HC — h

(V) 混入物

塊上(Baked soil) — B
 木炭(Charcoal) — C
 その他
 無し

微量 — 1
 少量 — 2
 普通 — 3
 多量 — 4

(III) しまり

密(Tight) — T
 中(Tight) — T
 中(Middle) — M
 やや疎(C) — C
 疏(Course) — C

(IV) 堆積上の状況

粉状(極小粒状) 堆積上 — P
 粒状(小・中・大粒状) 堆積上 — G
 塊状(ブロック状) 堆積土 — A

(VI) 細の形成

自然堆積: Natural accumulation — N
 人為堆積: Artificial accumulation — A

注 第19図～第40図の注記は以下の順で表示してある。

層No.・層位・(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)

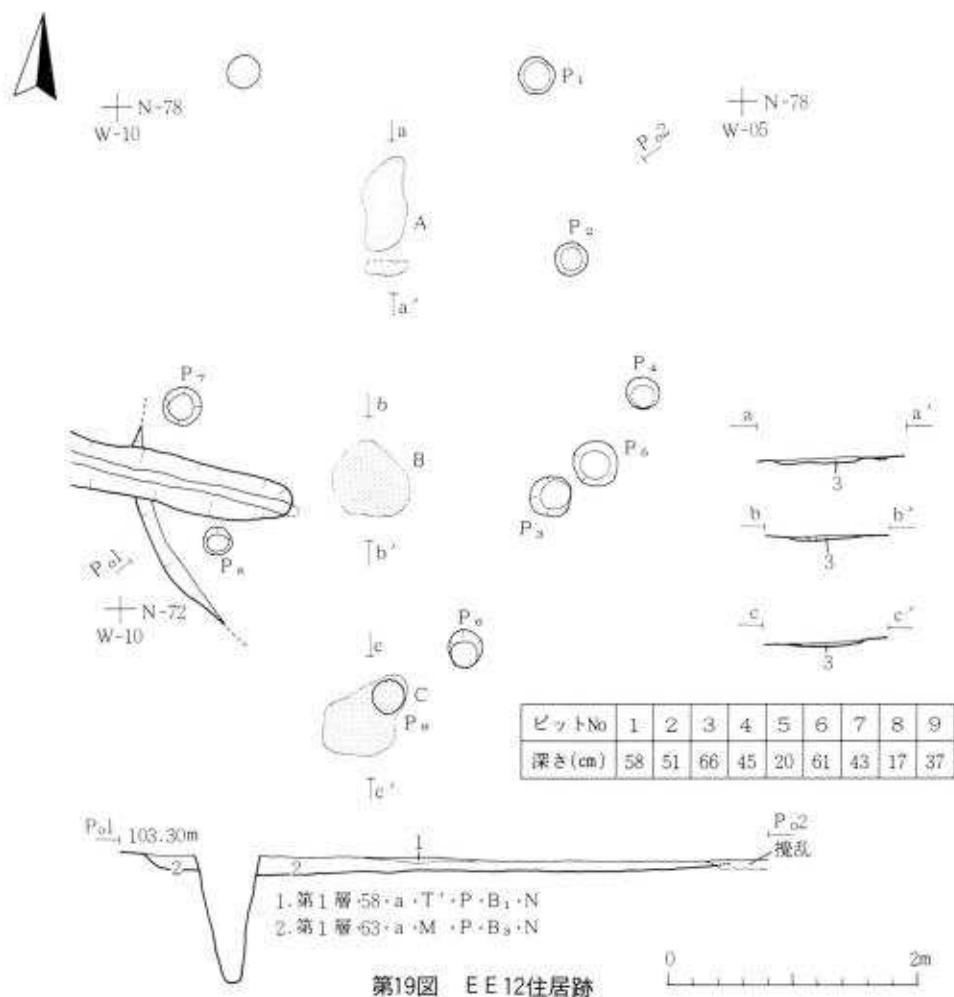
北部地区

〔1〕 縄文時代の遺構

1 穫穴住居跡

EE 12住居跡（第19図）

〔遺構の確認〕 E区の中央やや西寄りに位置しており、地山面上より焼面を検出して遺構の存



第19図 EE 12住居跡

—西田遺跡—

在を確認した。なお、住居の平面形・規模・柱穴等は不明である。

〔重複〕 EE 091・EE 092・EE 122・EE 095・EG 121の5個の貯蔵穴状ピットと重複し、それらのピットよりも新しい。また、EF 12陥入穴状土壙とも重複し、それよりは旧い。

〔堆積土〕 最下層のみ確認されており、暗褐色シルトの自然堆積層である。

〔床〕 壁は南北辺の1部でしか確認されていない。現存値で約10cmの壁高をもち、床面からの立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 11個の柱穴状ピットが検出されているが、配置形からみて明確に柱穴とすることできるピットはみあたらない。

〔炉〕 烧面が3個所(A・B・C)で確認されている。大きさはAが34×91cm、Bが61×60cm Cが57×72cmの広がりをもつ。

EB 21住居跡(第20図)

〔遺構の確認〕 調査区の北端、E区のはば中央部に位置し、住居跡の一部は、調査区西端外に延びる。第IIa層の上面より遺構の存在を確認している。

〔重複〕 FE 151 フラスコ状ピットと重複関係にあり、住居跡はそれを切って構築されている。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長9.90m、短軸長7.54mの整った楕円形を呈する。長軸方向はN-41°-Wである。また、住居内面積は約57.6m²である。

〔堆積土〕 堆穴内の堆積土は3層に細分されるが、基本的には2層に大別される。第1層を自然堆積層、第2層を人為的堆積層(生活層)として認定した。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面は南側から北側にかけてやや傾斜しているが凸凹はみられずほぼ平坦である。比較的堅い。

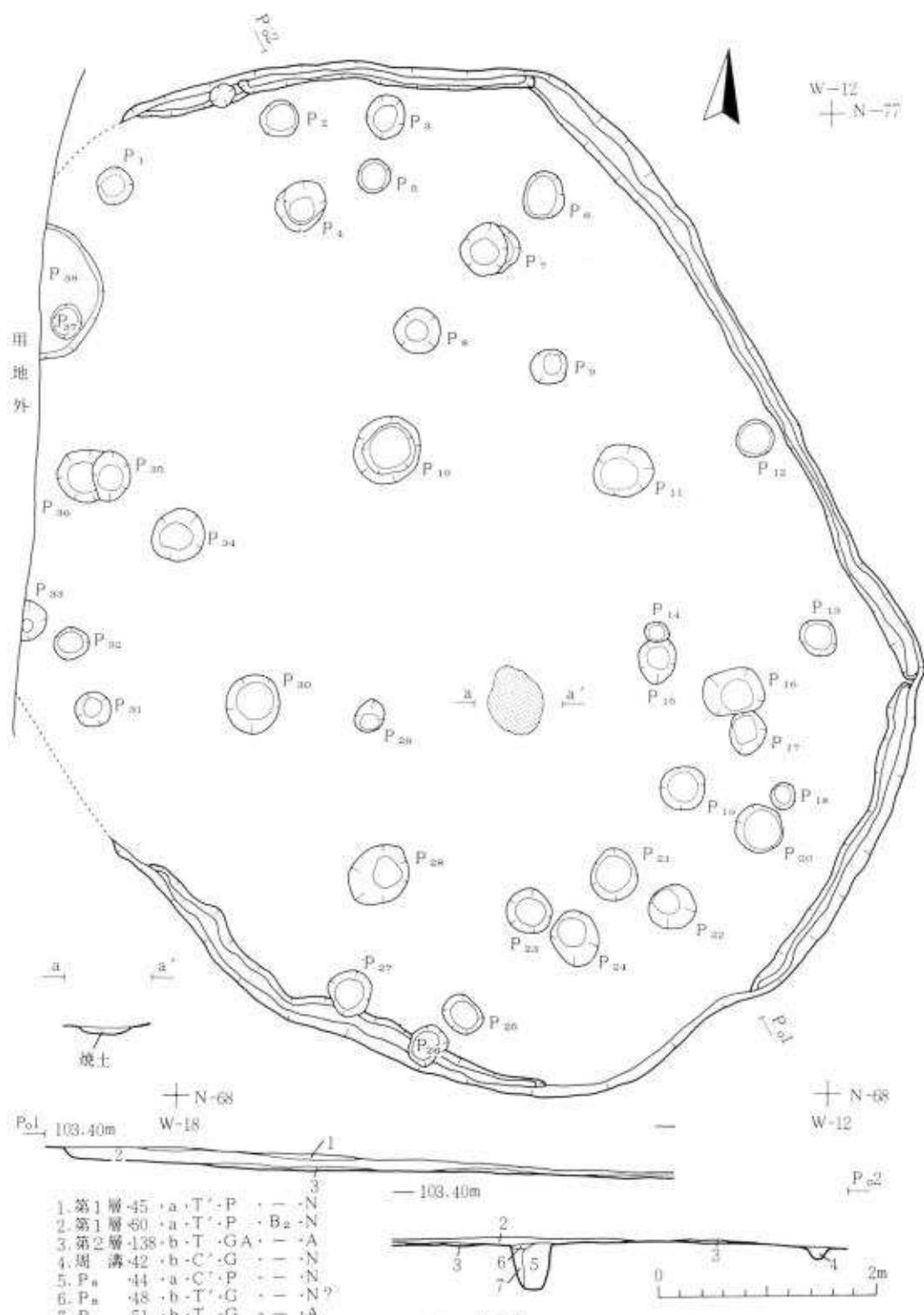
〔壁〕 地山と第Ic層を壁としている。壁は南壁のみ遺存し、その最大高は約15cmである。立ちあがり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 南壁の一部を除いてほぼ全周している。幅12~28cm、深さ5~13cmを計り、断面は「U」字形を呈する。なお、周溝内からピットは検出されていない。

〔柱穴〕 床面上より合計37個のピットが検出されている。ピットの形状・規模・堆積土等から、

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ(cm)	28	44	14	95	9	4	66	43	46	95	91	8	6	21	16	92	42	6	34
ピットNo	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
深さ(cm)	14	31	89	31	103	18	12	30	102	32	97	23	13	37	35	98	56	15	12



第20図 EE 21住居跡

— 西田 遺跡 —

P_4 ・ P_7 ・ P_{11} ・ P_{16} ・ P_{24} ・ P_{28} ・ P_{30} ・ P_{35} の8個が柱穴と考えられる。これらのピットは、長軸方向を対称軸として東側と西側に3個づつ配置され、短辺中央の2個は短辺側柱より張り出して位置する。

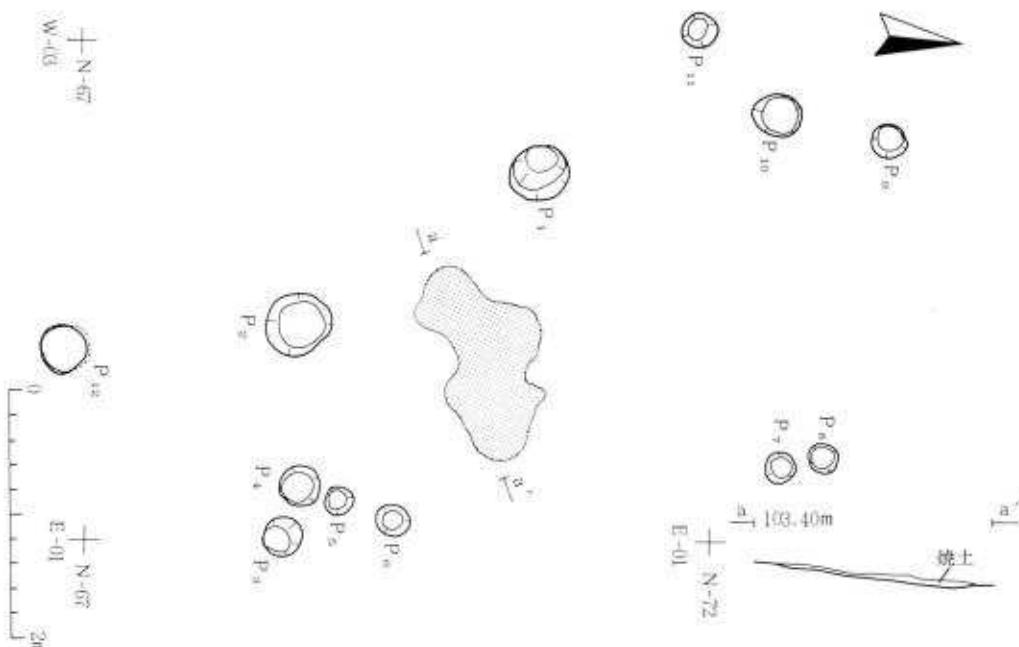
(炉) 床面の1ヶ所から焼面(地床炉)が検出されている。床面の中央部からは南にずれており、住居の長軸上に位置する。規模は約55×51cmである。

E F 03住居跡(第21図)

(遺構の確認) E区の中央に位置し、地山面より焼面や柱穴状ピットを検出して遺構の存在を確認した。なお、住居跡の平面形・規模・堆積土・壁・周溝・柱穴等は不明である。

(重複) E F 031・E F 032・E G 034・E G 035・E H 031などの貯蔵穴状ピットと重複関係にあり、当住居跡はそれらのピットよりも新しい。

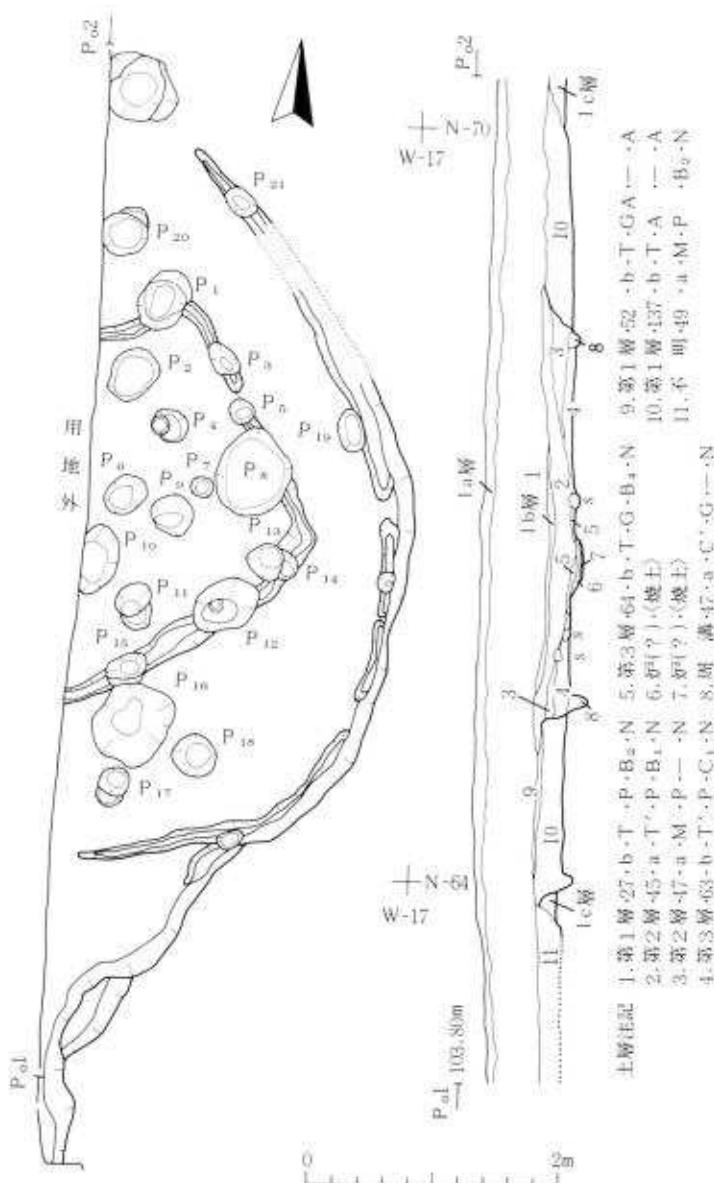
(床) 焼面が検出された周囲では床面がそのまま遺存しているものと思われる。床面の遺存部



ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ(cm)	76	?	94	55	38	16	20	23	68	42	?	?

第21図 E F 03住居跡



分（焼面周囲の狭範囲）の観察によれば、床面はかなり凹凸がみられ、比較的柔かい。

【柱穴】かなりの柱穴状ピットが検出されているが、大きさ・深さ・堆積土・配置形などから検討したが明確に柱穴とすることができるピットは確認されていない。

【炉】焼面が1ヶ所検出されている。比較的堅く焼けており、162×71cmの広がりをもつ。

EG 21住居跡(第22図)

【遺構の確認】G区中央西端に位置し、第1c層中より遺構の存在を確認した。住居の大半が調査区外に延びるため平面形・規模・柱穴・炉などは不明である。

【重複】EH 21住居跡と重複関係にあり、中央部がそれによって切られている。

【平面形・規模】ともに不明であるが、平面形は南北に長い梢円形を呈する可能性が強い。

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	72	21	9	75	51	12	64	73	16	11	38
ピットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
深さ(cm)	64	58	49	43	16	70	90	17	50	7	32

第22図 EG 21・EH 21住居跡

—西田遺跡—

〔堆積土〕 住居内堆積土は単層となり、人為的堆積層と思われる塊状混合土である。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で比較的堅い。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。住居の全体プランは地山面上で検出したため壁はほとんど残存しない。東辺の遺存部分、および埋土断面の観察によれば壁高は20cm弱になる。壁の立ちあがり角度は極端にゆるい。

〔周溝〕 調査区内に限ればほぼ全周している。幅約10～22cm、深さ約3～7cmとなり、断面形は「U」字形を呈する。周溝内からは4個のピットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上には、E H 21住居跡のそれと合わせて多数のピットが検出されているものの柱穴と断定できるものはみあたらない。配置形が不明のためいずれも柱穴と断定できない。

〔炉〕 調査区内には炉が検出されていない。

E H 21住居跡（第22図）

〔遺構の確認〕 E区中央西端に位置し、第1c層中より遺構の存在を確認した。なお、住居の大半が調査区外に入るため、平面形・規模・炉・柱穴等は不明である。

〔重複〕 E G 21住居跡と重複関係にあり、当住居跡はそれを切って構築されている。

〔平面形・規模〕 周溝の平面形が方形を呈することからみて、住居跡のプランは正方形を呈する可能性が強い。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凹凸がみられ、比較的堅い。

〔壁〕 E G 21住居跡の堆積土を壁としている。調査時に削平しており、ほとんど遺存しない。埋土断面の観察によれば、20cm内外の壁高をもち、壁の立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 調査区内に限れば全周している。幅約10～22cm、深さ約3～15cmを計り、断面形は「U」字形を呈する。なお、周溝内からは8個のピットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上からは合計15個のピットが検出されている。大半が調査区外に入るため、柱穴の配置形は明確にできないが規模・堆積土などからみて、P₁・P₁₄・P₁₅が柱穴となる可能性をもつ。

〔炉〕 炉と想定される施設は発見されていない。ただ、P₁₀の底部に焼面がみられ、その周囲に礫が検出されている。がとなる可能性もある。

E H 15住居跡（第23図）

〔遺構の確認〕 調査区北部の西方に位置し、第1c層の下部より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 15住居跡・E I 121ピット・E H 151ピット・E J 122ピットと重複関係にあり、前者2遺構より新しく、後者の2遺構より旧い。

〔増改築〕 柱穴の配置・複数の炉の存在などからみれば、住居の拡張が行われた可能性が強い。

〔平面形・規模〕 長軸長6.46m、短軸長4.41cmの楕円形を呈する。長軸方向はN-50°30' - Wである。また住居内面積は約21.8m²となる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は3層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山まで掘りこんで床面としている。とくに叩きしめられた痕跡もなく比較的柔かい。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。残存する壁高は約10~19cmであり、壁は床面よりかなり急角度で立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

〔柱穴〕 床面上には合計32個のピットが検出されているが、このなかのP₃₀・P₃₁・P₃₂はE I 15住居跡に伴うものである。配列の規則性・規模からみて、P₂₂・P₁₄・P₂₀・P₁₉・P₂₅・P₂₄の6個、およびP₁₀・P₁₄・P₂₀・P₁₆・P₃・P₂₃の6個の2通りの組み合わせを考えられ、P₁₄・P₂₀の2個は併用されている。前者と後者の新旧関係は明確にできないが、後者の柱穴列が住居廃絶時の平面形と対応しており、住居の拡張に伴って前者から後者への建て替えが行われたことを窺わせている。

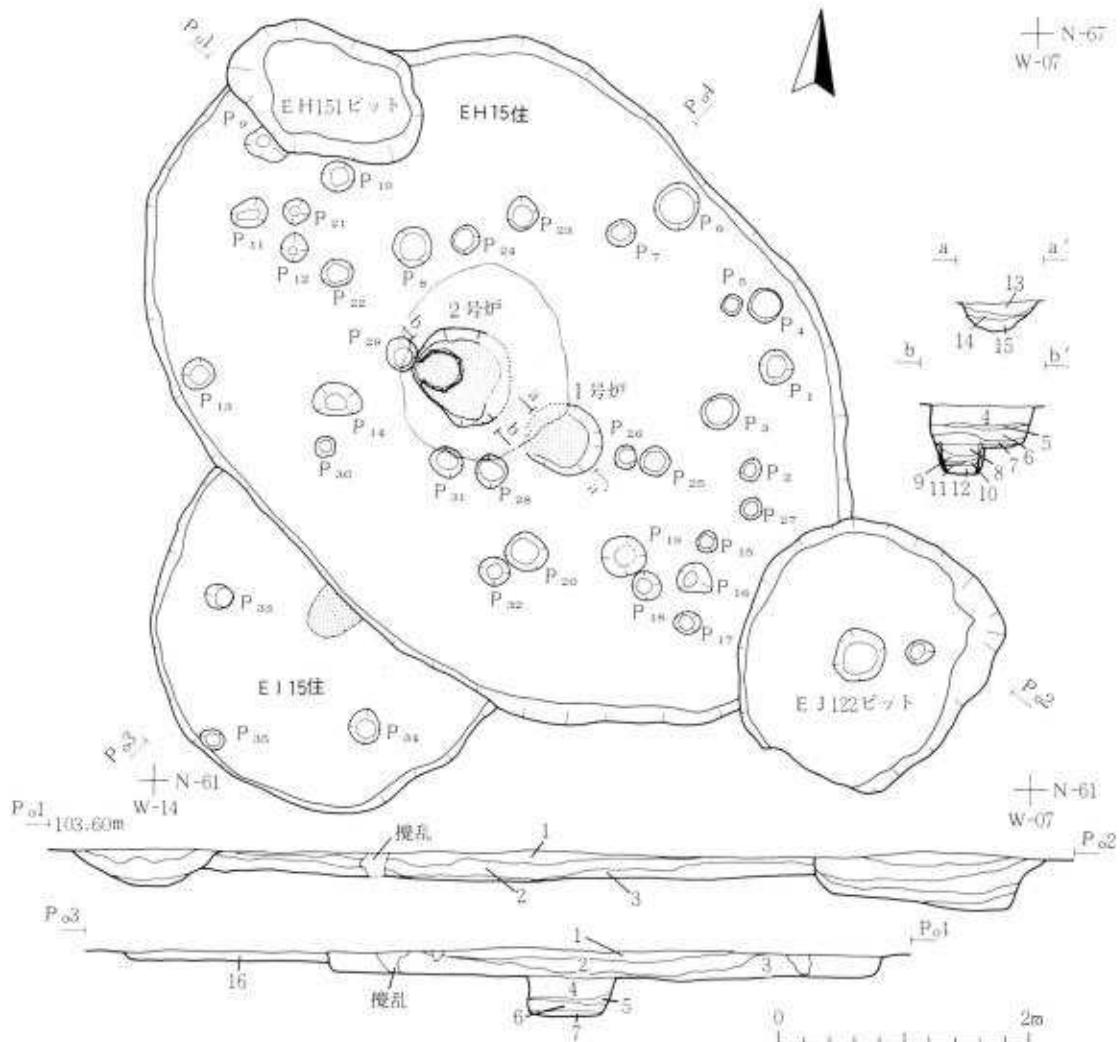
〔炉〕 住居跡内床面上に2基の炉が検出されている。それぞれ形態が異なり、次のように分類される。

<1号炉> 床面を掘りくぼめ、掘り込み部の底面を炉床としたものである。付属施設は全く認められない。大きさは、62×54cmで深さは約15cmである。かなり良く焼けており、焼土の厚さは最大で10cmを計る。

<2号炉> 床面を掘りくぼめ、掘り込み部の底面に直立埋設土器を伴うものである。土器以外の付属施設はもない。土器は深鉢形縄文土器の口縁部～体部片で、高さ約23cmを計り、内部に焼土・木炭が充填する。周囲の炉床も良く焼けている。掘り込み部の大きさは82×70cmで、炉床までの深さは約32cm（掘り方底部までは約55cm）になる。上面は固化されている。

1号炉は住居廃絶時まで使用されたもので、2号炉は住居の拡張以前に使用されていたものと推定される。ともに、住居の長軸線上に乗り、床面のはば中央に位置する。

—西田遺跡—



1. 第1層・29・b・T'・P -B₁・N 6. 2号炉・64-a・T'・P・B₂ - -N
 2. 第2層・45・a・M - P -B₃・N 7. 2号炉・63+a・M -G+B₄C₃・N
 3. 第3層・60・a・T'・P - - -N 8. 2号炉・(焼土)
 4. 2号炉・136・b・T - GA+B₅・A 9. 2号炉・50・b・C - G+B₆C₃・A?
 5. 2号炉・(焼土) 10. 2号炉・(焼土) 11. 2号炉・(木炭)
 12. 2号炉・123・b・M・G - - -A
 13. 1号炉・62・a・T - P - - -N
 14. 1号炉・61・a・T' - G・B₃・N
 15. 1号炉・(焼土)
 16. 第1層・121・b・T - AG - - -A

ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
深さ(cm)	12	9	34	14	17	14	25	26	22	58	25	35	33	49	5	28	27	27	44	
ピットNo.	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		30		31		32		33	34	35
深さ(cm)	56	46	37	36	47	69	23	18	12	9		45		39		58		57	?	56

第23図 EH15・EI15住居跡

E I 15 住居跡 (第23図)

〔遺構の確認〕 調査区北部の西方に位置し、第Ib層の下部より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E H 15 住居跡・E J 152 ピットと重複関係にあり、E J 152 ピットより新しく、E H 15 住居跡より古い。増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 E H 15 住居跡によって破壊されているため、規模は不明であるが平面形は梢円形を呈するものと思われる。長軸方向は N-38°30' - E である。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土と黄褐色土との塊状混合土であり、人為的堆積層と思われる。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面は平坦で比較的柔い。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約 3~11cm であり、ほとんど残っていない。床面からの立ちあがり角度はゆるやかである。

〔柱穴〕 柱穴には P₃₀ ~ P₃₆ の 6 本があてられる。いずれも規模が一致し整った配置形を呈する。

〔炉〕 床面上の 1 ケ所に焼面（地床炉）が検出されている。住居の長軸線上に乗っているが、床面上の位置は明確にできない。規模は (36) × 40cm を計る。

E I 21-1 住居跡 (第24図)

〔遺構の確認〕 E 区南部、調査区西端に位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 21-2 住居跡・E J 21 住居跡・E G 21 住居跡、および E J 181 フラスコ状ピットと重複関係にある。当住居跡は E J 181 フラスコ状ピットを切って構築されているが、ほかの 3 棟の住居跡には壁の一部を切られている。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長約 3.07m、短軸長 2.64m の梢円形を呈する。長軸方向は N-49°30' - W である。なお、住居内面積は約 6.21 m² になる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的には 2 層に大別される。上層は人為的堆積層、下層は自然堆積層として認定した。

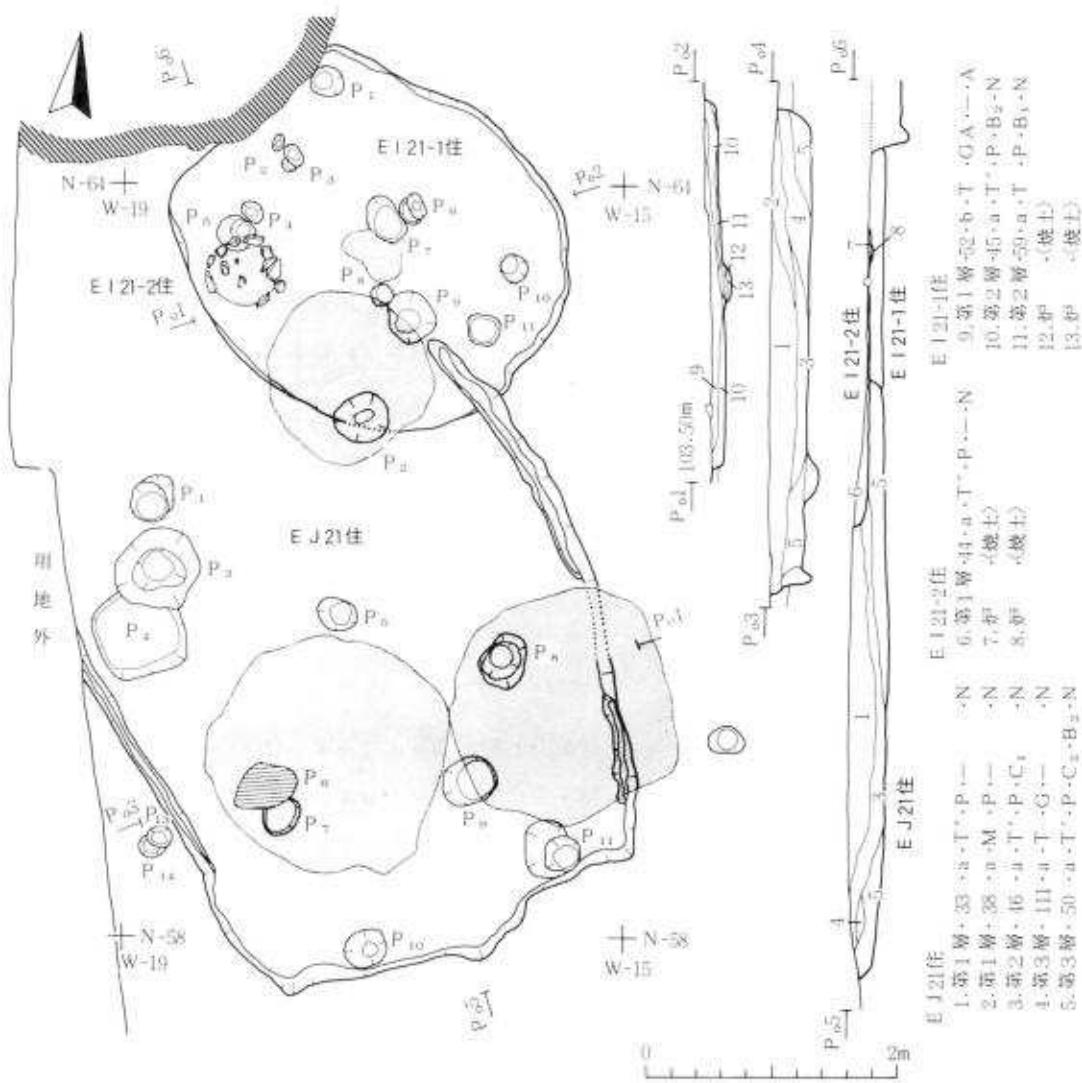
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は西に向かってやや低くなっているが、ほぼ平坦で比較的柔かい。

〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。東壁以外は 3 棟の住居跡によって削平を受けており、壁高は残存値で 1~12cm を計る。床面から立ちあがり角度は比較的きつい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計 11 個のピットが検出されている。このなかには E I 21-2 住居跡に伴なうピットも含まれているものと思われるが、配列が不規則で柱穴として明らかにできるものは認められなかった。

— 西田 遺跡 —



ピット一覧表 (E I 21-2住, E J 21住)

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
深さ(cm)	26	50	62	12	29	26	?	75	72.5	37	54	41	18	11

ピット一覧表 (E I 21-1住)

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	34	10	55	48	45	39	48	38	100	87	8

第24図 E I 21-1・E I 21-2・E J 21住居跡

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が検出されている。下部は浅いピット状になっており、床面のレベルに合わせて埋め戻されている。住居のはば中央に位置する。

E I 21-2住居跡（第24図）

〔遺構の確認〕 G区南部、調査区西端に位置する。E I 21-1住居跡の精査中に炉が検出されたことによって遺構の存在を確認している。埋土断面によれば、第Ic層のほぼ上面を床面としており、周囲の遺構に比べて極端に高くなっている。したがって調査中にはば削平してしまい、平面形・規模・壁・周溝・柱穴等は不明である。

〔重複〕 E J 21住居跡・E I 21-2住居跡と重複関係にあり、当住居跡はこれら2棟の住居跡を切って構築している。また、E G 21住居跡との切り合い関係は確認できなかったが、確実に重複している。

〔堆積土〕 最下層の埋土しが確認されていない。自然堆積した暗褐色のシルト層である。

〔床面〕 堆積土の断面観察によれば、第Ic層のほぼ上面を床面としている。

〔炉〕 床面を若干掘り凹め、周囲に礫を横位の状態で円形に配置した石開炉である。使用痕跡はあまりみられず、小範囲の薄い焼土が分布するのみである。

E J 21住居跡（第24図）

〔遺構の確認〕 E区南部、調査区西端に位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 21-1住居跡・E I 21-2住居跡、およびF J 181・E J 182・E J 185フレスコ状ピットと重複関係にあり、E I 21-2住居跡に北壁の一部を切られているほかは、すべての遺構を切って構築している。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長約4.45m、短軸長3.67mの長方形を呈する。長軸方向はN-31°-Wである。住居内面積は推定で15.26m²となる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に大別される。典型的なレンズ状の堆積を示している。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で堅い。

〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。壁の残存値は0~21cmで、北壁はまったく遺存しない。埋土断面の観察によれば27cm内外の壁高をもつ。壁は床面よりゆるく立ちあがる。

〔周溝〕 東壁と西壁で検出されており、北壁と南壁では認められない。幅約10~22cm、深さ約3~10cmで、断面形は「U」字形を呈する。周溝内からピットは検出されていない。

〔柱穴〕 床面上には11個のピットが検出されている。このなかで配置形からみて柱穴と想定されるものにはP₁・P₂・P₁₀・P₁₁の4個があり、P₆・P₈がそれに加わる可能性をもつ。

〔炉〕 炉と想定される施設は検出されていない。

—西田遺跡—

F J 18住居跡(第25図)

〔遺構の確認〕 F区南部、調査区の西端に位置し、1c層中より遺構の存在を確認した。

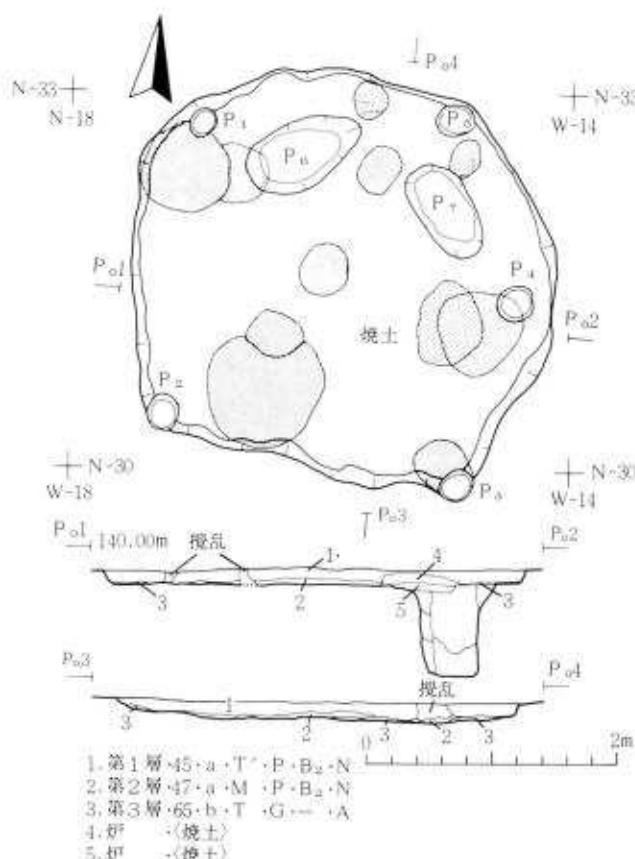
〔重複〕 大小多くの柱穴状ピットと重複関係にあり、当住居跡はそれらのピットを削平して構築している。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 約3.37×3.40cmのやや歪んだ円形を呈する。長軸方向は東西にとって、N-97°—Eである。住居内面積は約8.16m²である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に大別される。第1層・第2層を自然堆積層、第3層を人為的堆積層(生活層)として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり

凸凹がみられ、比較的柔かい。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7
ピット名	P-3	P-4	F J-159	F J-157	P-2	P-5	F J-1515
深さ(cm)	26	27	32	26	27	13	11

第25図 E J 18住居跡

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。壁高は約8~12cmを計り、壁の立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面下のピットを除き、当住居跡に伴うものと想定されるピットは合計7個検出されている。このうち柱穴状のピットはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅の5個を数え、当住居跡の主柱穴にはこの5個のピットがあてられるものと思われる。すべて壁際に配置されており、それらを結んだ線はほぼ整った五角形を呈する。

〔炉〕 床面上に焼面(地床炉)が1ヶ所検出されている。床面中央の東寄りに位置し、住居の中軸線上に乗る。約68×54cmの広がりをもつ。

F B 53-1 住居跡(第26図)

〔遺構の確認〕 F区の北部中央やや東寄りに位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F B 53-2 住居跡、F B 531・F C 561 フラスコ状ピットの3遺構と重複関係にあり、そのいずれよりも新しい。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長4.51m、短軸長3.30mの隅丸長方形を呈する。長軸方向はN-72°30' -Wである。住居内面面積は約11.9 m²である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は中央で低く、壁際でやや高くなっているが凸凹はみられずほぼ平坦である。比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約15~25cmでかなり深い。床面よりの立ちあがり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上に検出された14個のピットのうち、柱穴にはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈・P₁₁の8個があてられ、そのいずれにも柱痕が確認されている。このほかP₁₀が柱穴となる可能性をもつが、炉と考えられる焼土面の下より検出されている。これらのピットは住居の長短辺に沿って3個づつ配置されており、配列に規則性が認められる。

〔炉〕 炉は地床炉で床面の中央に焼面が検出されている。かなり規模が大きく、長軸方向に長くなっている。161×53cmを計る。

F B 53-2 住居跡(第26図)

〔遺構の確認〕 F区の北部中央やや東寄りに位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F C 561・F C 563ピット・F B 53-1 住居跡・F B 56土壤と重複関係にあり、前者2遺構より新しく、後者の2遺構より旧い。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長6.69m、短軸長4.93mの梢円形を呈する。長軸方向はN-6°30' -Eである。住居内面積26.2 m²を計る。

〔堆積土〕 基本的には2層に分けられ、上面の厚い堆積層は人為的堆積層として認定した。

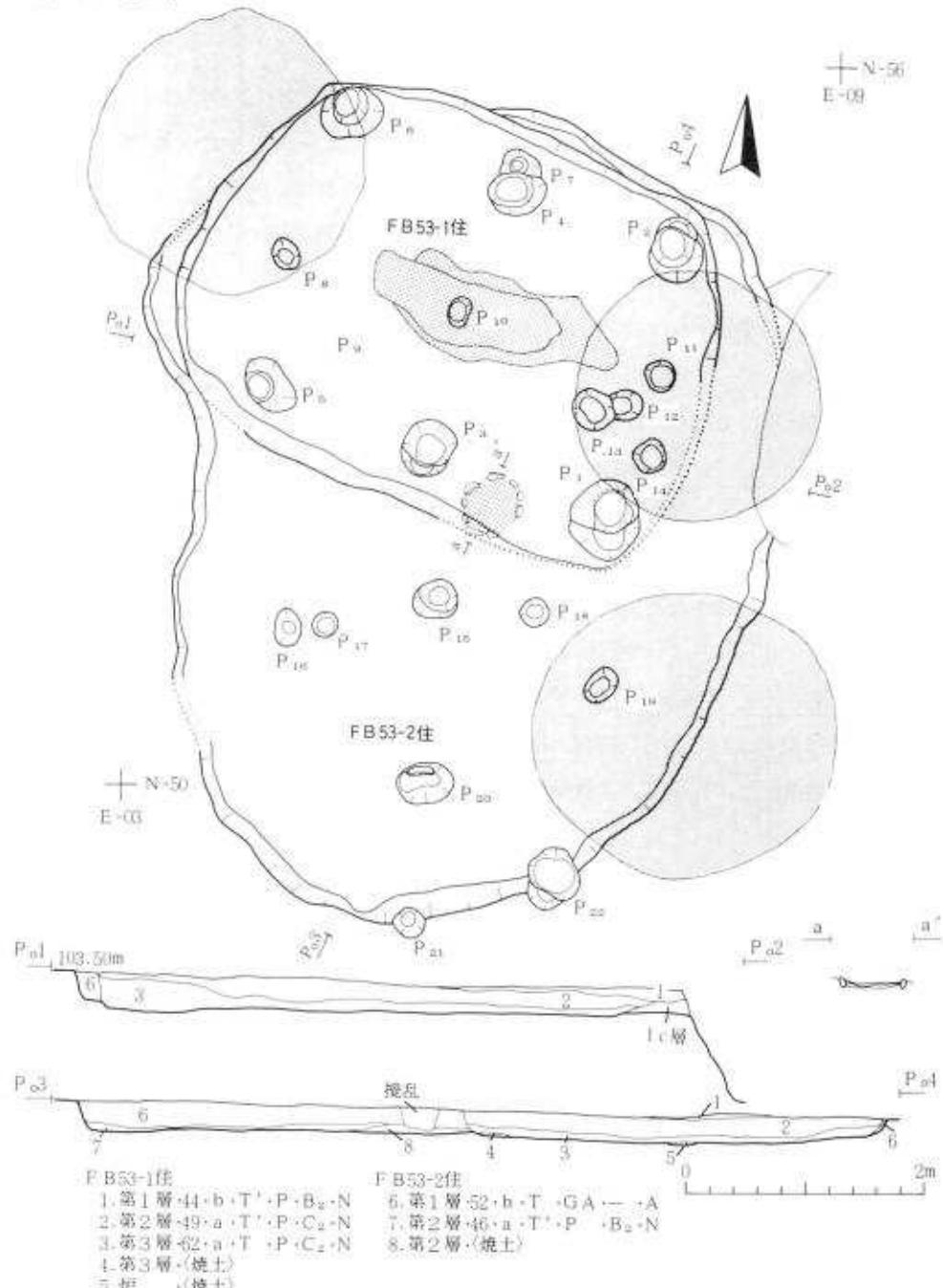
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は部分的に凸凹がみられるもののはば平坦になっている。とくに叩きしめられた痕跡もなく比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約13~23cmでかなり高くなっている。床面よりかなり急角度で立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上に検出された20個のピットのうち、当住居の柱穴となる可能性をもつものには、

—西田遺跡—



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	87	70	88	83	66	73	78	119	?	?	?
ピットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
深さ(cm)	7	19	?	22	62	28	9	59	31	9	28

第26図 FB53-1・FB53-2住居跡

$P_1 \cdot P_9 \cdot P_{11} \cdot P_{16} \cdot P_{18} \cdot P_{20}$ の 6 個があてられる。これらのビットは規模がほぼ一致するが、 P_9 は未調査のため深さが不明である。また、 P_{11} は F B 53-1 住居跡の柱穴となることが考えられ、やや疑問が残る。

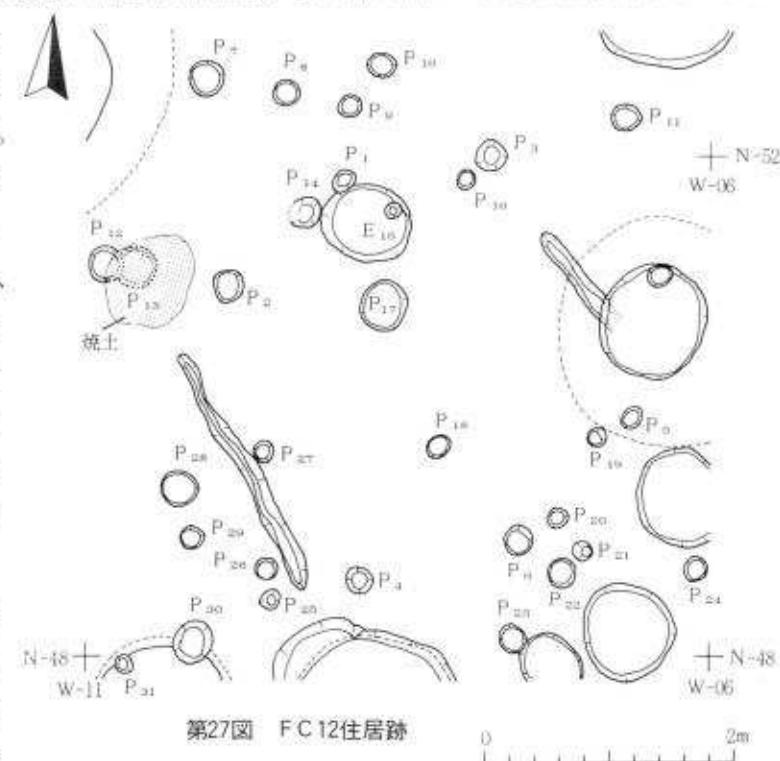
〔炉〕 住居内ほぼ中央に設置されている。床面をわずかに掘りくぼめ、周縁に小礫を横位の状態で円形に配置した石組炉である。ほぼ全域が F B 53-1 住居跡の床面になっており、石の上部が若干露出しているものにもかかわらず破壊をまぬがれている。規模は $54 \times 52\text{cm}$ を計る。

FC 12住居跡(第27図)

〔遺構の確認〕 F 区の北部やや西寄りに位置しており、周溝の一部と柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁等は不明である。

〔重複〕 FC 091・F E 121の 2 基のフラスコ状ビットをはじめとし、多くの柱穴状ビットと重複関係にある。新旧関係は明確にできないが、フラスコ状ビットより新しくなる可能性が強い。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形、および周溝の形状からみて梢円形を



第27図 FC 12住居跡

ピット一覧表

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
FC-12	FC-098	FD-120	FC-099	FD-096	FD-095	FD-097	FC-121	FC-124	FC-125	FC-096	FC-094	FC-128	FC-127	FC-122	FC-097
深さ(cm)	9	12	37	44	32	47	40	34	29	17	26	18	15	38	7
	18	17	18	10	20	21	22	23	21	25	23	27	28	29	31
FC-094	FD-095	FC-091	ED-096	FD-099	FD-096	FD-096	FD-096	FD-096	FD-126	FD-125	FD-129	FD-121	FD-126	FD-128	FD-127
	11	90	4	33	9	11	18	28	9	15	9	10	18	82	7

—西田遺跡—

呈するものと考えられる。長軸方向は推定でN-32°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。南側から北側に向かってやや低くなっているものは平坦である。

〔周溝〕 東辺と西辺の一部で検出されている。幅約7~14cm、深さ5~9cmを計る。

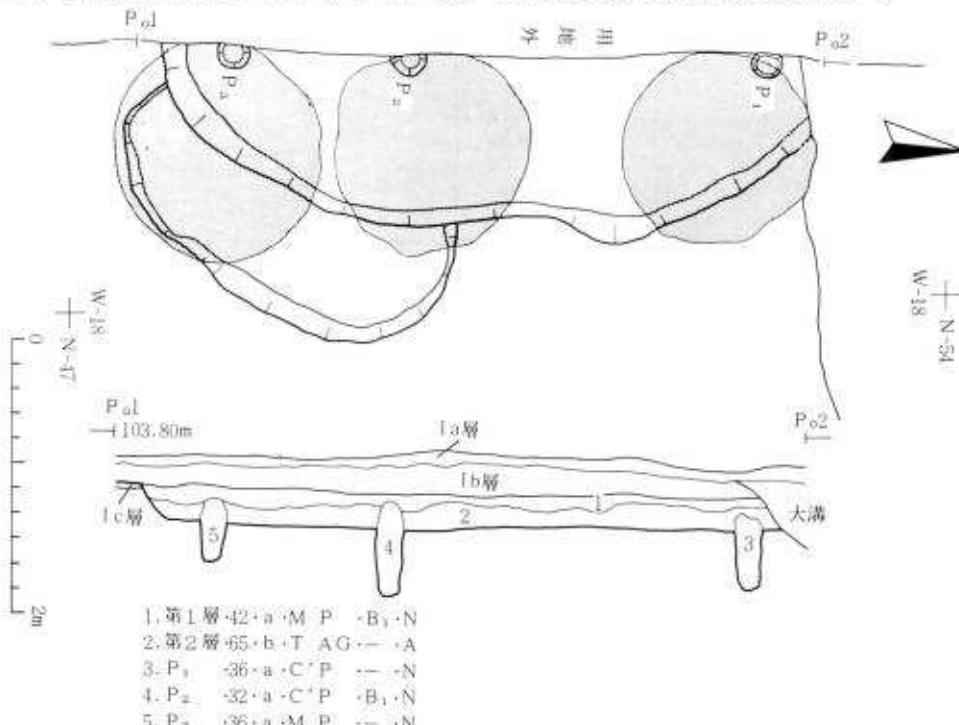
〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットにはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆の6個があげられる。これらのピットを結んだ線は整った6角形を呈し、規模、深さともほぼ一定している。

〔炉〕 周溝および柱穴列の内部からは炉と思われる施設はまったく検出されていない。西辺周溝の北側に焼面が一ヶ所認められるが当住居跡に伴なうものとは考えにくい。

FC 21住居跡(第28図)

〔遺構の確認〕 F区北部の西端に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。住居の大半は調査区外に延び、平面形・規模などは不明である。

〔重複〕 FC 212・FD 211・FD 212の3ピット、および北大溝と重複関係にある。フラスコ状ピット3遺構よりも新しく、大溝より旧い。また、東壁外に竪穴状の張り出しが検出されており、当住居跡に付随するものか、重複する他の遺構となるかを明確にできなかった。重複関係にあるとすれば、当住居跡のほうが新しい。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。



第28図 FC 21住居跡

〔平面形・規模〕ともに不明であるが、平面形は南北に長い楕円形を呈する可能性が強い。

〔堆積土〕住居内堆積土は2層に分けられるが、下層は人為的堆積層、上層は自然堆積層として認定した。

〔床面〕地山をそのまま床面としている。床面は平坦であるが比較的柔い。

〔壁〕地山を壁としている。壁高はかなり高く、残存高で約17~21cmを計る。壁は床面からゆるやかに立ちあがる。

〔周溝〕周溝は検出されていない。

〔炉〕炉は調査範囲内の床面上からは検出されなかった。

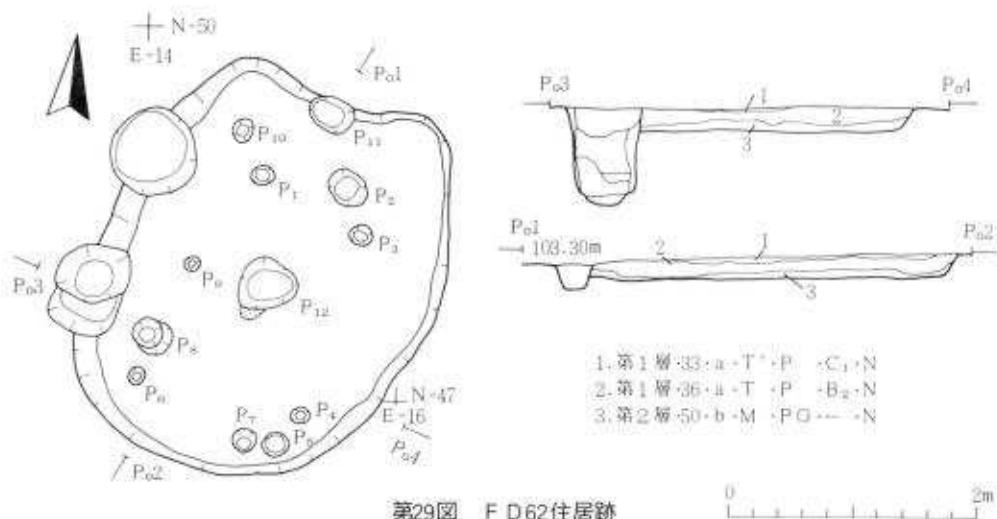
F D 62住居跡

〔遺構の確認〕F区中央の東端に位置し、第Ⅱa層（地山）上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕F D 625・F D 626・F D 627ピットと重複関係にある。住居の西壁がこれらのピットに切られており、そのいずれよりも旧い。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕長軸長3.21m、短軸長2.71mの楕円形を呈する。長軸方向はN-24°-Eである。住居内面積は約6.28m²を計る。

〔堆積土〕堆積土は基本的には2層に分けられる。すべて自然堆積層として認定した。



第29図 F D 62住居跡

ピット一覧表

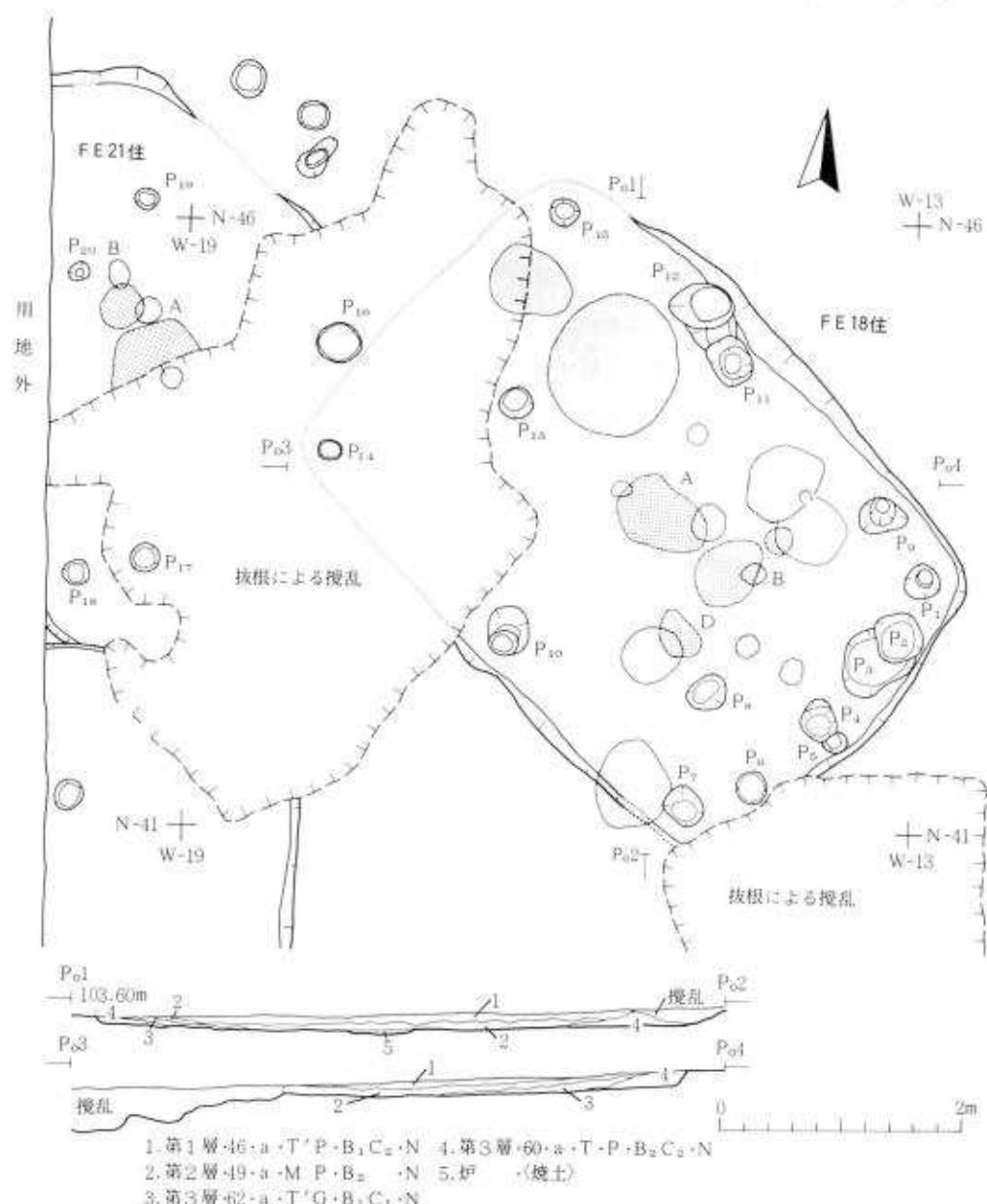
ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	38	36	45	29	7	39	42	9	11	20	16

—西田遺跡—

- 〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で比較的柔かい。
- 〔壁〕 地山を壁としている。遺存する壁高は10~22cmで、かなり深い。床面からの立ち上がり角度はゆるい。
- 〔周溝〕 周溝は検出されていない。
- 〔柱穴〕 床面上からは合計12個のピットが検出されている。このうち、 $P_{11} \cdot P_{12}$ は住居廃絶後に掘り込まれたもので、壁および炉を破壊している。配列の規則性から柱穴と想定できるものには $P_1 \cdot P_3 \cdot P_6 \cdot P_7$ の4個があり、これらを結んだ線は整った長方形を呈する。
- 〔炉〕 床面上の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。 P_{12} に破壊されているため規模は不明であるが、住居のはば中央に位置する。

F E 18住居跡（第30図）

- 〔遺構の確認〕 F区中央の西端に位置し、第IIa層（地山面）上面より遺構の存在を確認した。
- 〔重複〕 住居跡内には多数のピットが掘られている。これらのピットは当住居跡と重複関係をもつものが多くみられ、上端のプランのみを図化したものは当住居より旧い。残りのピットのなかにも当住居跡廃絶後に掘り込まれたものも存在すると思われるが明確にできなかった。またF E 21住居跡とも重複するが、切り合い部分が搅乱を受けているためその新旧関係は不明である。住居の増改築の痕跡は認められない。
- 〔平面形・規模〕 長軸長約5.23m、短軸長3.51mの長方形を呈する。長軸方向はN-39°30' -Wである。なお住居内面積は約16.73m²を計る。
- 〔堆積土〕 遺構内堆積土は基本的に3層に分けられる。すべて自然堆積層として認定した。
- 〔床面〕 地山をそのまま床面とし、床面の一部は抜根の搅乱によって破壊されている。部分的に凸凹がみられ、中央がやや低くなっている。とくに叩きしめられた痕跡もなく柔かい。
- 〔壁〕 地山を壁としている。搅乱部分が多く遺存状況は不良である。残存する部分で4~15cmを計り、壁の立ちあがり角度は比較的ゆるい。
- 〔周溝〕 周溝は検出されていない。
- 〔柱穴〕 当住居跡に伴うものと思われるピット15個のうち、柱穴と断定できるものには $P_1 \cdot P_3 \cdot P_{10} \cdot P_{11} \cdot P_{13} \cdot P_{15}$ の6個があり、 P_4 がそれに含まれる可能性をもつ。 P_4 が柱穴となるならば、 P_{14} と P_{15} の間にもう1個のピットが必要となるが検出されていない。抜根による削損をうけたものと推定される。
- 〔炉〕 床面上に焼面が4(A~D)ヶ所検出されている。A・Bの規模が大きく、C・Dのそれは小さい。A・Bは住居の長軸線上に乗り、Aは床面のはば中央に位置する。C・DはBと並びその両脇に位置する。Aは約78×55cm、Bは約51×65cm、Cは29×23cm、Dは29×42cmである。



第30図 FE 18・FE 21住居跡

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ピット名	FF-154	FF-155	FF-156	FE-18住	FG-158	FG-159	P-3	FF-1514	P-1	P-4
深さ(cm)	78	46	39	74	10	39	74	16	58	57
ピットNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ピット名	P-5	FE-152	FF-182	P-7	P-6		—	FF-212	FE-214	FE-215
深さ(cm)	76	53	36	48	62	15	82	24	27	14

—西田遺跡—

F E 21住居跡(第31図)

(遺構の確認) F区中央の西端に位置し、一部は調査区外に入る。地山面(Ⅱa層)上より遺構の存在を確認した。なお、中央部が抜根による破壊をうけていること、西端が調査区外に延びることなどから住居の平面形・規模は不明である。遺構の増改築の痕跡は認められない。

(重複) F G 21住居跡・F E 18住居跡と重複関係にある。当住居跡はF G 21住居跡に切られているが、F E 18住居跡との重複関係は不明である。

(平面形・規模) ともに不明であるが、平面形は梢円形を呈する可能性が強い。

(堆積土) 堆積土は基本的に3層に分けられ、そのいずれも自然堆積層として認定した。

(床面) 地山をそのまま床面としている。破壊を免がれている部分では平坦で比較的堅い。

(壁) 地山を壁としている。ほとんどの個所が破壊されており、壁高は2~12cmを計る。壁の立ちあがり角度はゆるい。

(周溝) 周溝は検出されていない。

(柱穴) 住居に伴うピットは床面上より5個検出されている。規模からみればP₁₆・P₁₇が柱穴となる可能性をもつが、配列等に規則性がみられず明らかにできなかった。

(炉) 床面上に焼面が2ヶ所(A・B)検出されている。Aは破壊されているが規模は大きく(48)×79cmを計る。Bは約36×34cmである。

F G 21住居跡

(遺構の確認) F区のやや南寄り、調査区の西端に位置しており、炉と思われる焼面と柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

(重複) 平安時代の堅穴住居跡(F G 21住)と重複し、それによって切られている。また、住居跡の柱穴列には2通りが考えられ、それぞれで重複ないしは拡張の関係にある可能性も残されている。

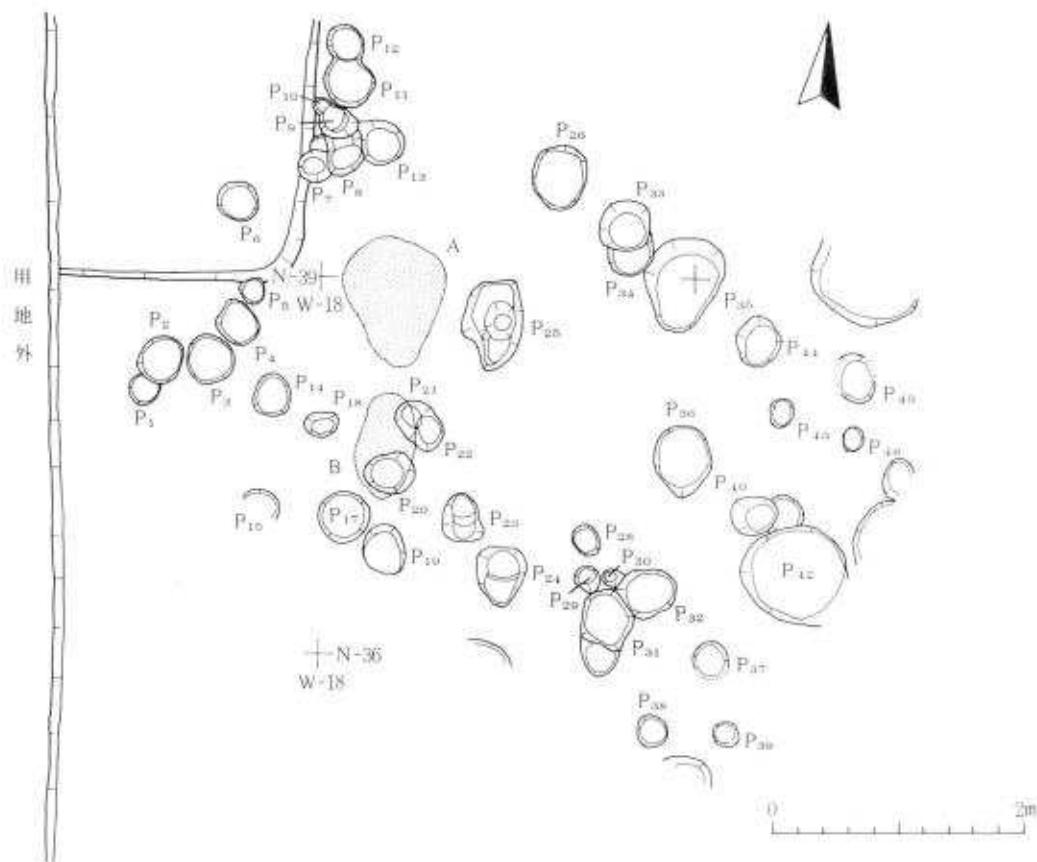
(平面形) 平面形は明確にできないが、柱穴の配置形からみて東西に長い長方形を呈することが予想される。長軸方向はN-66°-Wである。

(床面) 地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で堅くなっている。

(柱穴) 柱穴と想定されるピットには2通りの配置列が考えられる。P₂・P₈・P₁₁・P₂₃・P₃₃・P₃₇・P₄₁・P₄₅の8個と、P₃・P₆・P₁₂・P₂₀・P₂₆・P₃₁・P₄₀・P₄₄の8個とが考えられ、後者の配置列を構成するP₂₀は焼面Bに上部を覆われている。もし焼面Bが当住居跡に伴うもので、当住居が重複ないしは拡張が認められるものとするならば、後者の柱穴列から前者のそれへの移行が予想される。

(炉) 柱穴列の内部からは焼面(地床炉)が2ヶ所検出されている。焼面Aは住居中央長軸線

上に乗り、そのやや西寄りに位置し、焼面Bは長軸線の南に偏し、南側柱穴列と近接する。規模は焼面Aが $104 \times 84\text{cm}$ 、焼面Bが $85 \times 46\text{cm}$ を計る。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ピット名	FH-218	FH-217	FH-216	FH-215	FH-214	FG-211	FG-183	FG-182	FG-185	FG-184	FG-186
深さ(cm)	17	53	54	23	19	32+15	33	22	34		54
ピットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
ピット名	FG-187	FG-181	FH-213	FH-212	FH-211	FH-189	FH-219	FH-188	FH-1815	FH-1814	FH-1813
深さ(cm)	56	42	40	35	平面凹欠	32	20	55	42		55
ピットNo	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
ピット名	FH-186	FH-185	FH-1811	FG-1810	FH-187	FH-181		FH-182	FH-183	FG-189	FG-188
深さ(cm)	25	26	26	36	平面凹欠	56		56	47	59	48
ピットNo	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
ピット名	FH-1810	FH-1812	FI-153	FI-163	FI-154	FH-156	FH-157	FH-153	FH-158	FH-1511	FH-1510
深さ(cm)	36	55	39	29	20	46	32	81	26	63	39
ピットNo	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
ピット名											
深さ(cm)											

第31図 FG 21住居跡

— 西田 遺跡 —

G A 21住居跡（第32図）

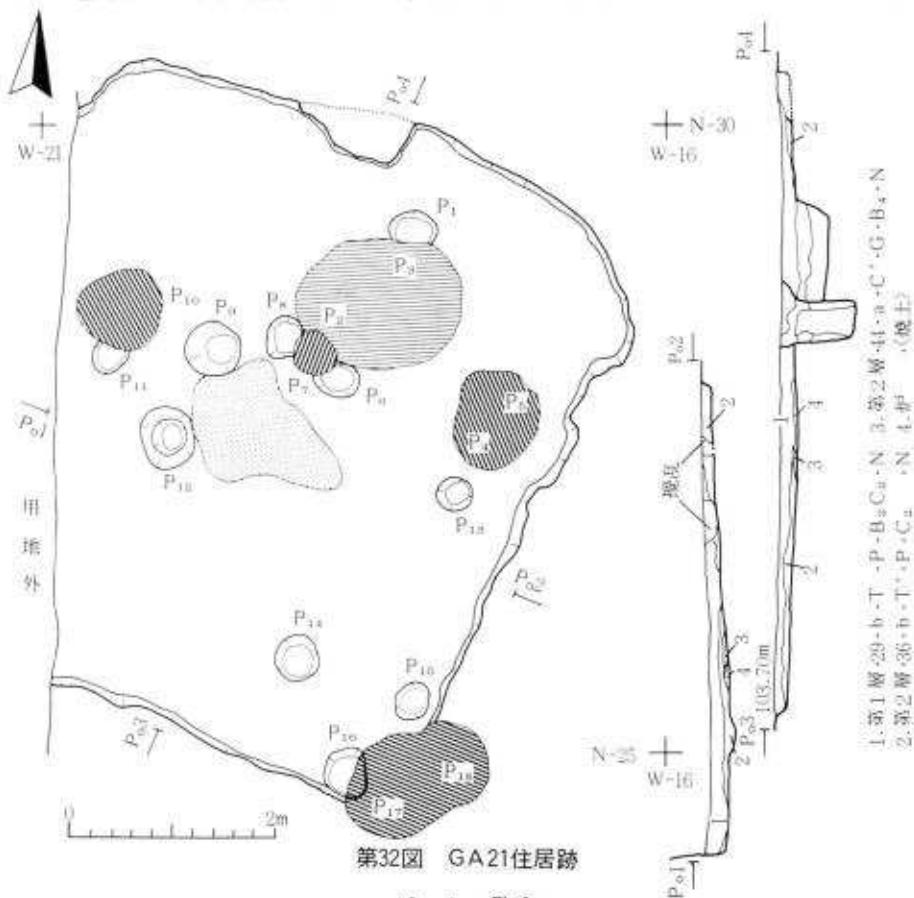
〔遺構の確認面〕 G区北部西端に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認している。

〔重複〕 最底4個のピットと重複関係にあり、そのいずれのピットよりも旧い。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 住居跡西側の一部が調査区外に入るため全体のプランは不明であるが、長軸長5.16m、短軸長約4.69mのやや南北に長い長方形を呈すものと推定される。長軸方向はN-16°-Eである。住居内面積は約22.4m²である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられ、いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。南西部がやや低くなっているがほぼ平坦で堅い。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ピット名	GA-184	GA-183	GA-181	GA-188	GA-182	GA-186	GA-185	GA-2113	GA-2111
深さ(cm)	23	30	46	51	67	42	37	17	64
ピットNo	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ピット名	GA-211	GA-2114	GA-2112	GA-187	GB-216	GB-1810	GB-188	GB-187	GB-189
深さ(cm)	68	51	33	32	18	1.5	45	49.5	53.8

〔壁〕 地山を壁としている。壁高は残存値で約8～11cmになり、壁の立ちあがり角度はきつい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 当住居跡に伴うものと思われるピットは、床面上に11個検出されている。これらのピットのうち、規模・堆積土・配列などからみて柱穴の可能性をもつものとしてP₁・P₁₁・P₁₃・P₁₆の4個があげられる。最底もう1個のピットが必要となるが、これは調査区外に入るものと推定される。ただ、本遺跡にみられる柱穴の配置形からみればやや特異な形状を示している。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1ヶ所検出されている。住居内のはば中央に位置しており、規模は約139×102cmを計る大形のものである。

G F 21-1住居跡（第33図）

〔遺構の確認〕 G区中央の西端に位置し、地山面（IIa層）上より遺構の存在を確認した。住居跡の一部は調査区外に延びる。

〔重複〕 住居の床面上からは多数のピットが検出されているが、そのほとんどは当住居跡より古いものである。また、G F 21-2住居跡・G F 18陥し穴状土壤とも重複しており、それよりも新しい。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長約4.41m、短軸長3.21mの長方形を呈する。長軸方向はN-32°-Wである。住居内面積は約13.31m²を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面上はかなり凸凹がみられ、しかも柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。壁の遺存状態は不良で、まったく遺存しない個所もある。残存値で約2～5cmを計る。壁の立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

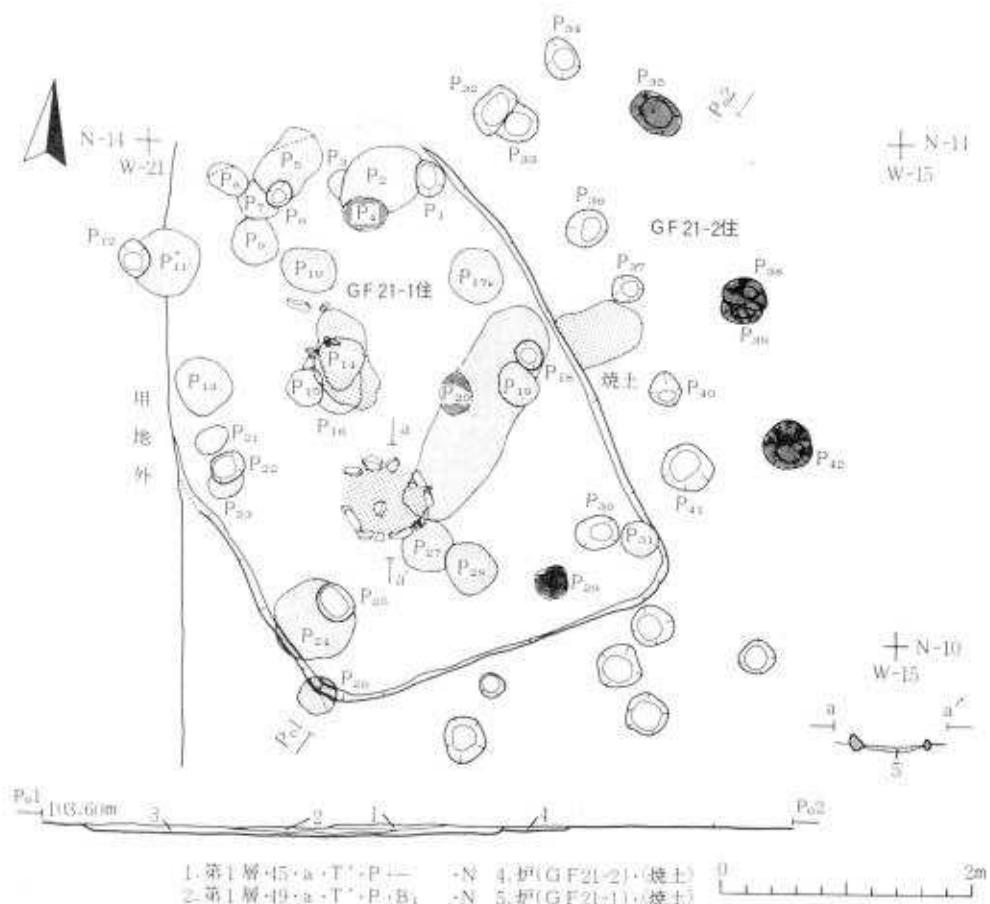
〔柱穴〕 床面上からは合計31個のピットと1個の陥し穴状土壤が検出されているが、当住居跡に確実に伴うものは9個ほどに限定される。このなかで、柱穴と想定しうるピットには、P₁・P₁₂・P₁₃・P₂₂・P₂₃・P₃₀の6個があげられ、P₆・P₂₈がそれに加わる可能性をもつ。6個のピットを結んだ線は住居の平面形とはほぼ相似形を呈し、やや菱形に近い長方形になる。

〔炉〕 炉は2基検出されている。1基は石組炉で、他は地床炉である。

〈1号炉〉 床面をわずかに掘り凹め、周縁に礫を横位の状態で円形に配置した石組炉である。住居中央より南西にずれて位置し、規模は外径で約72×68cmを計る。

〈2号炉〉 床面上の焼面として検出されている。住居中央よりやや北にずれて位置し、長軸線上に乗る。規模は85×46cmを計り、南北に長くなっている。

—西田遺跡—



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8
ピット名	柱穴 2	GF-215		GG-217	GF-212	GF-216	GF-213	GF-211
深さ(cm)	47	44	22	?	34	23	22	24
ピットNo	9	10	11	12	13	14	15	16
ピット名	GF-214	GF-218	GF-2110	柱穴 1	GF-2111	GF-2112	GF-2191	GF-2113
深さ(cm)	26	29	38	44	28	35	42	24
ピットNo	17	18	19	20	21	22	23	24
ピット名	GF-189	CF-1811	GF-1810	GF-189	GG-213	GG-214	GG-215	GG-216
深さ(cm)	22	?	?	?	12	40	16	46
ピットNo	25	26	27	28	29	30	31	
ピット名	柱穴 3	GF-217	GG-1810	GG-189	GG-1813	GG-1811	柱穴 4	
深さ(cm)	?	?	21	37	15	36	41	

第33図 GF 21-1・GF 21-2住居跡

G F 21-2 住居跡 (第33図)

〔遺構の確認〕 G区中央西端に位置し、地山面上において炉の一部を検出して遺構を確認した。住居跡の大部分が削平されているため、平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 G F 21-1 住居跡と重複関係にあり、当住居の西半分が切られている。

〔床面〕 地山をそのまま床面としており、ほぼ平坦で比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるビットには P₁・P₁₀・P₂₉・P₃₅・P₃₈・P₄₂ の 6 個があり、それらを結んだ線は南北に長い長方形を呈する。

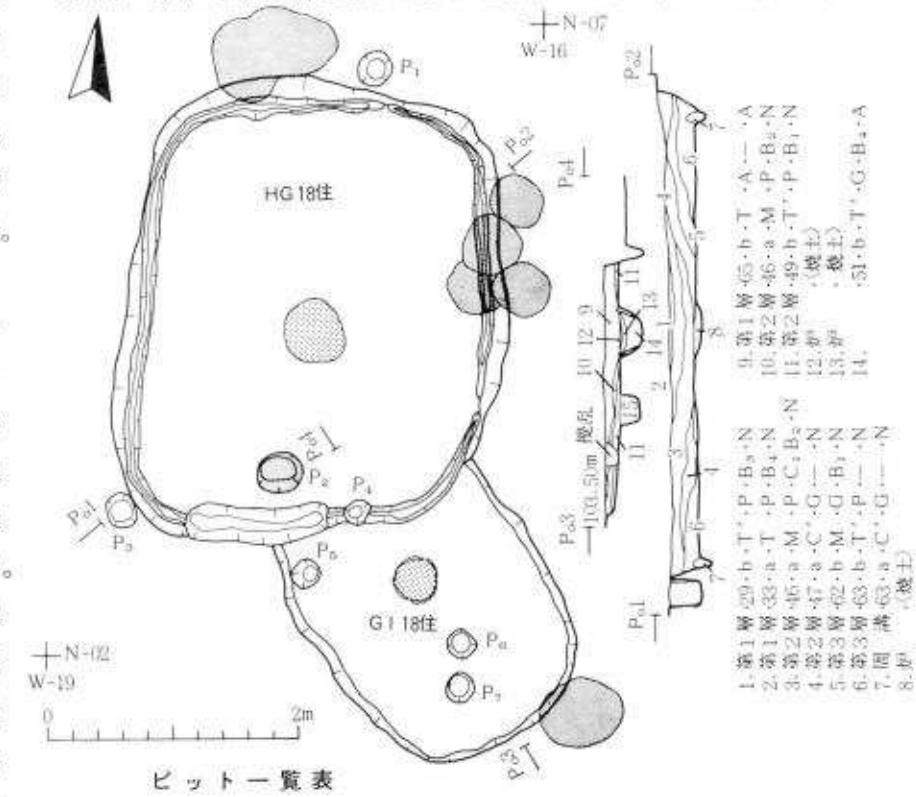
〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が 1 個所検出されている。柱穴配列のほぼ中央に位置し、東西にやや長い椭円形を呈する。規模は (61) × 45 cm を計る。

G H 18 住居跡 (第34図)

〔遺構の確認〕 G区南の西端に位置し、第IIa層（地山）上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 G I 18 住居跡と重複関係にあり、当住居の方が新しい。また、東壁・北壁の一部は数個のビットを破壊してつくられる。住居の増改築は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長 3.42 m、短軸長 2.71 m の隅丸長方形を呈



ピット番	1	2	3	4	5	6	7
ピット名	G H-185	G I-182	G I-211	G I-187	G J-183	G J-182	G J-181
深さ(cm)	45	34	29	16	48	18	23

第34図 GH 18, GI 18 住居跡

—西田遺跡—

する。長軸方向はN—1°30'—Wである。なお、住居内面積は約8.27m²を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に分けられる。典型的なレンズ状の自然堆積の状態を示しており、全層とも自然的な營力による堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。遺存状態は良好で、残存値で約21～25cmを計る。床面からの立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 全域で確認されている。幅約6～12cm、深さ約8～12cmを計り、断面形は「U」字状を呈する。なお、周溝内から1個のピットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上からは柱穴状のピットがまったく検出されていない。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1ヶ所確認されている。住居内ほぼ中央に位置し良く焼けている。規模は約52×50cmを計る。

G I 18住居跡（第34図）

〔遺構の確認〕 G区南の西端に位置し、第IIa層（地山）上面より遺構の在石を確認している。

〔重複〕 G H 18住居跡と重複し、それよりも古い。また、南壁の一部がピットによって切られている。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸長方形を呈す。短軸長1.89mを計るが長軸長は不明である。長軸方向はN—38°—Wとなる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられる。第1層を人為的堆積層、第2層を自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。壁の残存値は約3～8cmとなり、床面よりなだらかに立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

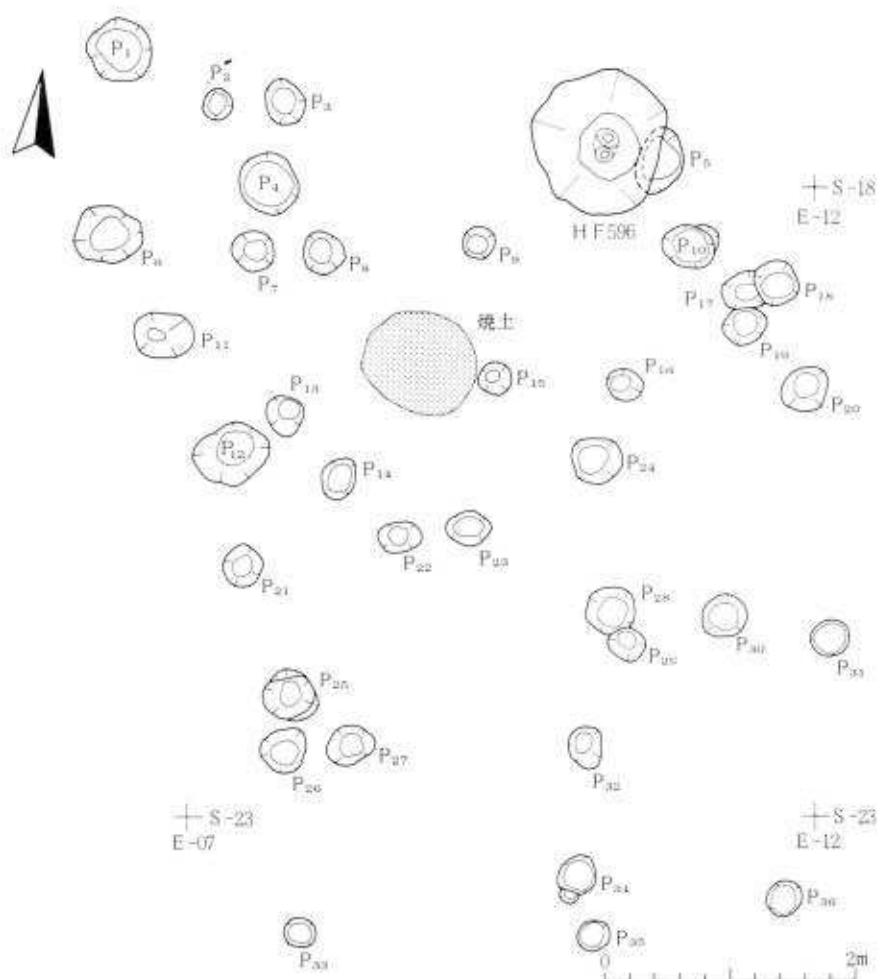
〔柱穴〕 床面上より3個のピットが検出されているがいずれも柱穴とする根拠に欠ける。

〔炉〕 土器（浅鉢）埋設炉である。床面を土器の形状にあわせて掘り凹め、土器は底部を欠いて直立に設置している。が床は床面より若干低くなっている。固い焼土面をもつ。

H F 56住居跡（第35図）

〔遺構の確認〕 H区の中央やや東寄りに位置し、地山面上より焼面を検出して遺構の存在を確認した。なお、住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 各種ピット類と重複するが、明確な切り合いを示す遺構はH F 596ピットのみで当住居跡はそれを切って構築されている。住居の増改築の痕跡は認められない。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ピット名	HF-566	HF-567	HF-568	HF-569	HF-569	HG-569	HF-561	HG-562	HG-591
深さ(cm)	32	12	31	19	39	35	18	38	22
ピットNo	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ピット名	HG-596	HG-563	HG-565	HG-564	HG-566	HG-592	HG-596	HG-5910	HG-597
深さ(cm)	32	8	15	36	33	23	21	13	36
ピットNo	19	20	21	22	23	24	25	26	27
ピット名	HG-598	HG-599	HG-568	HG-567	HG-593	HG-594	HH-566	HH-562	HH-563
深さ(cm)	16	16	12	13	21	32	34	12	17
ピットNo	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ピット名	HH-591	HH-592	HH-593	HH-594	HH-593	HH-594	HH-594	HH-597	HH-598
深さ(cm)	11	36	19	21	20	20	17	17	13

第35図 HF 56住居跡

—西田遺跡—

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で比較的堅い。

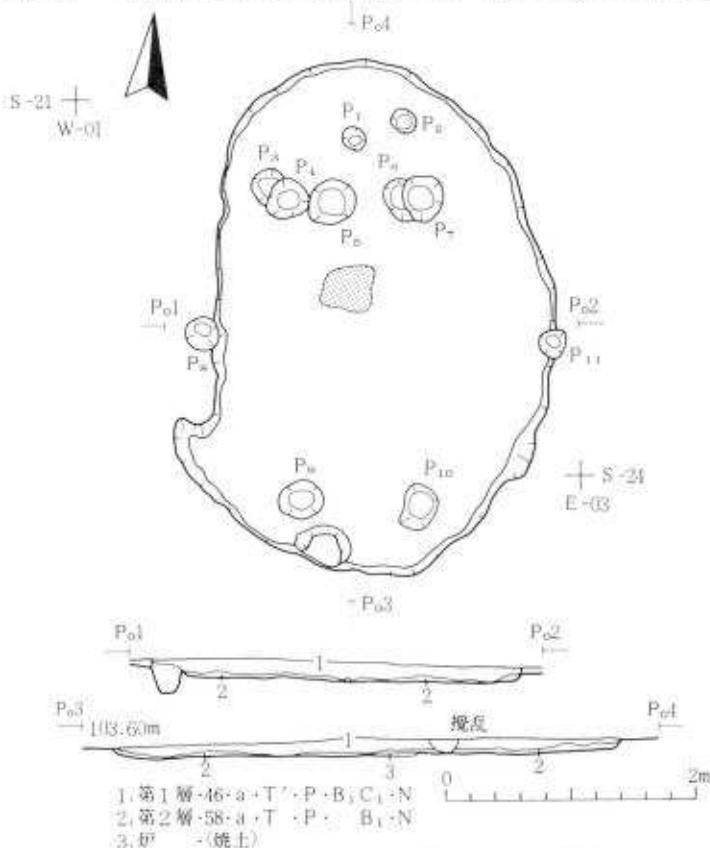
〔柱穴〕 大きさ、深さからみて、柱穴となる可能性をもつピットには、 $P_3 \cdot P_5 \cdot P_8 \cdot P_{10} \cdot P_{15}$ ・ $P_{16} \cdot P_{24} \cdot P_{25} \cdot P_{29} \cdot P_{30} \cdot P_{32}$ などがあげられる。これらのピットを、柱穴配列の一定の規則性から吟味した場合、 $P_3 \cdot P_5 \cdot P_{13} \cdot P_{16} \cdot P_{25} \cdot P_{29}$ の6個が当住居跡の柱穴と想定される。ただ、これと異なる配列も考えられ、積極的な根拠に欠ける。

〔炉〕 上記で想定した柱穴列の中央やや北寄りの部分に焼面（地床炉）が検出されている。約93×83cmの広がりをもつ。

H G 50住居跡（第36図）

〔遺構の確認〕 調査区の南端目区の中央部に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 当住居跡と重複する遺構はなく、住居の増改築も認められない。



ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	13	9	32	37	10	28	37	16	41	35	7

第36図 HG 50住居跡

高は3~8cmであり、その立ちあがり角度は比較的きつい。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

〔柱穴〕 床面上より検出された7個のビットのほか、東西の壁内にそれぞれ1個づつ検出されている。これらのビットのうち、柱穴と断定できるものにはP₄・P₇・P₉・P₁₀があり、それらを結んだ線は整った長方形を呈する。また、壁内のP₈・P₁₁も柱穴となる可能性をもっている。

〔炉〕 床面の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。床面の中央部からは北にずれており、住居の長軸上に位置する。規模は約42×37cmである。

〔その他の施設〕 南壁に接して小さな段がついている。大きさは約31×44cmを計り、性格は不明である。

H I 15 住居跡（第37図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、やや西寄りに位置しており、第Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 1A 091陥し穴状遺構と重複し、それよりも新しい。なお、多数の柱穴状ビットが検出されていることからみて、増改築の可能性もあるが明確にできなかった。

〔平面形・規模〕 長軸長6.38m、短軸長約5.38mの梢円形を呈する。長軸方向はN-17°-Eである。住居内面積は約27.61m²を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に分けられる。第1層を自然堆積層、第2層・第3層を人為的堆積層として認定した。（第3層は生活層）

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は南に向かってやや低くなっているもののほぼ平坦で比較的堅い。

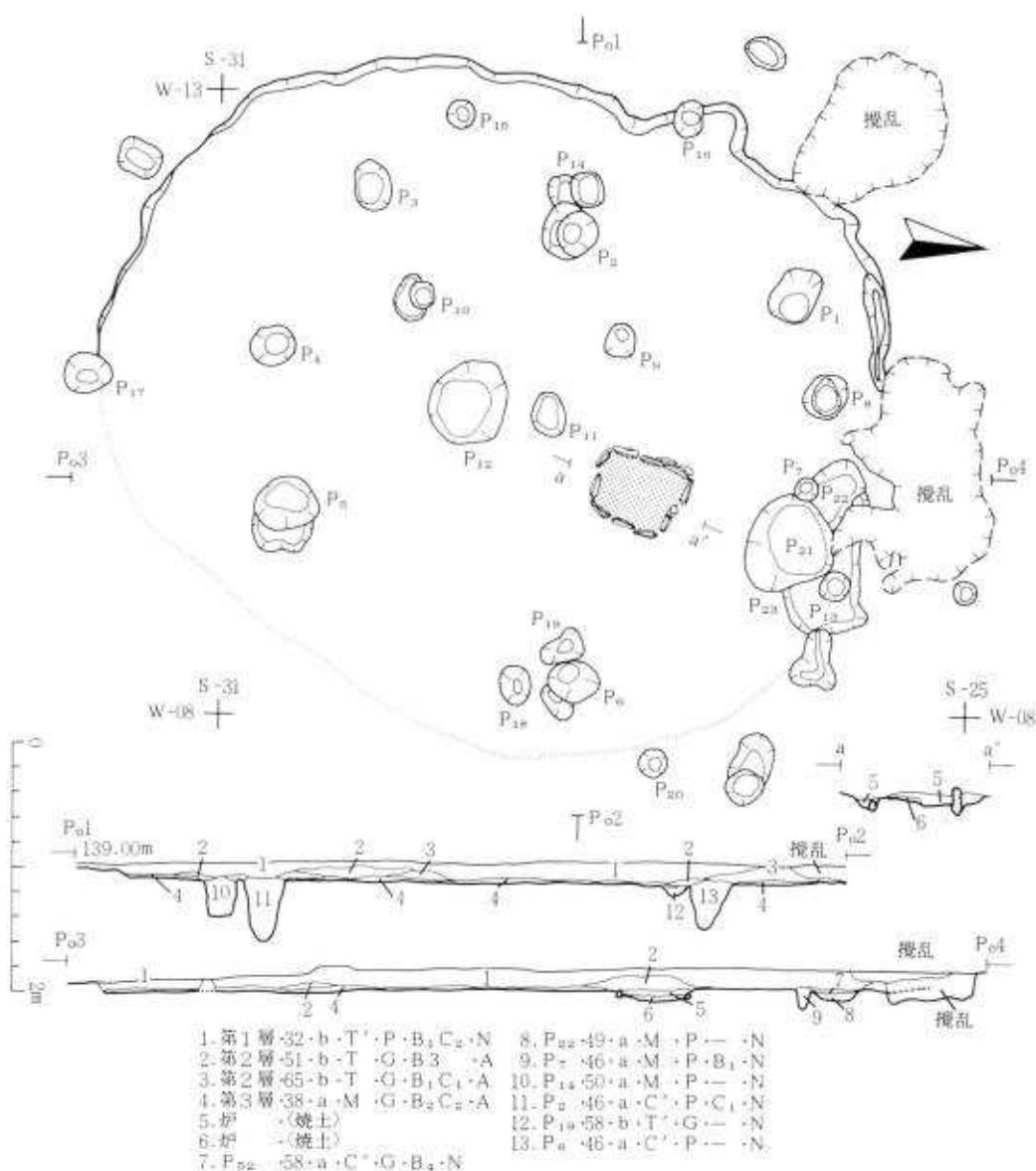
〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。壁は西辺と南辺で確認されているが、北辺と東辺では削平を受けている。壁高は現存値で約4~8cmを計る。床面からの立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 北辺の一部で確認されており、幅約15cm、深さ約13cmを計る。

〔柱穴〕 床面上からは合計23個のビットが検出されており、大きさ、深さから柱穴たりうるものにはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈・P₉・P₁₀・P₁₃・P₁₄の11個があげられる。これらの柱穴状ビットを柱穴配置の規則性から検討した場合、P₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₁₃の7個が主柱穴となる可能性が強い。

〔炉〕 床面を若干掘り凹め、周縁を長方形に石囲いした石組炉である。石は横位の状態で据えられており、炉底には石、土器等による施設は認められない。床面中央の北寄りに位置し、住居の長軸線上に乗る。

— 西 田 道 跡 —



ビット一覧表

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ(cm)	49	48	40	30	44	35	22	39	44	38.5	11	37
ビットNo	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
深さ(cm)	30	28	14	6	10.5	11	17	10.5	16	10	5	

第37図 HH15住居跡

H F 06 住居跡（第38図）

〔遺構の確認〕 H区の中央に位置し、地山面上より焼土（地床炉）を検出して遺構の存在を確認した。規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔重複〕 多数のピットが検出されているが、遺構間の重複関係を示すピットは発見されていない。ただ、平面的には H G 06 住居跡・H G 09 住居跡・H F 03 住居跡と重複関係にある。

〔平面形〕 柱穴の推定配置形からは長方形を呈するものと思われる。規模は不明であるが、長軸方向は N—3°—W である。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 多数のピットのうち、柱穴と想定されるものに P₁・P₇・P₁₀・P₁₇・P₂₁・P₂₇・P₂₉・P₃₃ の 8 個があげられる。これらのピットは規模・堆積土・配置列に規則性がみられ、柱穴となる可能性が極めて強い。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が 1 個所検出されている。柱穴配置列の中央やや北寄りに位置し、長軸線上に乗る。規模は約 6.4 × 4.1 cm を計る。

H H 06 住居跡（第38図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区のやや西寄りに位置しており、明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H G 06 住居跡と重複関係にあり、それよりも新しい。また、平面的には H I 15 住居跡、H G 09 住居跡と重複している。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形および北辺に検出された周溝の形状からみれば、南北に長い長方形を呈する可能性が強い。長軸方向は N—15°—W である。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面は南側に向かってやや低くなっているもののはば平坦で比較的堅い。

〔周溝〕 北辺の一部で検出されている。H G 06 住居跡の床面を削ってつくられ、幅約 15 cm、深さ 4 ~ 8 cm を計る。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには P₄₅・P₄₆・P₅₂・P₅₃・P₅₉・P₆₉・P₇₂・P₇₆ の 8 個があげられる。これらのピットの配置形は H G 06 住居跡のそれと相似形を呈し、柱穴列の幅が北に広くて南に狭いという特徴をもっている。

〔炉〕 柱穴列内に焼面が 3 ケ所（A・B・C）検出されている。A は H G 06 住居跡のものとも考えられるが、当住居跡に伴うものとなる可能性が強い。これらの焼面は南北 4 個の柱穴の間に等距離で配置されており、中央軸から東に偏して位置する。焼面 A は 78 × 116 cm、B は 55 × 62 cm、C は 39 × 91 cm の広がりをもつ。

— 西 田 遺 跡 —

H G 06住居跡（第38図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区のやや西寄りに位置しており、明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H F 06住居跡・H G 09住居跡・H H 06住居跡の3棟の住居跡と重複するが、H H 06住居跡より旧くなるほか新旧関係は不明である。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形からみれば南北に長い長方形を呈する可能性が強い。長軸方向はN-1°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには、P₃₀・P₃₈・P₄₂・P₄₈・P₆₀・P₆₂・P₇₅・P₈₀の8個があげられる。これらのピットは深さはほぼ一定するものの、大きさはほかの柱穴状のピットよりも大きくなる。配列には規則性がみられ、4個づつ直線状に縱にならび、幅は北側で広くて南側で狭くなるという特徴をもつ。

〔炉〕 柱穴列内に3個の焼面（A・B・C）が検出されている。焼面BとCはH H 06住居跡に伴なうものと考えられ、当住居に伴なう可能性をもつものは焼面Aのみである。ただ、焼面AもH H 06住居跡に属すことも想定されうるもので、当住居の地床炉とする積極的な根拠に欠ける。焼面Aは柱穴列中央やや北寄りに位置し、住居の長軸線上に乗る。規模は約78×116cmを計る。

H G 09住居跡（第38図）

〔遺構の確認〕 H区中央やや西寄りに位置し、地山面上より明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・床面・壁・周溝等は不明である。

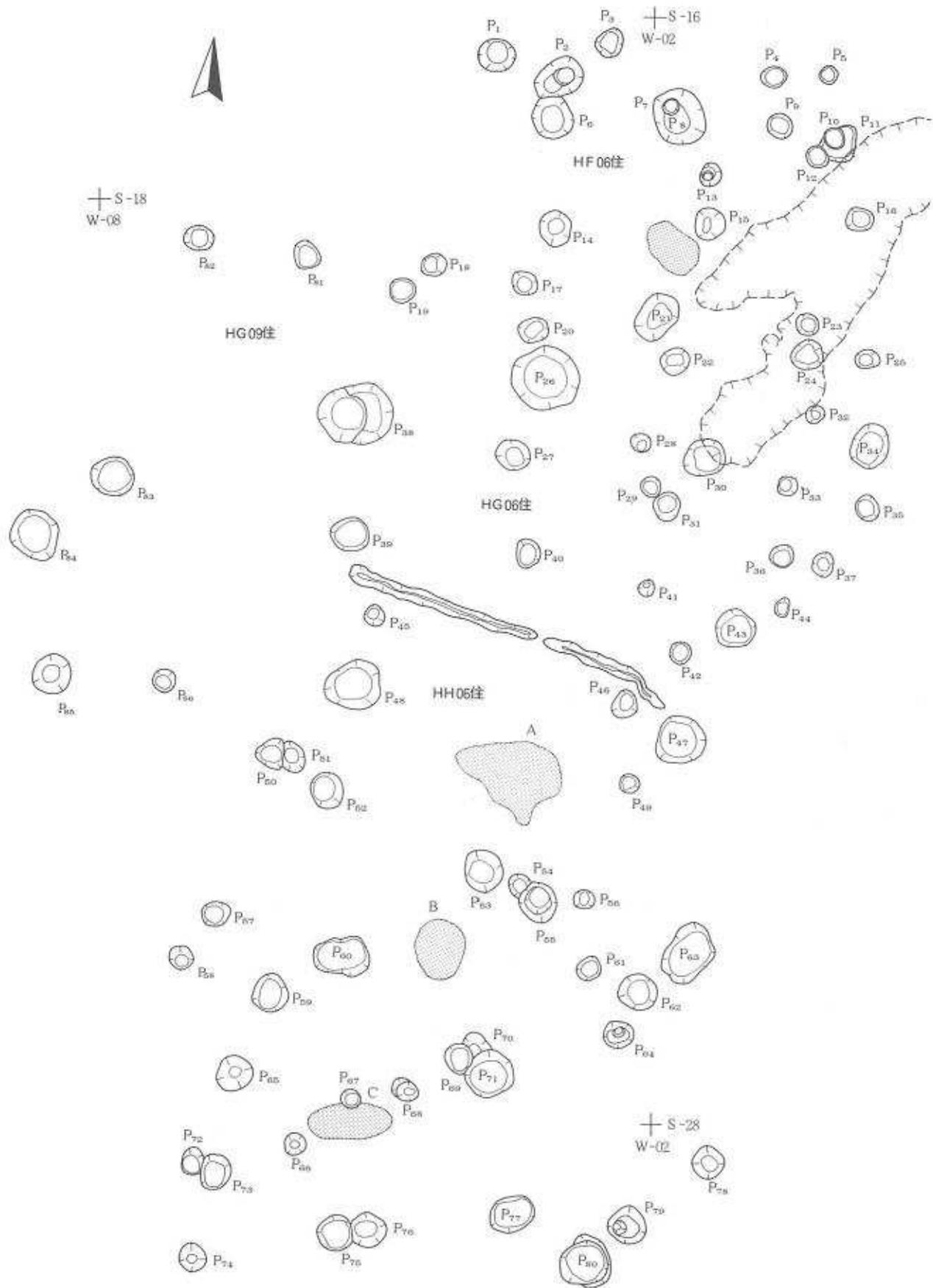
〔重複〕 H G 06住居跡・H I 06住居跡と重複するがそれらとの新旧関係は不明である。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形〕 柱穴の配置列から推定すれば、南北に長い長方形か楕円形を呈するものと見られる。長軸方向はN-11°-Wである。

〔床面〕 柱穴列内部の床面に相当する部分はかなり柔かく、きれいな地山面が露出している。検出時に床面を掘り下げてしまった可能性が強い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには、P₁₀・P₂₂・P₂₉・P₅₃・P₅₀・P₈₅の6個があげられる。これらのピットは大きさ、規模ともほぼ一定しており、配列にも規則性がみられる。

〔炉〕 炉と見られる施設は検出されていない。



レットNo レット名 深さ(cm)	1 HF-062 32	2 HF-065 35	3 HF-039 11	4 HF-032 14	5 HF-031 25	6 HF-066 43	7 58	8 HF-037 54	9 HF-034 19	10 33	11 11	12 34	13 HF-038 33	14 HG-063 15	15 HG-032 8	
16 HG-504 ?	17 HG-064 24	18 HG-069 13	19 HG-068 29	20 HG-065 12	21 HG-094 9	22 HG-088 9	23 HG-039 24	24 HG-036 31	25 HG-503 30	26 HG-062 33	27 HG-067 35	28 HG-081 ?	29 HH-032 17	30 HH-030 43	31 HH-033 37	
32 HG-031 16	33 HG-031 24	34 HG-508 10	35 HG-501 30	36 HH-035 16	37 HH-036 22	38 HG-061 52	39 HH-063 46	40 HH-062 18	41 HH-034 21	42 HH-037 23	43 HH-038 11.5	44 HH-038 15	45 HH-066 29	46 HH-080 37	47 HH-031 54	
48 HH-061 55	49 H I-033 10	50 H I-035 60	51 H I-066 46	52 H I-063 55	53 H I-062 17	54 H I-061 ?	55 H I-061 49	56 H I-034 16	57 H I-091 30	58 H I-092 15	59 H I-093 32	60 H I-065 54	61 H I-036 21	62 H I-037 57	63 H I-035 9.5	
64 H I-038 25	65 H I-093 11	66 H I-064 15	67 H I-063 19	68 H I-062 16	69 H I-067 50	70 13	71 H I-061 37	72 H I-092 31	73 H I-091 32	74 P17 6	75 H I-066 23	76 H I-065 54	77 H I-034 8	78 H I-031 18	79 H I-032 23	
80 H I-033 68	81 HG-061 42	82 HG-091 44	83 HG-093 53	84 HG-092 21	85 HG-091 57	86 HG-094 30										

第38図 HF06・HH06・HG06・HG09住居跡

H E 15 住居跡（第39図）

〔遺構の確認〕 H区中央西端に位置し、地山面より周溝・焼面を検出して遺構の存在を確認している。遺構内堆積土・壁は確認できなかった。

〔重複〕 H F 18 住居跡と重複関係にあり、当住居跡の炉が H F 18 住居跡の柱穴・周溝によって切られている。なお、増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長 4.72 m、短軸長 3.83 m の長方形を呈し、長軸方向は N-14°30' - E である。住居内面積は約 15.23 m² となる。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で堅い。

〔周溝〕 ほぼ全周している。幅約 9 ~ 28 cm、深さ約 8 ~ 16 cm で、断面形は「U」字形を呈する。

〔柱穴〕 床面上には合計 20 個のビットが検出されている。このうち、規模がほぼ一致する P₁・P₃・P₅・P₁₃・P₁₄・P₁₆・P₁₇・P₁₉ の 8 個が柱穴と考えられる。これらのビットは周溝際ないしは周溝と交錯して位置し、その配列には規則性がみられる。

〔炉〕 床面上から 1 ケ所の焼面（地床炉）が検出されている。P₈・P₉・P₁₀ および周溝によって破壊されている。床面の中央部からやや北東にずれて位置し、その規模は約 101 × 74 cm である。

H F 18 住居跡（第39図）

〔遺構の確認〕 H区中央西端に位置し、地山面より周溝・焼面を検出して遺構の存在を確認している。遺構内堆積土・壁は確認できなかった。

〔重複〕 H E 15 住居跡重複関係にあり、H E 15 住居跡の西南部を切って構築されている。また、西辺の一部を後世の土壤によって破壊されている。

〔改築〕 柱穴の配置、一部で重複する周溝、および炉の形状などからみて改築が行われた可能性が強い。その場合、縮少となる。

〔平面形・規模〕 長軸長約 5.82 m、短軸長 3.87 m の長方形を呈する。長軸の方向は N-7°30' - E である。また、住居内面積は約 18.82 m² となる。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で堅い。

〔周溝〕 北辺を除きほぼ全域で検出されている。東辺の北側では二重になっており、内側（西側）の溝が新しい。幅約 8 ~ 19 cm、深さ約 3 ~ 11 cm を計り、断面形は「U」字形を呈する。

〔柱穴〕 床面上からは合計 28 個のビットが検出されている。これらのなかには H E 15 住居跡に伴うビットも含まれている。当住居跡の柱穴には 2 通りの組合せが考えられ、それぞれに配列の規則性が認められる。一つの組合せは P₉・P₁₁・P₁₈・P₂₃・P₂₈・P₃₄・P₃₉・P₄₂ の 8 本、もう一つには、P₁₀・P₁₂・P₂₂・P₂₀・P₂₉・P₃₃・P₃₈・P₄₀ の 8 本が考えられる。ビットの重複関係から、前者の柱穴列から後者の柱穴列への建て替えが行われている。

— 西 田 遺 跡 —

〔炉〕 床面上から 1 ケ所の焼土面（地床炉）が検出されている。その形状はやや歪んだ「く」の字状を呈し、明確な区分線は認められなかったものの二度に亘って使用されたものと思われる。床面の中央部から北東にずれて位置し、その規模は $77 \times 98\text{cm}$ を計る。

H H 21-1 住居跡（第39図）

〔遺構の確認面〕 H区の南部、調査区の西端に位置し、床面上より焼面（地床炉）を検出して遺構の存在を確認した。住居跡の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H H 21-2 住居跡（？）と重複するが、新旧関係は明らかにできなかった。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが柱穴の推定配置列からみれば、南北に長い楕円形を呈するものと思われる。また、同様に住穴配置列からみた長軸方向は N-3°30'-E である。

〔床穴〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるものに $P_{32} \cdot P_{54} \cdot P_{61} \cdot P_{62} \cdot P_{67} \cdot P_{68}$ の 6 個があげられる。これらのピットは大きさ、深さとも一定しており、その配置形にも一定の規則性がみられる。

〔炉〕 周囲より焼面が 3 個所（A・B・C）検出されている。これらのなかで C は確実に当住居跡に伴ない、B がその可能性をもつ。C は $105 \times 138\text{cm}$ 、B は $95 \times 124\text{cm}$ の広がりをもつ。ともにかなり規模が大きい。

H H 21-2 住居跡（第39図）

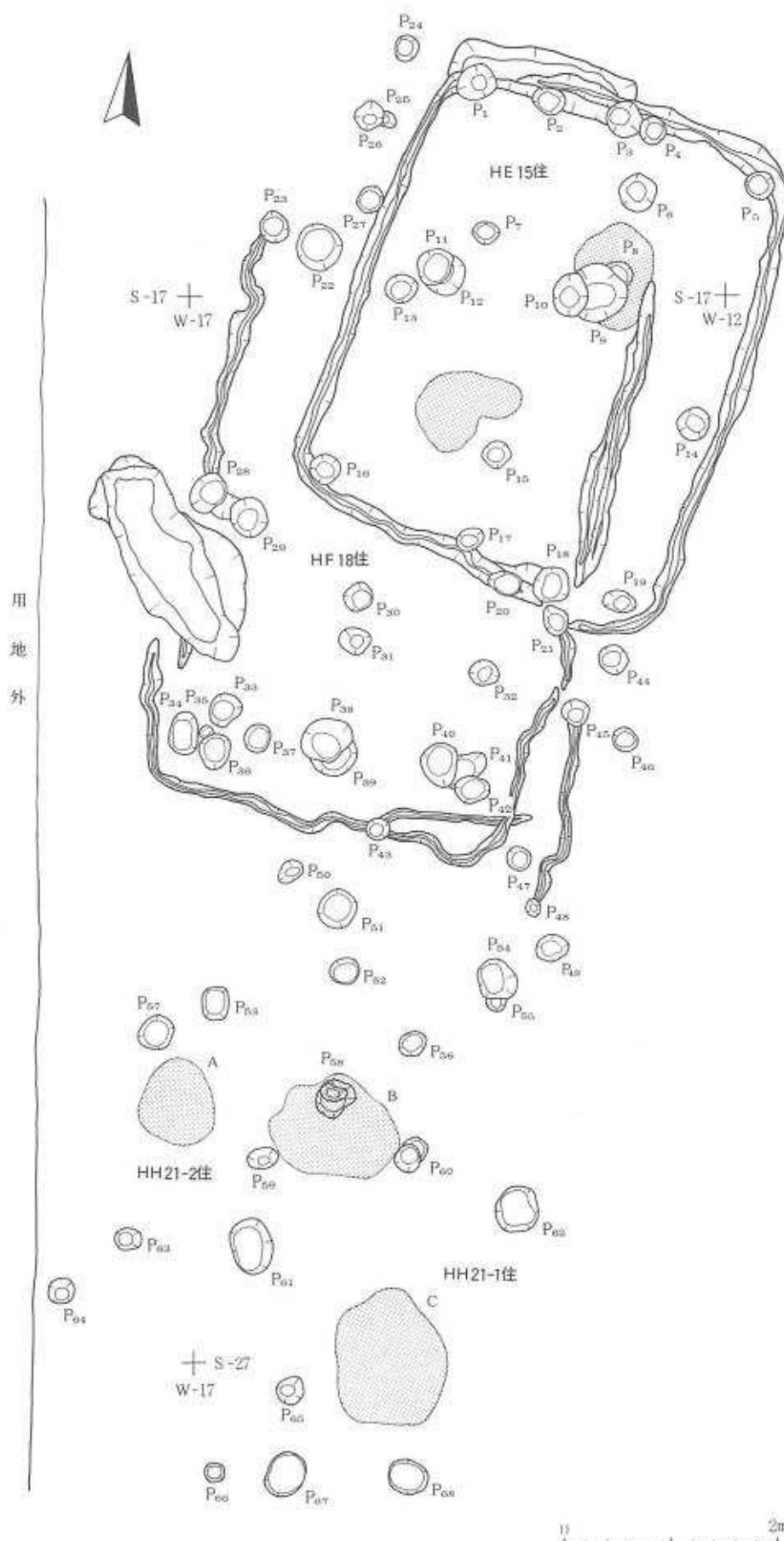
〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区の西端に位置し、床面より焼面を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H H 21-1 住居跡と重複するが新旧関係は明らかにできなかった。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるものには、 $P_{57} \cdot P_{60} \cdot P_{64} \cdot P_{65}$ の 4 個があり、 $P_{50} \cdot P_{55}$ がそれに加わる可能性をもつ。

〔炉〕 焼面 A が当住居跡に伴う地床炉と思われる。焼面 B は H H 21-1 住居跡と当住居跡とのどちらに伴うものか不明である。焼面 A は $69 \times 77\text{cm}$ の広がりをもつ。



部 位 名 深さ(cm)	1 HE-153 45.5	2 HF-159 14	3 HF-156 64	4 HF-158 17	5 HF-1211 55	6 HF-153 22	7 HF-155 18	8 HF-154 21	9 HF-152 44	10 HF-151 70	11 HF-157 67	12 HF-1510 67	13 HF-188 59.7	14 HG-154 55	15 HG-155 18
16 HG-182 42	17 HG-156 48	18 HG-158 35	19 HG-157 58	20 HG-159 88	21 HF-1510 23	22 HF-184 62	23 HF-185 50	24 HE-181 27	25 HF-186 10	26 HF-181 29	27 HF-182 26	28 HG-184 54	29 HG-183 58	30 HG-186 20.5	31 HG-188 41
32 HO-1512 26	33 HG-189 56	34 HG-1810 13	35 HG-1811 31	36 HG-184 11	37 HH-182 23	38 HG-1812 63	39 HH-1813 54	40 HH-153 55	41 HH-155 30	42 HH-154 42	43 HH-189 14	44 HG-151 20	45 HG-1511 3	46 HH-151 16	47 HH-152 22
48 HH-159 ?	49 HH-157 15	50 HH-185 24	51 HH-186 18	52 HH-1811 46	53 HH-187 47	54 HH-158 57	55 HH-156 24	56 HH-1810 25	57 HH-188 29	58 HH-184 14	59 HH-183 14	60 HH-185 35	61 HH-182 62	62 HH-151 39	63 HH-181 13
64 H1-211 30	65 H1-181 22	66 H1-182 10	67 H1-183 53.5	68 H1-184 49											

第39図 HE15・HF18・HH21-1・HH21-2住居跡

GG 03 壊穴状遺構（第40図）

〔遺構の確認〕 G区の中央付近に位置しており、地山面上（IIa層上面）より暗褐色土の落ち込みを検出して遺構の存在を確認した。

〔重複〕 7個の柱穴状ピットと重複し、そのすべてのピットに切られている。

〔平面形・規模〕 長軸長3.96m、短軸長1.59mの縦長の長方形を呈する。長軸方向はN-53.5°-Wである。また、壊穴内の床面積は約5.32m²を計る。

〔堆積土〕 遺構内堆積土は2層に大別されるが、双方とも自然堆積層として認定した。上層は黒褐色土の粉状堆積土で、下層は黄褐色土を基本とする粒状の緻密な堆積土である。

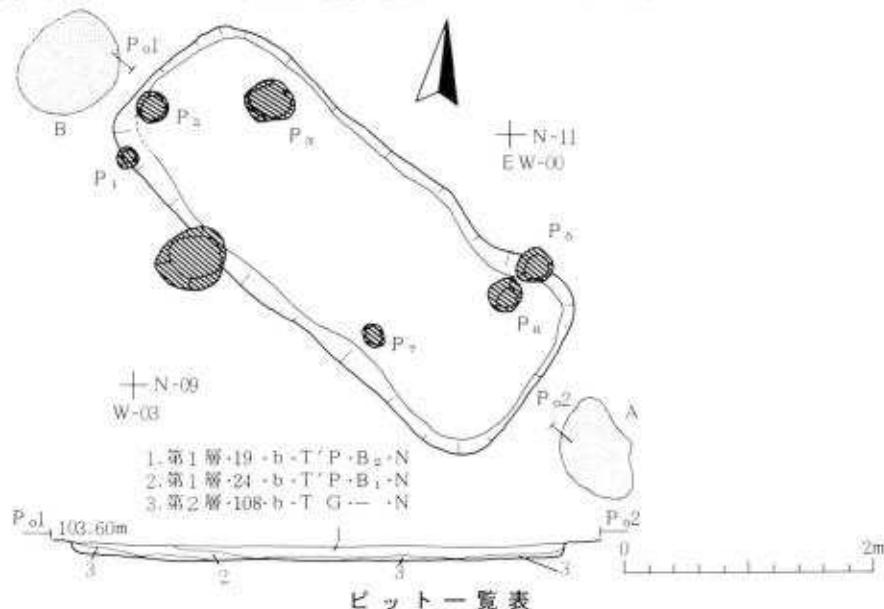
〔床〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としているが、遺存状況はあまり良くなく、現存高で約8~12cmの壁高をもつ。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上および壁にまたがって7個のピットが検出されているが、そのいずれも当遺構廃絶後に掘り込まれたものである。柱穴と想定されるピットは検出されていない。

〔炉〕 壊穴両短辺の外側に焼面が検出されているが、当壊穴に伴うものとなるかは不明である。東辺外側の焼面Aが79×55cm、西辺外側の焼面Bが85×70cmを計る。



第40図 GG 03 壊穴状遺構

2 墓壙—舟底状土壤群—

平面形が小判形で、断面形が舟底状を呈する土壤が193基検出されている。これらは、既調査の他遺跡で墓壙として認定されたものと形態・規模とも極めて類似しており、墓壙としての機能を考えられるものである。

G B 657 ピット<a類>：G A 683・G B 658 の2ピットと重複し、G A 683 を切っているが、G B 658 に切られている。長軸方向はN-79°-Eを計り、規模は長軸長が遺存値で99cm、短軸長50cm±となる。壙底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

G B 655 ピット<a₃類>：長軸方向はN-69°-Eを計り、長軸長104cm±、短軸長64cm±、深さ8cm±の規模をもつ。壙底のレベルは長軸の外方がかなり高くなっている。

G B 656 ピット<a₄類>：長軸方向はN-79°-Eを計り、長軸長120cm±、短軸長74cm±、深さ14cm±の規模をもつ。壙底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

G B 681 ピット<a類>：約半分が調査区外に入る。長軸方向はN-71°-Eを計り、短軸長68cm±、深さ18cm±の規模をもつ。

G B 682 ピット<a類>：約半分が調査区外に入り、G B 682 ピットによって切られている。長軸方向はN-72°-Eを計り、短軸長84cm±、深さ18cm±の規模をもつ。

G C 681 ピット<a類>：長軸の外方の一部が調査区外に入り、N-77°-Eの長軸方向をもつ。規模は短軸長104cm±、深さ18cm±を計る。

G D 681 ピット<b₄類>：長軸方向はN-74°-Eを計り、長軸長124cm±、短軸長84cm±、深さ36cm±の規模をもつ。壙底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

F I 658 ピット<a₃類>：F I 657 ピットと重複し、それよりも旧い。長軸方向はN-43°-Eを計り、長軸長114cm±、短軸長62±、深さ16cm±の規模をもつ。

F J 621 ピット<a₃類>：長軸方向はN-41°-Eを計り、長軸長174cm±、短軸長94cm±、深さ13cm±の規模をもつ。壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 622 ピット<a₃類>：長軸方向はN-42°-Eを計り、長軸長104cm±、短軸長80cm±、深さ14cm±の規模をもつ。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 624 ピット<a₄類>：N-45°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長80cm±、深さ8cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 651 ピット<a₃類>：N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長100cm±、短軸長60cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 652 ピット<a₂類>：F J 653 ピットと重複するが、新旧関係は不明である。N-40°-

Eの長軸方位をもち、規模は長軸長86cm土、短軸長68cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 653 ピット<b₃類>: F J 652・F J 657 ピットと重複し、F J 657 ピットを切って構築しているが、F J 652 ピットとの新旧関係は不明である。N-42°-Eの長軸方位をもち、規模は104cm土、短軸長72cm土、深さ22cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平である。

F J 654 ピット<a₁類>: N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長48cm土、短軸長28cm土、深さ10cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平である。

F J 655 ピット<b₄類>: N-44°-Eの長軸方位をもち、長軸長124cm土、短軸長68cm土、深さ21cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 657 ピット<a類>: F J 653 ピットによって大半が破壊されている。N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長60cm土、深さ14cm土を計る。

F J 681 ピット<b₄類>: N-43°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm土、短軸長64cm土、深さ36cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 621 ピット<b₄類>: N-38°-Eの長軸方位をもち、長軸長136cm土、短軸長88cm土、深さ23cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 622 ピット<b₄類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm土、短軸長74cm土、深さ34cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 651 ピット<a₄類>: N-36°-Eの長軸方位をもち、長軸長116cm土、短軸長68cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなってしまい、外側の壁には3個の礫が貼り付いている。

G A 652 ピット<a₄類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、長軸長112cm土、短軸長82cm土、深さ20cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 653 ピット<a₄類>: N-41°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm土、短軸長64cm土、深さ18cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 654 ピット<a₅類>: G A 656 ピットと重複し、それを切って構築している。N-56°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長146cm土、短軸長82cm土、深さ20cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G A 655 ピット<a₅類>: N-44°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長108cm土、短軸長54cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 656 ピット<b₅類>: G A 654 ピットと重複し、それに切られている。N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長100cm土、短軸長60cm土、深さ30cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

— 西 田 遺 跡 —

G A 681 ピット<a類>：約半分が調査区外に入る。N-50°-E の長軸方位をもち、規模は短軸長60cm土、深さ12cm土を計る。

G A 682 ピット<a類>：約半分が調査区外に入る。N-57°-E の長軸方位をもち、規模は短軸長66cm、深さ16cm土を計る。

G A 683 ピット<a₂類>：G B 657・G B 658 の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-48°-E の長軸方位をもち、長軸長94cm、短軸長50cm土、深さ10cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 621 ピット<b₁類>：N-38°-E の主軸方位をもち、規模は長軸長120cm土、短軸長66cm土、深さ28cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 622 ピット<b₁類>：N-37°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長149cm土、短軸長60cm土、深さ36cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 651 ピット<b₁類>：G B 652 ピットと重複し、それを切ってつくられている。N-49°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長158cm土、短軸長72cm土、深さ26cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 652 ピット<b₁類>：G B 651・G B 653 の2ピットと重複し、G B 651 ピットによって切られるが、G B 653 ピットを切ってつくられる。N-56°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長156cm土、短軸長74cm土、深さ30cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平である。

G B 653 ピット<b₁類>：G B 652・G B 654 の2ピットと重複し、その双方のピットによって切られている。N-56°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長154cm、短軸長が不明、深さ32cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 654 ピット<b₁類>：G B 653 ピットを切ってつくられる。N-39°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長136cm土、短軸長74cm土、深さ34cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 658 ピット<c₃類>：G A 683・G B 657・G B 682 の3ピットと重複し、そのいずれも切ってつくられている。N-40°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長108cm土、短軸長92cm土、深さ28cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F H 566 ピット<a₃類>：N-2°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長104cm土、短軸長56cm土、深さ18cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはやや高くなっている。

F H 651 ピット<a₃類>：N-4°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長114cm土、短軸長52cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F I 562 ピット<a₃類>：N-4°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長110cm土、短軸長54cm土、深さ17cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 563 ピット< a_3 類>：N-9°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 114 cm 土、短軸長 48 cm 土、深さ 17 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 564 ピット< b_4 類>：N-10°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 118 cm 土、短軸長 76 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 565 ピット< b_3 類>：N-4°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 102 cm 土、短軸長 70 cm 土、深さ 24 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 591 ピット< a_4 類>：N-6°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 621 ピット< a_4 類>：N-19°-E の長軸方位をもち、長軸長 126 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 622 ピット< b_4 類>：N-21°-E の長軸方位をもち、長軸長 126 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 28 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 623 ピット< a_4 類>：N-18°-E の長軸方位をもち、長軸長 120 cm 土、短軸長 68 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F I 624 ピット< a_2 類>：N-25°-E の長軸方位をもち、長軸長 94 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 625 ピット< a_4 類>：N-6°-W の長軸方位をもち、長軸長 118 cm 土、短軸長 62 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 656 ピット< b_4 類>：N-21°-E の長軸方位をもち、長軸長 128 cm 土、短軸長 76 cm 土、深さ 28 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 657 ピット< a_4 類>：F I 658 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-10°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 134 cm 土、短軸長 72 cm 土、深さ 20 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 561 ピット< a_3 類>：F J 562 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-11°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 104 cm、短軸長 64 cm、深さ 18 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 562 ピット< a_4 類>：F J 561 ピットと重複し、それによって切られている。N-13°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 130 cm 土、短軸長 88 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 563 ピット< a_4 類>：N-14°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 128 cm、短軸長 52 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 591 ピット< b_4 類>：N-13°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 118 cm 土、短軸長

— 西 田 遺 跡 —

53cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F J 592 ピット< a_3 類>：N-25°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 114 cm±、短軸長 88cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F J 593 ピット< b_4 類>：N-21°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 140 cm±、短軸長 78cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 594 ピット< b_5 類>：N-8°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 152 cm±、短軸長 70cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 561 ピット< a_3 類>：N-21°-E の長軸方位をもち、長軸長 156 cm±、短軸長 76cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底の高さはほぼ水平になっている。

G A 591 ピット< a_3 類>：N-20°-E の主軸方位をもち、規模は長軸長 100 cm±、短軸長 72cm±、深さ 4 cm を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 592 ピット< a_4 類>：N-20°-E の主軸方位をもち、規模は長軸長 124 cm±、短軸長 82cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F H 503 ピット< a_4 類>：N-20°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 120 cm±、短軸長 72cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 037 ピット< b_4 類>：N-32°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm±、短軸長 82cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 039 ピット< a_4 類>：N-41°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 122 cm±、短軸長 70cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 069 ピット< b_5 類>：F J 062 ピットを切ってつくられる。N-37°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 146 cm、短軸長68cm±、深さ24cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 501 ピット< a_4 類>：N-24°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 120 cm±、短軸長 88cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 502 ピット< a_4 類>：F H 503 ピットによって切られている。N-19°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 136 cm±、短軸長96cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

F I 503 ピット< a_3 類>：F I 504 ピットによって切られている。N-22°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 102 cm±、短軸長74cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 504 ピット< b_3 類>：F I 503 • F I 505 • F I 509 の 3 ピットと重複し、そのすべてのピットを切ってつくられている。N-29°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 106 cm±、短

軸長70cm土、深さ26cm土を計る。長軸方向でのレベルはほぼ水平になっている。

F I 505 ピット< a₃ 類 >：F I 504・F I 509 の2ピットと重複し、F I 504 ピットには切られるが、F I 509 ピットを切ってつくられる。N-41°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長172 cm土、短軸長104 cm土、深さ19cm土を計る。長軸方向での墳底レベルは外側がやや高くなる。

F I 509 ピット< a₃ 類 >：F I 504・F I 505 の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-31°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長160 cm土、短軸長が不明、深さ16cm土を計る。

F I 532 ピット< b₁ 類 >：F I 535 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-19°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長132 cm土、短軸長52cm土、深さ26cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 533 ピット< b₁ 類 >：N-18°-Wの主軸方位をもち、長軸長118 cm、短軸長54cm土、深さ24cm土を計る長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 535 ピット< a₃ 類 >：F I 532 ピットと重複し、これによって切られている。N-19°-Wの長軸方位をもち、長軸長126 cm土、短軸長74cm土、深さ10cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 536 ピット< a₂ 類 >：N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長78cm、短軸長40cm、深さ6 cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 537 ピット< a₄ 類 >：F I 539 ピットを切ってつくられる。N-47°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長134 cm土、短軸長58cm土、深さ15cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 539 ピット< a₃ 類 >：F I 537 ピットによって切られている。N-36°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm土、短軸長が不明、深さ15cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 062 ピット< a 類 >：F J 063・F J 069 の2ピットと重複し、その双方のピットによって切られている。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長66cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 063 ピット< a₄ 類 >：F J 062 ピットを切ってつくられる。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124 cm土、短軸長64cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 0313 ピット< a 類 >：N-43°-Wの主軸方位をもち、深さが7 cm土を計るほかは規模は不明である。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 501 ピット< a₄ 類 >：N-32°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長117 cm土、短軸長72cm土、深さ16cm土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

— 西 田 遺 踪 —

F J 533 ピット< b₅ 類>：N-18°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 156 cm 土、短軸長 82 cm 土、深さ 21 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはやや外側が高くなっている。

F J 534 ピット< a₄ 類>：N-4°-E の主軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 032 ピット< a₄ 類>：G A 033 ピットを切ってつくられる。N-44°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm 土、短軸長 86 cm 土、深さ 8 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 033 ピット< a₅ 類>：G A 033 ピットによって切られている。N-38°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 148 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 034 ピット< b₄ 類>：G A 034 ピットを切ってつくられる。N-45°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 095 ピット< a₂ 類>：N-52°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 90 cm 土、短軸長 46 cm 土、深さ 8 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 0910 ピット< a₃ 類>：G A 0912 ピットを切ってつくられる。N-43°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 101 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 0912 ピット< a₄ 類>：G A 0910・G A 061・G A 062 の 3 ピットと重複しており、そのすべてのピットによって切られている。N-44°-W の長軸方位をもち、長軸長 120 cm 土、短軸長 84 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 061 ピット< a 類>：G A 0912 ピットを切ってつくられるが、G A 062 ピットによって切られている。N-46°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長 46 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。

G A 062 ピット< b₅ 類>：G A 0912・G A 061 の 2 ピットと重複し、その双方のピットを切ってつくられる。また、G A 063 溝状土壙をも切っている。N-42°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 150 cm 土、短軸長 82 cm 土、深さ 28 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 501 ピット< a₄ 類>：N-52°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 140 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 11 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 031 ピット< a₄ 類>：N-69°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 118 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 065 ピット< a₅ 類 >：N-85°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 160 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 8 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 1518 ピット< a₅ 類 >：N-83°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 156 cm 土、短軸長 92 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 122 ピット< b₅ 類 >：G B 124 ピットによって切られている。N-83°-W の長軸方位をもち規模は長軸長 146 cm 土、短軸長 94 cm 土、深さ 28 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 124 ピット< a₄ 類 >：G B 122 ピットを切ってつくられている。N-84°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 135 cm 土、短軸長 119 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 125 ピット< b₄ 類 >：N-77°-W の主軸方位をもち、規模は長軸長 134 cm 土、短軸長 90 cm 土、深さ 23 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 094 ピット< a 類 >：G B 063 + G B 095 の 2 ピットと重複し、その双方に切られている。N-71°-W の主軸方位をもち、規模は深さが 10 cm 土を計るほかは不明である。

G B 095 ピット< a₄ 類 >：G B 094 + G B 097 の 2 ピットと重複し、その双方を切ってつくられる。N-73°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 122 cm 土、短軸長 66 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 097 ピット< b₄ 類 >：G B 095 ピットによって切られている。N-76°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 150 cm 土、短軸長 90 cm 土、深さ 24 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 062 ピット< a₃ 類 >：N-70°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 104 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 063 ピット< b₃ 類 >：G B 066 + G B 094 の 2 ピットと重複し、G B 066 ピットによって切られるが、G B 094 ピットを切ってつくられる。N-77°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 166 cm、短軸長 92 cm 土、深さ 30 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 066 ピット< c₂ 類 >：G B 063 ピットを切ってつくられる。N-71°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 84 cm 土、短軸長 70 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。

G B 031 ピット< c₃ 類 >：N-77°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 99 cm 土、短軸長 70 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。

G C 1511 ピット< c₃ 類 >：N-79°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 96 cm 土、短軸長 82 cm 土、深さ 34 cm 土を計る。

— 西 田 遺 跡 —

G C 121 ピット< a₄ 類 >：N-75°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 142 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G C 091 ピット< a₄ 類 >：N-80°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 093 ピット< a₄ 類 >：N-82°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 124 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G C 095 ピット< b₃ 類 >：N-81°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 99 cm 土、短軸長 56 cm 土、深さ 21 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 061 ピット< a₄ 類 >：N-78°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 120 cm 土、短軸長 82 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 064 ピット< a₄ 類 >：N-83°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm 土、短軸長 68 cm 土、深さ 13 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 065 ピット< a₃ 類 >：N-80°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 108 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 17 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 031 ピット< b₄ 類 >：N-82°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 128 cm 土、短軸長 82 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G D 123 ピット< b₄ 類 >：G D 125 ピットを切ってつくられる。N-77°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 144 cm 土、短軸長 70 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 125 ピット< a₄ 類 >：G D 123 ピットによって切られている。N-75°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 120 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 091 ピット< a₃ 類 >：N-69°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 108 cm 土、短軸長 50 cm 土、深さ 8 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 092 ピット< a₄ 類 >：N-74°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 126 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 062 ピット< a₄ 類 >：N-67°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 128 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 063 ピット< a₄ 類 >：N-72°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 124 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 031 ピット< a₄ 類 >：N-70°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm 土、短軸長 96 cm 土、深さ 18 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 123 ピット< b₄ 類 >：G D 125 ピットを切ってつくられる。N-67°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 118 cm 土、短軸長 70 cm 土、深さ 21 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 091 ピット< a₃ 類 >：N-67°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 112 cm 土、短軸長 78 cm 土、深さ 18 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 092 ピット< a₄ 類 >：N-67°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 130 cm 土、短軸長 60 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 064 ピット< a₄ 類 >：N-50°-E の長軸方位をもち、長軸長 130 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 061 ピット< a₂ 類 >：N-54°-E の長軸方位をもち、長軸長 90 cm 土、短軸長 54 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 062 ピット< b₄ 類 >：N-52°-E の長軸方位をもち、長軸長 128 cm、短軸長 62 cm 土、深さ 26 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 063 ピット< b₃ 類 >：G E 064 ピットによって切られている。N-43°-E の長軸方位をもち、長軸長 110 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 064 ピット< b₄ 類 >：G E 063・G E 032 の 2 ピットと重複し、G E 063 ピットを切つてつくられるが、G E 032 ピットとの新旧関係は不明である。N-47°-E の長軸方位をもち、規模は、長軸長 136 cm 土、短軸長 70 cm 土、深さ 28 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 031 ピット< a₃ 類 >：N-49°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 114 cm 土、短軸長 84 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 032 ピット< a₄ 類 >：G E 064・G F 064 の 2 ピットと重複し、G F 064 ピットによって切られるが G E 064 ピットとの新旧関係は不明である。N-35°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 136 cm 土、短軸長 80 cm 土、深さ 14 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 033 ピット< a₃ 類 >：N-49°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 114 cm 土、短軸長 76 cm 土、深さ 18 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 034 ピット< a₄ 類 >：N-48°-E の長軸方位をもち、長軸長 134 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 035 ピット< a₂ 類 >：N-37°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 78 cm 土、短軸長 40 cm 土、深さ 8 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

—西田遺跡—

GE 501 ピット< b₃ 類 >：N-34°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長170 cm土、短軸長102 cm土、深さ26cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 502 ピット< a₄ 類 >：N-54°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長138 cm土、短軸長78 cm土、深さ16cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 503 ピット< a₂ 類 >：N-29°-E の長軸方位をもち、長軸長82cm土、短軸長70cm土、深さ10cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 504 ピット< b₄ 類 >：N-30°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長120 cm土、短軸長72cm土、深さ21cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 505 ピット< a₁ 類 >：N-29°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm土、短軸長76cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 061 ピット< b₄ 類 >：N-51°-E の長軸方位をもち、長軸長120 cm土、短軸長70cm土、深さ26cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 064 ピット< b₅ 類 >：GE 032 ピットを切ってつくられる。N-42°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長154 cm土、短軸長80cm土、深さ30cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 031 ピット< a₃ 類 >：N-34°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm土、短軸長64cm土、深さ17cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 033 ピット< a₂ 類 >：N-35°-E の長軸方位をもち、長軸長80cm土、短軸長54cm土、深さ8cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

GF 034 ピット< a₁ 類 >：N-47°-E の長軸方位をもち、長軸長115 cm土、短軸長54cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 035 ピット< a₃ 類 >：N-25°-E の長軸方位をもち、長軸長154 cm土、短軸長86cm土、深さ16cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 036 ピット< a₃ 類 >：N-33°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長115 cm土、短軸長74cm土、深さ16cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 502 ピット< a₃ 類 >：N-0°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長108 cm土、短軸長82cm土、深さ10cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 503 ピット< a₄ 類 >：N-28°-E の長軸方位をもち、長軸長136 cm土、短軸長76cm土、深さ18cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 504 ピット< b₄ 類 >：N-33°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長140 cm土、短軸長72cm土、深さ22cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 531 ピット< a₄ 類 >：N-1°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm土、短軸長

78cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 561 ピット< a_3 類>：N-2°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長176cm土、短軸長80cm土、深さ15cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G F 531 ピット< a_4 類>：N-1°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm土、短軸長78cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 532 ピット< b_4 類>：N-7°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長144cm土、短軸長70cm土、深さ32cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 561 ピット< b_5 類>：N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長176cm土、短軸長80cm土、深さ23cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。ヒスイの垂飾りが出土している。

G F 562 ピット< b_4 類>：N-7°-Wの長軸方位をもち、長軸長120cm土、短軸長70cm土、深さ21cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 563 ピット< a_4 類>：N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm土、短軸長84cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 564 ピット< a_2 類>：N-9°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長92cm土、短軸長46cm土、深さ16cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G F 591 ピット< b 類>：N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長84cm土、深さ32cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 592 ピット< b_3 類>：N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長112cm土、短軸長66cm土、深さ22cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 593 ピット< b_4 類>：N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長142cm土、短軸長80cm土、深さ28cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなってしまっており、外側の上部には石が据えられている。

G F 594 ピット< a_4 類>：N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長144cm土、短軸長110cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 621 ピット< b_4 類>：G F 624 ピットを切ってつくられる。N-12°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124cm土、短軸長70cm土、深さ24cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 624 ピット< a 類>：G F 621 ピットによって切られている。N-17°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長が64cm土、深さ15cm土を計る。

G G 561 ピット< b_4 類>：N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長130cm土、短軸長74cm土、深さ26cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

—西田遺跡—

G G 562 ピット< b₃ 類 >：上部は木根による搅乱をうけている。N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長150cm土、短軸長100cm土、深さ38cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G G 625 ピット< a₃ 類 >：N-14°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104cm土、短軸長68cm土、深さ18cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 621 ピット< b₃ 類 >：N-37°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長154cm土、短軸長80cm土、深さ36cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G E 622 ピット< a₄ 類 >：N-36°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm土、短軸長66cm土、深さ12cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G E 623 ピット< b₂ 類 >：N-24°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長90cm土、短軸長68cm土、深さ24cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 651 ピット< b₄ 類 >：N-49°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124cm土、短軸長74cm土、深さ25cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G E 652 ピット< c₂ 類 >：G F 654 ピットを切ってつくられる。N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長84cm土、短軸長60cm土、深さ21cm土を計る。

G E 682 ピット< a₄ 類 >：N-47°-Wの長軸方位をもち、長軸長120cm土、短軸長80cm土、深さ17cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G F 622 ピット< a₄ 類 >：G F 651 ピットによって切られている。N-40°-Wの長軸方位をもち、長軸長140cm土、短軸長80cm土、深さ18cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 623 ピット< a₃ 類 >：N-33°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104cm土、短軸長58cm土、深さ19cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G F 651 ピット< a₂ 類 >：G F 622 ピットを切ってつくられる。N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は92cm土、短軸長52cm土、深さ16cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G F 652 ピット< a₃ 類 >：N-24°-Wの長軸方位をもち、長軸長102cm土、短軸長60cm土、深さ14cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 653 ピット< a₂ 類 >：N-26°-Wの長軸方位をもち、長軸長78cm土、短軸長52cm土、深さ13cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G F 654 ピット< a 類 >：G E 652 ピットによって切られている。N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長76cm土、深さ8cm土を計る。長軸方向での壙底のレベルはやや外側が高くなっている。

G F 655 ピット< b_3 類>：N- 38° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 106 cm 土、短軸長 76 cm 土、深さ 26 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 562 ピット< a_2 類>：N- 45° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 88 cm 土、短軸長 58 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 563 ピット< a_2 類>：N- 61° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 90 cm 土、短軸長 62 cm 土、深さ 7 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 561 ピット< b_1 類>：N- 31° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 110 cm 土、短軸長 78 cm 土、深さ 32 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

G B 562 ピット< a_1 類>：N- 56° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 202 cm 土、短軸長 94 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 563 ピット< a_2 類>：G B 532 ピットを切ってつくられる。N- 46° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 90 cm 土、短軸長 50 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 532 ピット< b_4 類>：G B 563 ピットによって切られている。N- 72° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm 土、短軸長 102 cm 土、深さ 31 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

G B 591 ピット< a_3 類>：N- 5° -E の長軸方位をもち、長軸長 114 cm 土、短軸長 92 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がかなり高くなっている。

G B 592 ピット< a_2 類>：N- 49° -E の長軸方位をもち、長軸長 80 cm 土、短軸長 56 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 593 ピット< b_4 類>：N- 56° -E の長軸方位をもち、長軸長 128 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 563 ピット< a_3 類>：N- 27° -E の長軸方位をもち、長軸長 112 cm 土、短軸長 88 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 562 ピット< b_5 類>：N- 7° -E の長軸方位をもち、規模は長軸長 156 cm 土、短軸長 86 cm 土、深さ 42 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がかなり高くなっている。

G C 591 ピット< b_4 類>：N- 8° -E の長軸方位をもち、長軸長 134 cm 土、短軸長 60 cm 土、深さ 26 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がかなり高くなっている。

G C 592 ピット< b_3 類>：G C 593 ピットを切ってつくられる。N- 86° -W の長軸方位をもち、長軸長 102 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

G C 593 ピット< a 類>：G C 592 ピットによって切られている。N- 82° -W の長軸方位をもち、規模は長軸長・短軸長とも不明、深さ 6 cm 土を計る。

第3表 墓壙観察一覧表

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
A	G B 657	G A 683、G B 658と重複し、G A 683より新しくG B 658より古い。	a	N-E79°	不明	50	10
	655		a ₂	N-E69°	104	64	8
	656		a ₄	N-E79°	120	74	14
	681		a	N-E71°	不明	68	18
	682		a	N-E72°	不明	84	10
	G C 681		a	N-E77°	不明	104	18
	G D 681		b ₄	N-E74°	124	84	36
B	F I 658	F I 657と重複し、それより古い。	a ₃	N-E43°	114	62	16
	F J 621	円形ヒットであるF J 623と重複し、それより古い。 F J 652、F J 657と重複し、F J 657より新しかったか。F J 652との新旧関係は不明。	a ₅	N-E41°	174	94	13
	622		a ₂	N-E42°	104	80	14
	624		a ₄	N-E45°	136	80	8
	651		a ₃	N-E40°	100	60	14
	652		a ₂	N-E40°	86	68	12
	653		b ₃	N-E42°	104	72	22
	654		a ₁	N-E49°	48	28	10
	655		b ₄	N-E44°	124	68	21
	657		a	N-E40°	不明	60	14
	681		b ₄	N-E43°	132	64	36
	G A 621		b ₄	N-E38°	136	88	23
	622		b ₄	N-E37°	132	74	34
	651		a ₄	N-E36°	116	68	12
	652		a ₃	N-E37°	112	82	20
	653		a ₄	N-E41°	132	64	18
	654	G A 656と重複し、それより新しい。	a ₅	N-E56°	146	82	20
	655	a ₂	N-E44°	108	54	14	
	656	G A 654と重複し、それより古い。	b ₂	N-E49°	100	60	30
	681	a	N-E50°	不明	60	12	
	682	a	N-E57°	不明	66	16	
	683	G B 657、G B 658と重複し、そのいずれより古い。	a ₂	N-E48°	94	50	10
	G B 621	b ₄	N-E38°	120	66	28	
	622	b ₄	N-E37°	149	60	36	

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
B	G B 651	G B 652と重複し、それより新しい。	b ₅	N-E 49°	158	72	25
	652	G B 651、G B 653と重複し、G B 651より早く、G B 653より新しい。	b ₆	N-E 56°	156	74	30
	653	G B 652、G B 654と重複し、そのいずれよりも古い。	b ₅	N-E 56°	154	不明	32
	654	G B 653と重複し、それよりは新しい。	b ₄	N-E 39°	136	74	34
	658	G A 683、G B 657、G B 682と重複し、そのいずれよりも新しい。	c ₃	N-E 40°	108	92	28
C	F H 566		a ₃	N-E 2°	104	56	18
	651		a ₃	N-W 4°	114	52	12
	F I 562		a ₃	N-E 4°	110	54	17
	563		a ₃	N-E 9°	114	48	17
	564		b ₄	N-E 10°	118	76	22
	565		b ₃	N-E 4°	102	70	24
	591		a ₄	N-W 6°	132	64	16
	621		a ₄	N-E 19°	126	64	16
	622		b ₄	N-E 21°	126	80	28
	623		a ₄	N-E 18°	120	68	14
	624		a ₂	N-E 25°	94	64	10
	625		a ₄	N-W 6°	118	62	10
	656		b ₄	N-E 21°	128	76	28
	657	F I 658と重複し、それより新しい。	a ₄	N-E 10°	134	72	20
	F J 561	F J 562と重複し、それより新しい。	a ₃	N-E 11°	104	64	18
F J	562	F J 561と重複し、それより古い。	a ₄	N-E 13°	130	88	16
	563		a ₄	N-E 14°	128	52	12
	591		b ₄	N-E 13°	118	53	22
	592		a ₂	N-E 25°	114	88	10
	593		b ₄	N-E 21°	140	78	22
	594		b ₅	N-E 8°	152	70	28
	G A 561		a ₅	N-E 21°	156	76	16
D	F H 503		a ₄	N-W 20°	120	72	12
	F T 037		b ₄	N-W 32°	138	82	30
	039		a ₄	N-W 41°	122	70	16

—西田遺跡—

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
D	F I 069	F I 062と重複し、それより新しい。	b ₃	N-W37°	146	68	24
	501		a ₄	N-W24°	120	88	10
	502	F H 503と重複し、それより旧い。	a ₄	N-W19°	136	96	16
	503	F I 504と重複し、それより旧い。	a ₃	N-W22°	102	74	12
	504	F I 505、F I 503、F I 509と重複し、そのいずれよりも新しい。	b ₃	N-W29°	106	70	26
	505	F I 504、F I 509と重複し、F I 504より旧いが、F I 509よりも新しい。	a ₃	N-W41°	172	104	19
	509	F I 504、F I 505と重複するかそのいずれよりも旧い。	a ₃	N-W31°	160	不明	16
	532	F I 535と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W19°	132	52	26
	533		b ₄	N-W18°	118	54	24
	535	F I 532と重複し、それより旧い。	a ₄	N-W19°	126	74	10
	536		a ₂	N-W21°	78	40	6
	537	F I 539と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W47°	134	58	15
	539	F I 537と重複し、それより旧い。	a ₃	N-W36°	104	不明	15
	F J 062	F J 063、F J 069と重複し、そのいずれよりも旧い。	a	N-W42°	不明	66	12
	063	F J 062と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W42°	124	64	14
	0313		a	N-W43°	不明	不明	7
	501		a ₄	N-W32°	117	72	16
	533		b ₃	N-W18°	156	82	21
	534		a ₄	N-E4°	132	74	16
G A	032	GA 033と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W44°	138	86	8
	033	GA 032と重複し、それより旧い。	a ₃	N-W38°	148	74	14
	034	GA 033と重複し、それより新しい。	b ₃	N-W45°	138	80	22
	095		a ₂	N-W52°	90	45	8
	0910	GA 0912と重複し、それより新しい。	a ₃	N-W43°	101	74	14
	0912	GA 0910、GA 061、GA 062と重複し、そのいずれよりも旧い。	a ₄	N-W44°	120	84	12
	061	GA 0912、GA 062と重複し、GA 0912より新しく、GA 062より旧い。	a	N-W46°	不明	46	16
	062	GA 0912、GA 061と重複し、そのいずれよりも新しい。	b ₃	N-W42°	150	82	28
	501		a ₄	N-W52°	140	80	11
E	G A 031		a ₄	N-W69°	118	74	14
	065		a ₃	N-W85°	160	80	8
	G B 1518		a ₃	N-W83°	156	92	16
	122	G B 124と重複し、それより旧い。	b ₃	N-W83°	148	94	28

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
E	GB 124	GB 122と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W84°	135	119	16
	125		b ₄	N-W77°	134	90	23
	094	GB 063, GB 095と重複し、双方に切られる。	a ₄	N-W71°	不明	不明	10
	095	GB 094, GB 097と重複し、双方を切っている。	a ₄	N-W73°	122	66	14
	097	GB 095と重複し、それより旧い。	b ₅	N-W76°	150	90	24
	062		a ₃	N-W70°	104	80	16
	063	GB 066, GB 095と重複し、GB 066より旧く、GB 094より新しい。	b ₃	N-W77°	166	92	30
	066	GB 063と重複し、それより新しい。	c ₂	N-W71°	84	70	22
	031		c ₃	N-W77°	99	70	22
	GC 1511		c ₃	N-W79°	96	82	34
G-C	121		a ₄	N-W75°	142	80	10
	091		a ₄	N-E80°	132	80	12
	093		a ₄	N-E82°	124	80	10
	095		b ₃	N-E81°	99	56	21
	061		a ₄	N-E78°	120	82	14
	064		a ₄	N-E83°	132	68	13
	065		a ₃	N-E80°	108	64	17
	031		b ₄	N-E82°	128	82	22
	GD 123	GD 125と重複し、それより新しい。	b ₄	N-E77°	144	70	22
	125	GD 123, GE 123と重複し、そのいずれよりも旧い。	a ₄	N-E75°	120	64	14
G-D	091		a ₃	N-E69°	108	50	8
	092		a ₄	N-E74°	126	74	16
	062		a ₄	N-E67°	128	80	10
	063		a ₄	N-E72°	124	80	16
	031		a ₄	N-E70°	138	96	18
	GE 123	GD 125と重複し、それよりも新しい。	b ₄	N-E67°	118	70	21
F	091		a ₃	N-E67°	112	78	18
	092		a ₄	N-E67°	130	60	10
	GD 064		a ₄	N-E50°	130	80	10
	GE 061		a ₂	N-E54°	90	54	14
G-E	062		b ₄	N-E52°	128	62	26
	063	GE 064と重複し、それより旧い。	b ₃	N-E43°	110	74	22

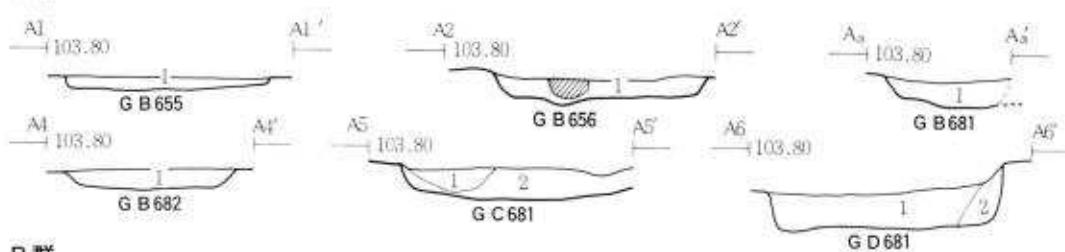
—西田遺跡—

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
F	GE 064	GE 063, GE 032と重複し、GE 063より新しいが、GE 032とは新旧関係不明。	b ₄	N-E 47°	136	70	28
	031		a ₃	N-E 49°	114	84	14
	032		a ₄	N-E 35°	136	80	14
	033		a ₃	N-E 49°	114	76	18
	034		a ₄	N-E 48°	134	74	10
	035		a ₂	N-E 37°	78	40	8
	501		b ₅	N-E 34°	170	102	26
	502		a ₄	N-E 54°	138	78	16
	503		a ₂	N-E 29°	82	70	10
	504		b ₄	N-E 30°	120	72	21
G F	061	GE 032と重複し、それより新しい。	b ₄	N-E 51°	120	70	26
	064		b ₅	N-E 42°	154	80	30
	031		a ₃	N-E 34°	104	64	17
	033		a ₂	N-E 35°	80	54	8
	034		a ₃	N-E 47°	115	54	12
	035		a ₅	N-E 25°	154	86	16
	036		a ₃	N-E 33°	115	74	16
	502		a ₃	N-E 0°	108	82	10
	503		a ₄	N-E 28°	136	76	18
	504		b ₄	N-E 33°	140	72	22
G	GE 531		a ₂	N-W 1°	128	78	14
	561		a ₃	N-E 2°	176	80	15
	G F 531		a ₄	N-E 1°	128	78	14
	532		b ₄	N-W 7°	144	70	32
	561		b ₅	N-W 8°	176	80	23
	562		b ₄	N-W 7°	120	70	21
	563		a ₄	N-W 6°	128	84	14
	564		a ₂	N-E 9°	92	46	16
	591		b	N-W 8°	不明	84	32
	592		b ₃	N-W 9°	112	66	22
	593		b ₄	N-W 9°	142	80	28

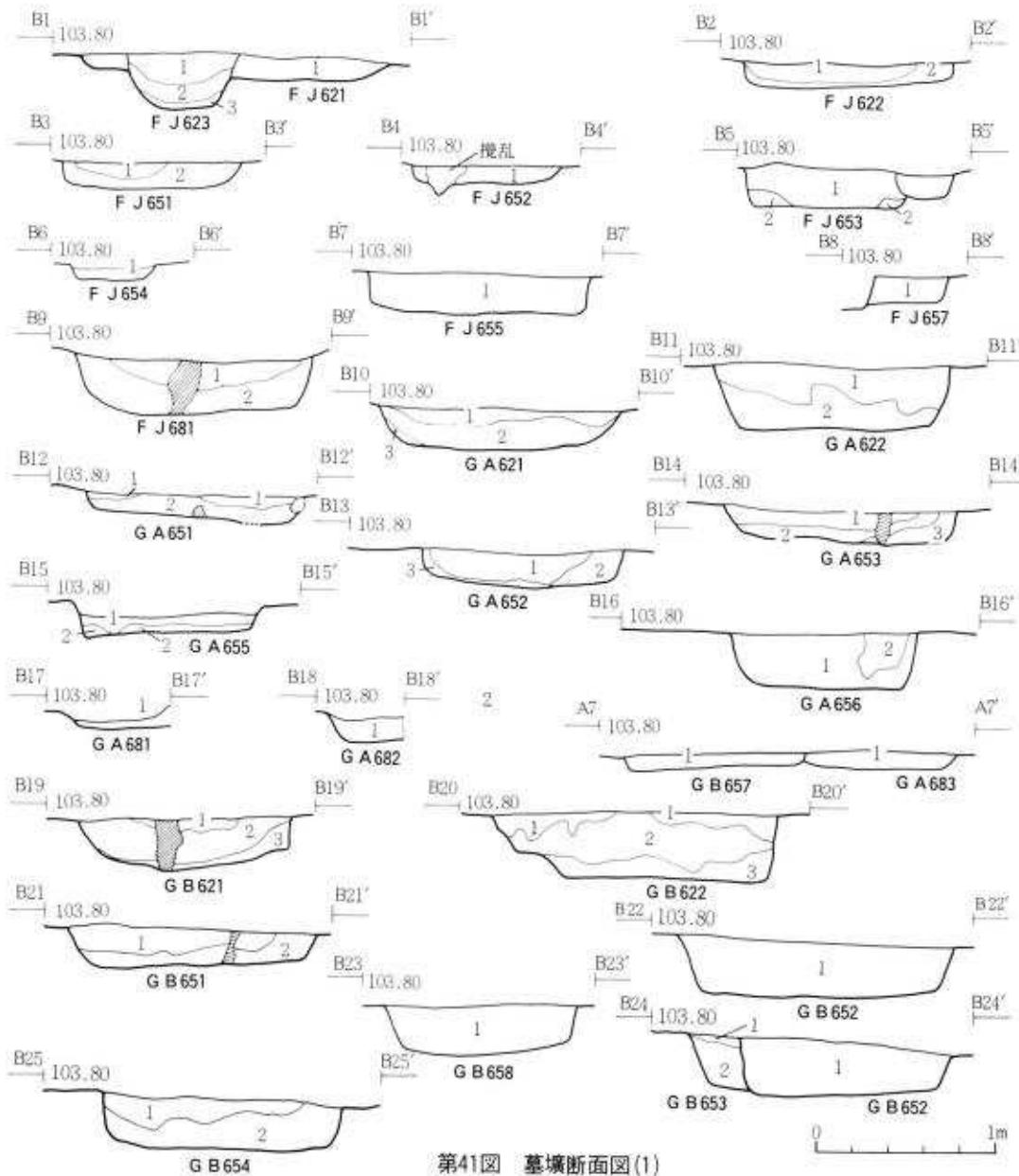
群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
G	G F 594		a ₄	N-W 9°	144	110	14
	621	G F 624と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W 12°	124	70	24
	624	G F 621と重複し、それより古い。	a ₁	N-W 17°	不明	64	15
	G G 561		b ₄	N-W 8°	130	74	26
	562		b ₅	N-W 6°	150	100	38
	625		a ₃	N-W 14°	104	68	18
H	G E 621		b ₅	N-W 37°	154	80	36
	622		a ₄	N-W 36°	128	66	12
	623		b ₂	N-W 24°	90	68	24
	651		b ₄	N-W 49°	124	74	25
	652	G F 654と重複し、それより新しい。	c ₂	N-W 21°	84	60	21
	682		a ₄	N-W 47°	120	80	17
	G F 622	G F 651と重複し、それより古い。	a ₄	N-W 40°	140	80	18
	623		a ₃	N-W 33°	104	58	19
	651	G F 622と重複し、それより新しい。	a ₂	N-W 8°	92	52	16
	652		a ₃	N-W 24°	102	60	14
	653		a ₂	N-W 26°	78	52	13
	G F 654	G E 652と重複し、それより古い。	a ₁	N-W 21°	不明	76	8
	655		b ₃	N-W 38°	106	76	26
(D)	G A 562		a ₂	N-W 45°	94	58	12
	563		a ₂	N-W 61°	90	62	7
	G B 561		b ₃	N-W 31°	110	78	32
	562		a ₅	N-W 56°	202	94	16
	563	G B 532と重複し、それよりも新しい。	a ₂	N-W 46°	90	50	12
(E)	532	G B 563と重複し、それより古い。	b ₄	N-W 72°	138	102	31
(C)	591		a ₃	N-E 5°	114	92	12
(B)	592		a ₂	N-E 49°	80	56	16
	593		b ₄	N-E 56°	128	74	22
(F)	G C 563		a ₃	N-E 27°	112	88	10
(G)	G C 562		b ₅	N-E 7°	156	86	42
	591		b ₄	N-E 8°	134	60	26
(A)	592	G C 593と重複し、それよりも新しい。	b ₃	N-W 86°	102	64	22
	593	G C 592と重複し、それよりも古い。	a ₁	N-W 82°	不明	不明	6

—西田遺跡—

A群

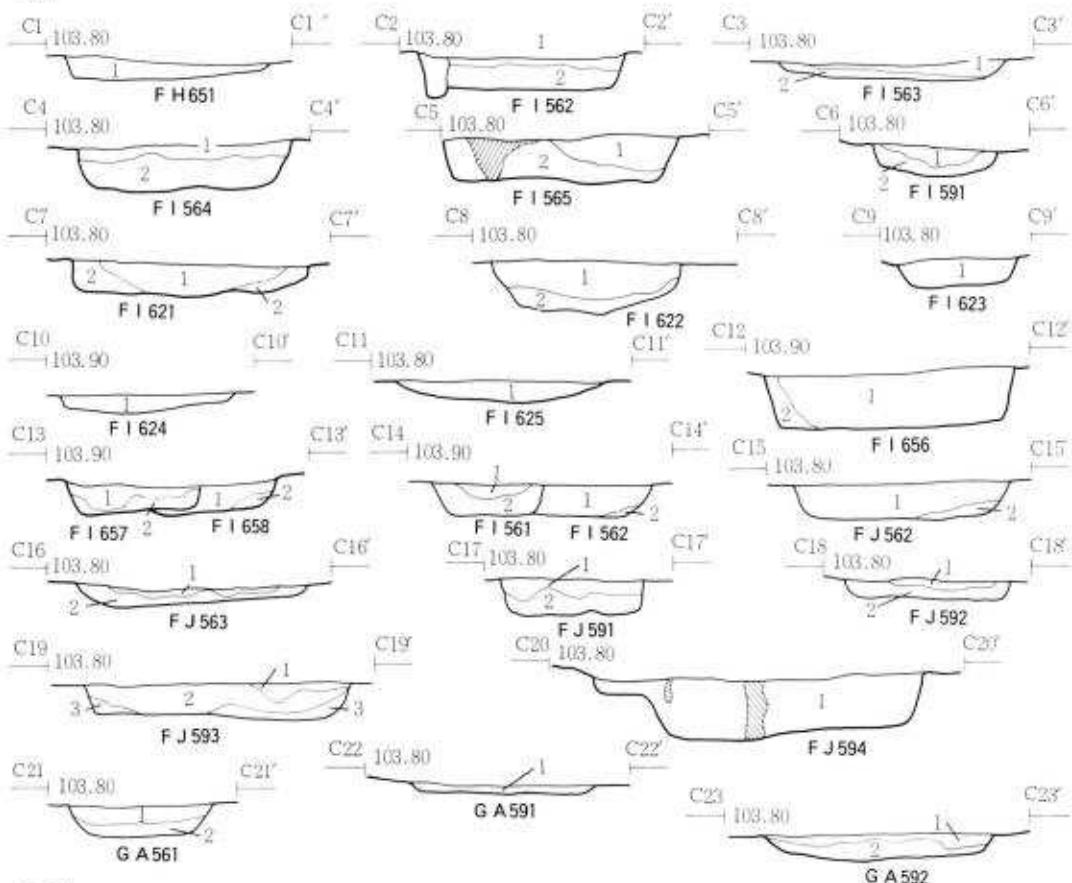


B群

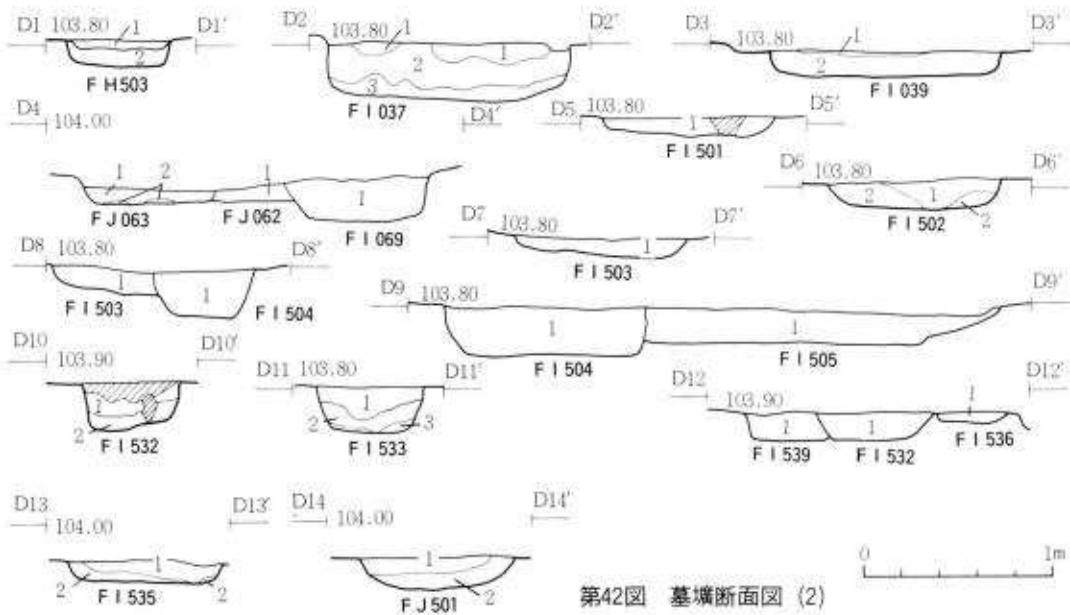


第41図 墓壙断面図(1)

C群

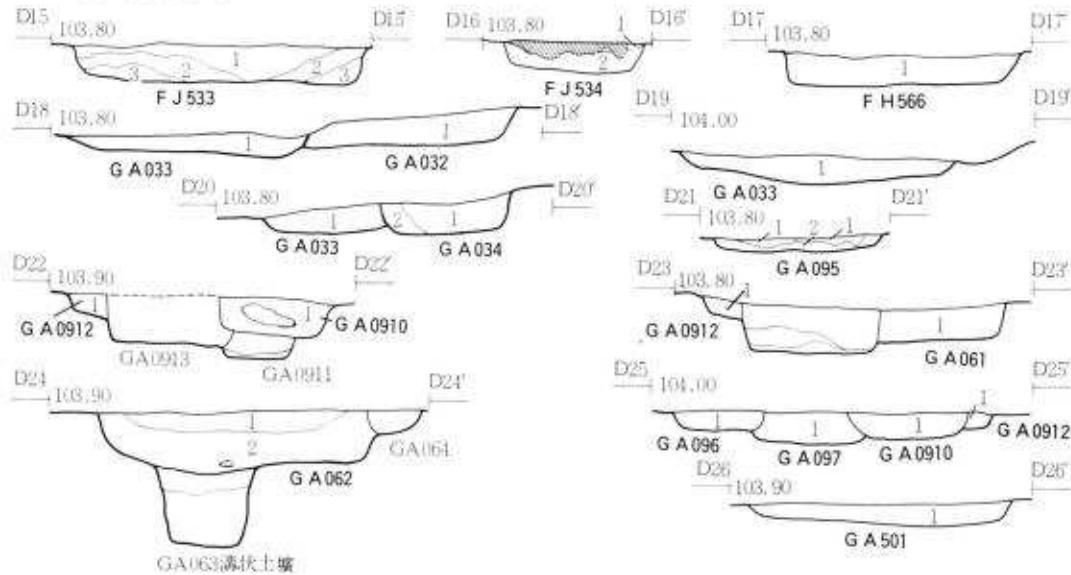


D群

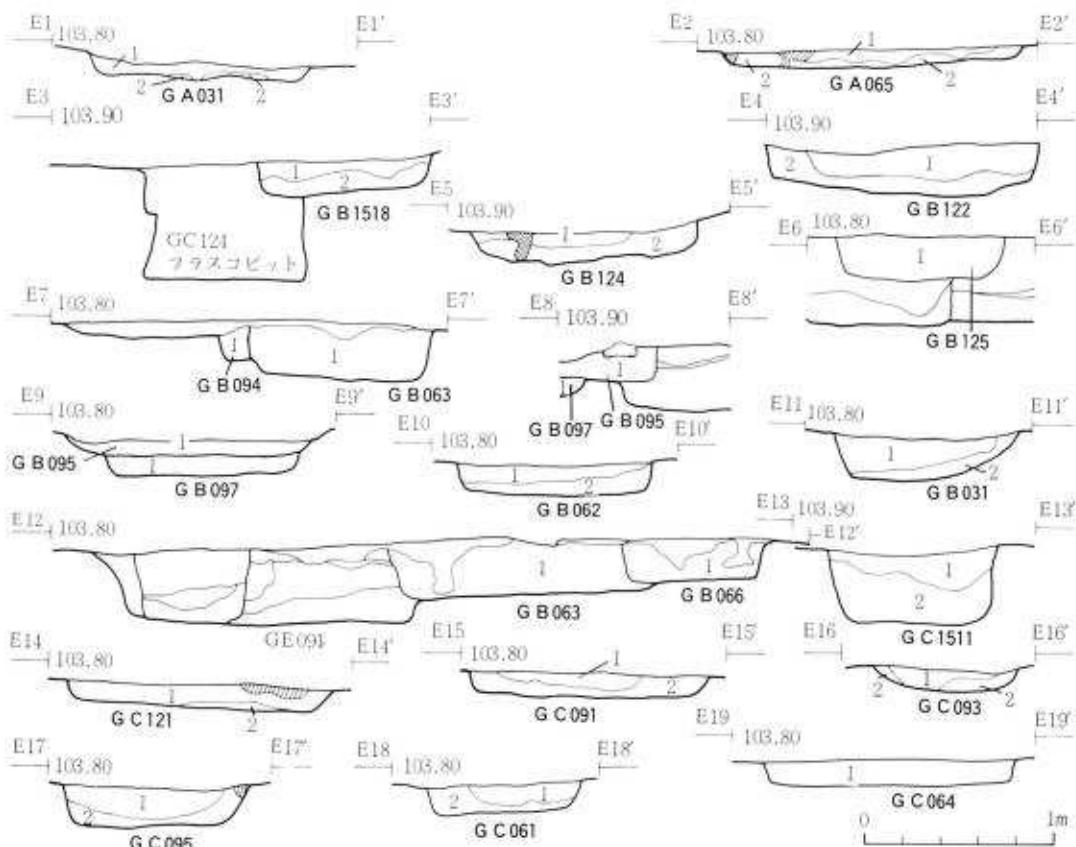


第42図 墓壙断面図(2)

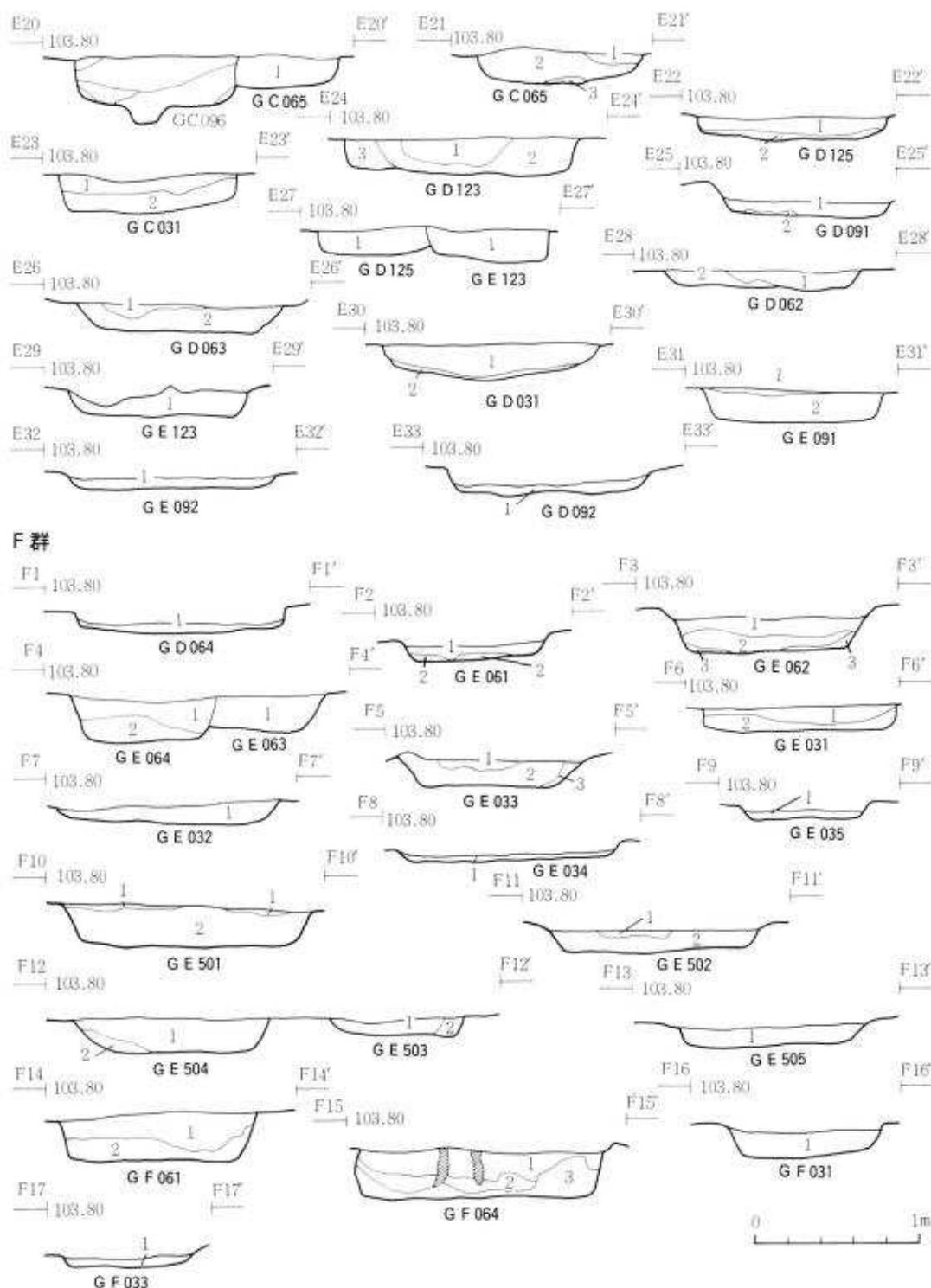
—西田遺跡—



E群

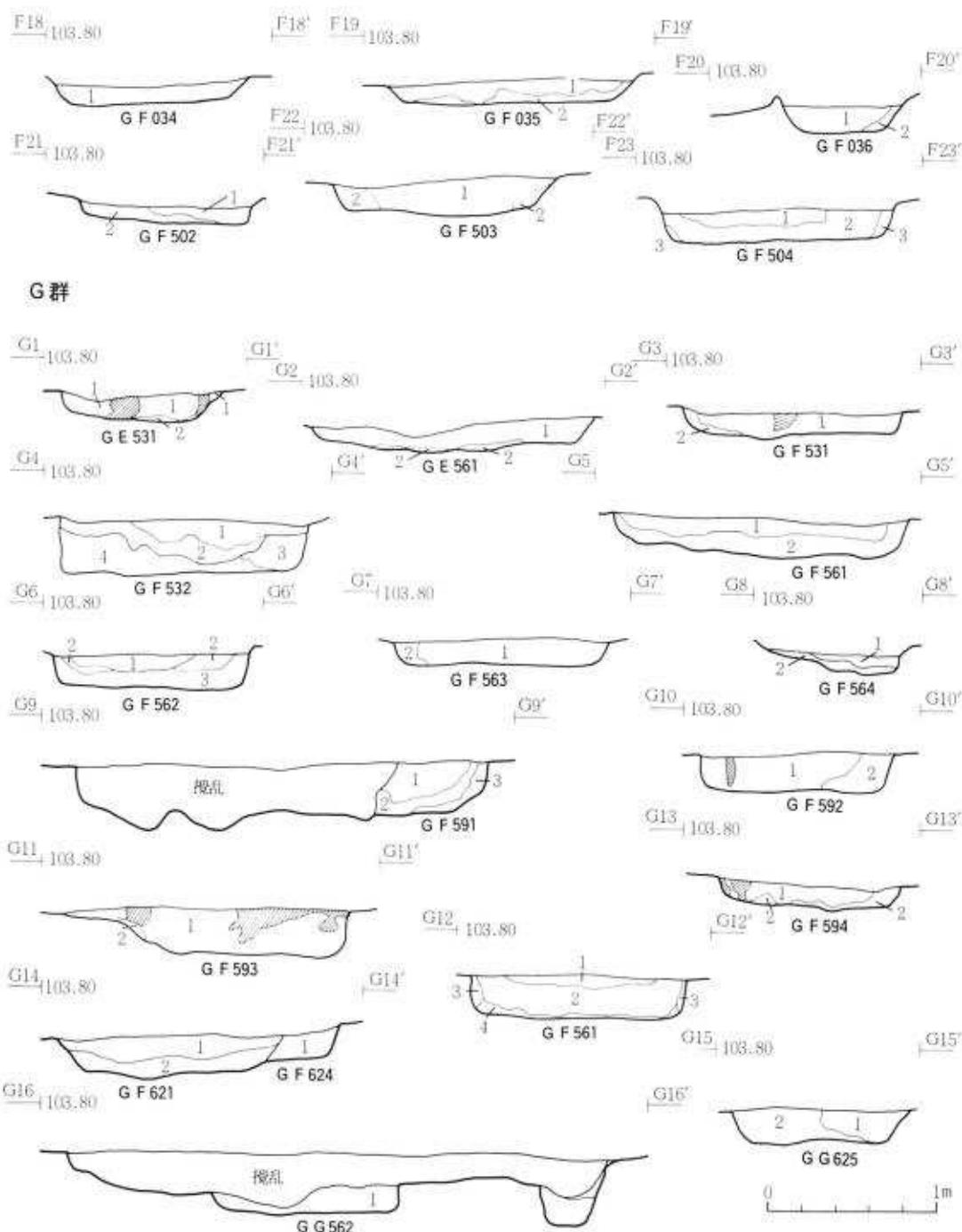


第43図 墓壙断面図 (3)



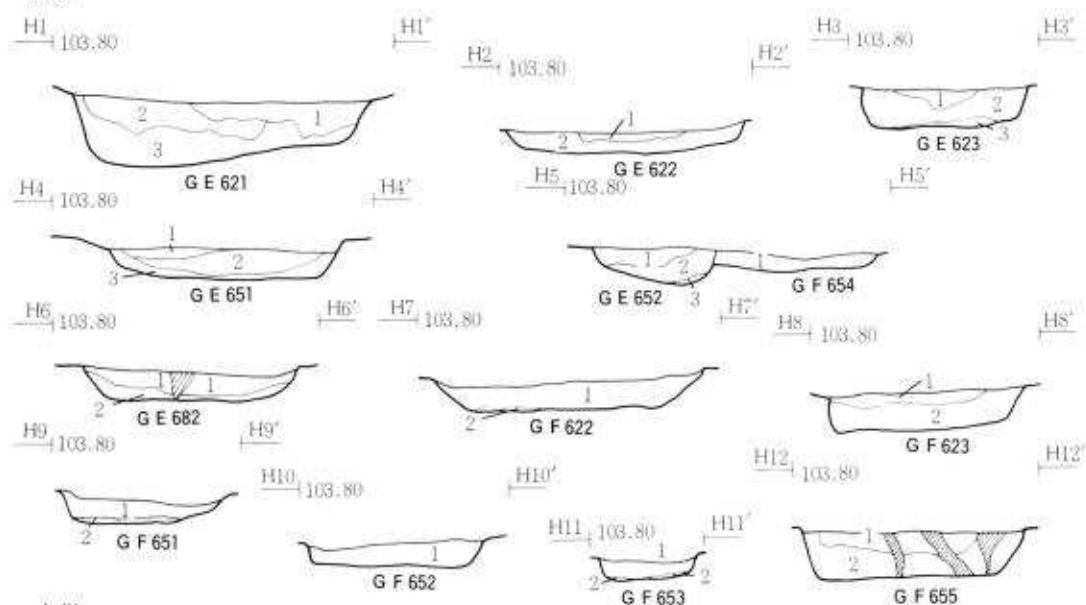
第44図 墓壙断面図(4)

— 西 田 遺 跡 —

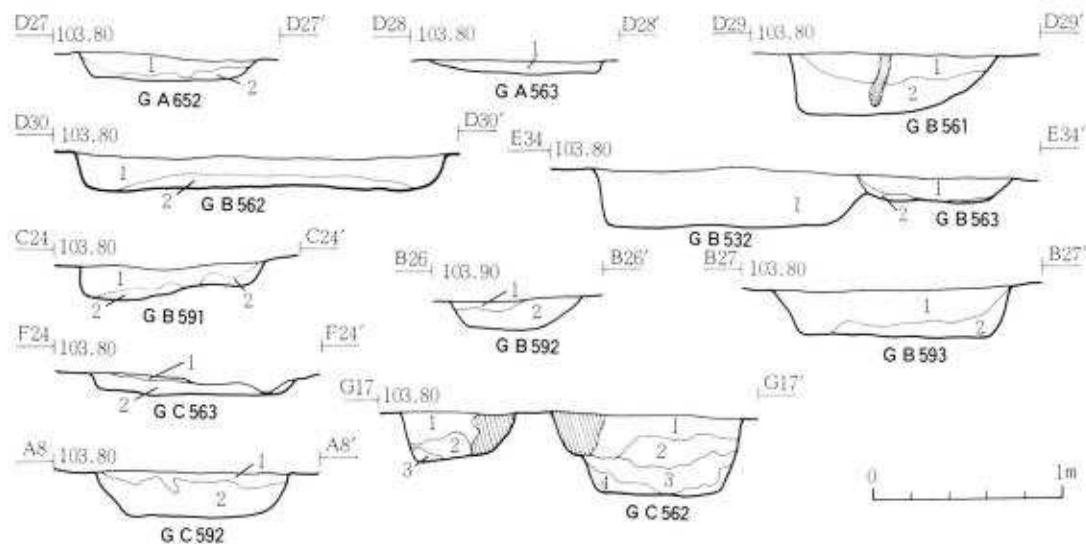


第45図 墓壙断面図 (5)

H群



内帶



第46図 墓塙断面図 (6)

第4表 墓壙埋土観察表

造構名	№No.	土色	土性	しまり	埴土の状況	泥人物	骨の形状	構名	構種	WNo.	土色	土性	しまり	埴土の状況	泥人物	骨の形状	構名	構種	WNo.	土色	土性	しまり	埴土の状況	泥人物	骨の形状	構名
CB 657	1	b	T'	A	C1	A	622	1	G	5	b	T'	A	-	-	-	A	A	5	a	4	108	a	C1	A	A
CB 655	1	b	T'	A	C1	A	622	1	G	7	a	T'	C	-	-	-	A	A	7	a	4	109	c	C1	A	A
GC 656	1	a	M	A・G	C1	A	651	1	C	2	c	M	A	-	-	-	A	A	2	c	59	c	C	C	A	
GD 681	1	a	T'	A・G	C1	A	652	1	M	1	a	T	T	-	-	-	A	A	1	a	63	a	M	M	A	
GC 682	1	a	T'	A・G	C1	A	652	1	A	2	a	M	A	-	-	-	A	A	2	a	59	a	T	T	A	
GD 681	2	a	T'	A・G	C1	A	652	1	T	2	a	M	A	-	-	-	A	A	2	a	59	a	T	T	A	
FT 658	1	a	T'	A・G	C1	A	653	1	N	3	a	T	T	-	-	-	A	A	3	a	117	a	P	P	A	
FJ 621	1	c	T'	A・G	C1	A	653	1	P	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	57	b	N	N	A	
FJ 623	1	c	M	A・G	C1	A	654	1	N	3	a	T	T	-	-	-	A	A	3	a	81	a	T	T	A	
FT 624	2	c	N	P・G	C1	A	655	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	90	b	T	T	A	
FT 622	1	b	T	P・G	C1	A	656	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	102	a	M	M	A	
FT 624	1	a	T	P・G	C1	A	655	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	109	a	T	T	A	
FT 651	1	a	M	P	C1	A	656	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	85	a	T	T	A	
FT 622	1	a	T	P	C1	A	655	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	50	a	M	M	A	
FT 624	1	a	T	P	C1	A	656	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	77	a	T	T	A	
FT 622	1	a	T	P	C1	A	656	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	76	a	T	T	A	
FT 624	2	a	T	P	C1	A	657	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	77	a	T	T	A	
FT 651	1	a	T	P	C1	A	658	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	74	b	M	M	A	
FT 624	1	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	77	a	T	T	A	
FT 651	1	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	64	b	M	M	A	
FT 622	1	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	111	b	T	T	A	
FT 624	2	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	23	a	M	M	A	
FT 651	1	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	118	a	T	T	A	
FT 624	1	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	104	a	T	T	A	
FT 651	2	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	100	c	T	T	A	
FT 624	1	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	103	c	T	T	A	
FT 651	2	a	T	P	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	124	b	T	T	A	
CA 621	1	b	M	T'	C1	A	659	1	N	2	a	T	T	-	-	-	A	A	2	a	124	b	T	T	A	

			A A A	A A A		
			A A A	A A A		
			N N ?	N N ?		
			C C	C C		
			A G	A G		
			A G	A G		
			T T	T T		
			a a	a a		
563	1	563	1	101	2	
654	2	123	a	76	1	
	1	71	a	63	2	
	2	26	a	24	a	
658	1	68	a	117	a	
FH	566	1	77	a	66	a
	651	1	124	a	77	a
FI	562	1	76	a	114	a
	2	139	b	77	a	
563	1	137	a	114	a	
	2	65	a	77	a	
564	1	88	a	76	a	
	2	65	a	51	a	
565	1	113	a	24	a	
	2	64	a	74	a	
	38	a		74	a	
591	1	77	a	87	a	
	2	47	b	51	a	
FI	621	1	50	b	77	a
	2	47	b	74	a	
622	1	51	a	113	a	
	2	46	a	51	a	
623	1	51	a	76	a	
	2	52	a	88	a	
624	1	94	a	114	a	
	2	116	a	81	a	
625	1	143	b	47	a	
	2	143	b	46	a	
656	1	65	a	64	a	
	2	126	a	47	a	
657	1	64	a	64	a	
	2	124	a	64	a	
FJ	561	1	125	a	64	a
	2	63	a	64	a	
562	1	125	a	64	a	
	2	63	a	64	a	

遺構名	所No	土色	土性	し土り	堆積物状況	混入物	構造形成	遺構名	土色	土性	し土り	堆積物状況	混入物	構造形成	
F1	533	2	48	a	T	A	-	A	031	2	72	a	T'	A	
	3	64	a	T'	M	G	-	A	065	1	45	a	M	G	
535	1	33	a	T'	A	A	C ₁	A	C ₁	2	71	a	T'	A	
	2	113	a	T'	A	-	A	C B 1518	1	38	a	T'	A	-	
536	1	114	a	T'	A	-	A	A	2	112	b	T'	A	-	
537	1	127	a	T'	A	-	A	122	1	76	b	T'	A	-	
539	1	89	a	T'	A	G	C ₁	A	124	2	140	b	T'	A	
	2	101	a	M	G	A	C ₁	A	2	50	a	M	G	B ₁	
FJ	062	1	100	a	T'	A	G	C ₁	A	2	52	b	T'	A	C ₁
	063	1	114	a	T'	A	G	C ₁	A	125	1	64	a	T'	A
0313	1	100	a	M	G	A	-	A	094	1	76	b	T'	A	
	2	102	a	T'	A	-	A	A	095	1	75	a	T'	G	
533	1	64	a	T'	A	G	-	A	097	1	76	a	T'	A	
	2	111	a	T	A	-	A	A	62	1	75	a	T'	G	
534	1	63	a	M	A	G	-	A	2	140	b	T	A	-	
	2	74	a	T'	G	-	N?	A	066	1	64	a	M	A	
	3	64	a	T'	A	G	-	A	031	1	63	a	T'	G	
	2	64	a	T'	A	A	C ₁	A	2	90	a	T	A	C ₁	
	1	76	a	T'	A	C ₁	A	A	GC 1511	1	75	a	M	A	
032	1	64	a	M	A	C ₁	A	A	2	89	b	T'	A	-	
033	1	50	a	T'	G	C ₂ •B ₂	A?	A	121	1	63	a	T'	G	
034	1	77	a	T'	A	G	C ₁ •B ₁	A?	2	57	a	C	C	-	
	2	76	a	C	A	-	A	A	091	1	50	a	M	G	
095	1	135	c	T	A	C ₁	A	A	2	64	a	T'	A	-	
	2	65	a	T'	A	-	A	A	093	1	47	a	T'	G	
0910	1	116	b	T	A	C ₁	A	A	2	97	a	M	A	C ₁	
0912	1	50	a	T'	G	C	A	C ₁ •B ₁	095	1	77	a	T'	A	-
061	1	49	a	T'	G	G	N?	A	2	76	b	T'	A	C ₁	
062	1	2	77	a	T'	A	C ₁	A	061	1	71	a	M	G	C ₁
	1	64	b	T'	A	G	C ₁	A?	2	76	b	T'	A	-	
501	1	47	a	M	A	-	A	A							
GA	031	1													

0.64	1	71	a	T,	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.65	1	63	a	M	T,	G	A	C	-	A	N	?	A	A	?	
	2	58	a	T,	M	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.31	1	76	a	T,	M	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
GD	123	1	76	a	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
	2	73	b	T,	A	G	A	B,	-	A	A	A	A	A	?	
1.25	1	71	a	M	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
	2	89	a	T,	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.91	1	76	a	T,	A	G	A	C	-	A	A	A	A	A	?	
	2	77	b	T,	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.92	1	77	a	T,	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.62	1	77	a	T,	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.63	1	58	a	T,	T,	G	A	C,	B,	A	N	?	A	A	?	
	2	72	a	T,	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.31	1	97	a	T,	C,	G	A	C,	-	A	N	?	A	A	?	
GE	123	1	77	a	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
	0.91	1	64	a	T,	G	A	C,	-	A	A	A	A	A	?	
0.92	1	64	a	T,	D	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
GD	0.64	1	122	b	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
GE	0.61	1	100	a	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
	2	117	a	T,	A	G	A	C,	-	A	A	A	A	A	?	
0.62	1	83	a	M	T,	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
	2	90	a	T,	A	C	A	C,	-	A	A	A	A	A	?	
0.63	1	76	a	T,	A	A	-	C	-	A	A	A	A	A	?	
0.64	1	75	a	M	T,	G	A	C,	-	A	A	A	A	A	?	
	2	126	b	T,	A	C	A	C,	-	A	A	A	A	A	?	

通 標 名	年 令	性 別	色 調	上 性	下 性	上 主 性	堆積 状況	堆積 状況	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀	性の形狀
										個 数	性 別	性 別	性 別	性 別	性 別	性 別	性 別	性 別
GF 503	2	130	a	T'	A	C ₁	A	5.94	1	77	a	T'	A	C ₁	—	A	A	
	3	76	a	T'	A	C ₁	A	—	2	114	b	T	A	—	—	A	?	
504	1	77	b	T	A	—	—	6.21	1	76	a	T	G	—	—	A	?	
	2	75	a	M	—	—	—	—	2	110	a	T	A	—	—	A	?	
GE 531	3	85	a	T'	A	—	—	6.24	1	77	a	T	P	C ₁	—	A	N	
	1	123	a	T'	A	—	—	GG 5.61	1	62	b	M	—	—	—	—	A	
561	2	117	a	T'	A	—	—	—	2	64	b	T'	G	C ₁	—	A	?	
	1	76	a	T'	A	—	—	—	3	60	b	C	G	—	—	A	?	
GP 531	2	87	a	T	G	—	—	—	4	78	b	T	G	—	—	A	?	
	1	76	a	M	A	—	—	—	1	77	b	M	A	—	—	A	?	
532	2	89	a	M	T'	G	—	—	6.25	1	60	a	T	G	—	—	A	
	1	88	a	M	A	—	—	—	2	72	b	C	G	—	—	A	?	
532	2	76	a	M	A	G	—	—	—	—	—	C	A	—	—	A	?	
	3	130	a	T	A	G	—	—	—	—	—	G	A	—	—	A	?	
561	4	89	b	T'	A	—	—	—	—	—	—	T'	A	—	—	A	?	
	1	77	a	T'	A	—	—	—	—	—	—	M	G	—	—	A	?	
562	2	63	a	M	A	G	—	—	—	—	—	T'	A	—	—	A	?	
	1	143	c	T	A	A	—	—	—	—	—	T'	A	—	—	A	?	
563	2	64	a	M	A	A	—	—	—	—	—	A	G	C ₁	—	A	?	
	3	77	b	T'	A	A	—	—	—	—	—	M	G	—	—	A	?	
564	1	64	a	M	A	A	—	—	—	—	—	T'	A	C ₁	—	A	?	
	2	60	a	C*	—	—	—	—	—	—	—	M	G	—	—	A	?	
591	1	63	a	M	G	—	—	—	—	—	—	T'	A	C ₁	—	A	?	
	2	143	c	T	A	—	—	—	—	—	—	A	G	—	—	A	?	
592	1	115	a	T'	A	G	—	—	—	—	—	T'	A	C ₁	—	A	?	
	2	63	a	M	A	—	—	—	—	—	—	M	G	—	—	A	?	
593	1	77	a	T'	A	—	—	—	—	—	—	T'	A	—	—	A	?	
	2	117	a	T'	A	—	—	—	—	—	—	T'	M	—	—	A	?	
	2	76	a	T'	A	—	—	—	—	—	—	T'	M	—	—	A	?	
	2	102	a	T'	A	—	—	—	—	—	—	T'	M	—	—	A	?	

			A A A ?
			— — C ₁
			A * G
		T'	A * G
		T'	G A
		M	T'
	2	a	64
	3	a	113
	1	a	58
	2	a	64
651	1	50	592
652	2	78	
653	1	77	
654	2	114	
655	1	114	
G A	1	2	
G B	1	2	
	2	109	
	37	a	
	118	b	
	110	a	
	102	a	
	77	a	
	63	a	
	75	a	
	113	b	
	114	b	
	64	a	
	110	b	
	63	a	
	111	b	
	76	a	
	58	a	
	50	a	
	64	a	
	110	a	
	74	a	
	60	a	
	114	a	
	59	a	
GC	1	110	
2	74	a	
3	60	a	
4	114	a	
591	1	59	

3 柱穴状ピット群（長方形柱穴列群）

遺跡中央に占地する土壙墓の四周には掘立柱状柱穴列を中心とする大小のピット群が環状に回る。これらの柱穴群は墓壙群と同心円的な関連をもっており、土壙墓の“群”と対応する占地形態を示している。この柱穴状ピット環状帶の規模は、墓域内帶心よりの半径が外側で約26～30m、内側で約15～20mを計り、環状帶の幅は約12～15mになっている。

これらの柱穴状ピットは、主に長方形を基調とする柱穴列（構造物）にかかわるものであり、その配置形態（軸方向—長軸ないしは短軸方向）の類似性によって、A～Jの10群に大別してある。東側に調査区外を含むため柱穴列の実体は明確にできないが、本来は16群に分けられていたことが予想される。以下、A～J群の柱穴列の内容を略述する。

〔柱穴状ピットA群〕 約135個のピットがこの群に含まれ、このなかから4単位の掘立柱状柱穴列が確認されている。

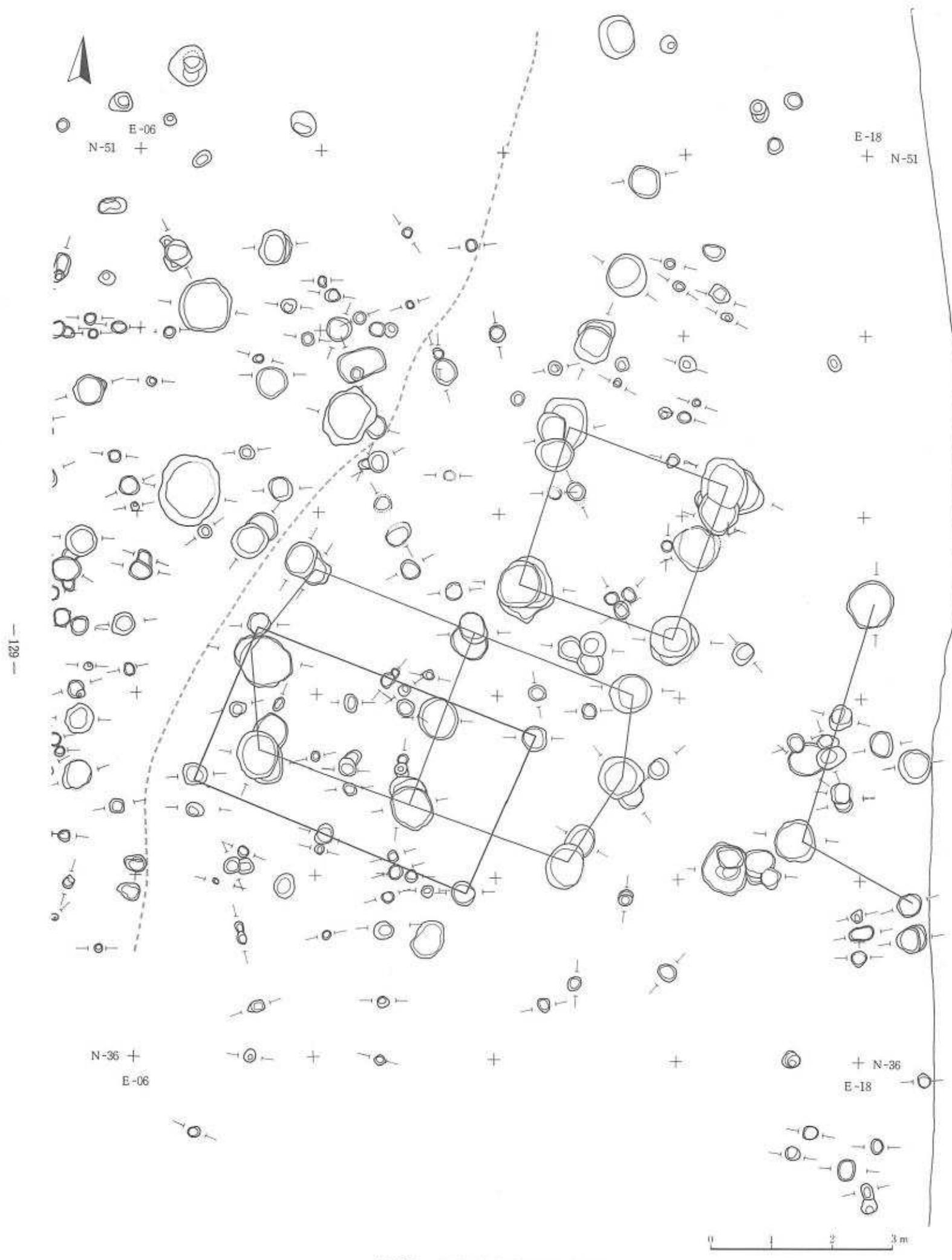
A-1号：F E 621・F E 651・F F 593・F F 621の4個のピットで構成される。辺長3.5mの正方形を呈し、N-77°-Wの主軸方位をもつ。4個のピットそれぞれが切り合っており、建て替えられたものである可能性が強い。4個のピットのうち3個から柱痕が確認されている。

A-2号：F F 569・F F 599・F F 622・F F 562・F G 592・F G 622・F G 561・F G 593・F G 623の9個のピットで構成される総柱状の構造物である。各辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のピットは張り出して配置されている。規模は長辺長6.3m、短辺長3.8m、張り出し部の軸長7.2mを計り、N-78°-Wの主（長）軸方位をもつ。南辺の3個のピットには方位が一定した切り合いがみられる。9個のピットのうち6個のピットで柱痕が確認されている。

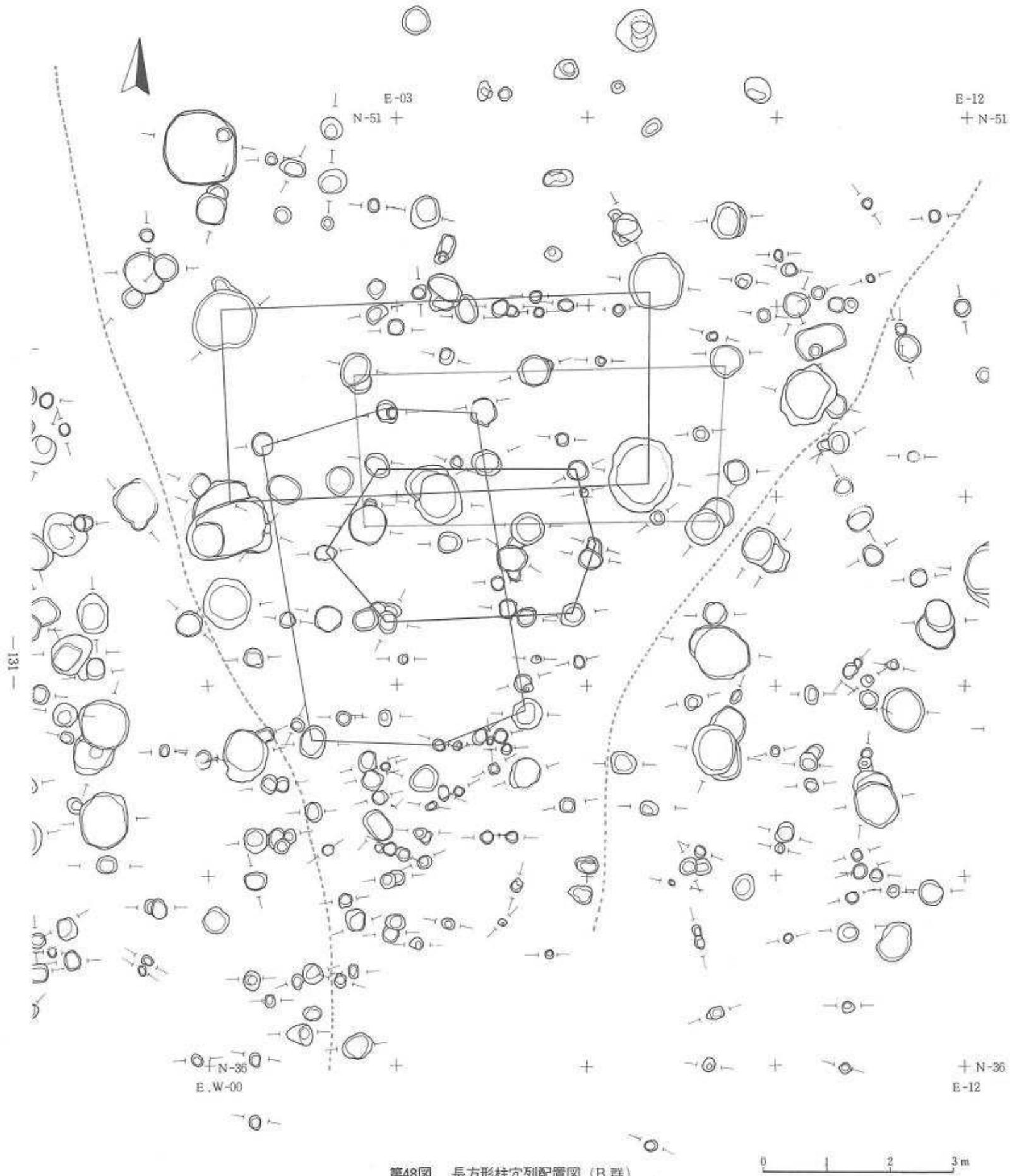
A-3号：F F 563・F F 597・F G 621・F G 562・F G 5615・F H 596の6個のピットで構成される。長辺長5.4m、短辺長3.2mの長方形を呈し、N-74°-Wの主（長）軸方位をもつ。A-2号と平面的には重複するが、ピット間の切り合いがないため新旧関係は不明である。他の柱穴列に比べてピットの規模が小さく、柱痕も2個のピットでしか確認されていない。

A-4号：F F 681・F G 655・F G 651の3個のピットで長辺の一辺を構成するもので、F H 681ピットが短辺の張り出し部に加わる。本来は8個のピットで柱穴列を構成するものと思われ、他のピットは東側用地外に延びる。長辺長が5.0mを計るほかは規模は不明で、N-12°-Eの主（長）軸方位をもつ。

小結：A群内で確認された4単位の柱穴列は、その軸方位をN-74°-WからN-78°-Wの間にもつ。重複関係からみれば、A-2号とA-3号が平面的に重複するのみで、新旧関係は不明である。



第47図 長方形柱穴列配置図（A群）



第48図 長方形柱穴列配置図 (B群)

〔柱穴状ピットB群〕 約150個のピットがこの群に含まれ、このなかから4単位の柱穴列が確認されている。

B-1号：F E 501・F E 531・F E 564・F F 501・F F 531・F F 566の6個のピットで構成される。長辺長6.1m、短辺長3.0mの長方形を呈し、N-84°-Eの主(長)軸方位をもつ。F E 564ピットを除く5つのピットで柱痕が確認されている。

B-2号：F D 036・F D 531・F D 562・F F 0310・F E 532・F E 563の6個のピットで構成される。長辺長7.8m、短辺長4.1mの長方形を呈し、N-77°-Eの主(長)軸方位をもつ。F D 036・F F 0310の2個のピットを除き、6個のピットで柱痕が確認されている。

B-3号：F E 503・F E 5314・F F 504・F F 536・F F 508・F F 538の6個のピットで構成されるもので、短辺中央のピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長3.6m、短辺長2.8m、張り出し部の軸長4.6mを計り、N-82°-Eの主(長)軸方位をもつ。柱痕はF F 504・F F 536の2個のピットで確認されている。

B-4号：F E 504・F F 5010・F G 502・F E 537・F F 539・F G 531・F E 502・F G 534の8個のピットで構成され、短辺中央のF E 502・F G 534ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長5.2m、短辺長3.9m、張り出し部の軸長5.6mを計り、N-14°-Wの主(長)軸方位をもつ。F G 502・F G 531・F E 502の3個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットB群内からは4単位の柱穴列が確認され、それぞれの軸方位はN-76°-EからN-84°-Eの間にに入る。重複関係からみればB-1号からB-4号までのすべての柱穴列が平面的に重複するもののピット相互の切り合いが認められないため新旧関係は不明である。ただB-1号がF E 561ピットと重複し、それを切ってつくられる。

〔柱穴状ピットC群〕 約209個のピットがC群に含まれ、このなかから4単位の柱穴列が確認されている。

C-1号：F F 095・F G 068・F G 032・F F 0614の4個のピットで構成される。規模は長辺長5.0m、短辺長4.0mの長方形を呈し、N-59°-Eの主(長)軸方位をもつ。F E 062プラスコ状ピットと重複するが新旧関係は不明である。すべてのピットで柱痕が確認されている。

C-2号：F G 091・F F 066・F F 0611・F F 031・F H 063・F H 061・F G 036・F G 5012の8個のピットで構成される。短辺は2本のピットをもち、その中央に位置するF F 038・F G 095の2個のピットがこの単位構成に加わる可能性をもつものの深さが浅いことから除外してある。規模は長辺長8.5m、短辺長5.2mの長方形を呈し、N-57°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個のピットのうち4個のピットで柱痕が確認されている。

C-3号：F F 092・F G 062・F G 0610・F F 0617・F F 063・F G 033の6個のピットで構成される。規模は長辺長5.3m、短辺長3.0m長方形を呈し、N-36°-Wの主(長)軸方位

— 西 田 遺 踪 —

をもつ。C-1号と重複し、それを切ってつくられる。3個のピットで柱痕が確認されている。

C-4号：F E 127・F F 094・F D 093・F F 061の4個のピットで方形を企画し、短辺中央に張り出してF F 0913ピットが配置される可能性が強い。この場合、対応するもう1個のピットはF E 121ピットによって破壊（？）されているものと思われる。張り出し部の軸長を除いて、規模は長辺長4.2m、短辺長3.8mを計り、N-36°-Wの主（長）軸方位をもつ。柱痕は3個のピットで確認されている。

小結：柱穴状ピットC群内からは4単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方向はN-54°-EからN-59°-Eの間に入る。重複関係からみればC-4号を除く3単位は平面的に重複しており、C-1号とC-3号と間にはピット相互の切り合いがみられる。C-3号はC-1号より新しく、C-1号、C-2号はF E 062 フラスコ形ピットと接するが新旧関係は不明である。C-4号はF E 121 フラスコ形ピットと重複するが、F E 125ピットによって破壊されているためその切り合いが明確ではない。C-4号の方が新しくなる可能性が強い。

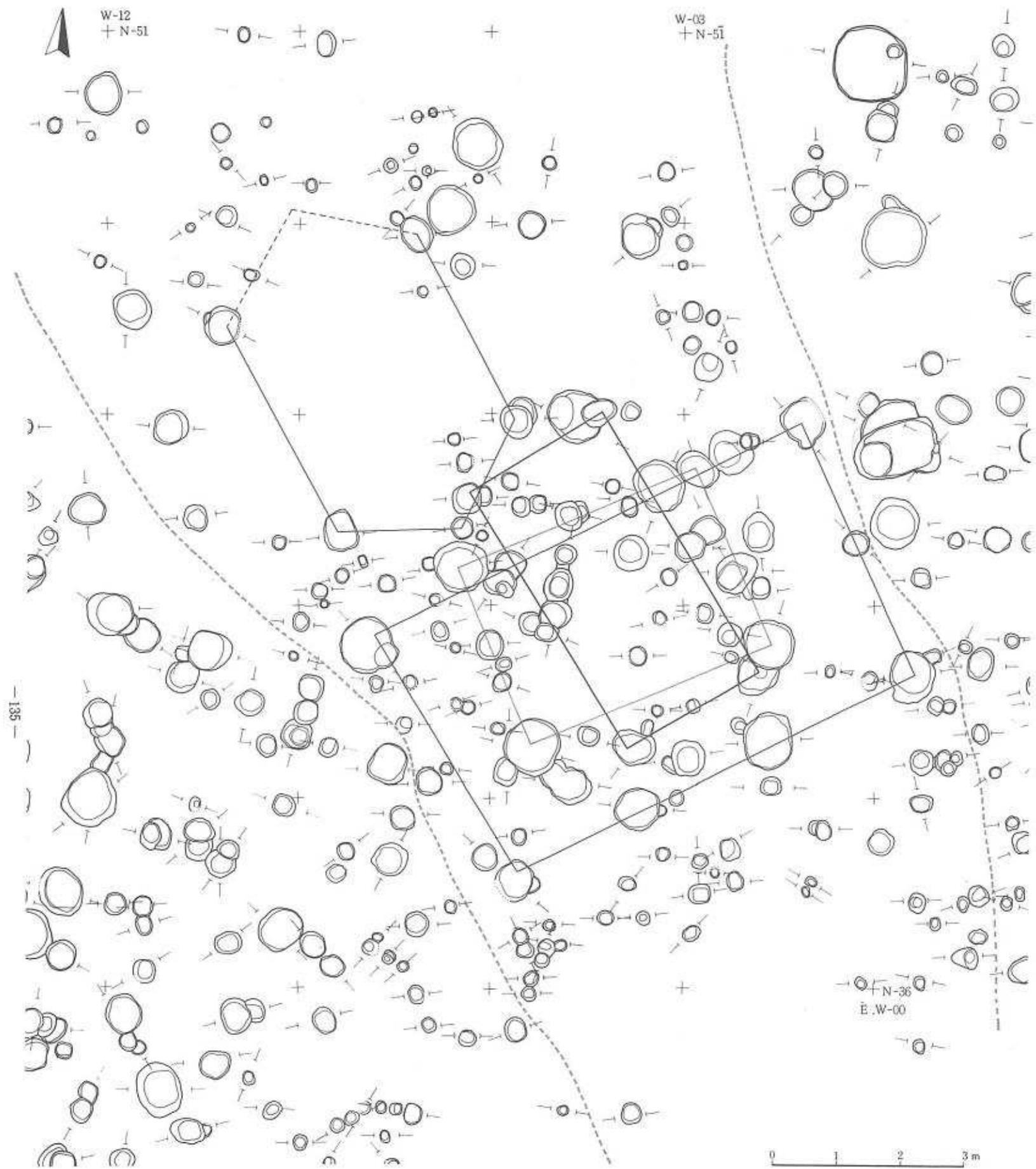
〔柱穴状ピットD群〕 D群内からは約234個のピットが検出されており、このなかから7単位の柱穴列が確認されている。

D₁-1号：F G 121・F G 151・F H 153・F G 094・F H 123・F I 129・F G 128・F I 152の8個のピットで構成される。長短辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のF G 128・F I 152の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.0m、短辺長4.4m、張り出し部の軸長7.8mを計り、N-32°-Eの主（長）軸方位をもつ。8個全部のピットから柱痕が確認されている。

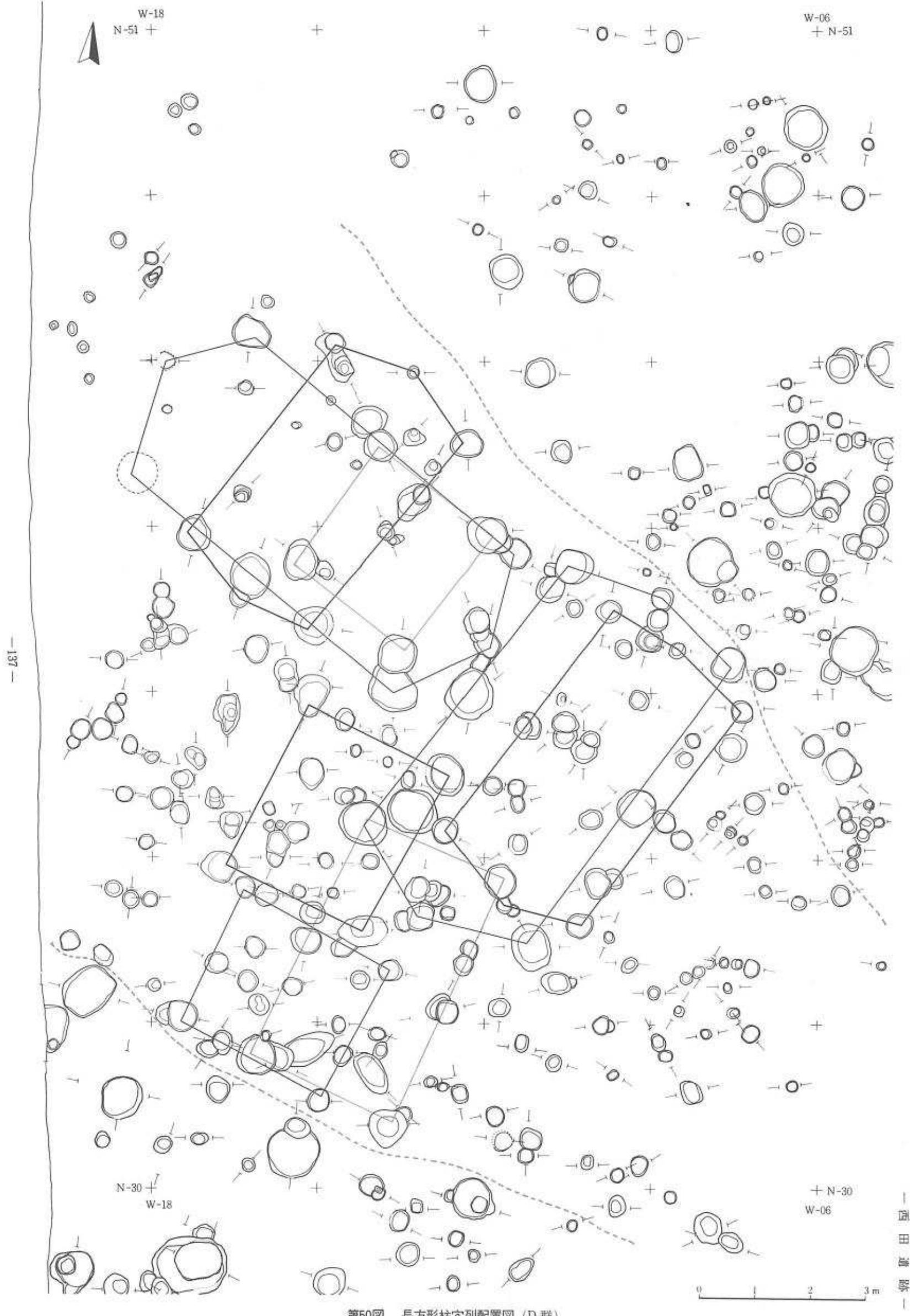
D₁-2号：F G 122・F H 128・F H 155・F H 091・F H 099・F I 123・F G 0910・F I 127の8個のピットで構成される。長短辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のF G 0910・F I 127の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長5.4m、短辺長3.4m、張り出し部の軸長5.9mを計り、N-32°-Eの主（長）軸方位をもつ。6個のピットのうち5個から柱痕が確認されている。

D₁-3号：F E 181・F F 157・F G 1212・F G 152・F G 1812・F E 183・F G 154の7個のピットが確認されているが、F F 21グリッド内の搅乱部分にもう1個のピットがあったものと推定される。長短辺とも3個のピットで構成されるが、短辺中央のF E 183・F G 154の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長7.1m、短辺長4.2m、張り出し部の軸長8.2mを計り、N-58°-Wの主（長）軸方位をもつ。F E 183ピットを除くすべてのピットから柱痕が確認されている。

D₁-4号：F E 152・F F 181・F F 151・F F 153・F F 1815・F G 1811の6個のピットで構成される。長辺が2個、短辺が3個のピットをもつが、短辺中央のF F 153・F G 1811の2ピ



第49図 長方形柱穴列配置図 (C群)



ットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長5.0m、短辺長3.5m、張り出し部の軸長5.5mを計り、N-31°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

D₁-5号: F F 158・F G 1816・F F 152・F G 153の4個のピットで構成される。長辺長3.7m、短辺長3.3mの長方形を呈し、N-33°-Eの主(長)軸方位をもつ。F G 153ピットを除く3ピットから柱痕が確認されている。

D₂-1号: F I 182・F J 182・F I 127・F I 1512・F J 156の5個のピットが確認されており、これらと対になるもう1個のピットはF H 153ピット(D₁-1号)によって破壊されたものと思われる。また、短辺中央の張り出し部のピットとしてE H 155・F J 188の2ピットが加わる可能性をもつが、他の柱穴列とピットが共有されるため一応除外してある。規模は長辺長5.5m、短辺長3.4mの長方形を呈し、N-19°-Eの主(長)軸方位をもつ。検出されたすべてのピットで柱痕が確認されている。

D₂-2号: F H 1810・F H 187・F H 151・F I 158の4個のピットで構成される。長辺長4.2m、短辺長3.4mの長方形を呈し、N-22°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

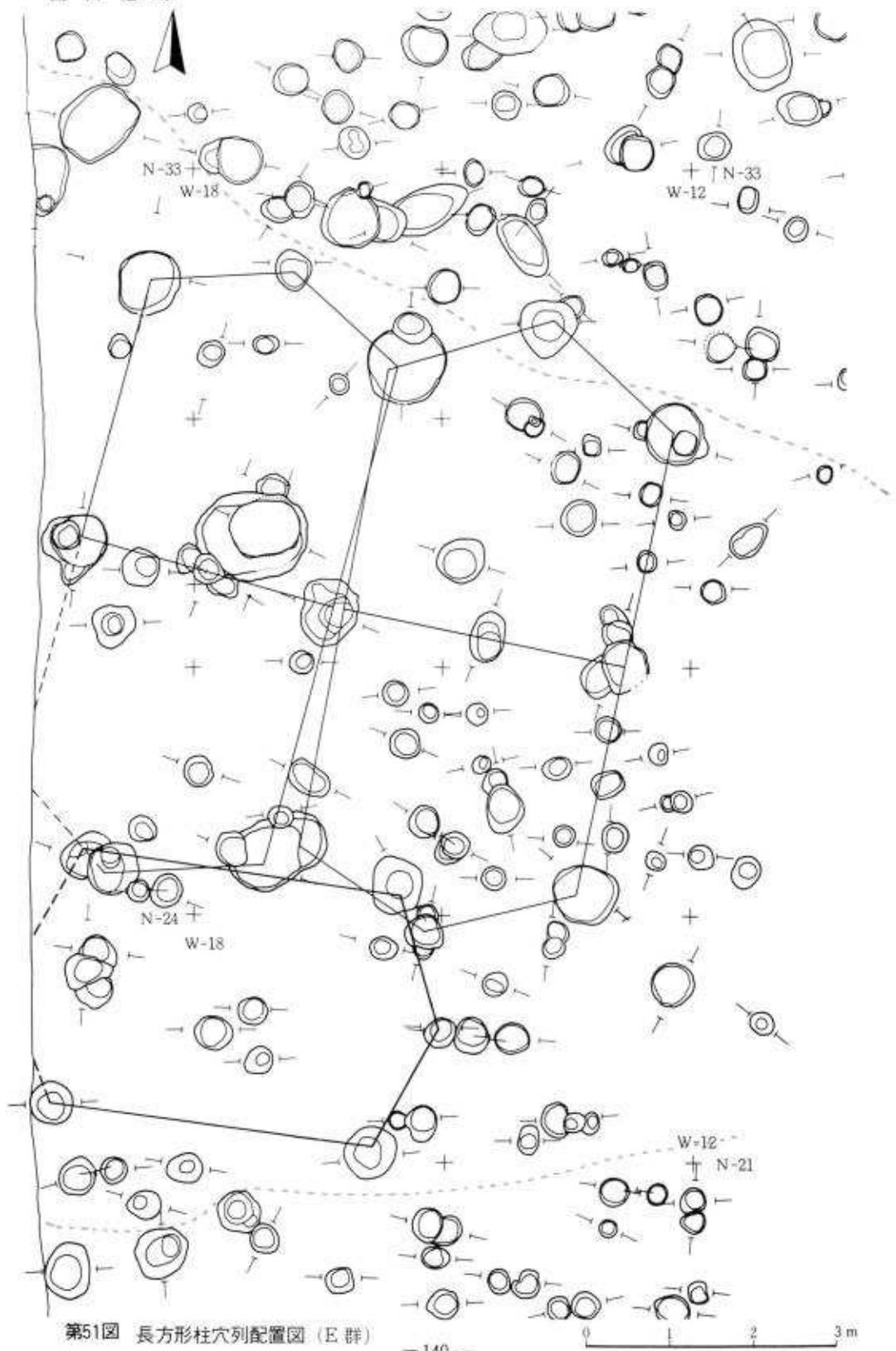
D₂-3号: F I 188・F I 1810・F I 1511・F J 188の4個のピットで構成される。長辺長3.4m、短辺長3.1mの長方形を呈し、N-66°-Wの主(長)軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が確認されている。

小結: 柱穴状ピットD群内からは8単位の柱穴列が確認されている。軸方向の共通性からみれば、D₁-1号からD₁-5号までとD₂-1号からD₂-3号までの間にややすれがみられる。前者はN-31°-EからN-33°-Eの間に軸方位をもち、後者はN-19°-EからN-24°-Eの間に入る。各柱穴列の重複関係は次のようになる。平面的な関係からみれば、D₁-1号、D₁-2号、D₂-1号、D₂-2号の4単位、D₁-3号、D₁-4号、D₁-5号の3単位、D₂-1号、D₂-2号、D₂-3号の3単位がそれぞれ重複している。これらのうち、ピット相互間の切り合いがみられるD₁-1号とD₂-1号の新旧関係はD₁-1号の方が新しく、D₁-3号はD₁-5号より旧くてD₁-4号より新しい。また、種類の異なる遺構とも重複し、D₁-3号、D₁-4号、D₁-5号の3単位はF E 18住居跡によって破壊され、D₁-5号はF G 157 フラスコ形ピットを切ってつくられる。D₂-2号はF G 18住居跡と重複するが、ピットの切り合いがみられず、新旧関係は不明である。D₂-1号、D₂-3号はF J 18住居跡と重複し、双方とも住居跡に切られている。

(柱穴状ピットE群) 約100個のピットがE群に含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

E-1号: F J 211・G A 211・F J 1810・G A 182・G B 187の5個のピットと用地外に入るもう1個のピットからなる6個のピットが基本となり、短辺中軸線上にF J 184・G A 185・

—西田遺跡—



第51図 長方形柱穴列配置図 (E群)

GB 214の3個のビットが加わる総柱の構造物である。短辺中央のF J 184・G B 214の2ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.1m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長8.3mを計り、N-10°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個のビットすべてから柱痕が検出されている。E-2号と重複し、それを切ってつくられる。

E-2号：F J 153・G A 152・G B 1515・G B 189・G A 188・F J 1810の6個と短辺中軸線上のF J 156・G A 1516・G C 182の3個と構成される総柱状の構造物である。短辺中央のF J 156・G C 182の2ビットは短辺側柱から張り出して位置する。F J 1810・G A 182の2個のビットはE-1号のそれと重なり、当柱穴列に伴なう部分はほとんど遺存しない。また、F J 156ビットはD-6号と共有している。規模は長辺長6.5m、短辺長4.2m、張り出し部の軸長8.2mを計り、N-7°-Eの主(長)軸方位をもつ。ほぼ、完全に遺存する5個のビットのうち4個のビットから柱痕が確認されている。

E-3号：G B 186・G B 215・G C 189・G C 213の4個のビットに短辺中軸線上に乗るG C 184と用地外のもう1個のビットとが加わるものと思われ、本来は6個のビットで構成されるものと推定される。規模は長辺長が4.5m、短辺長が3.9mを計るが、張り出し部の軸長は不明である。主(長)軸方位はN-88°-Wとなり、3個のビットで柱痕が確認されている。

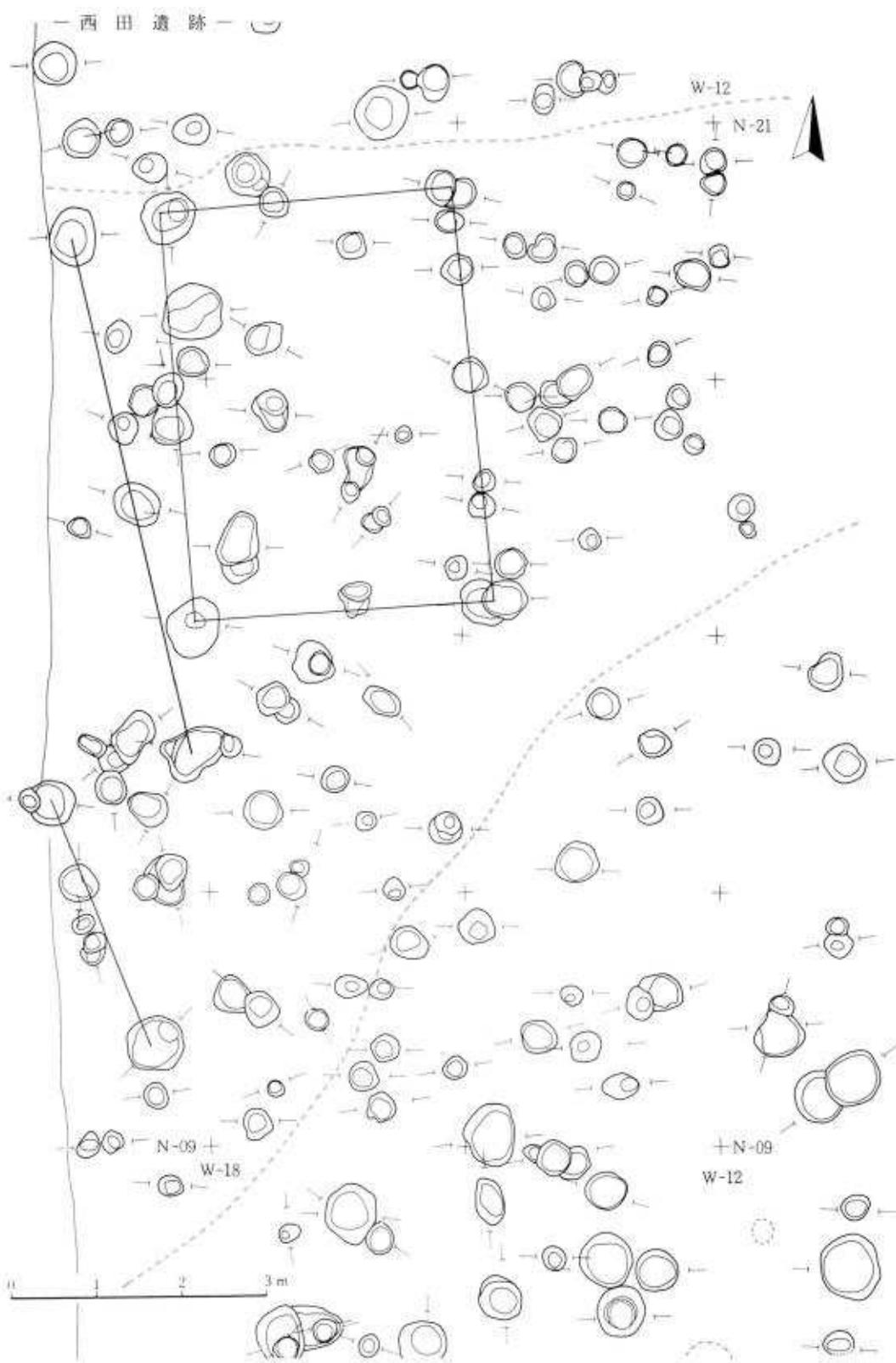
小結：柱穴状ビットE群では3単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方向はN-2°-EからN-10°-Eの間にに入る。重複関係からみれば、E-1号が一番新しくE-2号、E-3号を切っている。E-3号は平面的には重複するもののビットの切り合いがみられないため新旧関係は不明である。種類の異なる遺構との切り合いもみられ、E-1号、E-2号はF J 18住居跡および平安期のF I 21住居跡より旧く、G A 21住居跡より新しい。また、E-2号はG B 1516 フラスコ形ビットを切っているがG B 15溝状土壤には切られている。

〔柱穴状ビットF群〕 F群内には約101個のビットが含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

F-1号：G D 215・G E 213・G E 215・G D 182・G D 188・G E 185の6個のビットで構成される。規模は長辺長5.6m、短辺長4.1mの長方形を呈し、N-14°-Wの主(長)軸方位をもつ。すべてのビットで柱痕が確認されている。

F-2号：G D 216・G E 214・G F 215の3個のビットで長辺の一辺が構成されるもので、残りの最底3個のビットは用地外に入るものと思われる。また、棟持ち柱としてG F 2111ビットが加わる可能性をもつが断定できないため除外してある。長辺長が6.9mを計るほかは規模は不明であり、N-20°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のビットで柱痕が確認されている。

F-3号：G F 2110・G G 216の2個のビットだけが確認されており、柱穴列を構成する残りのビットは用地外に入る。規模・長軸方向とも不明であるが、2個のビットを結んだ軸方位はN



第52図 長方形柱穴配置図 (F群)

—27°—Wとなる。1個のピットに柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットF群内からは4単位の柱穴列が確認されており、N—14°—EからN—27°—Eの間に軸方位をもつ。柱穴列相互の新旧関係はピットの切り合いかみられないため不明である。ただ、F—2号はG F 21—1住居跡およびG F 21—2住居跡によって切られ、F—3号はG F 21—1住居跡によって切られている。

[柱穴状ピットG群] G群内からは約183個のピットが検出されており、そのなかから9単位の柱穴列が確認されている。

G—1号：G H 121・G I 151・G I 155・G I 091・G I 1211・G J 121の6ピットと短辺中軸線上に重るG H 091・G I 126・G J 153の3ピットとを合わせた9個で構成される総柱状の構造物である。短辺中央のG H 091・G J 153の2ピットは短辺側柱よりやや張り出して配置されている。規模は長辺長6.5m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長7.3mを計り、N—34°—Eの主(長)軸方位をもつ。9個のピットのうち8個のピットで柱痕が確認されている。

G—2号：G G 123・G H 152・G I 183・G H 092・G I 122・G J 151の6ピットと短辺中軸線上に乗るG G 097・G H 122・G I 156の3ピットとを合わせた9個のピットで構成される総柱状の構造物である。短辺中央のG G 097・G I 156の2ピットは短辺側柱から張り出して配置される。規模は長辺長7.5m、短辺長4.3m、張り出し部の軸長8.8mを計り、N—40°—Eの主(長)軸方位をもつ。9個のピットのうち8個のピットから柱痕が確認されている。

G—3号：G G 127・G H 155・G H 184・G H 095・G H 123・G I 153・G G 125・G I 184の8個のピットで構成され、短辺中央に位置するG G 125・G I 184の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長6.3m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長7.9mを計り、N—43°—Eの主(長)軸方位をもつ。8個のピットのうち6個で柱痕が確認されている。

G—4号：G H 151・G I 186・G I 182・G H 123・G I 1510・G J 154の6個のピットで構成され、G H 123ピットはG—3号と重複して使用されている。長辺長6.2m、短辺長3.6mの長方形を呈し、N—34°—Eの主(長)軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が確認されている。

G—5号：G G 158・G H 155・G I 123・G H 187・G I 1513・G J 123の6個と短辺中軸線上に乗るG H 182・G I 152・G J 122の3個とを合わせた9個のピットで構成される。短辺中央に位置するG H 182・G J 122の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長8.3m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長10.0mを計り、N—50°—Wの主(長)軸方位をもつ。6個のピットから柱痕が確認されている。

G—6号：G F 151・G G 124・G G 183・G H 153・G G 181・G H 127の6個のピットで構成され、短辺中央に位置するG G 181・G H 127の2ピットは短辺側柱より張り出して配置さ

—西田遺跡—

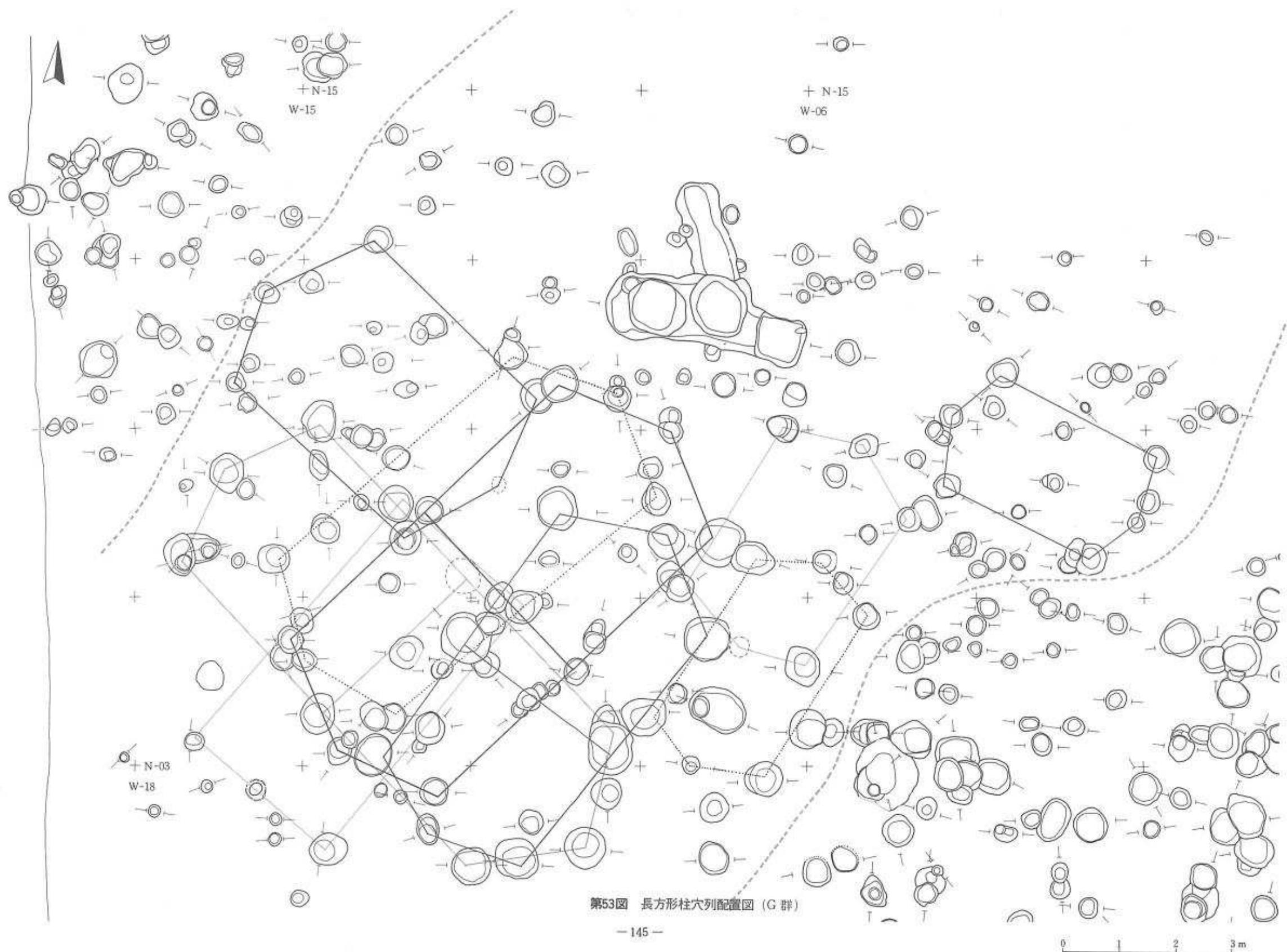
れている。規模は長辺長4.6m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長4.5mを計り、N-52°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

G-7号: GG 094・GH 098・GH 062・GI 092・GH 067・GI 097の6個のピットで構成され、短辺中央のGH 067・GI 097の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長3.8m、短辺長3.3m、張り出し部の軸長4.5mを計り、N-28°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

G-8号: GH 093・GI 1210・G 10615・GJ 091・GH 066・GI 095の6個のピットで構成され、短辺中央に位置するGH 066・GI 095の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長4.1m、短辺長3.1m、張り出し部の軸長4.7mを計り、N-27°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が確認されている。

G-9号: GG 035・GH 039・GH 0614・GH 032・GG 063・GH 037の6個のピットで構成され、短辺中央のGG 063・GH 037の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長3.6m、短辺長2.7m、張り出し部の軸長4.2mを計り、N-66°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

小結: 柱穴状ピットG群内からは9単位の柱穴列が確認されている。それらの軸方位はN-24°-EからN-43°-Eまでかなりの広がりをみせており、東側に位置するG-7からG-9号はH群に含まれる可能性をもつ。この3単位の柱穴列を除けばその軸方位はN-34°-EからN-43°-Eの間にに入る。9単位の柱穴列の重複関係は次のようなになる。平面的にみれば、G-1号はG-2号、G-3号、G-4号、G-5号、G-7号、G-8号と重複するが、ピット相互の切り合いがみられるものはG-5号との間だけでありG-5号を切ってつくられる。G-2号はG-1号、G-3号、G-4号、G-5号、G-6号、G-7号、G-8号と重複し、ピットの切り合いからG-6号より新しく、G-8号より旧い。また、G-3号のGH 123ピットとも重複するが、GH 123ピットがG-4号に属す可能性をもつため新旧関係を明らかにできなかった。G-3号はG-1号、G-2号、G-4号、G-5号、G-6号と重複し、G-4号と1個のピットを共有するが新旧は不明である。G-4号はG-1号、G-2号、G-3号、G-5号、G-6号と重複するが、G-3号と1個のピットを共有するほかはピットの切り合いがみられない。G-5号はG-1号に切られるほか、G-2号、G-3号、G-4号、G-6号と平面的に重複する。G-6号はG-2号に切られるほか、G-3号、G-4号、G-5号と平面的に重複する。G-7号はG-2号、G-8号と重複するがピットの切り合いがみられないため新旧関係は不明である。G-8号はG-2号に切られるほか、G-1号、G-7号と重複する。そのほか、住居跡とも切り合いがみられ、G-2号がGH 18住居跡に、G-4号がGH 18住居跡とGI 15住居跡に上部を破壊されている。



第53図 長方形柱穴列配置図 (G群)

〔柱穴状ピットH群〕 H群内には約62個のピットが含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

H-1号：HA 063・HB 061・HA 032・HB 064・HA 061・HC 061 の6個のピットで構成されるもので、短辺中央のHA 061・HC 061の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.2m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長4.9mを計り、N-9°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

H-2号：G I 068・G J 061・G J 032・HA 031・G J 062・G J 037 の6個のピットで構成されるもので、長辺中央に位置するG J 062・G J 037の2ピットは長辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.6m、短辺長3.2m、張り出し部の軸長4.1mを計り、N-15°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が検出されている。

H-3号：G I 0611・G J 065・G I 034・G J 0310・G I 038・HA 062 の6個のピットで構成されるもので、短辺中央に位置するG I 038・HA 062の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長4.1m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長6.2mを計り、N-9°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

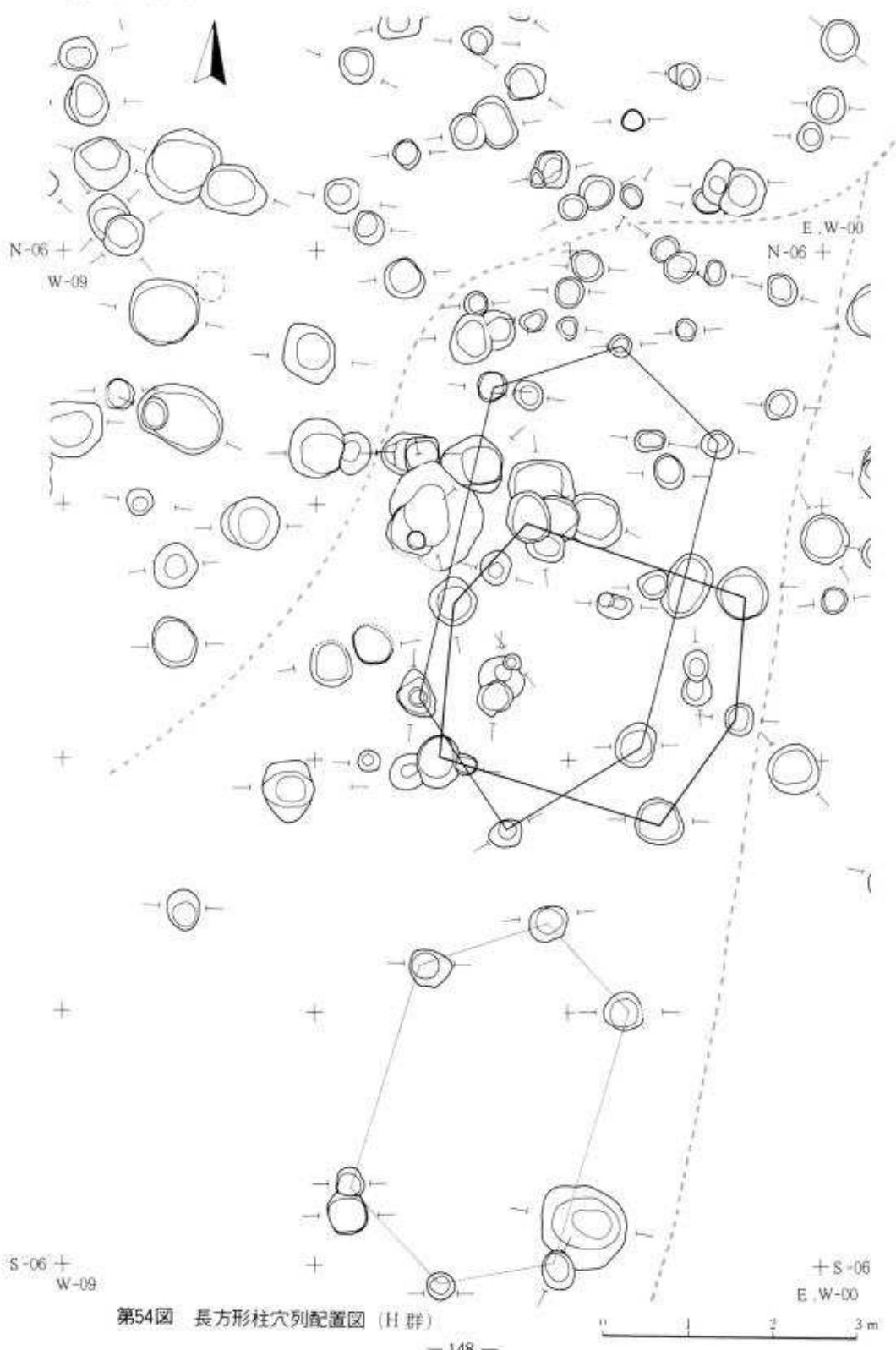
小結：柱穴状ピットH群内からは3単位の柱穴列が確認されており、N-9°-EからN-15°-Eの間に軸方位をもつ。H-2号とH-3号とが平面的に重複するのみで、ピット相互の切り合ひはみられない。

〔柱穴状ピットI群〕 I群内からは約108個のピットが検出されており、このなかから最底8単位の柱穴列を確認した。

I-1号：G I 5013・G J 038・G J 0311・G I 534・G J 504・HA 507・G I 501・HA 501の8個のピットで構成されるもので、短辺中央に位置するG I 501・HA 501の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長6.2m、短辺長3.6m、張り出し部の軸長6.7mを計り、N-4°-Eの主(長)軸方位をもつ。6個のピットで柱痕が確認されている。

I-2号：G I 505・G J 508・HA 504・G I 5311・G J 534・HA 538 の6個と短辺中軸線上のG I 535・(G J 507)・HB 502の2個とを合わせた8個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。なお、長辺東側の3ピットはいずれもやや東側にずれて位置するG I 5312・G I 537・HA 537の3ピットと重複し、それを切っている。また、短辺南側の2ピットはやや南側にずれて位置するHA 505・HA 533の2ピットを切ってつくられており、これらのピットと対になる短辺北側の2ピットはG I 504・G I 536の2ピットとなる可能性が強い。以上のことから、当柱穴列は3回の建替えが行われており、中軸線上の中央に位置するG J 507ピットは、上部が焼土で覆われていることからみれば最後に建替えられた柱穴列の構成ピットには含まれない。第一次柱穴列が最も規模が大きく、長辺長7.6m、

—西田遺跡—



第54図 長方形柱穴列配置図 (H群)

短辺長4.6mとなり、第二次柱穴列が長辺長6.5m、短辺長4.8m、第三次柱穴列が長辺長6.5m、短辺長4.6mを計る。いずれも張り出し部の軸長は8.0mで、N-4°-Eの主(長)軸方位をもつ。第三次柱穴列の8ピットのうち5個のピットに柱痕が確認されている。

I-3号：G J 502・G J 535・G J 561・H A 503・H A 532・H A 563・G J 506・G J 567の8個のピットで構成されるもので、短辺中軸線上に乗るG J 506・G J 567の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.1m、短辺長4.4m、張り出し部の軸長8.0mを計り、N-85°-Eの主(長)軸方位をもつ。すべてのピットで柱痕が確認されている。

I-4号：G I 502・G I 532・G I 561・G J 502・G J 535・G J 561の6個と短辺中軸線上に張り出して位置するG I 5014・G I 5610の2個とを合わせた6個のピットで構成されるもので、長辺南側の3ピットはI-3号の長辺北側の3ピットと重複しており、I-3号によって破壊されている。規模は長辺長6.6m、短辺長3.7m、張り出し部の軸長8.0mを計り、N-85°-Eの主(長)軸方位をもつ。遺存する5個のピットのうち3個のピットで柱痕が確認されている。

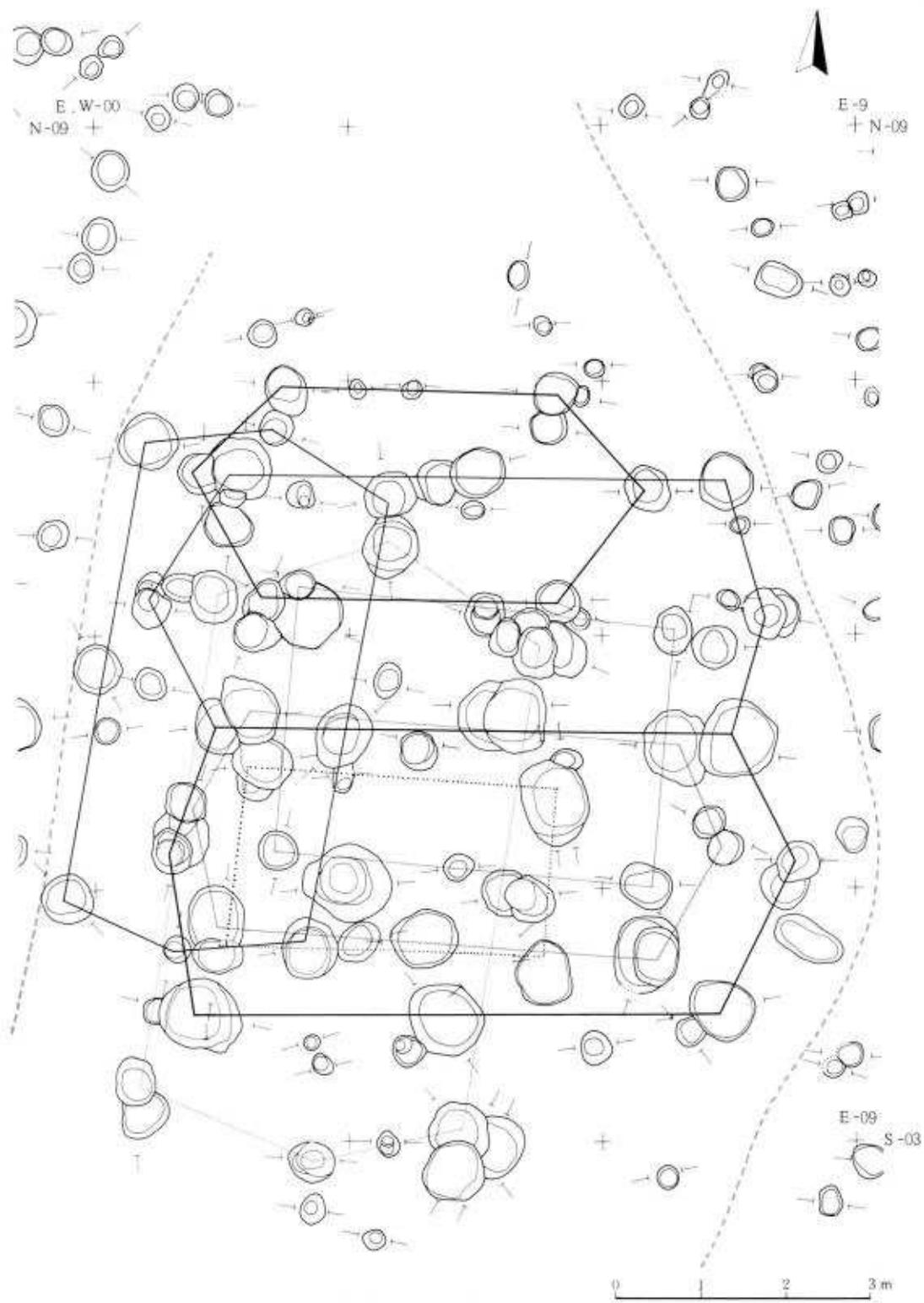
I-5号：G J 501・G J 531・G J 562・H A 509・H A 535・H A 561・G J 505・G J 565の8個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長6.0m、短辺長3.4m、張り出し部の軸長6.9mを計り、N-88°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個のピットのうち6個のピットで検出されている。

I-6号：G I 5010・G I 537・G I 5611・G J 503・G J 533・G J 563の6個のピットで構成される。長辺長5.0m、短辺長3.6mの長方形を呈し、N-89°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

I-7号：G H 503・G I 5310・G I 508・G I 536・G I 503・G I 562の6個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.9m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長5.9mを計り、N-84°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

I-8号：G J 509・G J 532・H A 502・H A 531の4個のピットで構成される。規模は長辺長4.0m、短辺長3.2mを計り、N-86°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットⅠ群内からは8単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方位はN-6°-WからN-4°-Eの間に入る。重複関係は以下のようになる。I-1号はすべての柱穴列と平面的に重複するがピット相互の切り合いはみられない。I-2号もすべての柱穴列と重複し、しかも計3回の建替えが認められるもので、前者の柱穴列は最終形である。いずれもI-3号・I-5号にはって切られており、第一次柱穴列はI-7号と1個のピットを共有し、それよりも



第55図 長方形柱穴配置図(1群)

旧い。I-3号はI-7号を除くすべての柱穴列と重複するが、ピット間の切り合いのみられるI-2号・I-4号・I-5号・I-7号の4単位の柱穴列を切っている。I-4号はI-8号を除く全柱穴列と平面的に重複し、3個のピットを共有するI-3号に切られている。I-5号はI-7号を除く全柱穴列と重複し、ピットの切り合いがみられるI-3号より旧く、I-2号、I-7号より新しい。I-6号はすべての柱穴列と平面的に重複するが、I-2号の第一次柱穴列とのみピットの切り合いがみられ、それよりも新しい。I-7号はI-3号・I-5号・I-8号を除く柱穴列と平面的に重複するもののI-2号の第一次柱穴列と1個のピットと共にする以外ピットの切り合いがみられず、それよりも新しい。I-8号はI-4号・I-7号を除く全柱穴列と平面的に重複し、ピット間の切り合いがらみてI-3号・I-5号の双方に破壊されている。

(柱穴状ピットJ群) 約168個のピットがJ群に含まれ、このなかから7単位の柱穴列が確認されている。

J-1号: G J 625・G J 652・G J 682(未調査)・H A 625・H A 653・H A 681・H A 622の7個のピットが検出されている。短辺中央のH A 622ピットは短辺側柱より張り出して配置されており、もう1個の対になるピットは調査区外に入る。規模は長辺長6.1m、短辺長3.2mを計り、N-70°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が確認されている。

J-2号: G I 593・G J 599・H A 624・G I 6211・G J 628・H A 654・G I 622・H A 627の8個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長4.8m、短辺長3.8m、張り出し部の軸長6.6mを計り、N-10°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

J-3号: G I 599・G I 592・G I 624・G J 593・G J 591・G J 627の6個のピットで構成される。長辺長4.8m、短辺長2.9mの長方形を呈し、N-75°-E(長)軸方位をもつ。G I 624ピットを除くすべてのピットで柱痕が確認されている。

J-4号: G H 626・G I 625・G I 621・G G 656・G H 6510・G I 656の6個のピットで構成される。長辺長6.3m、短辺長3.7mの長方形を呈し、N-18°-Wの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が確認されている。

J-5号: G I 594・G J 598・G I 629・G J 626・G J 596・G J 653の6個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。長辺長4.4m、短辺長3.6m、張り出し部の軸長6.2mを計り、N-76°-Eの主(長)軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が検出されている。

J-6号: G H 598・G I 591・G H 624・G I 628・G I 5910・G H 627の6個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。長辺長2.9m、

短辺長 2.6 m、張り出し部の軸長 3.1 m を計り、N-74°-E の主(長)軸方位をもつ。3 個のピットで柱痕が確認されている。

J-7 号: GH 6511・GH 658・GJ 651 の 3 個と短辺中軸線上に張り出して位置する GI 654 ピットとを合わせた 4 個のピットしか確認されておらず、柱穴列を構成する残りの最底 4 個のピットは用地外に入る。規模は短辺長が 4.1 m を計るほかは不明で、N-69°-E の主(長)軸方位をもつ。2 個のピットで柱痕が確認されている。

小結: 柱穴状ピット J 群内からは 7 単位の柱穴列が確認されている。これらの柱穴列の軸方向は N-69°-E から N-80°-E の間にに入る。J-7 号は J 群以外のものとなる可能性をもつが一応ここに括した。重複関係は次のようにになっている。J-1 号は平面的には J-2 号・J-5 号と重複するが、ピット間の切り合はみられない。J-2 号は J-6 号と J-7 号を除く全住居跡と重複し、ピットの切り合をもつ J-5 号よりは新しい。J-3 号は J-1 号・J-7 号を除く全柱穴列と平面的に重複するがピット相互の切り合は認められない。J-4 号は J-1 号以外の柱穴列と重複し、J-7 号を切っている。J-5 号は J-6 号・J-7 号以外のすべての柱穴列と平面的に重複するが、ピット相互の切り合は J-2 号との間にのみみられ、それより古い。J-6 号は J-3 号・J-4 号の 2 単位と重複するもののピットの切り合はみられない。J-7 号は J-4 号と重複し、それよりも古い。

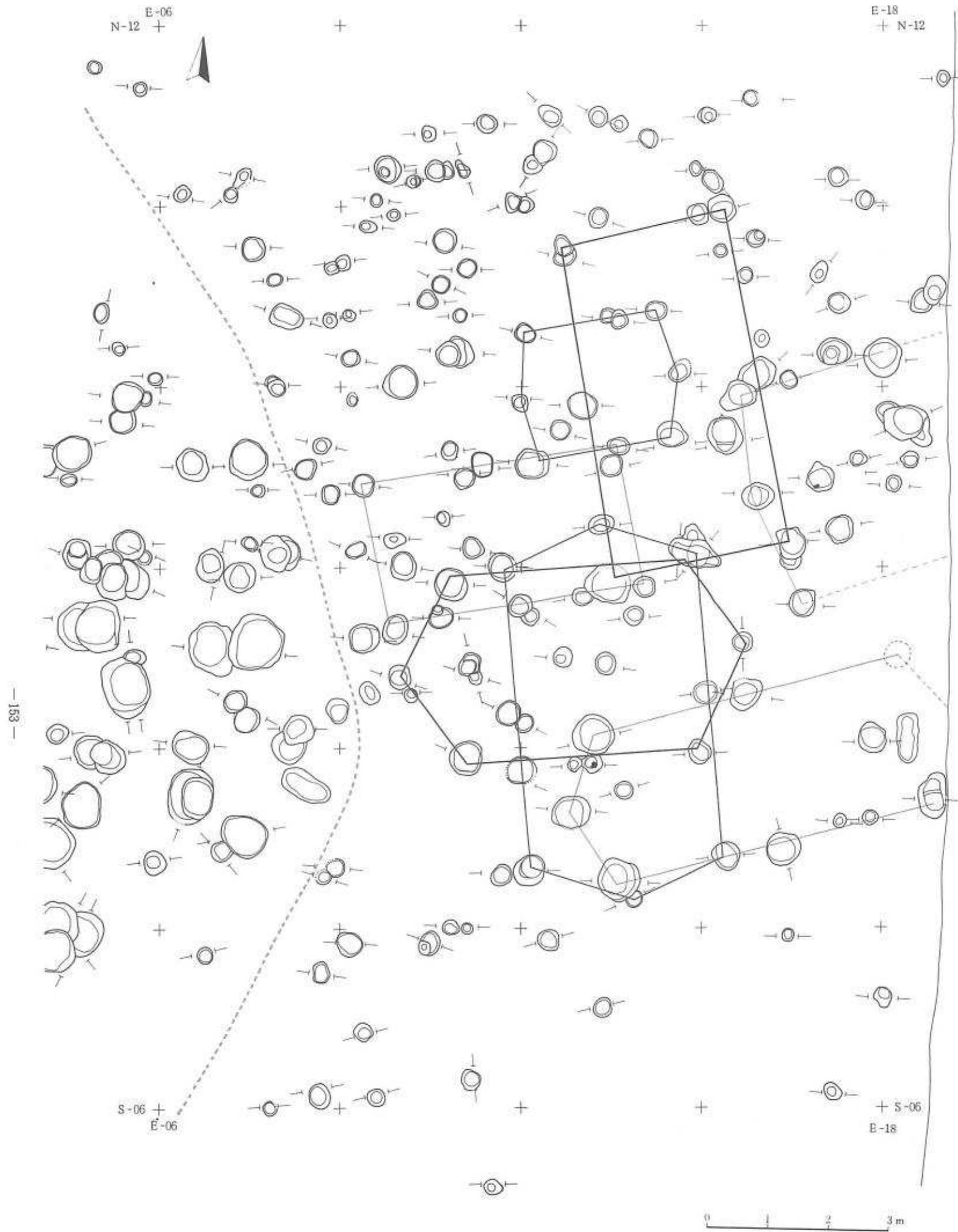
以上、環状ピット群を 10 群に大別し、そのなかから確認された柱穴列の概要を記述した。その数は 53 単位に及ぶが、これらのなかには柱穴列の単位構成や“群”的区分などに不明瞭な部分がかなりあるものと思われる。そこで、個々のピットの断面図はすべて掲載し、その規模も第 6 表に括してある。

(住居域におけるピット群) なお、環状ピット群の外側には一定の空白地帯をもって住居跡群が確認されており、この居住区の北端に上記の掘立柱状柱穴列と同様の構造物が若干検出されている。ここでは、明らかに住居跡の柱穴列と区別されうるものに限定してその内容を略述する。

H-1 号: HC 092・HD 061・HD 092・HD 065 の 4 個のピットで構成される。長辺長 3.8 m、短辺長 2.7 m の長方形を呈し、N-85°-E の主(長)軸方位をもつ。3 個のピットから柱痕が確認されている。

H-2 号: HD 504・HC 531・HD 501・HD 532・HD 502・HD 531 の 6 個のピットで構成されるもので、短辺中央の HD 502・HD 531 の 2 ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長 3.1 m、短辺長 2.9 m、張り出し部の軸長 4.1 m を計り、N-74°-E の主(長)軸方位をもつ。4 個のピットで柱痕が確認されている。

H-3 号: HD 561・HD 591・HD 622・HF 565・HF 591・HF 622 の 6 個と短辺中軸線上に位置する HE 533・HE 591・HE 624 の 3 個とを合わせた 9 個のピットで構成される総



第56図 長方形柱穴列配置図（J群）

柱状の構造物である。短辺中央の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長7.9 m、短辺長5.4 m、張り出し部の軸長9.1 mを計り、N-90°-Eの主(長)軸方位をもつ。

以上の3単位の柱穴列は、軸方位にかなりのばらつきがみられ、北側環状ビット群における柱穴列の軸方位の共通性からみれば、それらと直接対応するものとは言えない。また、このほかに若干の柱穴列が存在するものと思われるが確証に欠けるため除外してある。住居域における柱穴状ビットの断面図も一応作成してあるのでそちらを参照されたい。

第5表 堀立柱状柱穴列一覧表

タイプ	ビット			長辺 長(m)	短辺 長(m)	張り出 し部軸 長(m)	長軸 方向	新 旧 間 係 (新 < 古、 古 > 新)
	本数	ビット名	ト					
A-1	I	4	FE621・FE651・FF593・FF621	3.5	3.5		N-77°-W	
	V	9	FF569・FF589・FF622・FF562・PG622・PG561・ FG593・FG623・FG582	6.3	3.8	7.2	N-78°-W	
	II	6	FF563・FP597・PG621・FG562・PG5615・PH586	5.4	3.2		N-74°-W	
	IV (?)	4+(4)	FF681・PG665・PG651・PH681	5.0	不明	不明	N-12°-E	
B-1	III	6	FE501・FE531・FE564・PP501・PP531・PP506	6.1	3.0		N-81°-E	< FE561 フラスコビット
	II	6	FD036・FD531・FD562・FF0310・FE532・FE563	7.8	4.1		N-77°-E	
	II	6	FE503・FE5314・FF504・FF508・FF538・FF536	3.6	2.8	4.6	N-82°-E	
	IV	8	FE504・FF5010・FG502・FE537・FF539・PG531・ FE502・PG534	5.2	3.9	5.6	N-14°-W	
C-1	I	4	FF095・PG068・PG032・PP0614	5.0	4.0		N-59°-E	? FE062 フラスコビット, > C-3
	VI	8	FG091・FF066・FF0611・PP031・PH003・FH061・ FG090・PG5012	8.5	5.2		N-57°-E	
	II	6	FF092・PG062・PG0610・PP0617・FF063・PG033	5.3	3.0		N-36°-W	< C-1
	II (?)	5+(1)	FE127・FF094・FD093・PP061・PP093	4.2	3.8		-	? FE121 フラスコビット
D ₁ -1	IV	8	FG123・PG151・FH153・FG094・FH123・FI129・ FG128・FI152	7.0	4.4	7.8	N-32°-E	< D-6
	IV	6	FG122・FH128・FH155・PH001・PH099・FI123・ FG0910・FI127	5.4	3.4	5.9	-	
	IV	7+(1)	FE181・FF157・FG1212・FG152・FG1812・FE183・ FG154	7.1	4.2	8.2	N-58°-W	< D-5, < D-4, > FE18 住居跡
	II	6	FE152・FF181・FF151・FG1815・FF153・PG1811	5.0	3.5	5.5	N-31°-E	> D-3, > D-5, > FE18 住居跡
	I	4	FF158・FG1816・FF152・FG153	3.7	3.3		N-33°-E	< D-3, < D-4, > FE18 住居跡 < PG157 フラスコビット
D ₂ -1	III (?)	5+(1)	FI182・FI182・FI127・FI1512・FI186	5.5	3.4		N-19°-E	> D-1, > FJ18 住居跡
D ₂ -2	I	4	PH1810・PH187・FH151・FI158	4.2	3.4		N-22°-E	? PG18 住居跡
D ₂ -3	I	4	FI188・FI1810・FI1511・FJ188	3.4	3.1		N-66°-W	> FJ18 住居跡
E-1	V	8+(1)	FJ211・GA211・FJ1810・GA182・GB187・FJ184・ GA186・GB214	7.1	4.1	8.3	N-10°-E	< E-2, < E-3, > FJ18 住居跡 > FJ21 住居跡, GA21 住居跡

— 西 田 遺 跡 —

編	年	名	七		長	短	偏	長軸	新旧關係 (新<旧、旧>新)
			本数	年					
E-2	V	9	FJ150+GA152+GB1515+GB189+GA188+FJ1810+ FJ156+GA1516+GC182	6.5	4.2	8.2	N-7°-E	>E-12°-3, >FJ18往跡, >FJ121 往跡, <GA21往跡, <GB1516-7-2-3 2-7-1, >GB15漢伏上城	
3	H	5+11	GB186+GB215+GC189+GU213+GC184	4.5	3.9	不明	N-88°-W	>E-1, ?E-2	
F-1	H	6	GD215+GE213+GE215+GD182+GD188+GE185	5.6	4.1		N-14°-W		
2	Bot IV	3+13	GD216+GE214+GF215	6.9	不明	不明	N-20°-W	>GF21-1往跡, >GF21-2往跡	
3	不明	2	GF210+GG216	不-01	-		N-22°-W	>GF21-1往跡	
G-1	V	9	GH121+G1151+G1155+G1091+G1120+G1421+ GH091+G1126+G1153	6.5	4.1	7.3	N-34°-E	<G-5	
2	V	9	GG129+GH152+G1189+GH092+G1122+G1151+ GG091+GH122+G1156	7.5	4.3	8.8	N-40°-E	<G-6, >G-8, >GH18往跡	
3	H	8	GG127+GH155+GH184+GH096+GH123+G1153+ GG126+G1384	6.3	4.1	7.0	N-43°-E		
4	H	6	GH151+G1188+G1182+GH123+G1159+G1184	6.2	3.6		N-34°-E	>GH18往跡, >G115往跡	
5	V	9	GG158+GH155(未調査)+G1123+GH187+G1151+ G1121+GH183+G1162+G1122	6.3	4.1	10.0	N-50°-W	>G-3	
6	H	6	GF156+GG124+GG183+GH153+GG181+GH127	4.6	4.1	5.8	N-12°-W (38°)	>G-2	
7	H	6	GG094+GH098+GH082+G1092+GH067+G1097	3.8	3.3	4.5	N-28°-E		
8	H	6	GH093+G11210+G10615+G1091+GH066+G1095	4.1	3.1	4.7	N-37°-E	>G-2	
9	H	6	GG035+GH039+GH064+GH032+GG063+GH037	3.6	2.7	4.2	N-66°-W		
H-1	H	6	HA061+HB061+HA032+HB064+HA061+HC061	3.2	3.0	4.9	N-9°-E		
2	H	6	G1068+G1087+G1032+HA091+G1062+G1037	3.6	3.2	4.1	N-15°-E		
3	H	6	G1061+G1065+G1034+G10310+G1038+HA082	4.1	3.0	6.2	N-9°-E		
I-1	H	8	G15013+G1038+G10311+G1534+G1504+HA507+ G1501+HA501	6.2	3.6	6.7	N-4°-E		
J-8	IV	8	G1505+G1508+HA504+G15311+G1534+HA508+ G1535+G1507+HB502	9.5	4.6	8.0	-	>I-3, >I-5	
9	V	9	G1505+G1508+HA504+G15312+G1537+HA537+ G1505+G1507+HB508	9.5	4.8	8.0	-		
10	V	9	G1508+G1509+HA505+G1536+G1534+HA533+ G1507+HB502	9.7	4.6	8.0	-	>I-7	
3	IV	8	G1502+G1535+G1561+HA503+HA532+RA563+ G1508+G1567	7.1	4.4	8.0	N-85°-E	<I-2, <I-4, <I-5, <I-7	
4	IV	8	G1502+G1532+G1561+G1502+G1536+G1561+ G1504+G15610	6.8	3.7	8.0	-	>I-3	
5	H	6	G1501+G1531+G1562+HA509+HA535+HA561+ G1505+G1505	6.0	3.4	6.9	N-88°-E	>I-3, <I-5, <I-7	
6	H	6	G15010+G1537+G15611+G1501+G1533+G1563	5.0	3.0		N-89°-E	<I-2 (3)	
7	H	6	GH509+G1510+G1508+G1536+G1503+G1562	3.9	3.0	5.9	N-84°-E	<I-2 (3)	
8	I	4	G1509+G1502+HA502+HA531	4.0	3.2		N-89°-E	>I-4, >I-5	
J-1	IV	7+11	G1625+G1632+G1602(未調査)+HA025+HA653+ HA681+HA622	8.1	3.2		N-70°-E		
2	IV	8	G1503+G1509+HA624+G1627+G1628+HA654+ G1622+HA621	5.6	3.8	6.0	N-10°-W	<J-5	
3	H	6	G1509+G1502+G1624+G1593+G1501+G1627	4.8	2.9		N-75°-E		
4	H	6	GH626+G1525+G1621+GG656+GH6510+G1656	6.3	3.7		N-18°-W	<J-7	

—西田遺跡—

タイプ	本数	土層名				長辺 長(m)	短辺 長(m)	盛り出 し高幅 長(m)	長軸方位	新 旧 関係 (新 < 旧、 旧 > 新)
		七	八	九	十					
J-5	II	6	G1593・G1595・G1629・G1626・G1596・G1633	4.4	3.6	6.2	N-76°-E	> J-2		
6	III	6	GH629・GH591・GH624・G1628・G15910・GH627	2.9	2.6	3.1	N-74°-E			
7	W (?)	4+14	GH6511・GH658・G1651・G1654	不明	4.1	不明	N-89°-E	> J-4		
H-1	I	4	HD092・HD061・HD065・HD092	3.8	2.7		N-86°-E			
2	II	6	HD504・HG581・HD501・HD502・HD502・HD503	3.1	2.9	4.1	N-74°-E			
3	V	8	HD561・HD591・HD622・HF583・HF593・HF622・HE533・HE591・HE624	7.9	5.4	9.1	N-90°-E			

土層注記表

基 礎 人 士 土	黑褐色			暗褐色		褐色 或いは 黃褐色			黃 褐色			
	10YR 2/2	10YR 2/3	10YR 3/2	10YR 3/3	10YR 3/4	10YR 4/3 10YR 4/4	10YR 4/6	10YR 5/3 10YR 5/4	10YR 5/6	10YR 5/8	10YR 6/6 10YR 6/8	
黒 褐色 土 色 （1-4%）	少 （5-10%）	I	14	27	40	53	66	79	92	105	118	131
	中 （11-25%）				41	54	67	80	93	106	119	132
	多 （26-40%）				42	55	68	81	94	107	120	133
	極 少				43	56	69	82	95	108	121	134
暗 褐色 色 （少）	少 （2-5%）	II	15	28	44	57	70	83	96	109	122	135
	中 （6-10%）				45		71	84	97	110	123	136
	多 （11-25%）				46		72	85	98	111	124	137
	極 少				47		73	86	99	112	125	138
褐 黃褐色 色 （少）	少 （2-5%）	III	16	29	48	60	74	87	109	113	126	139
	中 （6-10%）				49		75			114	127	140
	多 （11-25%）				50		76			115	128	141
	極 少				51		77			116	129	142
黃 褐色 色 （少）	少 （2-5%）	IV	17	30	52	61	78	90	103	117	130	143
	中 （6-10%）				53		79					
	多 （11-25%）				54		80					
	極 少				55		81					

(II) 土 性

シルト質壤土: SL — a

シルト質粘壤土: SCL — b

シルト質粘土: SIC — c

砂 塵 土: SI — d

砂 質 粗 土: SCL — e

砂 質 中 土: SC — f

砂 質 细 土: S — g

重 塚 土: HC — h

(III) しまり

密(Tight) — T

やや密 — T'

中(Middle) — M

やや疏 — C'

疏(Coarse) — C

(IV) 堆積土の状況

粉状(極小粒状)堆積土 — P. powdery soil

粒状(小・中・大粒状)堆積土 — G. granular soil

塊状(ブロック状)堆積土 — A. angular soil

(V) 補入物

焼土(Baked soil) — B
木炭(Charcoal) — C

その他
無し

微量 — 1
少量 — 2

普通 — 3

多量 — 4

(VI) 層の形成

自然堆積: Natural accumulation — N

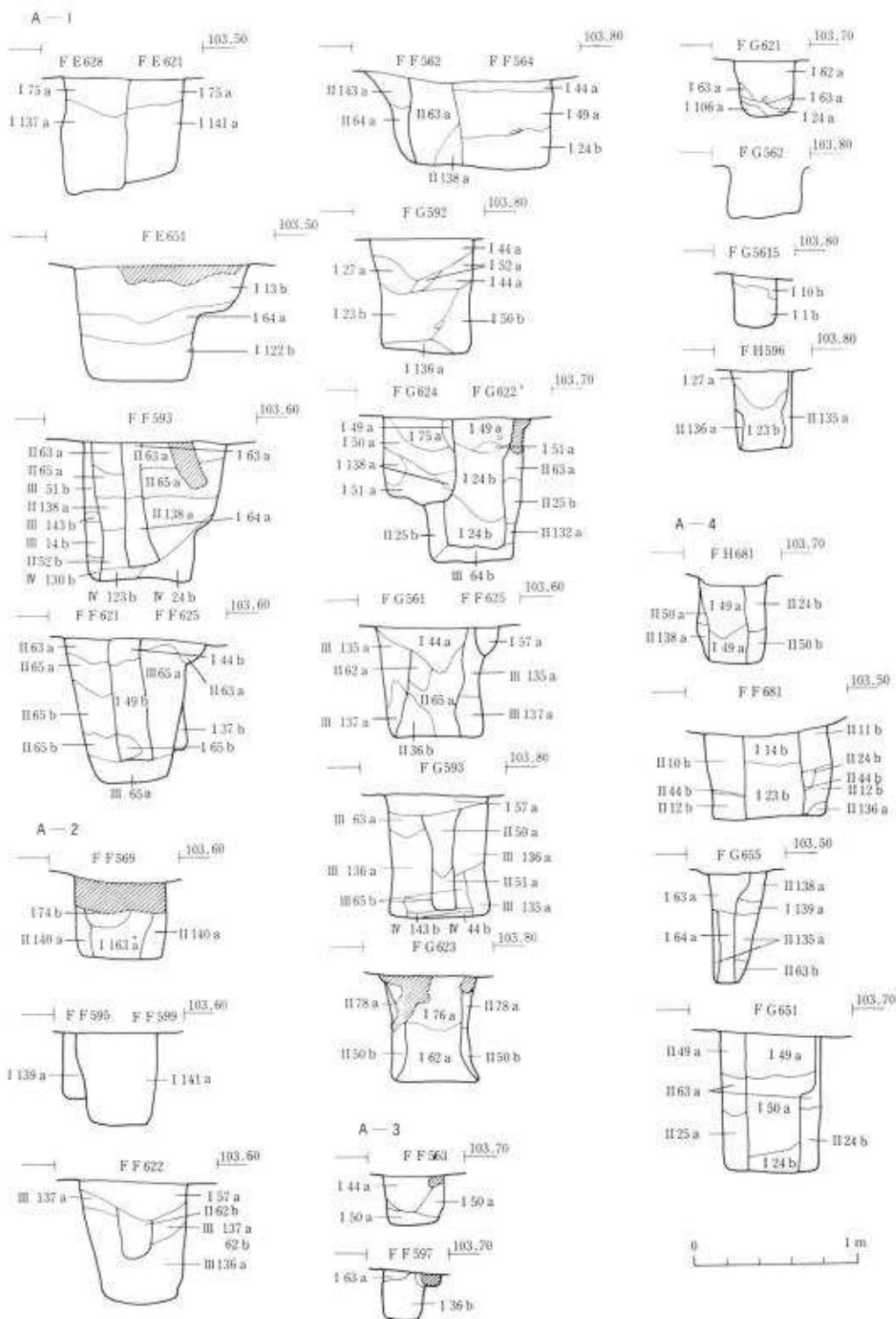
人為堆積: Artificial accumulation — A

注 第51-105図の土層注記は、スペースの関係で層位・土色・土性の3つの基準のみを表示した。

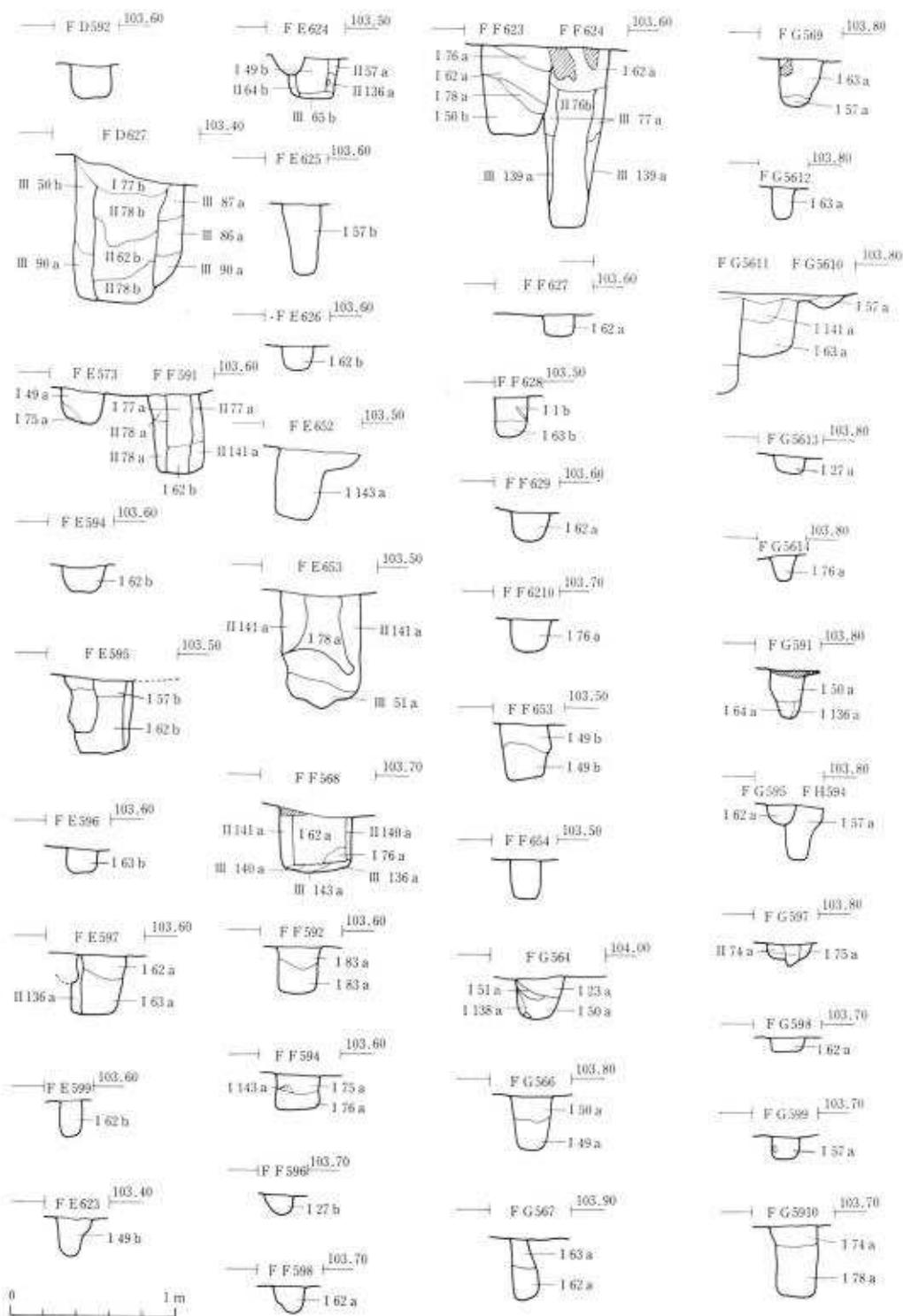
ex (層位) (土色) (土性)

| 75 *

—西田遺跡—

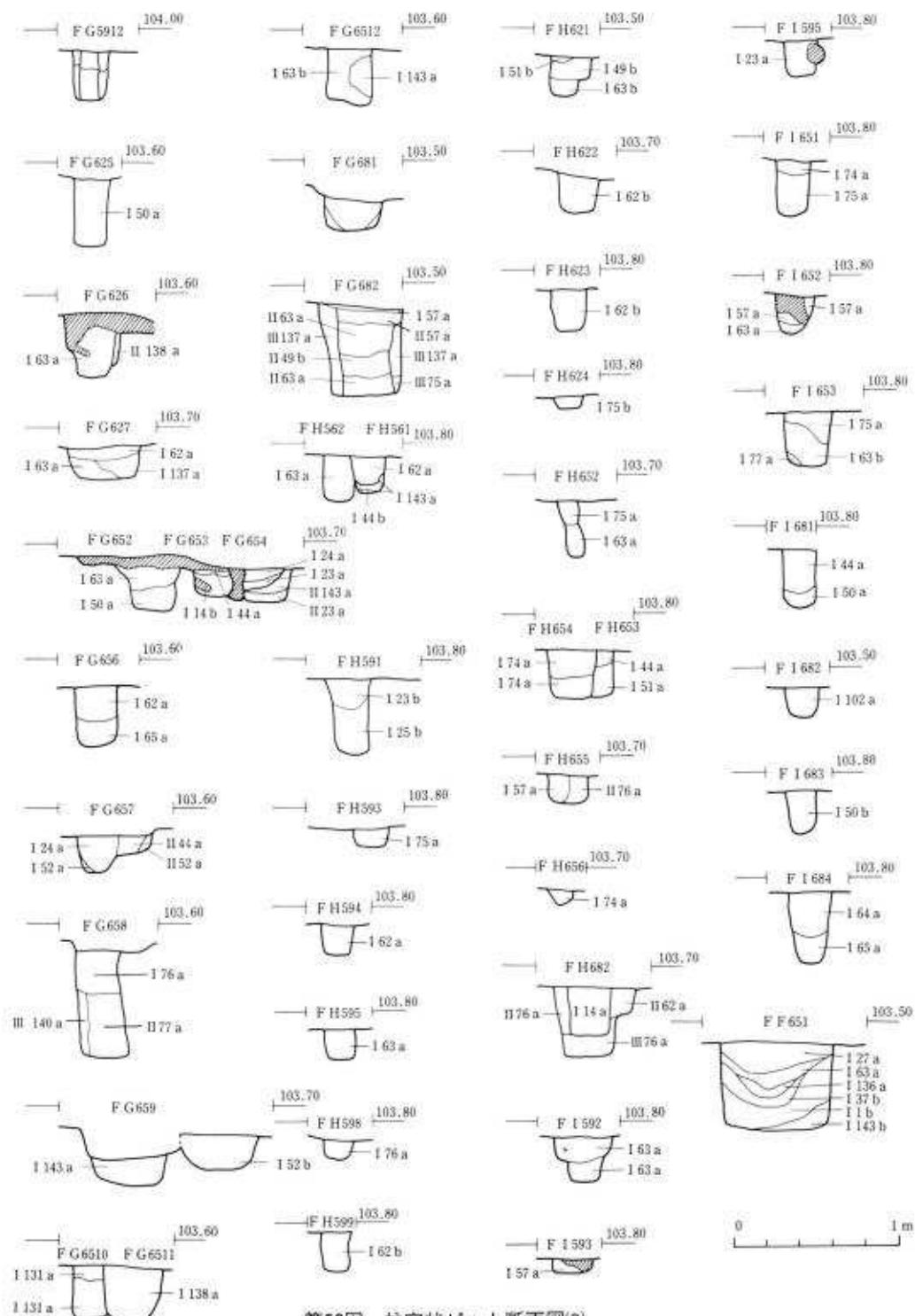


第57図 柱穴状ピット断面図(1)

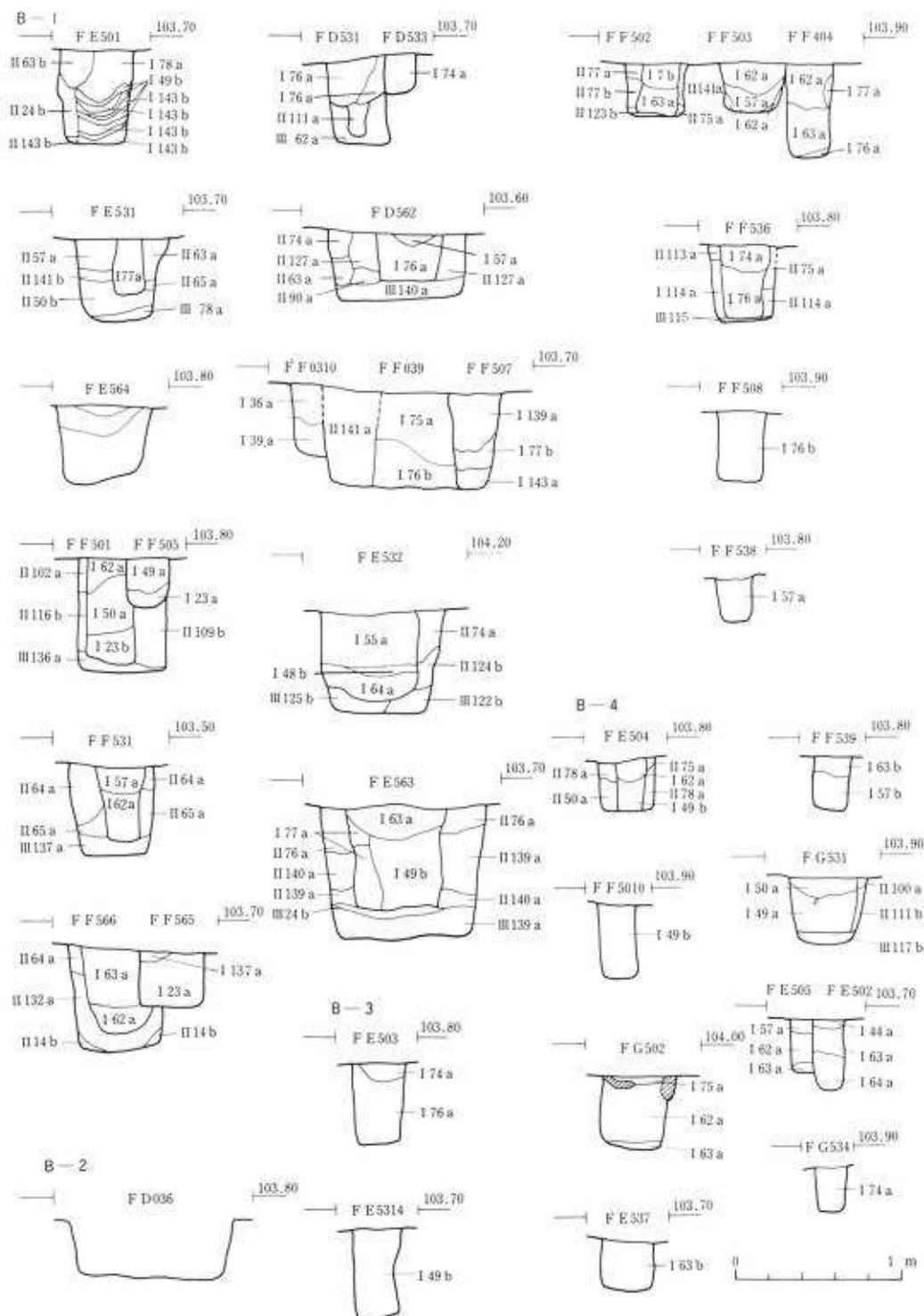


第58図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田遺跡 —

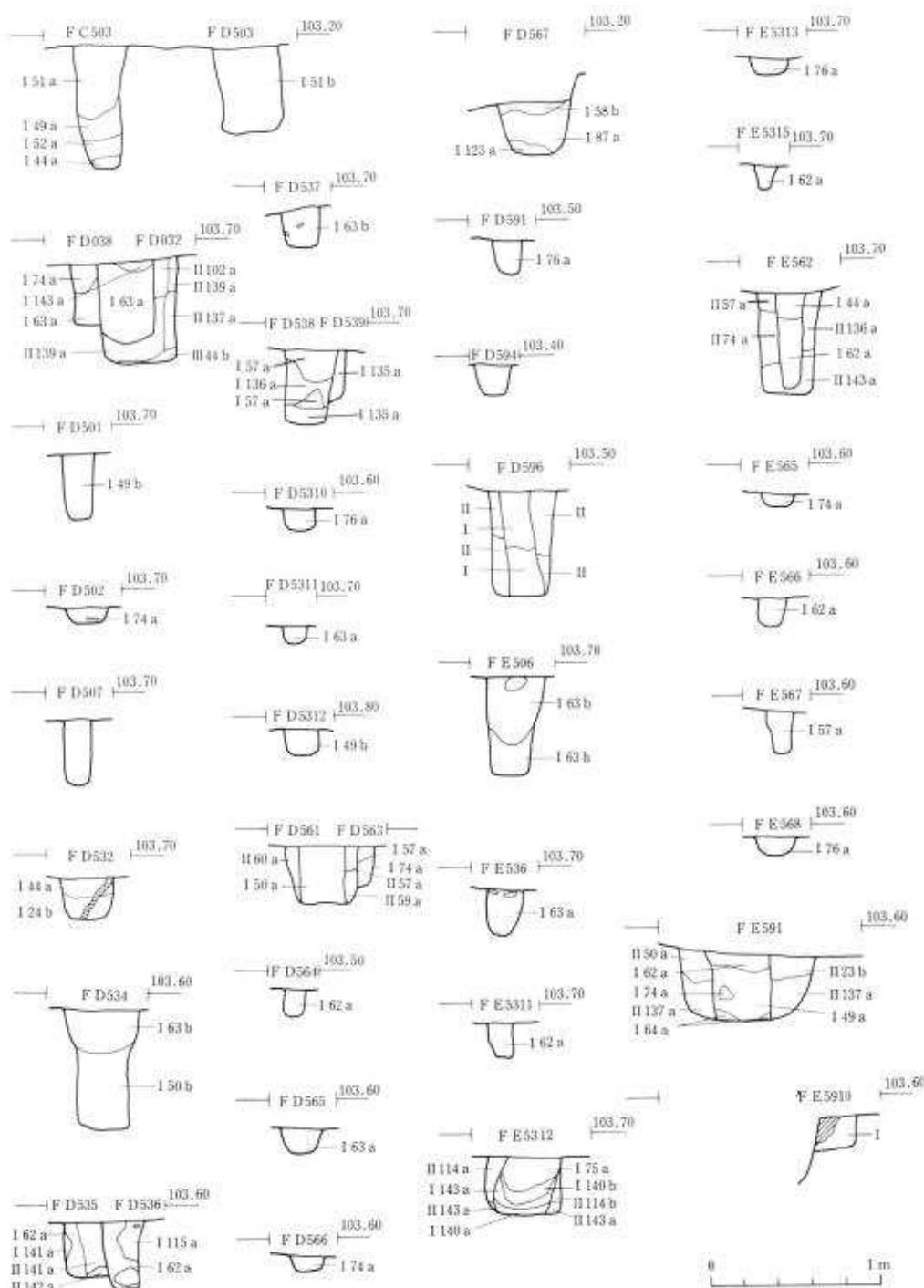


第59図 柱穴状ピット断面図(3)

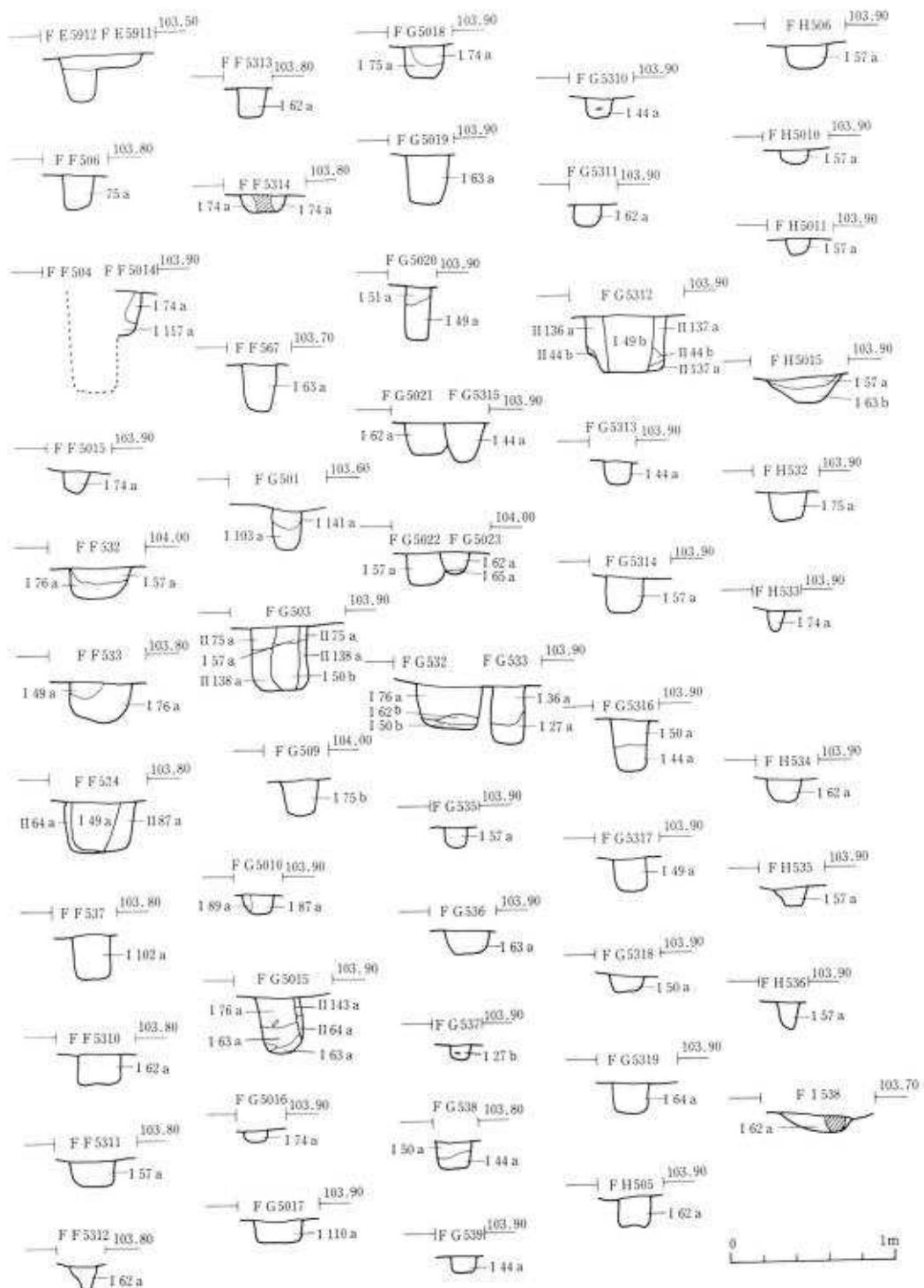


第60図 柱穴状ピット断面図(4)

—西田遺跡—



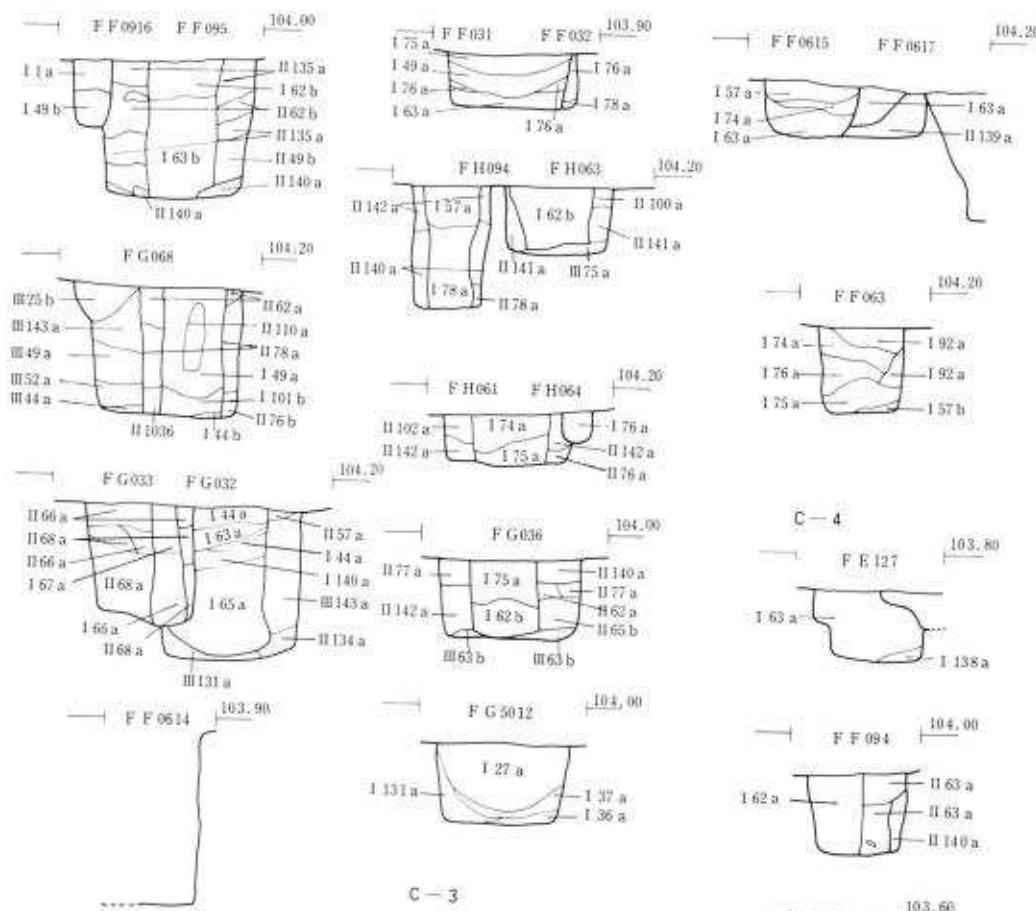
第61図 柱穴状ピット断面図(5)



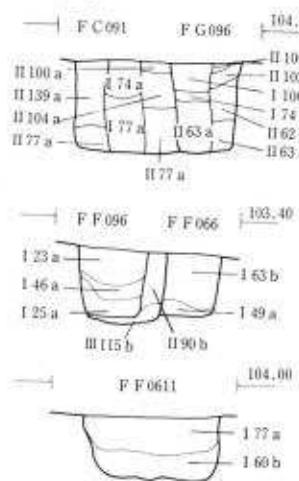
第62図 柱穴状ピット断面図(6)

— 西田遺跡 —

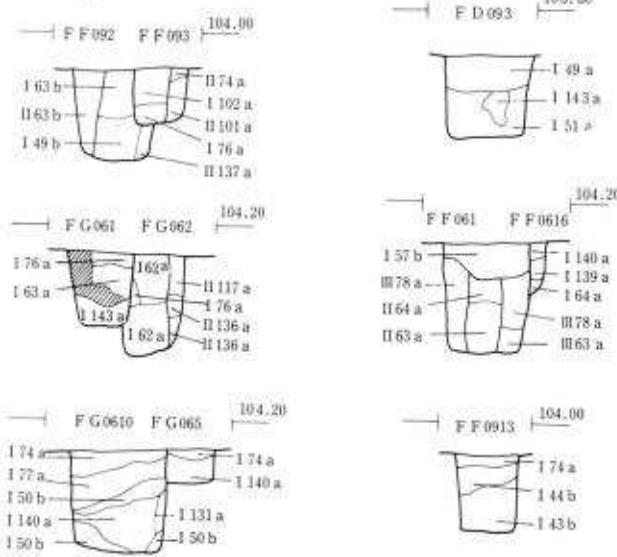
C - 1



C - 2



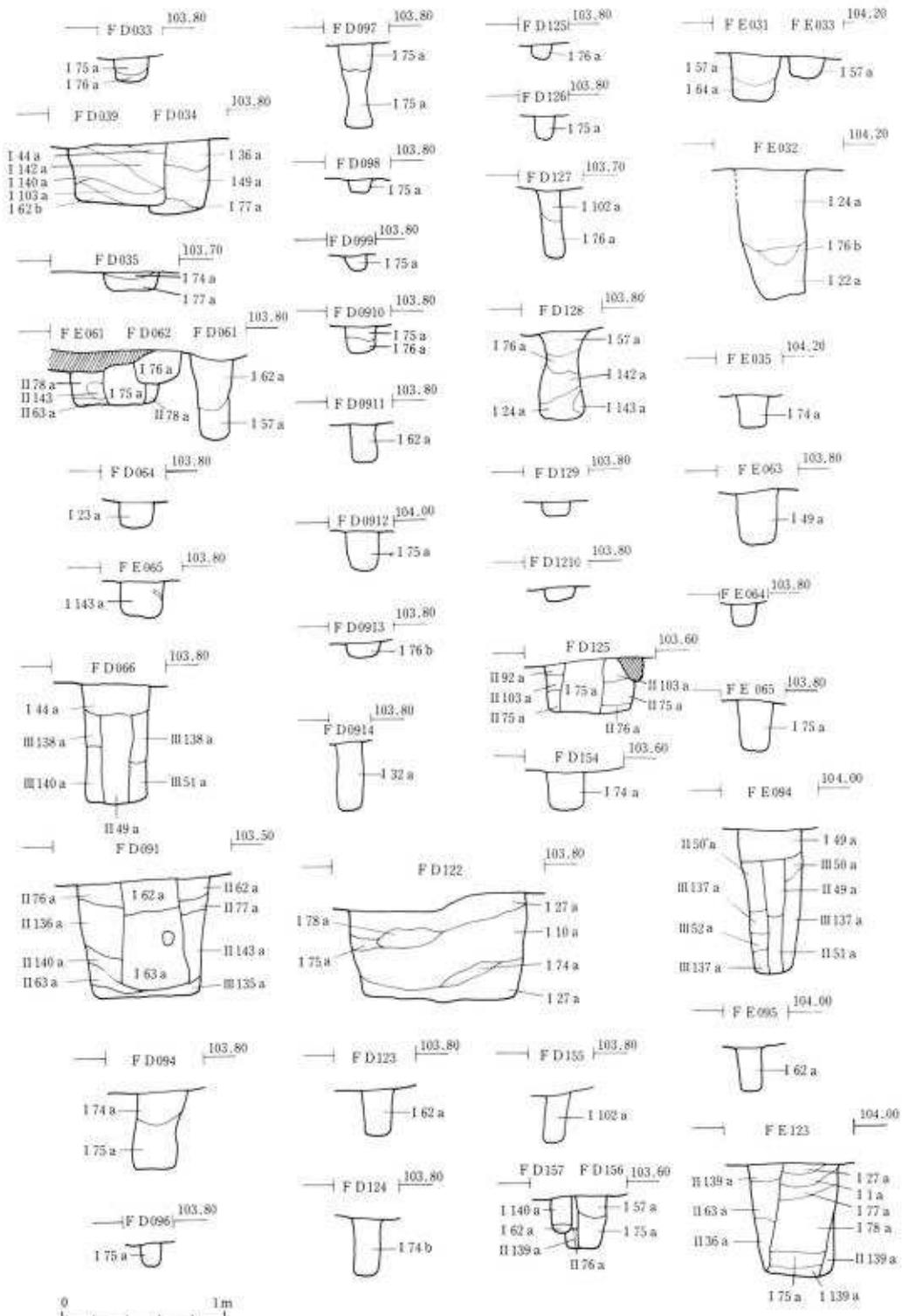
C - 3



第63図 柱穴状ピット断面図(7)

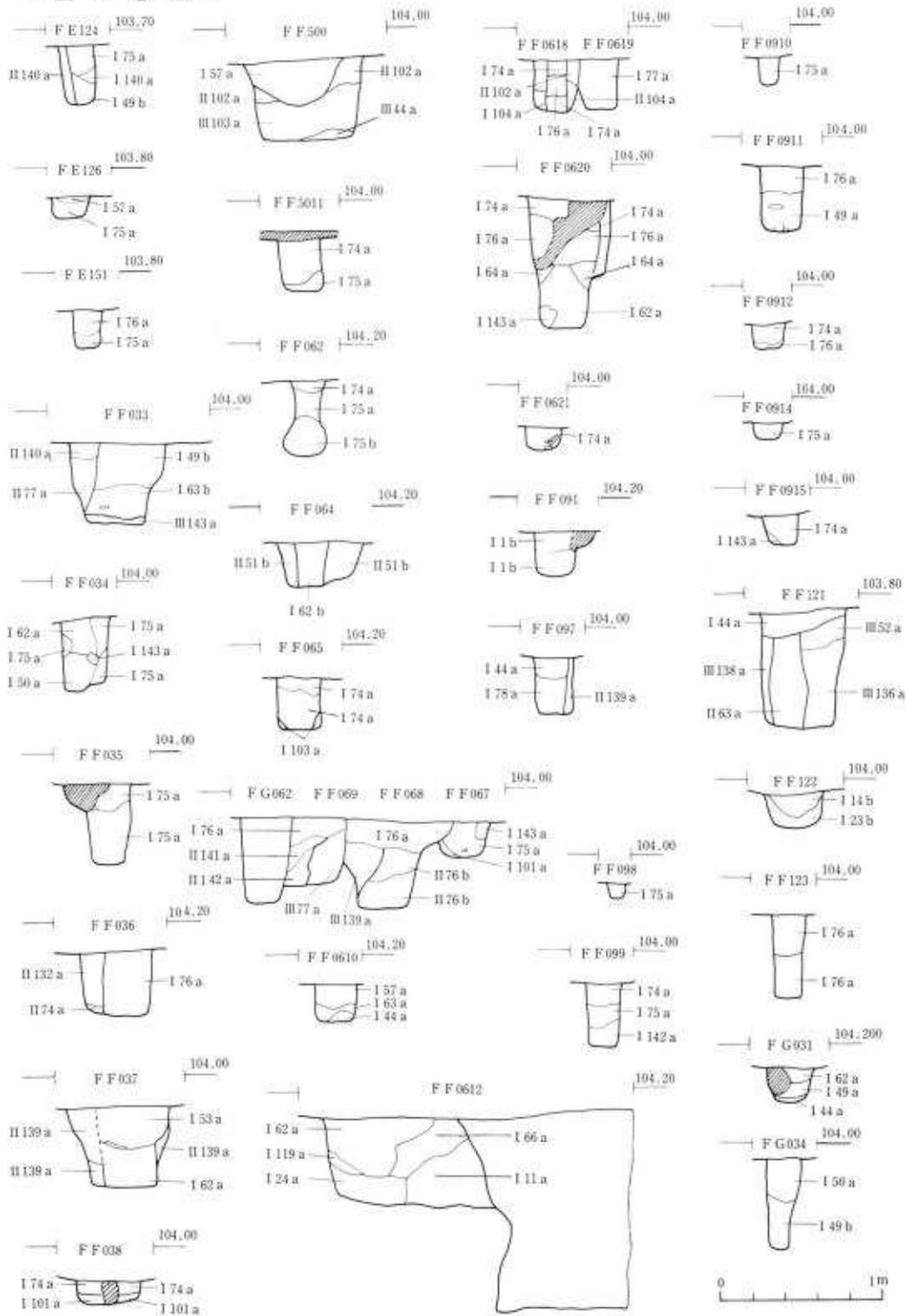


— 西田 遺跡 —



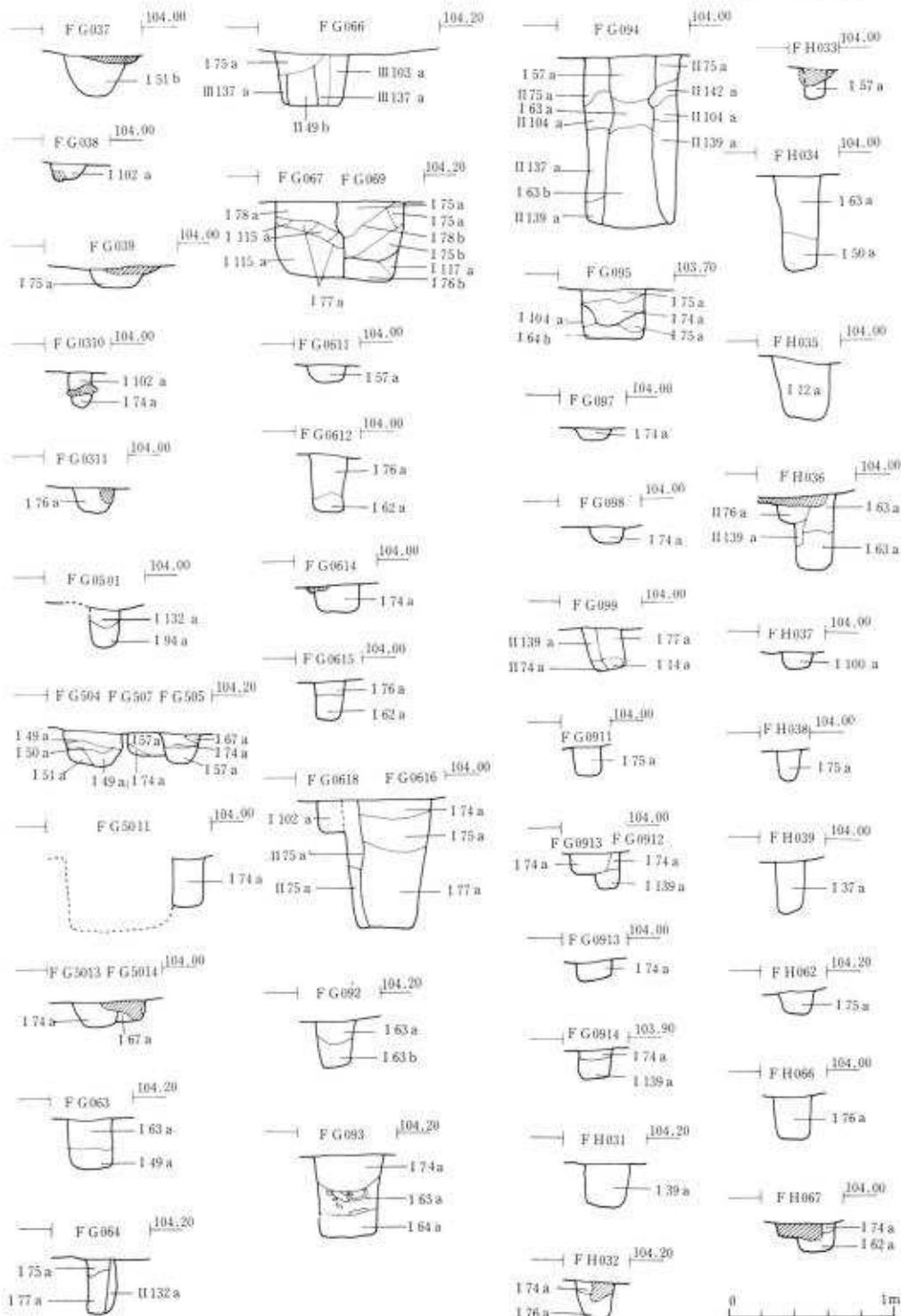
第64図 柱穴状ピット断面図(8)

— 西田遺跡 —



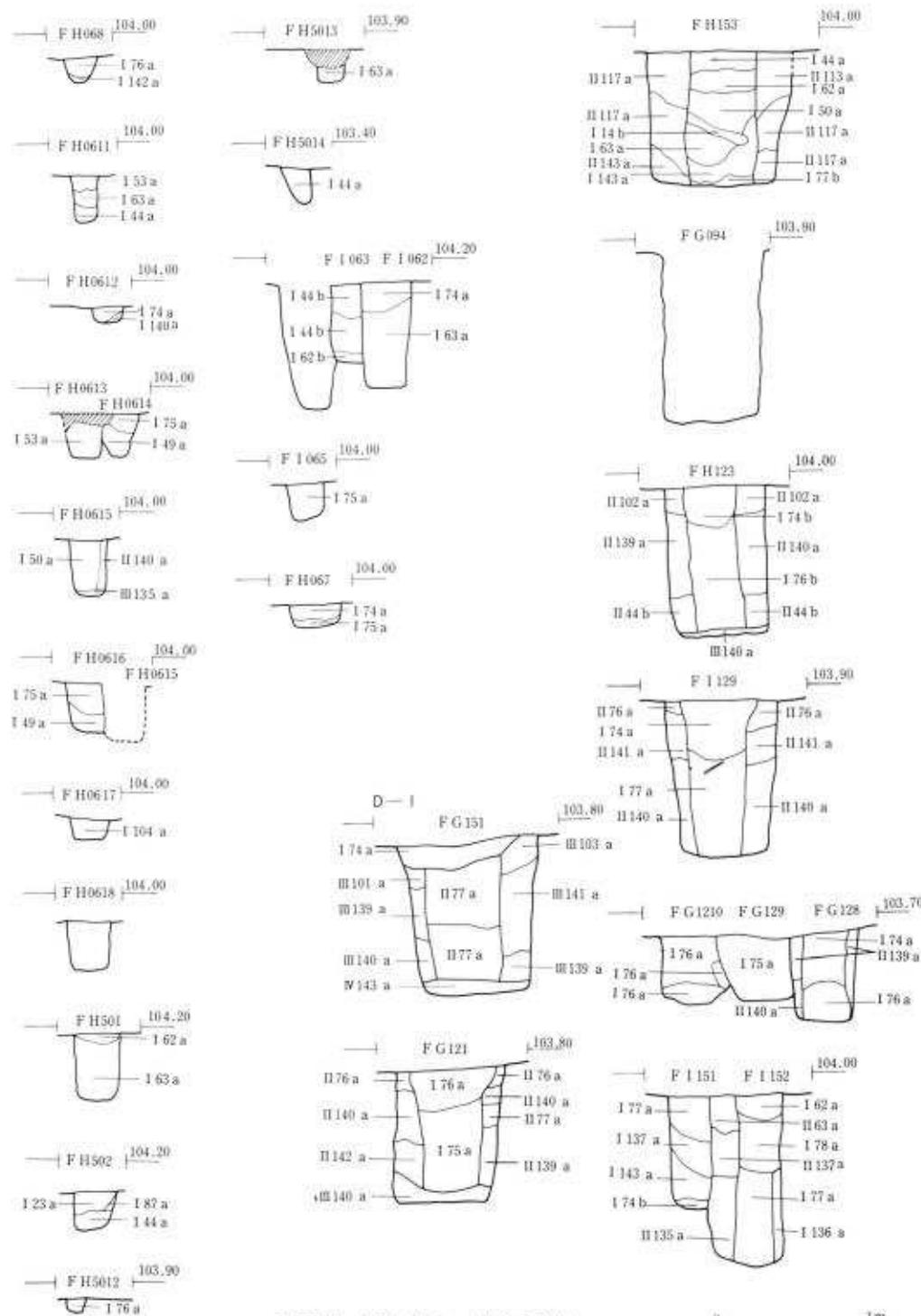
第65図 柱穴状ピット断面図(9)

— 西田遺跡 —



第66図 柱穴状ビット断面図(10)

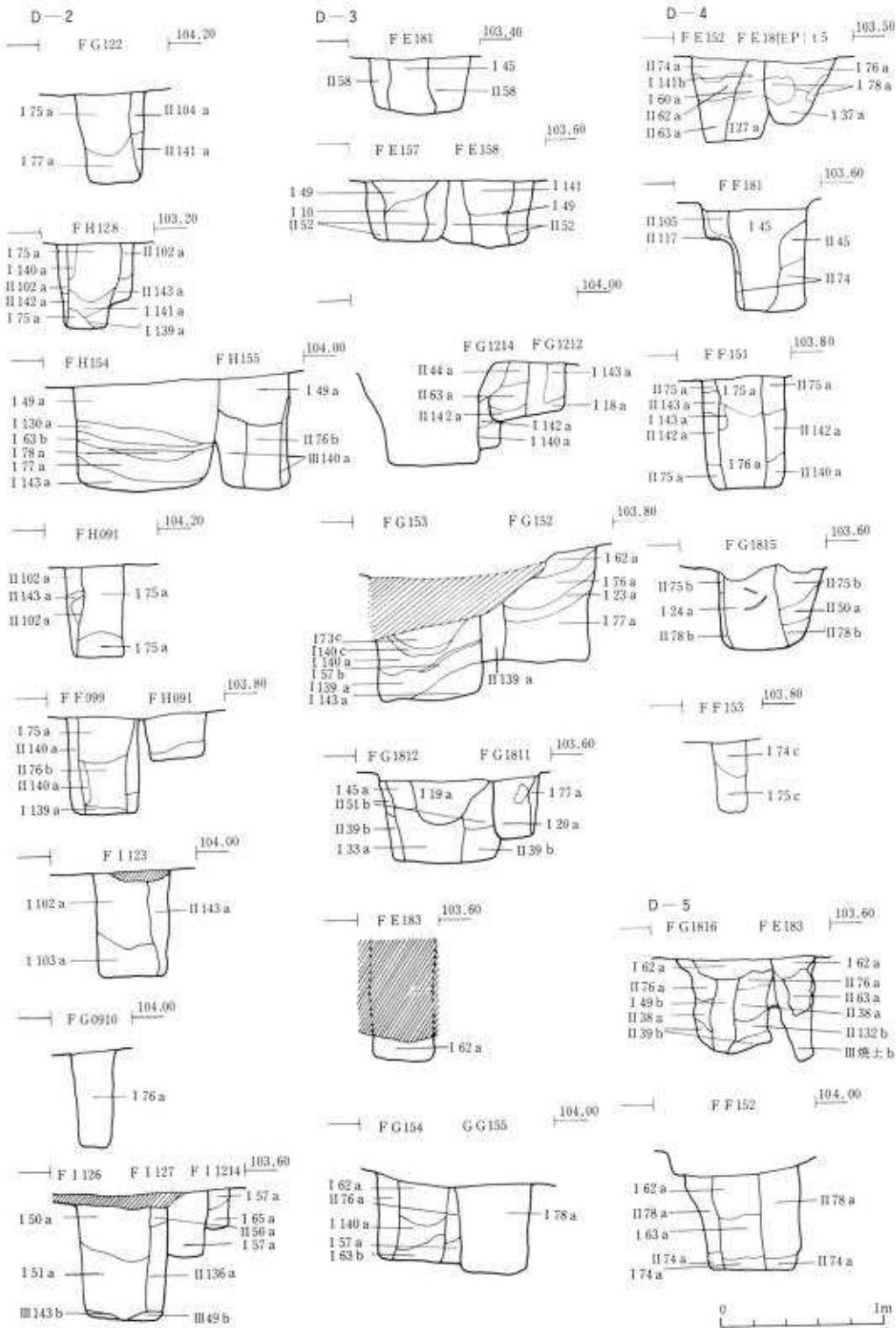
— 西田 遺跡 —



第67図 柱穴状ピット断面図(II)

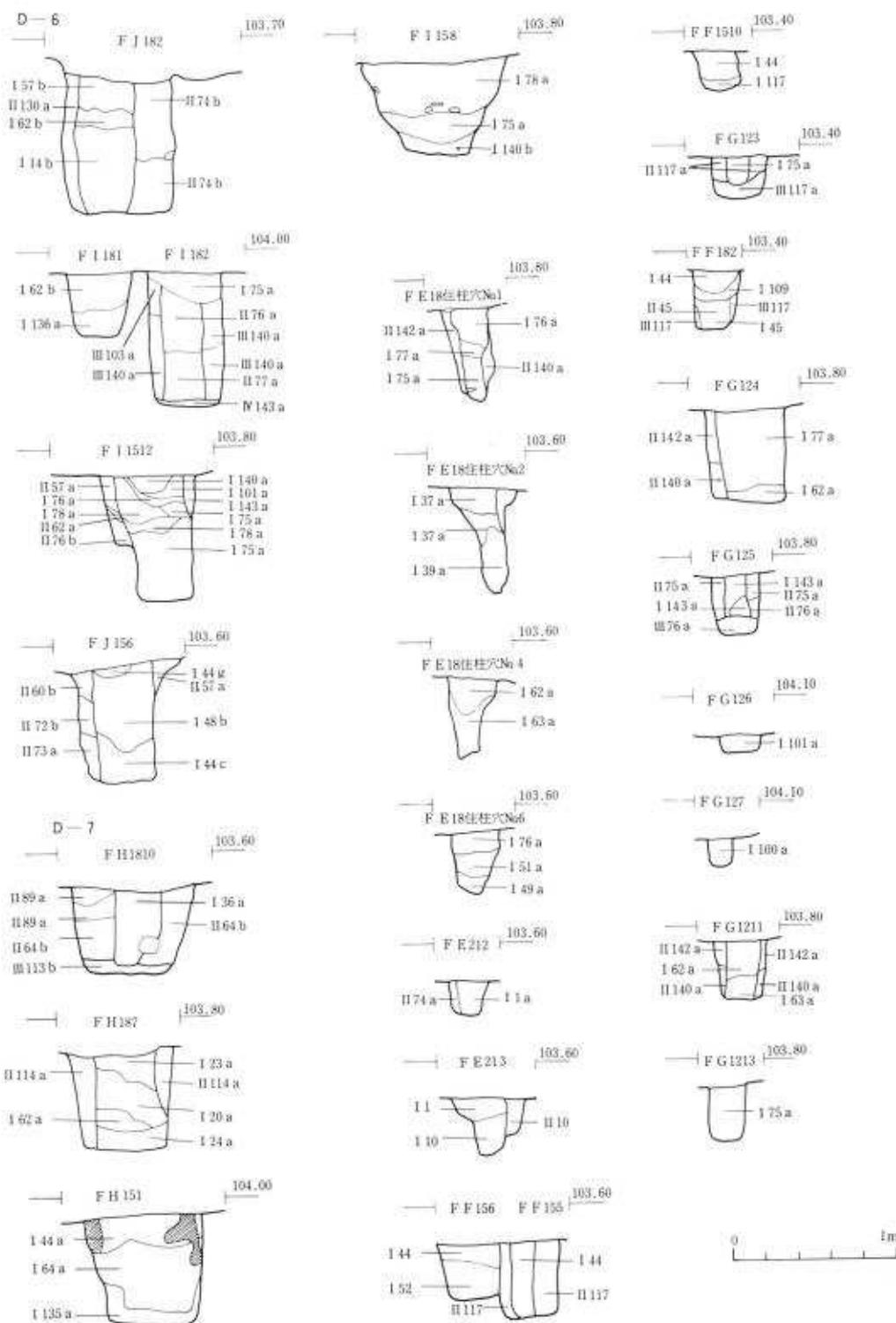


—西田遺跡—



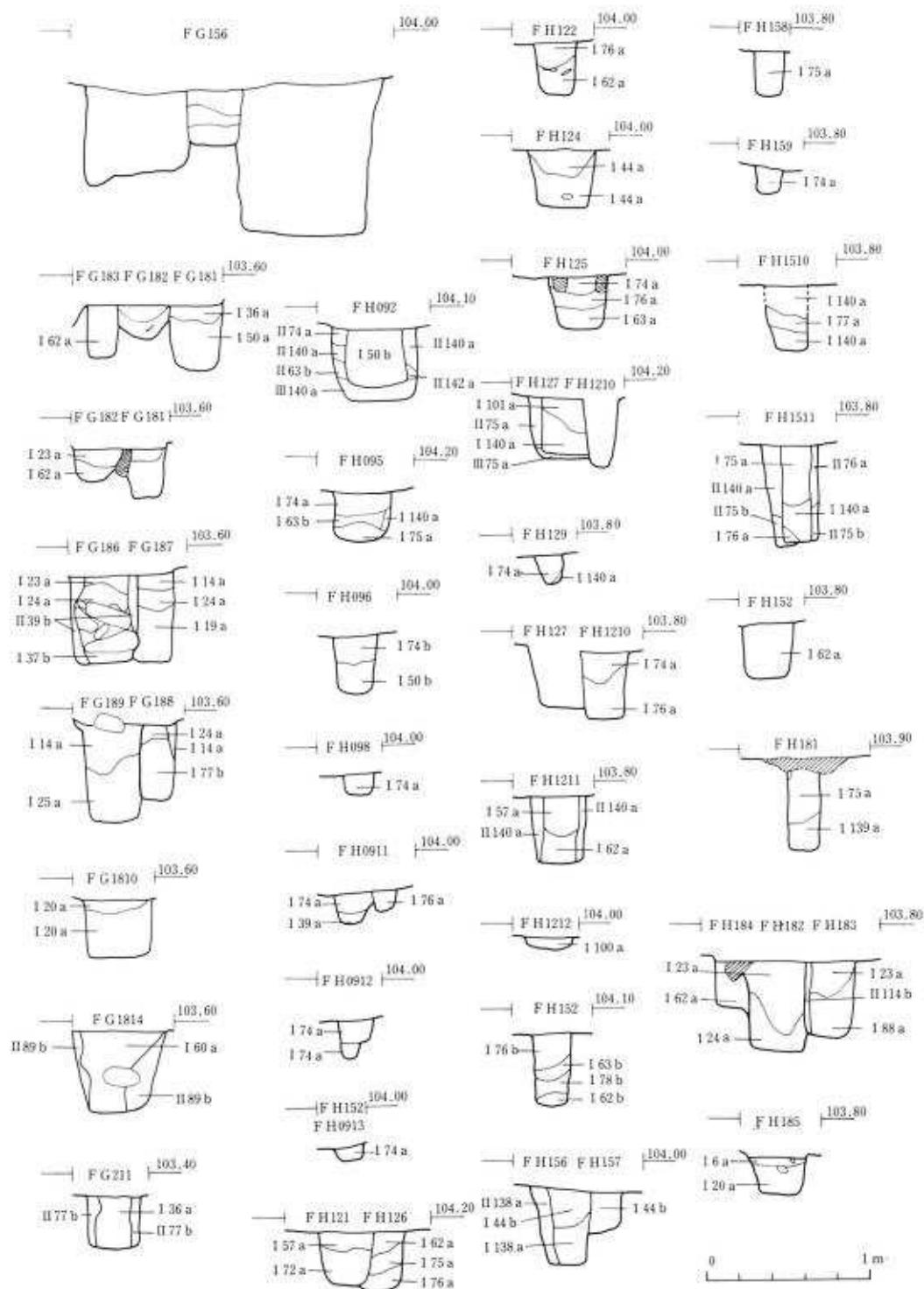
第68図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田遺跡 —



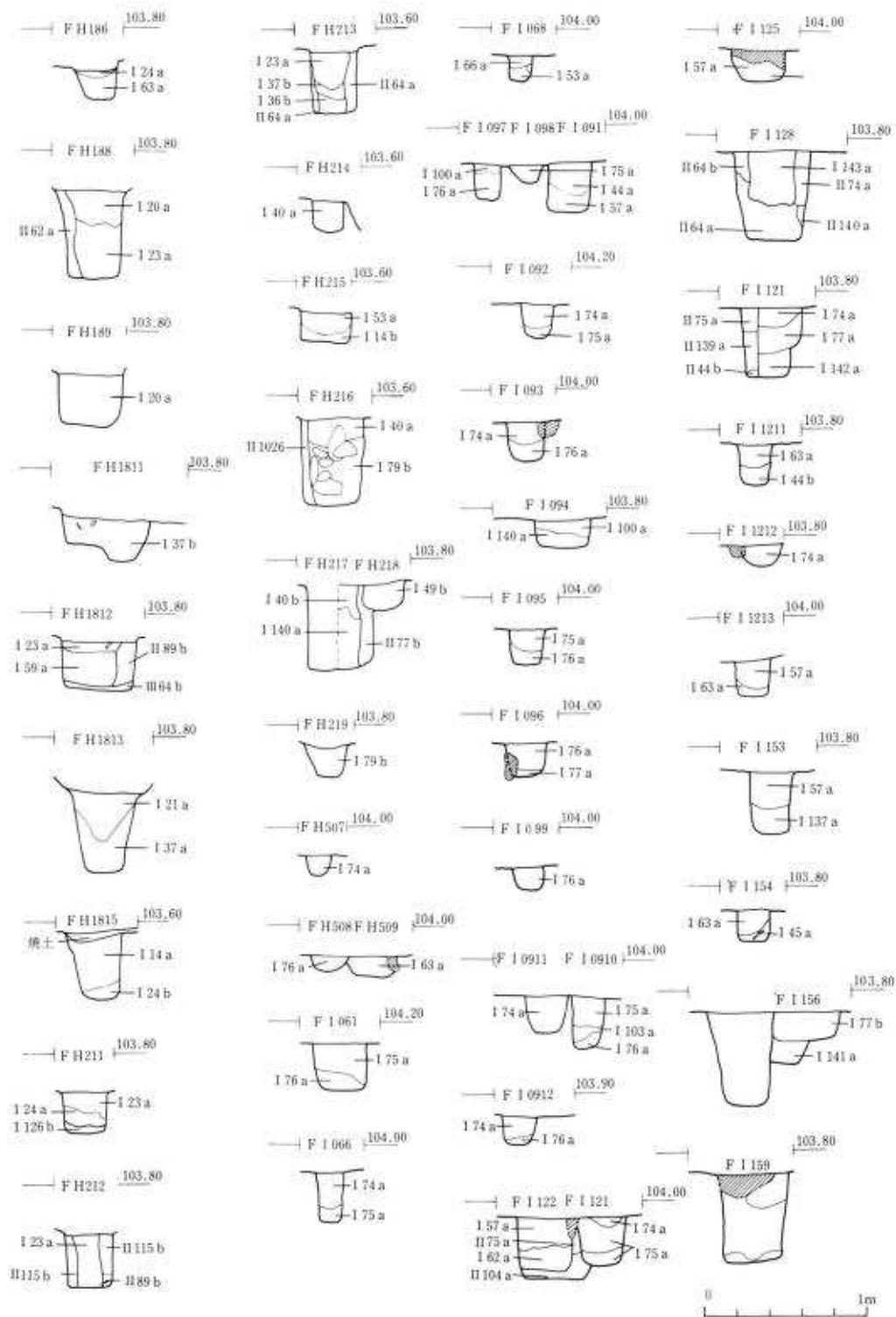
第69図 柱穴状ピット断面図(3)

— 西田遺跡 —



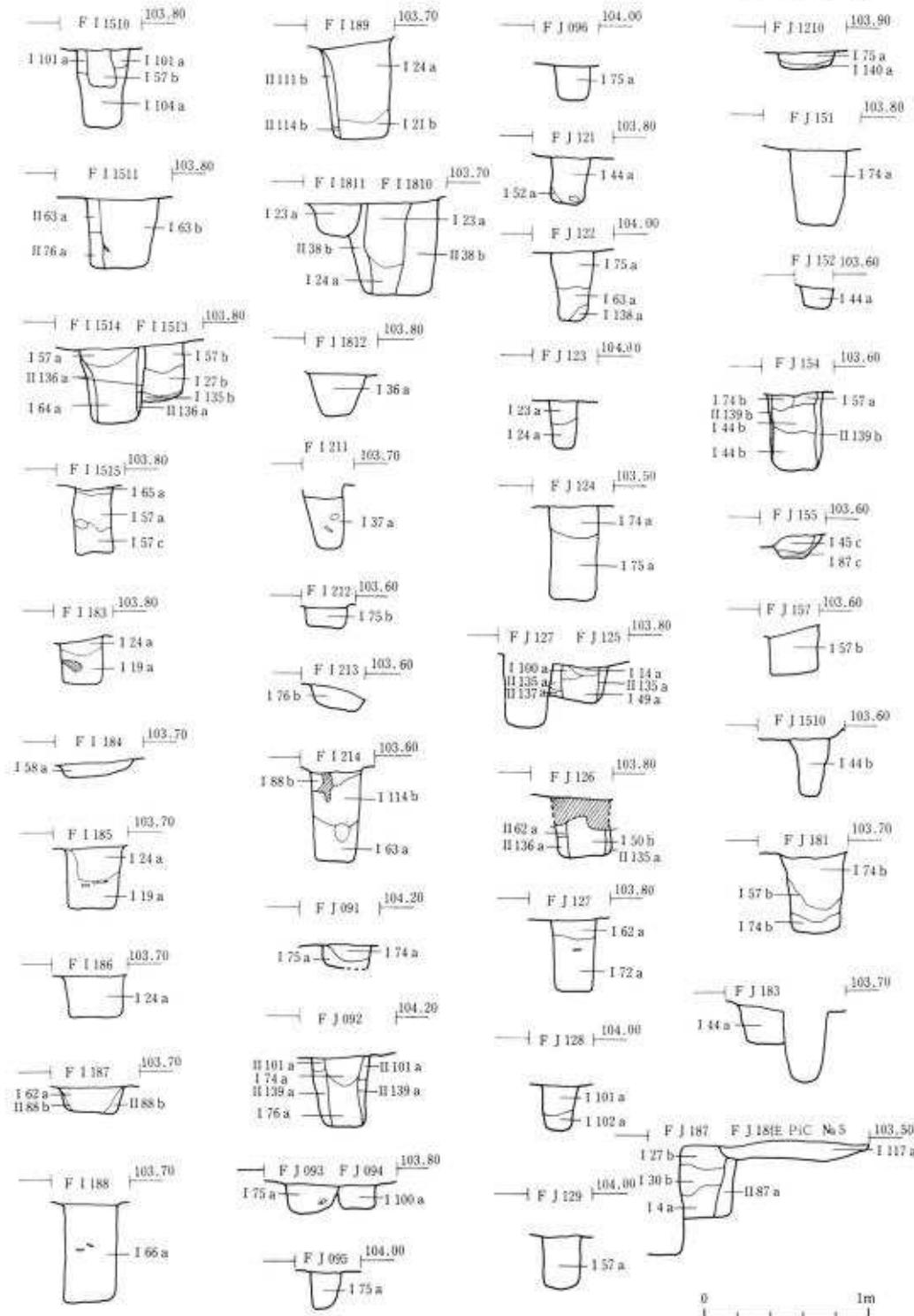
第70図 柱穴状ピット断面図(4)

— 西田 遺 跡 —



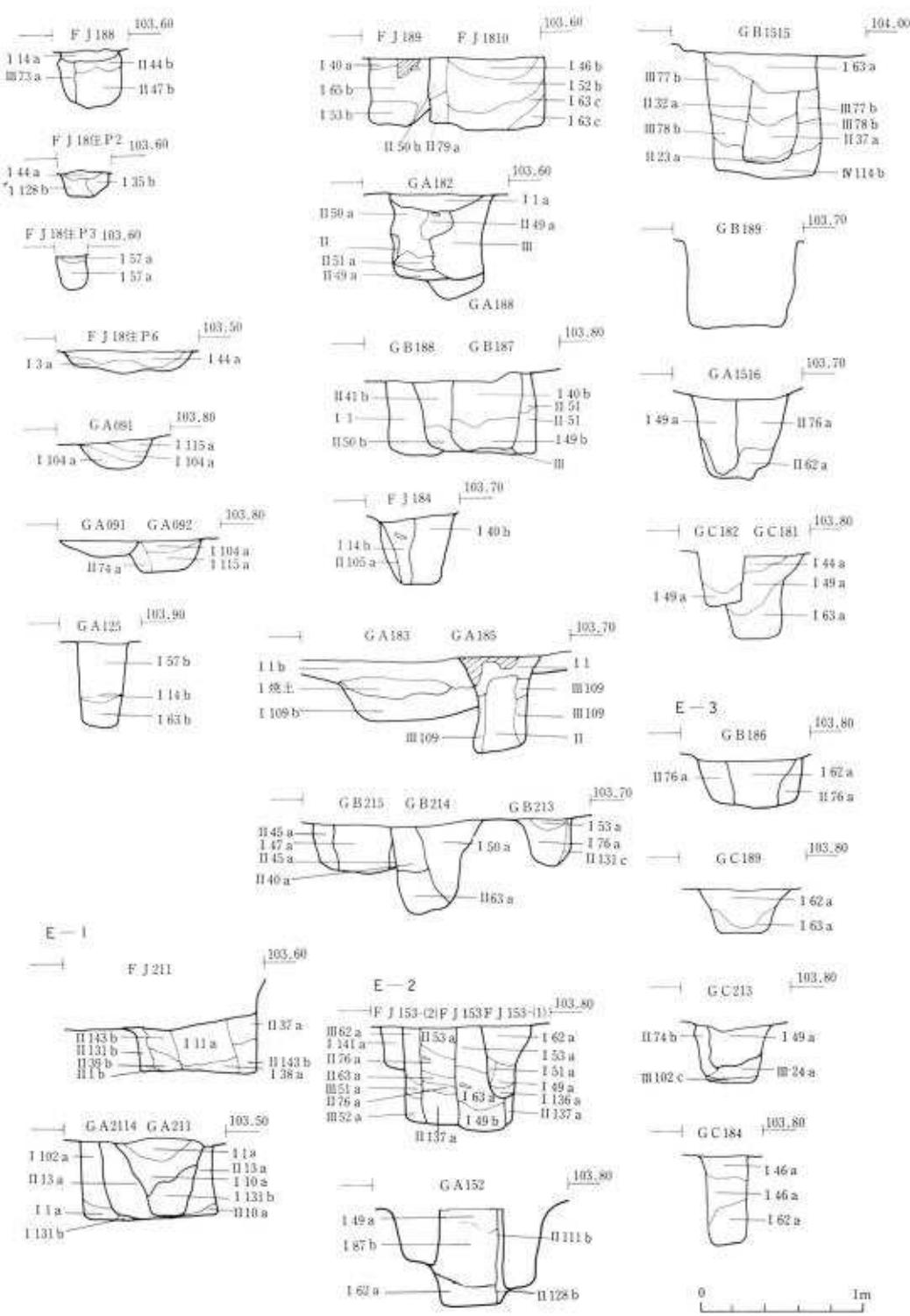
第71図 柱穴状ピット断面図(15)

— 西田遺跡 —

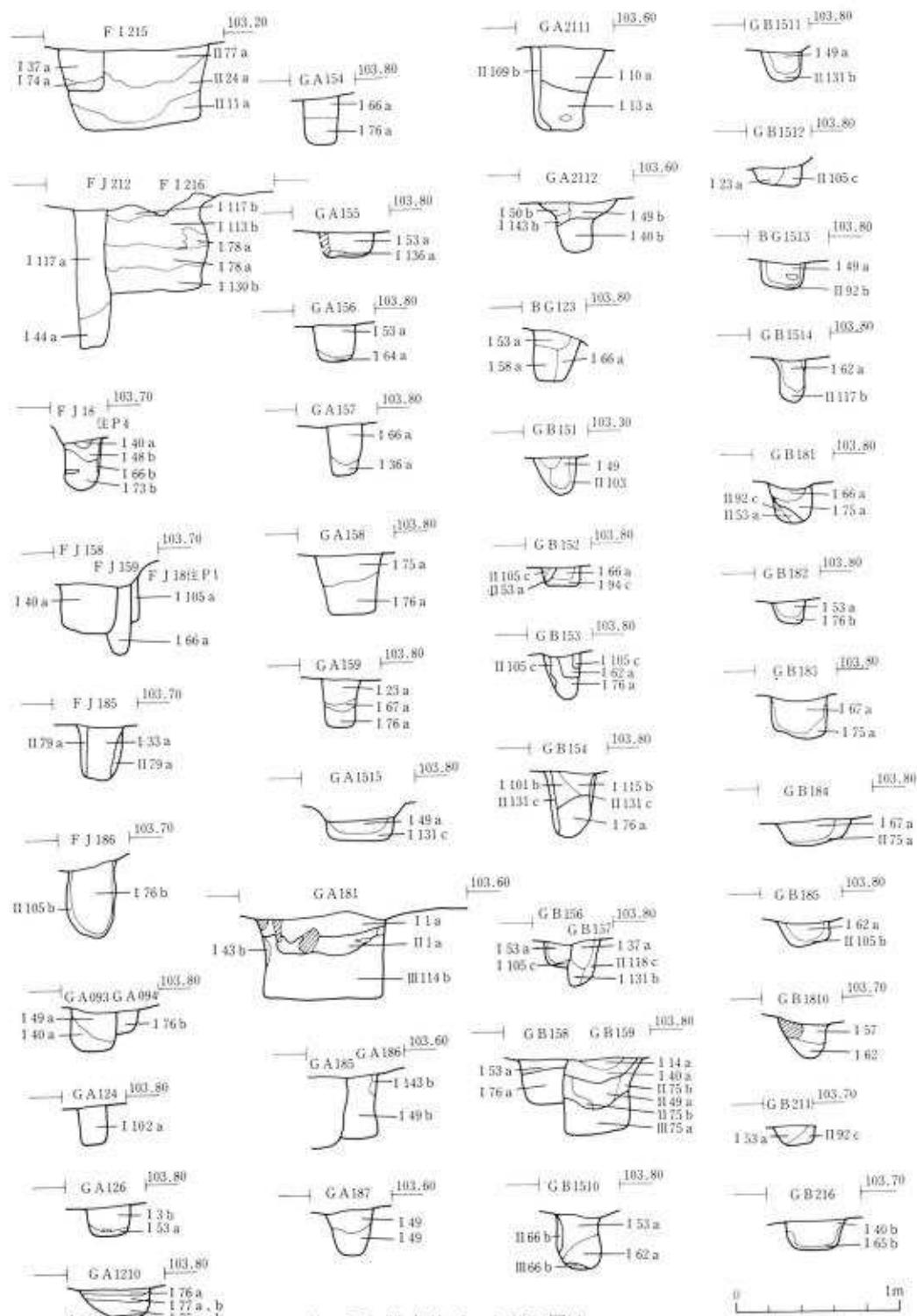


第72図 柱穴状ピット断面図(1)

— 西田遺跡 —

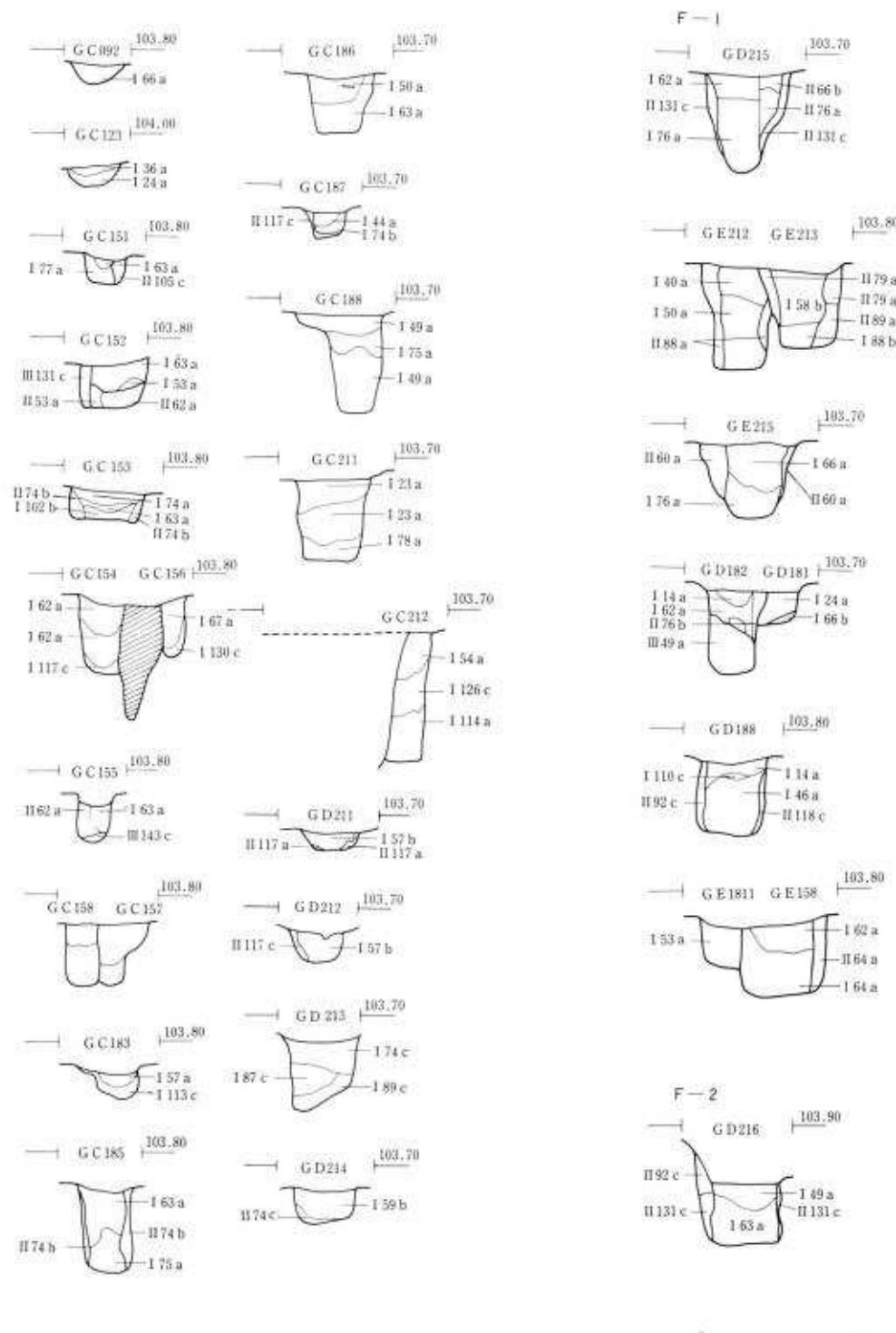


第73図 柱穴状ピット断面図(7)

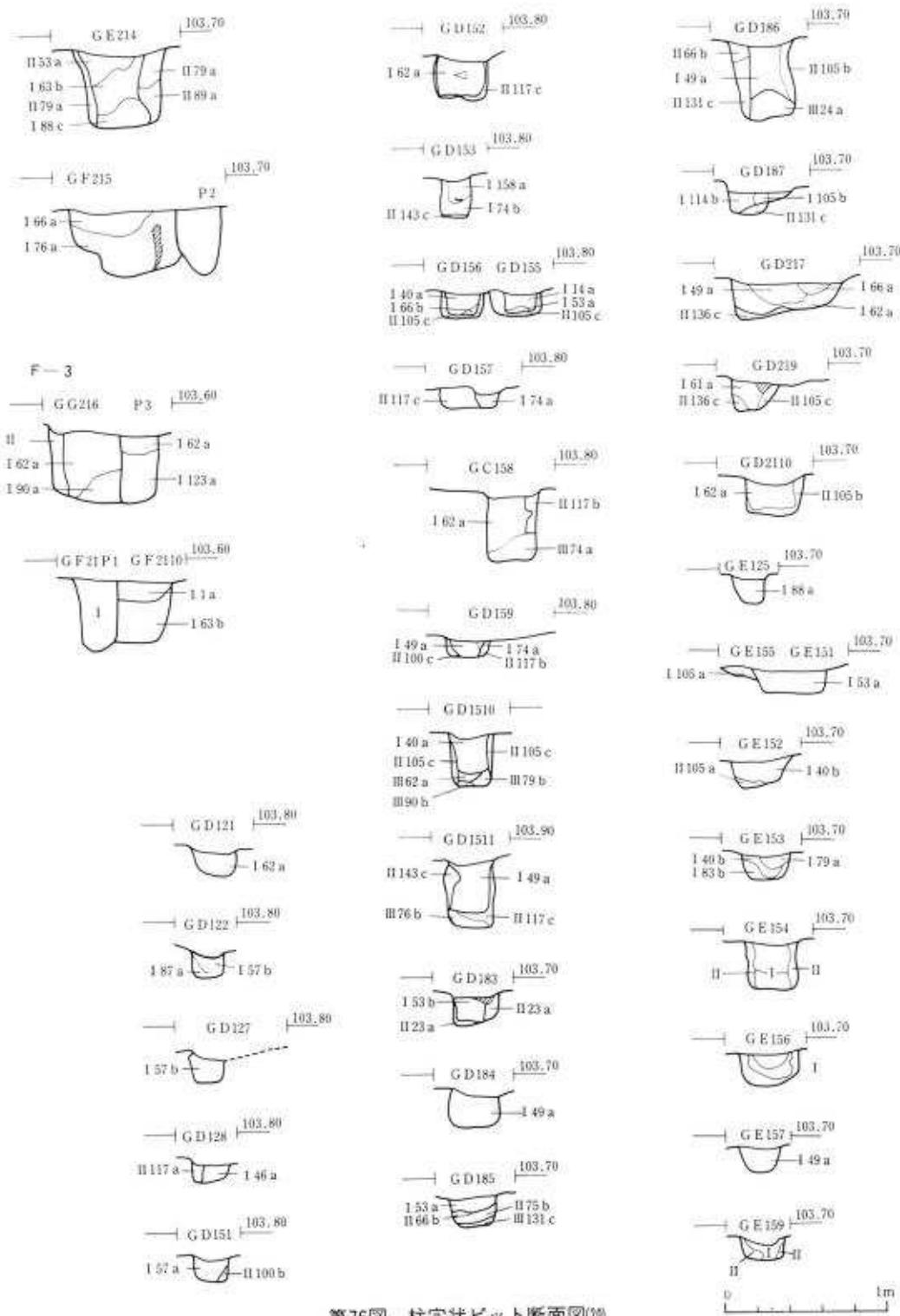


第74図 柱穴状ピット断面図(8)

— 西田遺跡 —

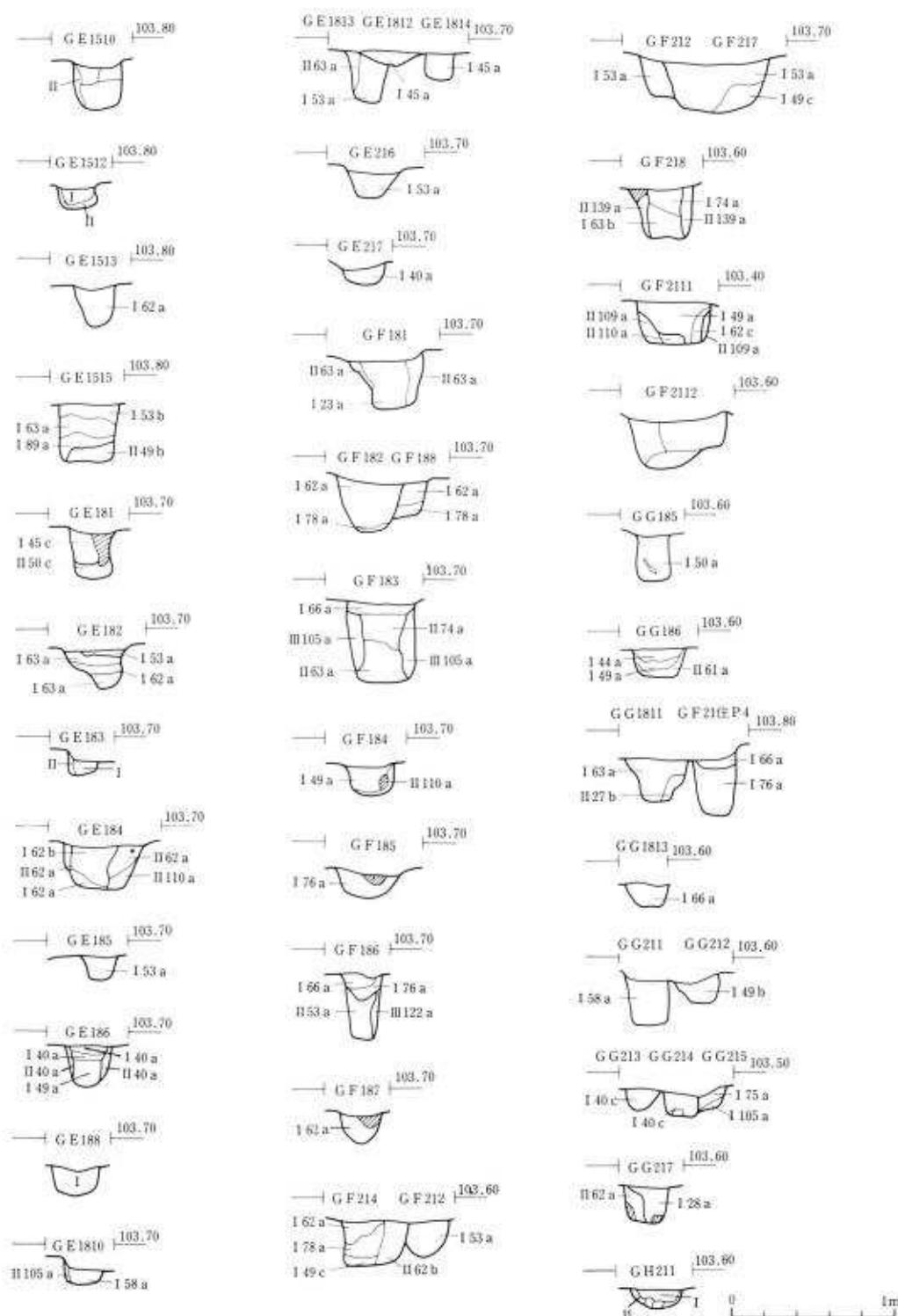


第75図 柱穴状ピット断面図(9)

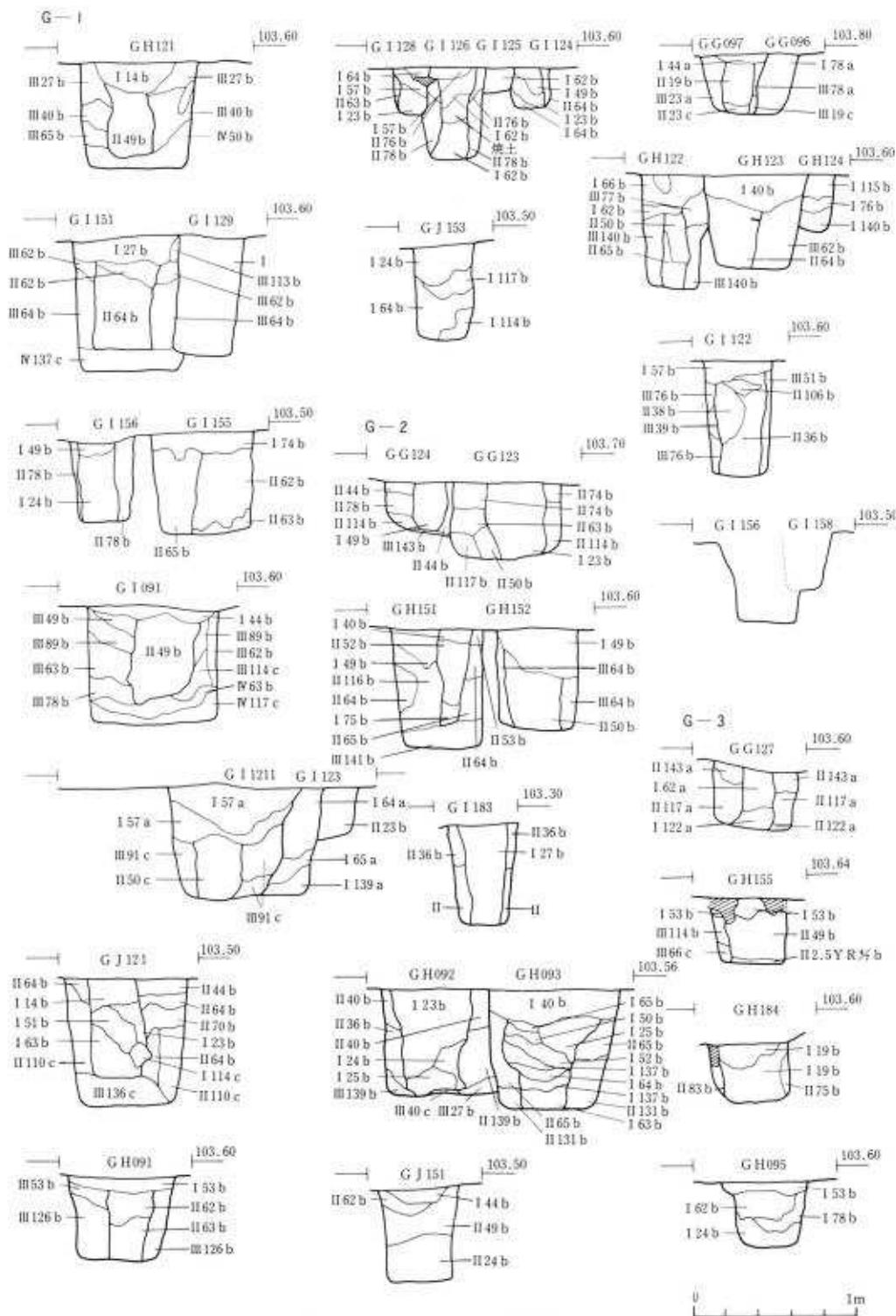


第76図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田遺跡 —

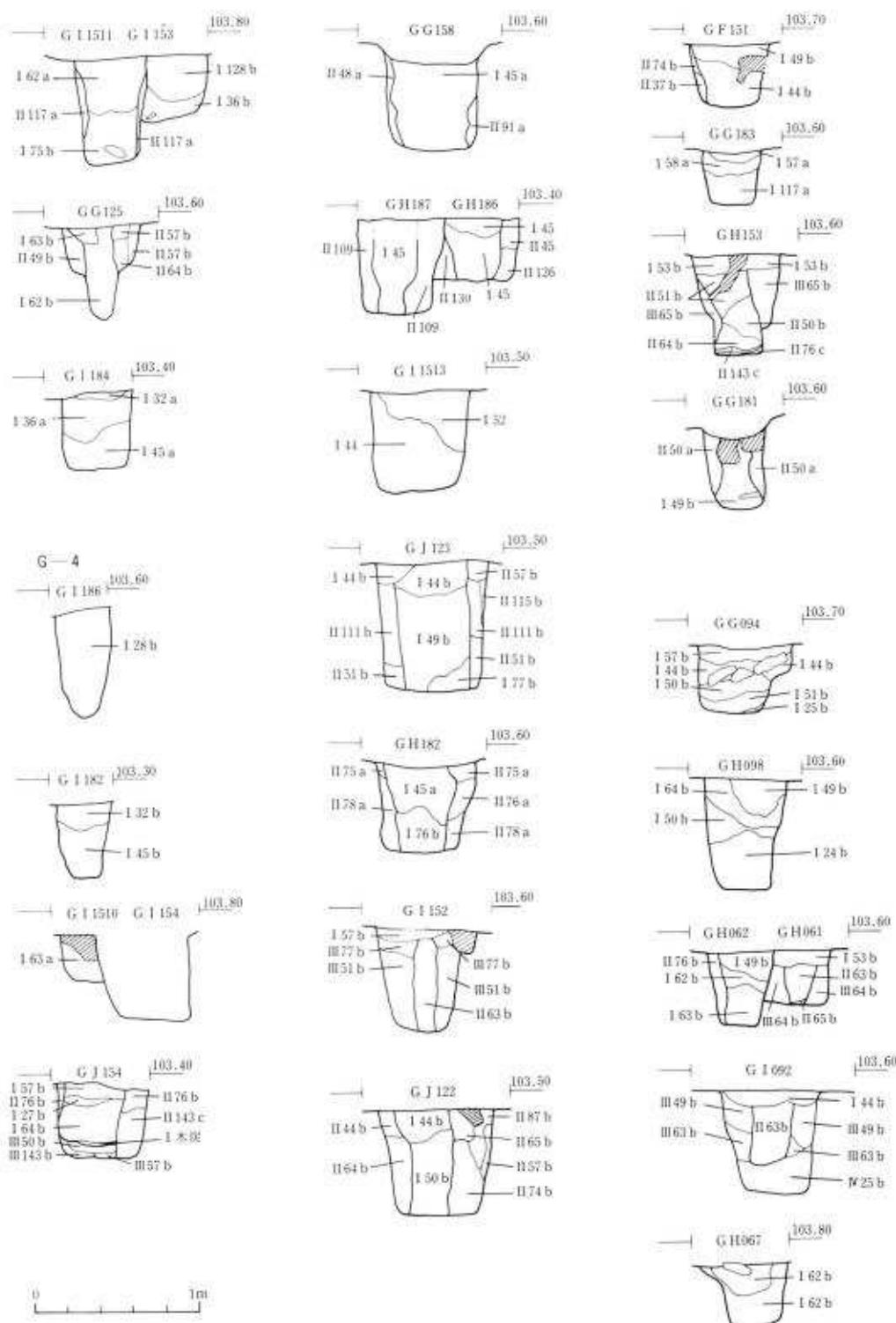


第77図 柱穴状ピット断面図(2)



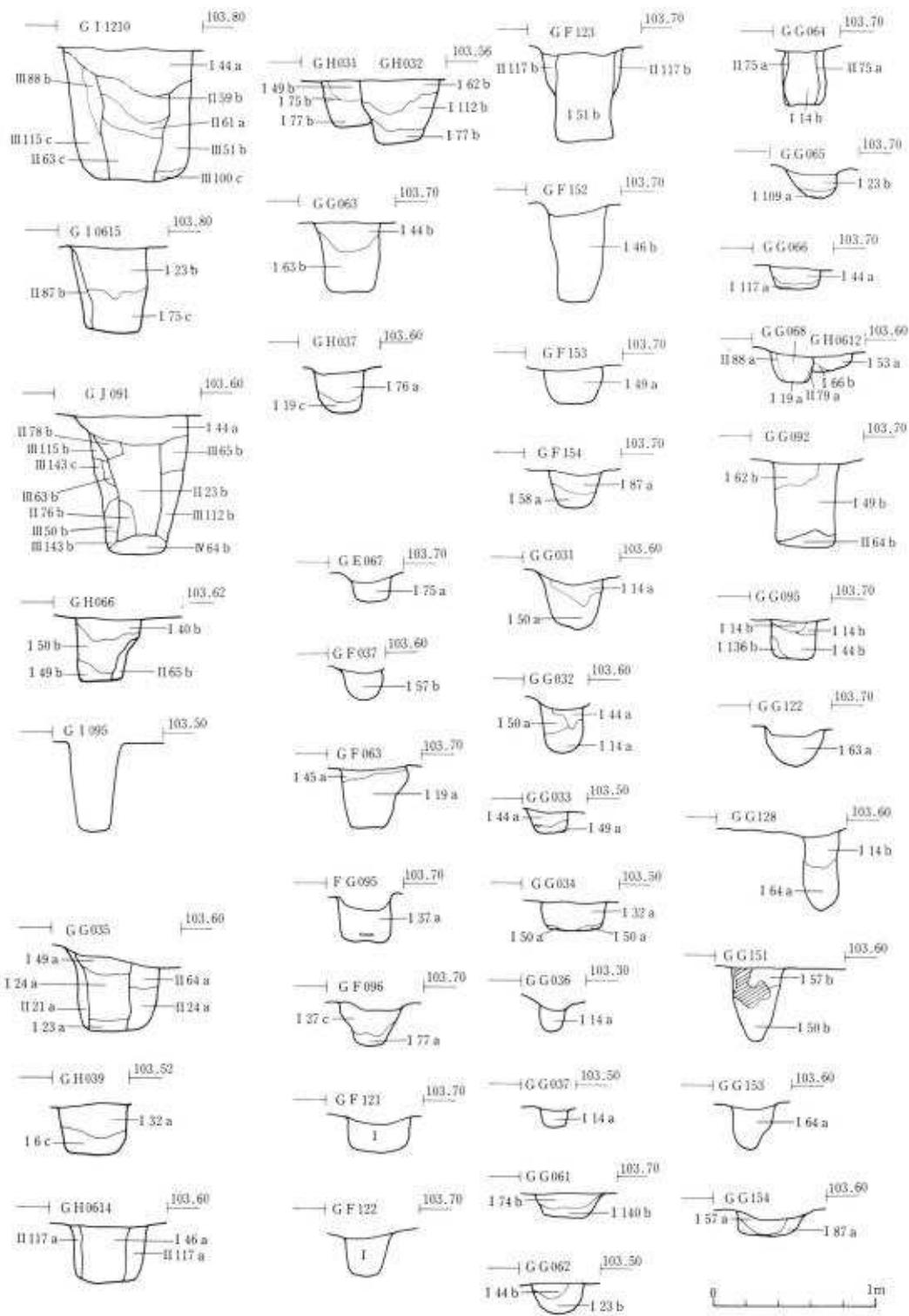
第78図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田遺跡 —



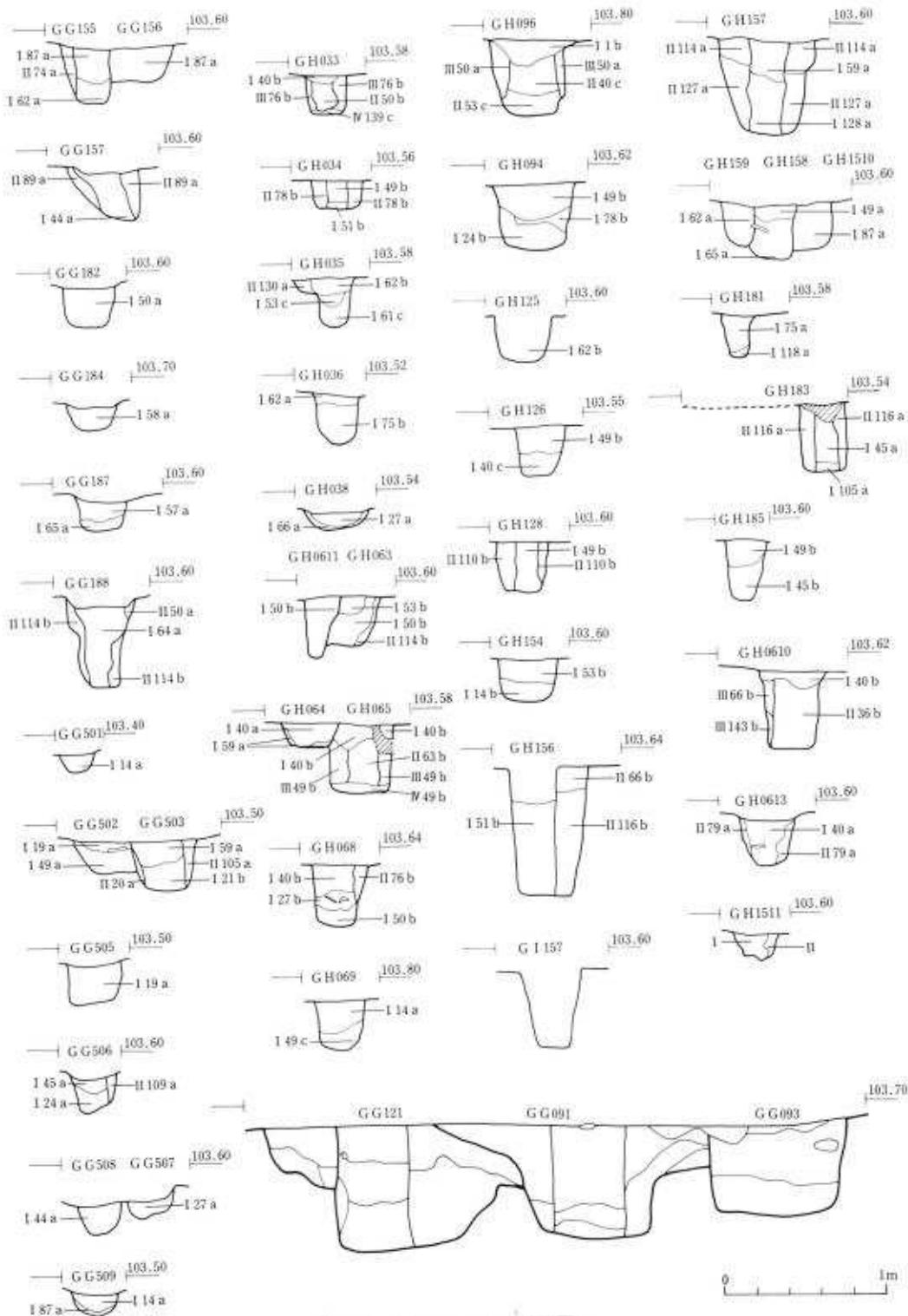
第79図 柱穴状ピット断面図(3)

— 西田遺跡 —



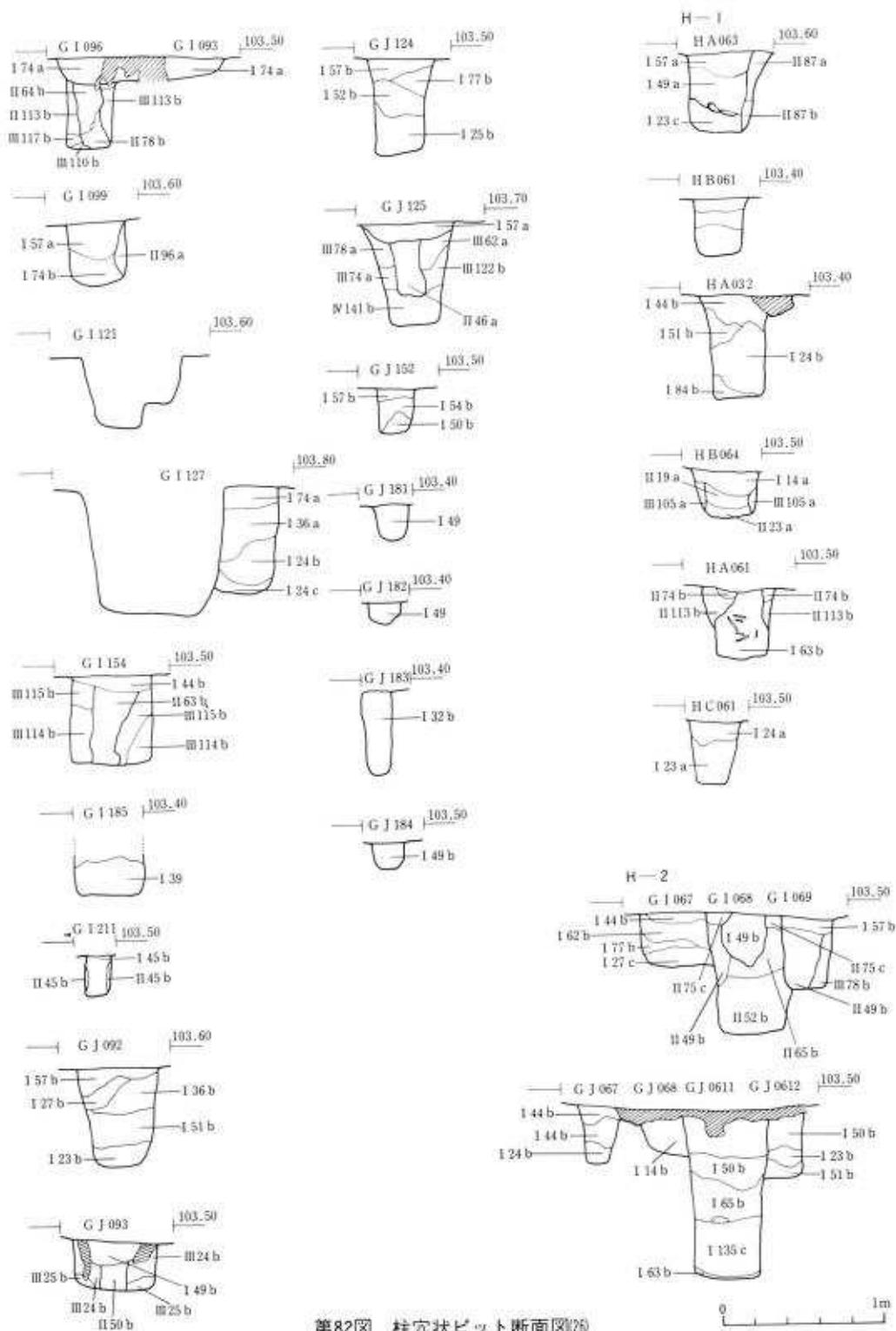
第80図 柱穴状ピット断面図(24)

—西田遺跡—



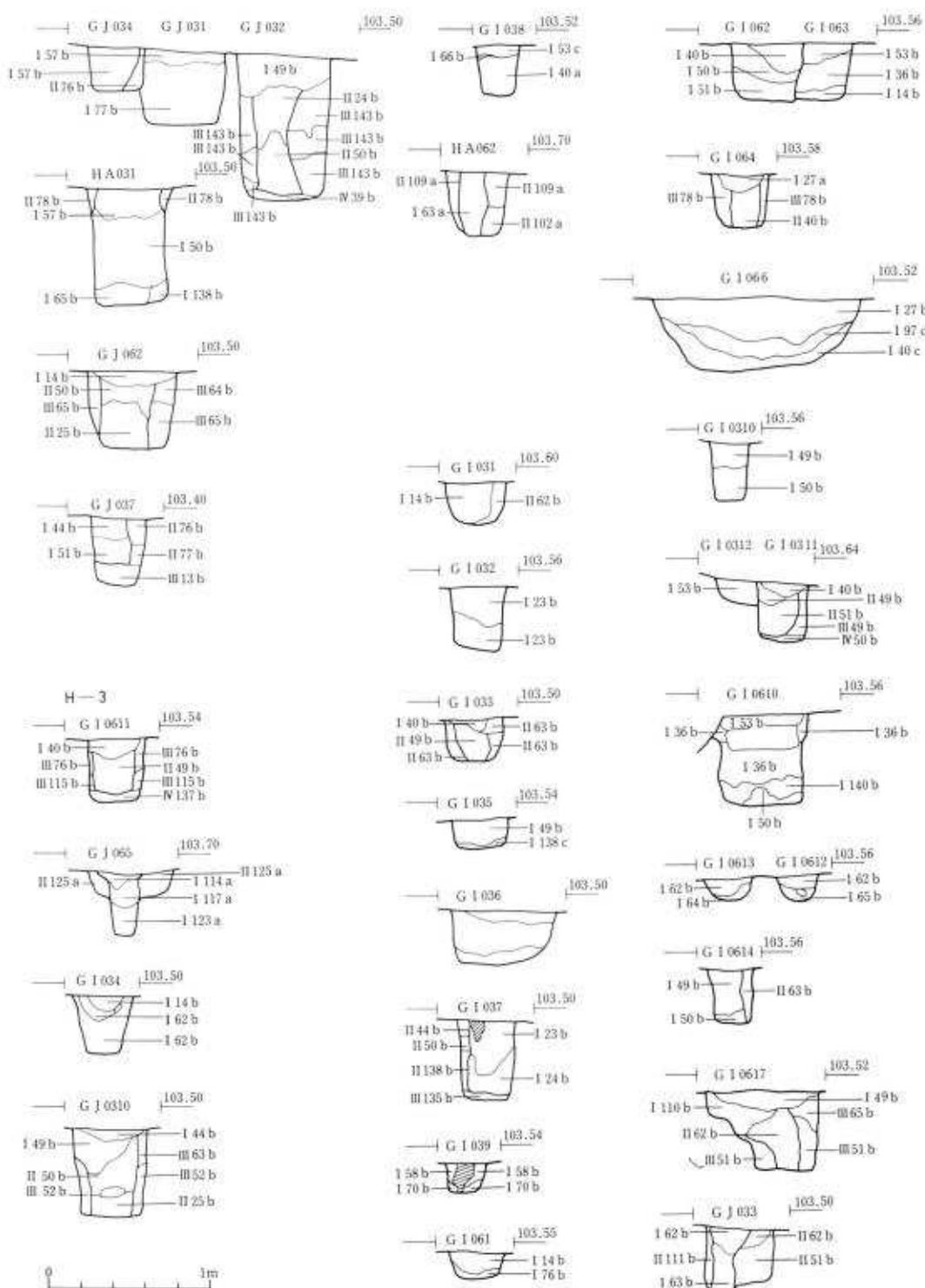
第81図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田遺跡 —

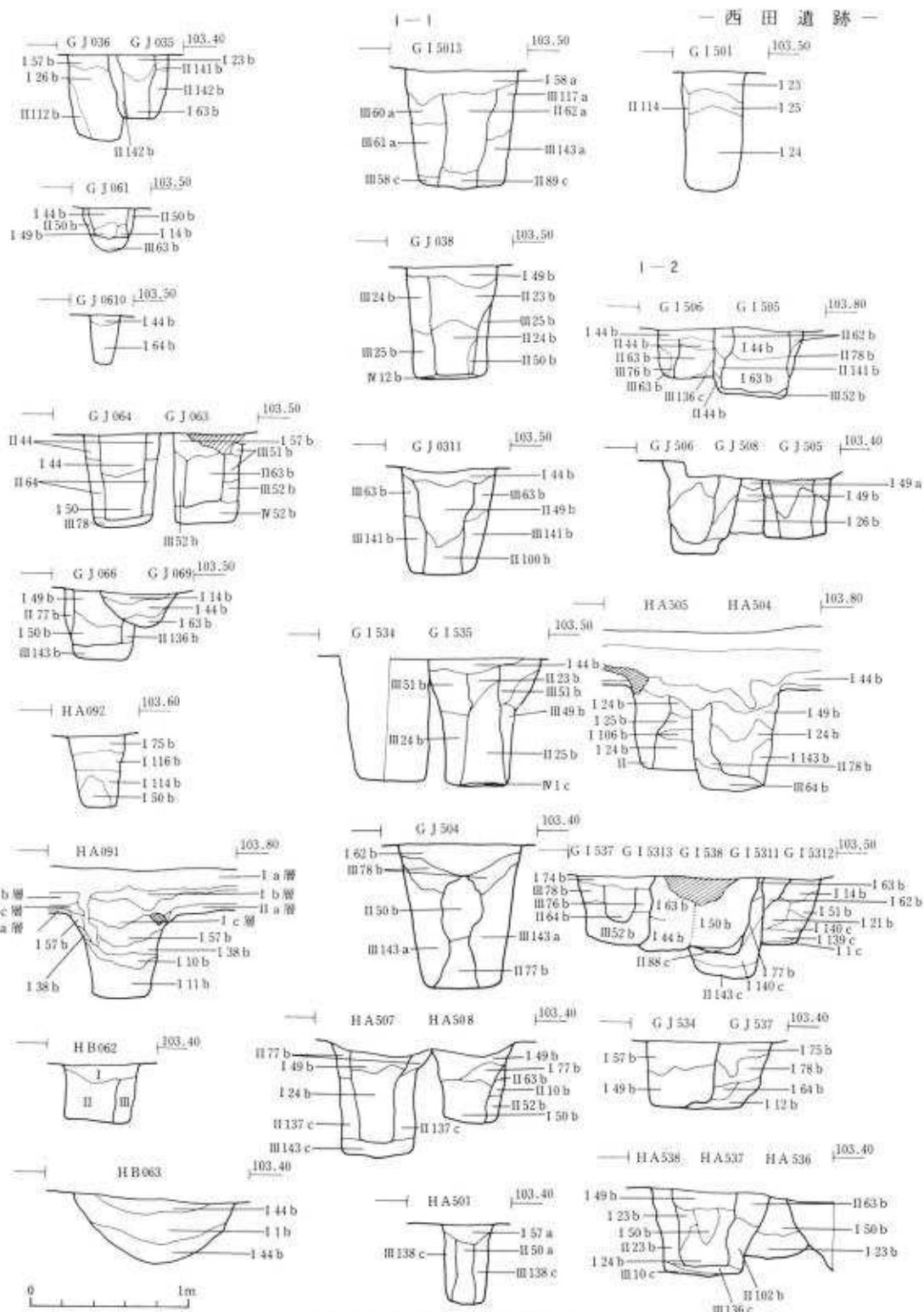


第82図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田 遺 跡 —

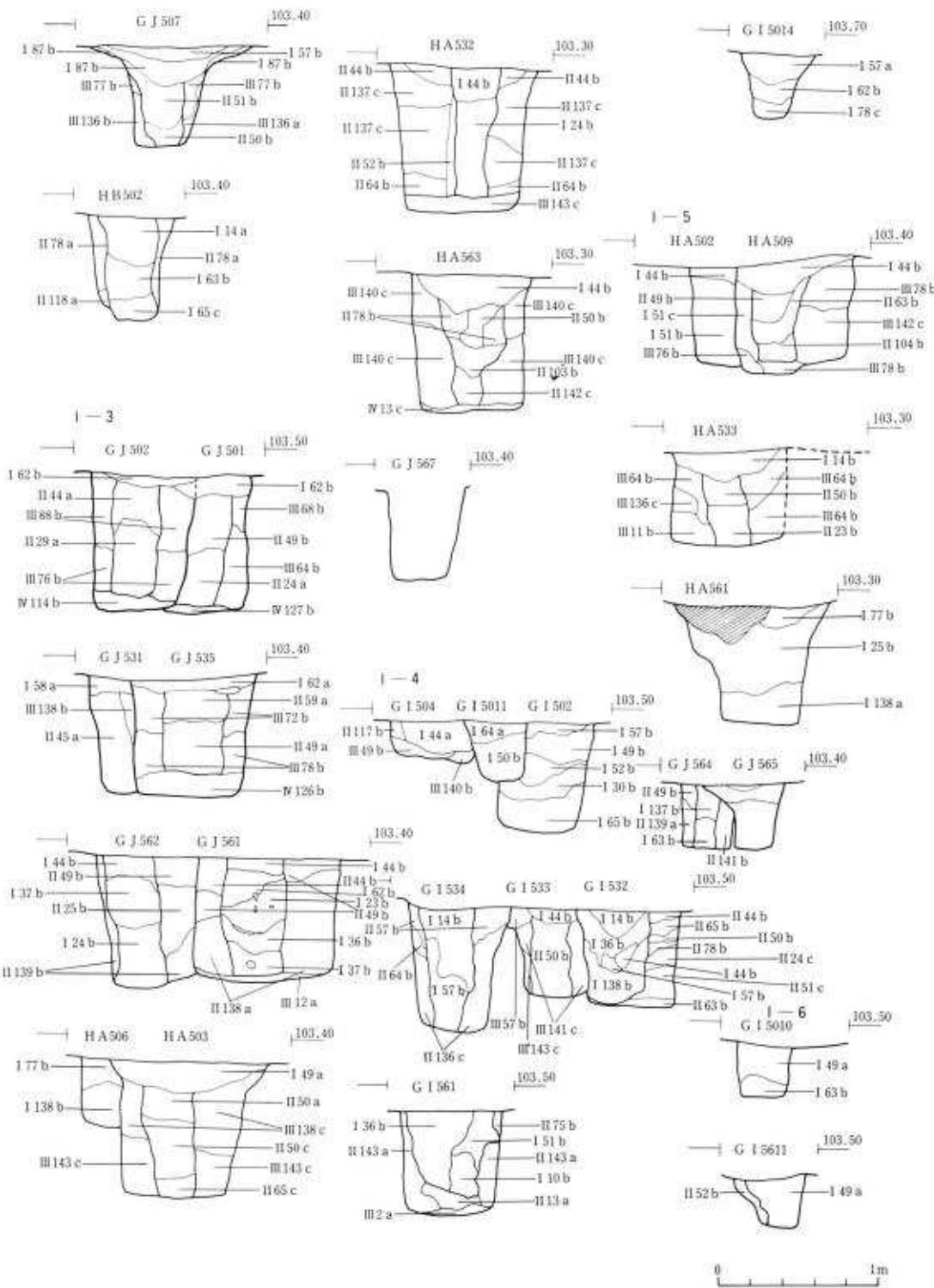


第83図 柱穴状ピット断面図(2)



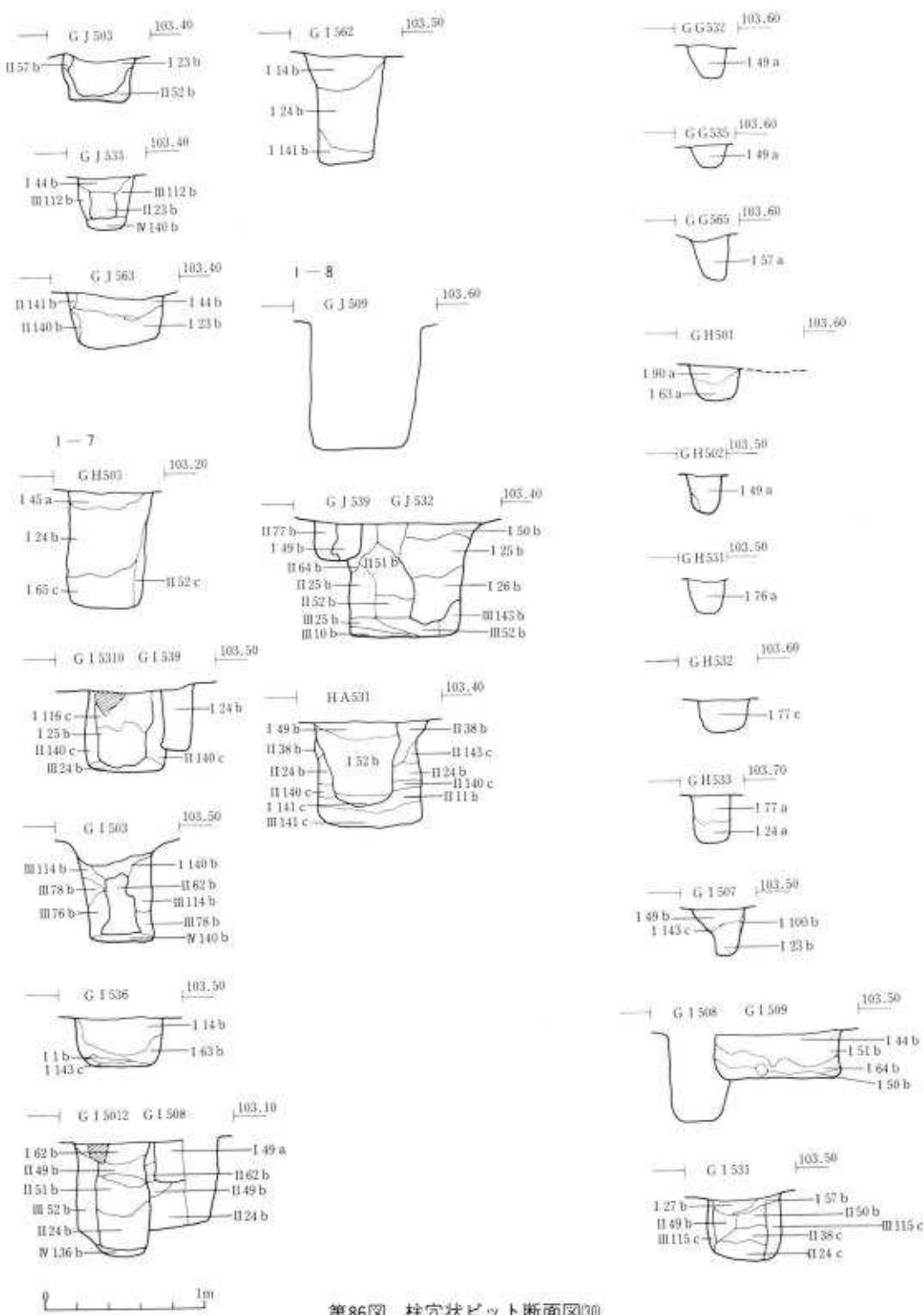
第84図 柱穴状ピット断面図(2)

—西田遺跡—



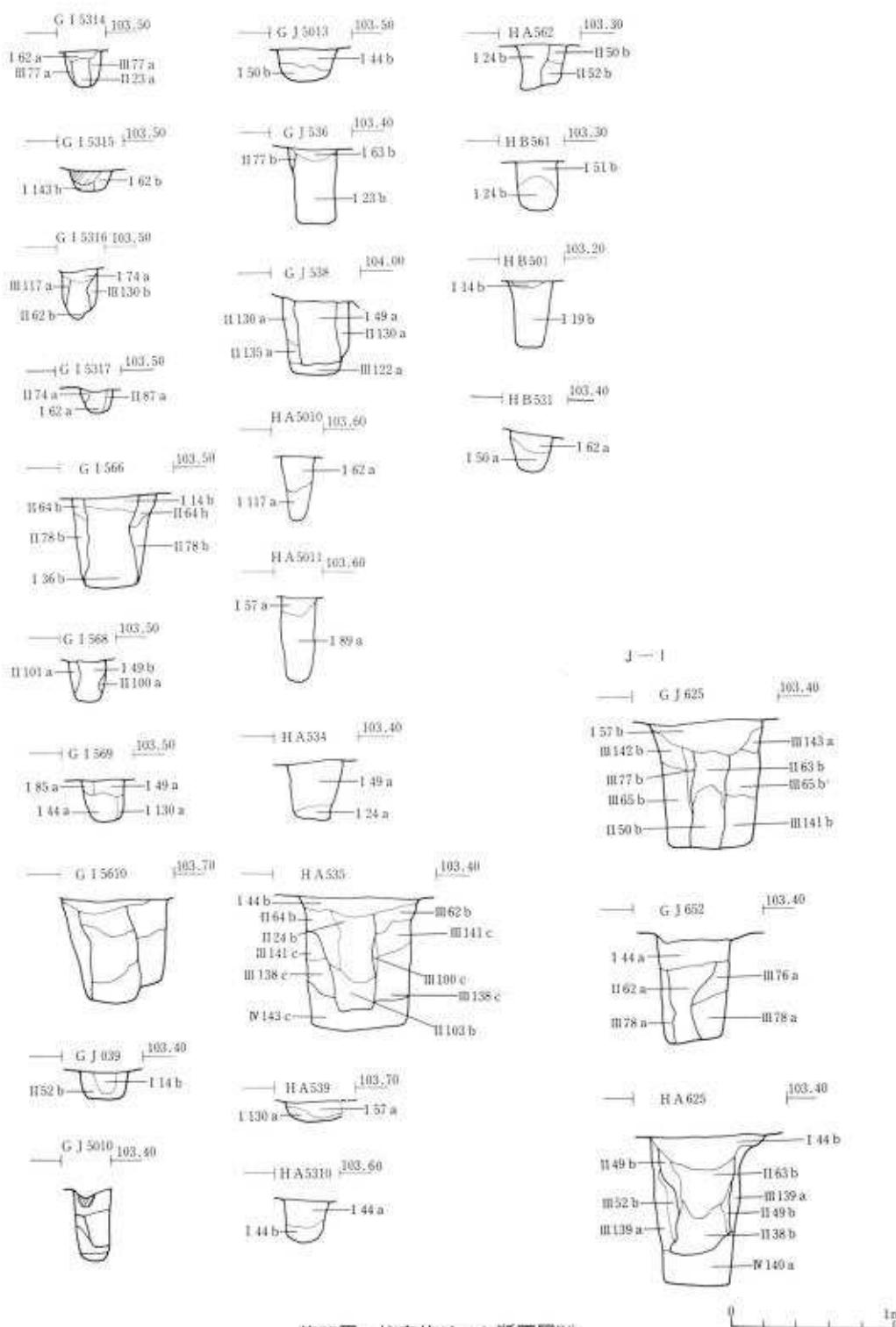
第85図 柱穴状ピット断面図(2)

— 西田遺跡 —



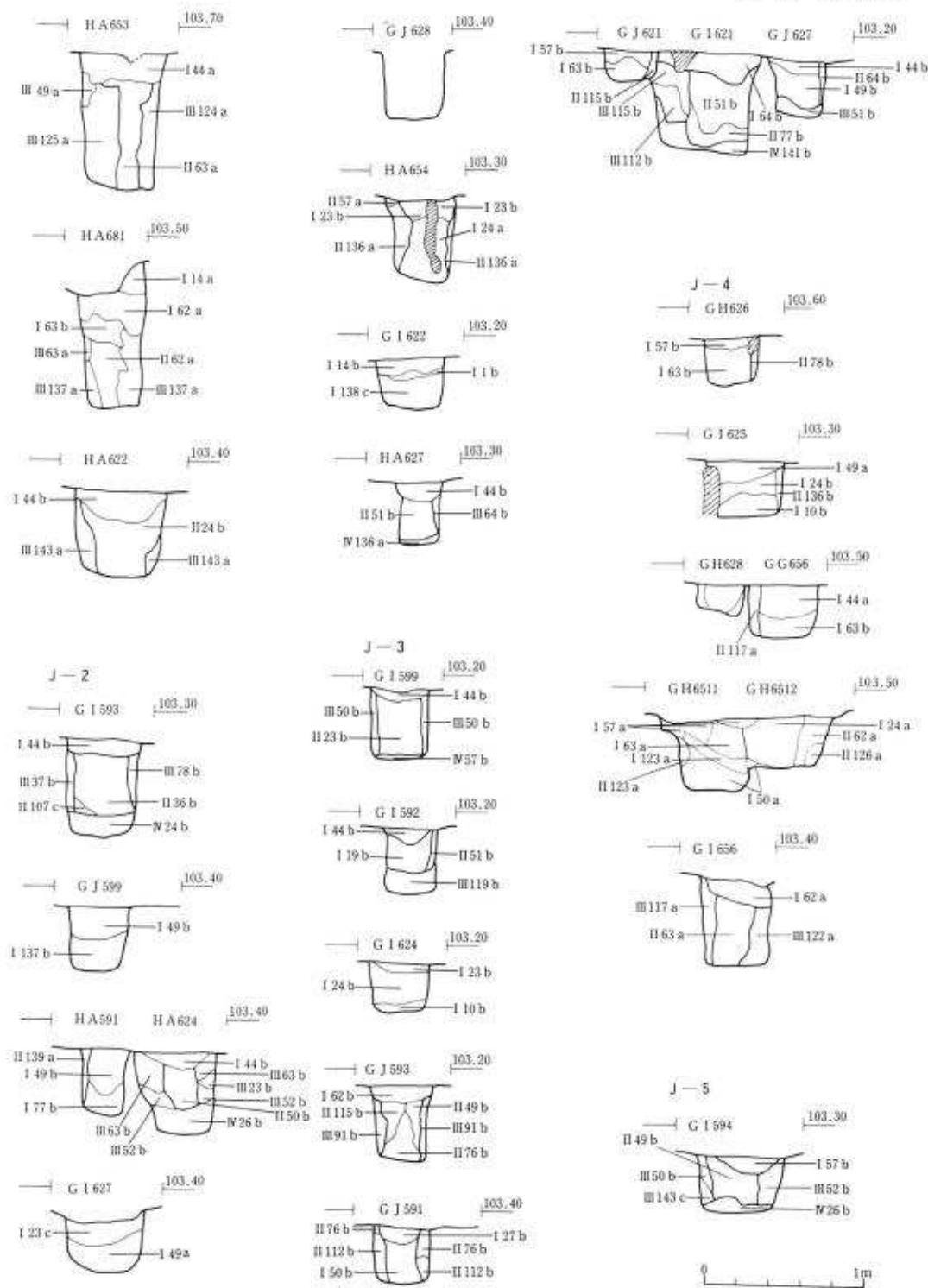
第86図 柱穴状ピット断面図(30)

— 西田遺跡 —



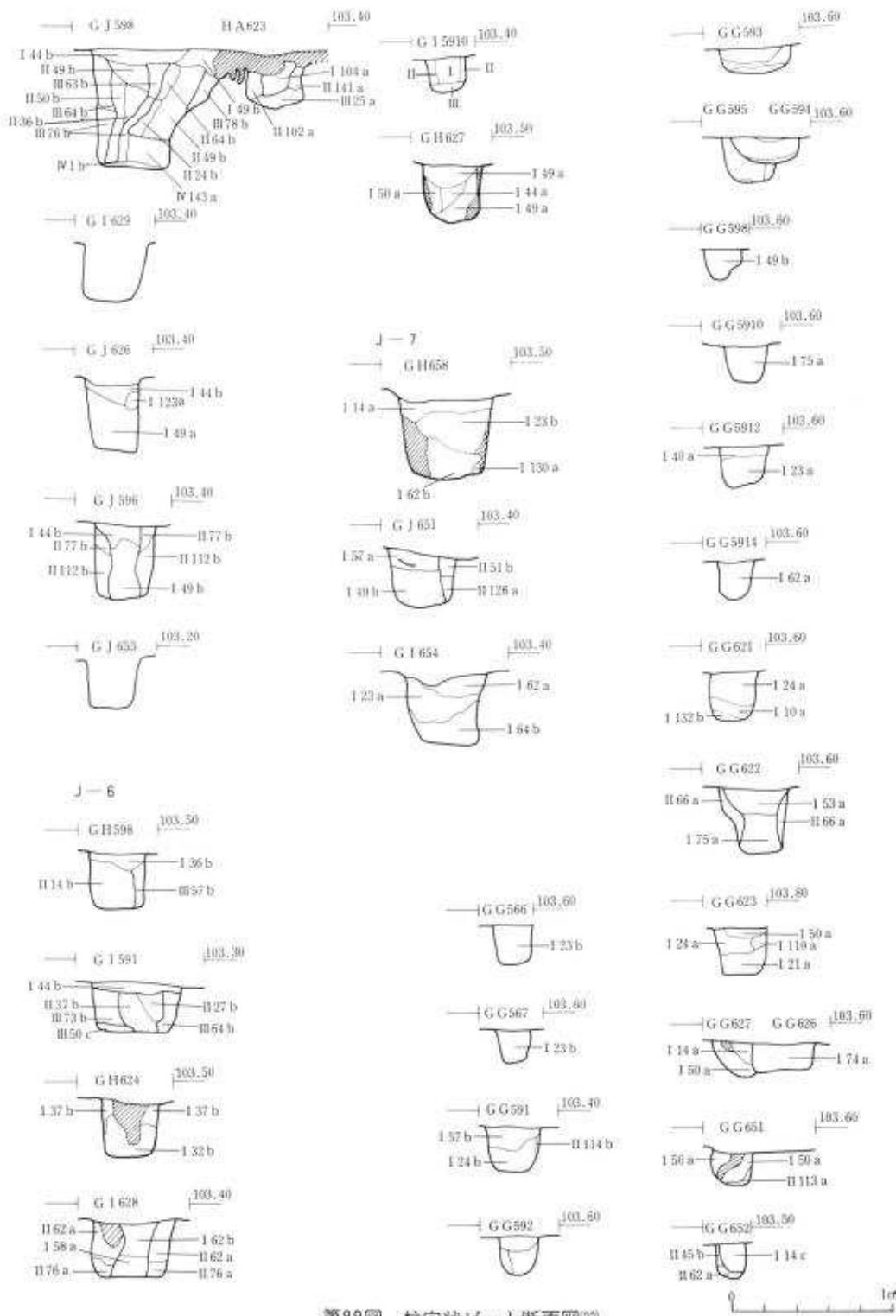
第87図 柱穴状ピット断面図(3)

— 西田遺跡 —

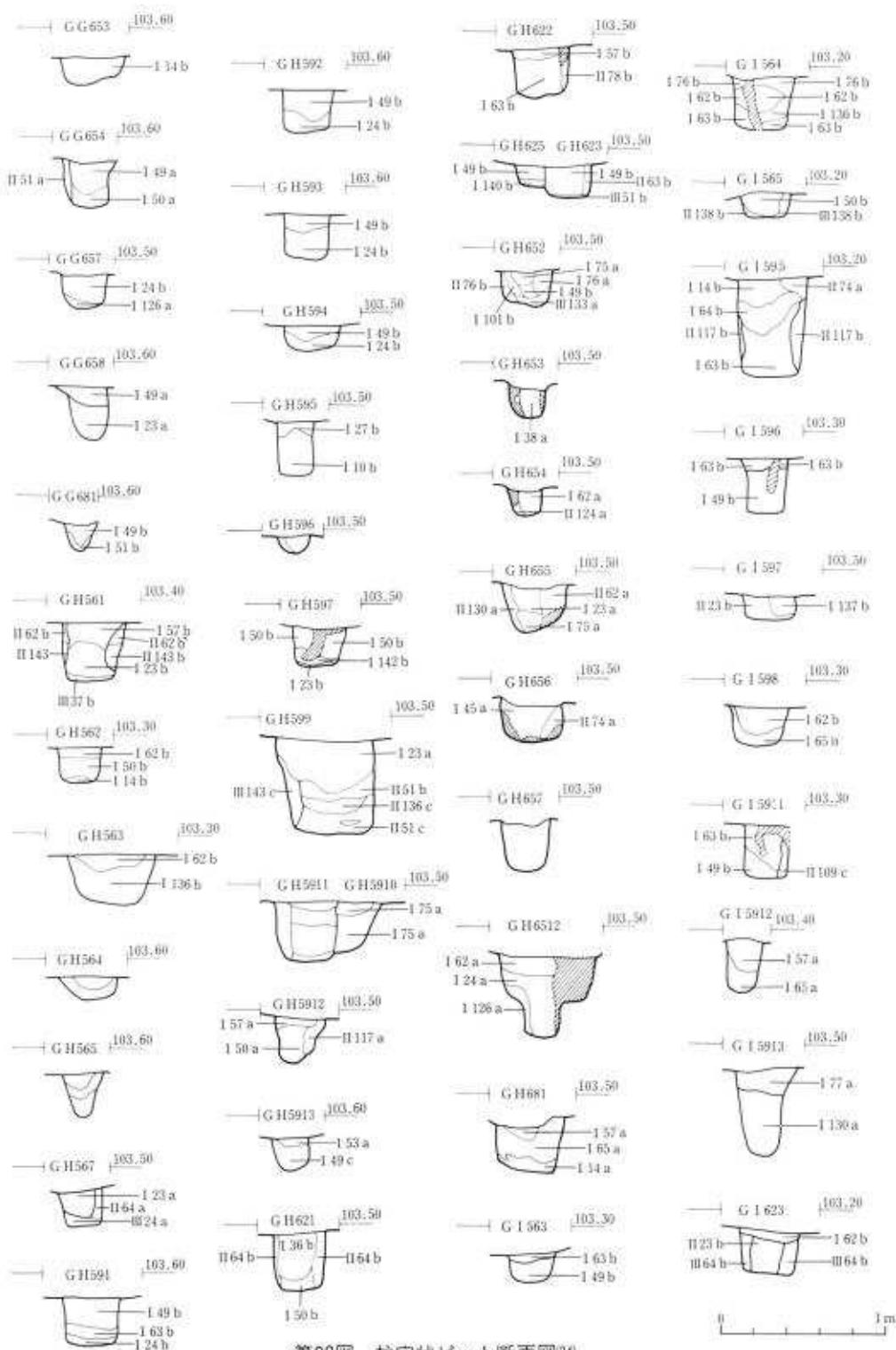


第88図 柱穴状ピット断面図(3)

— 西田遺跡 —

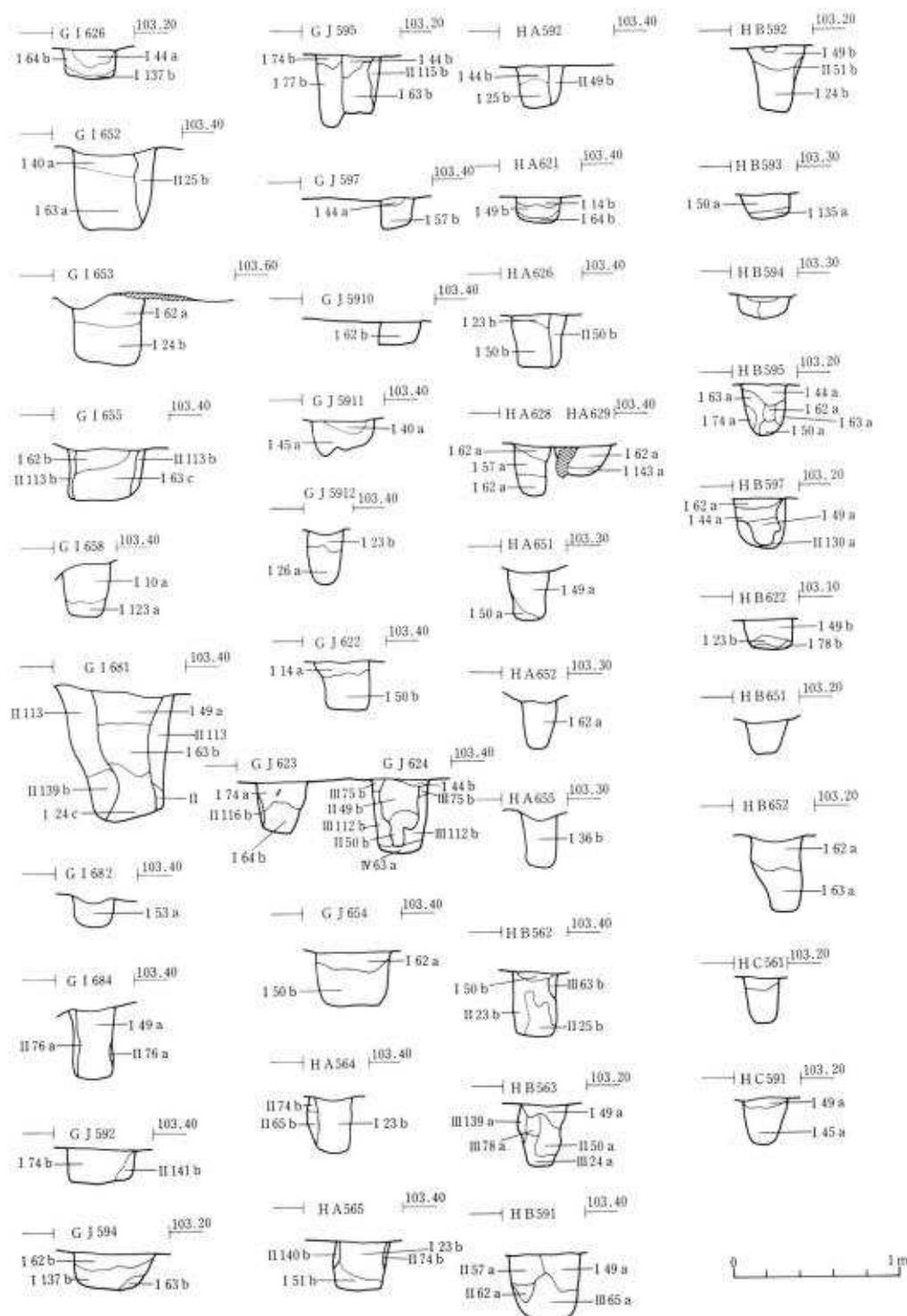


第89図 柱穴状ピット断面図(33)



第90図 柱穴状ピット断面図(34)

— 西田 遺跡 —



第91図 柱穴状ピット断面図35)

第6表 環状柱穴列の柱穴規模・重複関係一覧表

A群

註 重複関係は次の表示で現わす。

新<旧、旧>新 >、<>の記号のないものは重複関係が不明瞭なものである。

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
A群					
F B 623	25×24×22		F F 597	36×22×20	
651	23×20×8		598	20×18×16	<FF 595
652	27×25×30		599		<FF 625
653	24×26×25		621	80×70×88	<FF 624
654	40×35×		622	70×64×76	
F C 621	70×52×38		623	40×40×56	<FF 624・FF 626
622	30×28×28		624	44×42×110	>FF 623・FF 626
651	30×28×18		625	70×70×66	>FF 625
652	30×28×8	FC 655	626		FF 623・FF 624
653	24×24×6		627	24×22×14	FF 628・629
654	26×26×12		628	26×20×24	FF 627・629
F D 592	28×26×20		629	28×24×18	FF 627・628
621		FD 621 住居跡	6210	28×26×20	
622			6211		FF 593
651		FD 652(F)	651	74×72×44	FE 653
F E 591	100×76×40	<FE 5910	653	39×32×34	
593	(32×)28×18	FE 598	654	20×18×24	
594			681	80×74×58	
595	46×40×44		F G 561	78×68×66	>FG 563・<FG 5611
596	(20×)16×16	<FE 592(F)	562		
597		FE 599	563		FG 56
598		FE 593	564		
599	16×14×22	FF 597	565	28×24×10	<FG 566・FG 5613
621		FE 622・>FE 628	566	28×26×32	>FG 564
622		FE 621・FE 628	567	10×8×36	
623	24×22×24		568		
624			569	28×24×30	
625	(26×)20×42	FE 593(F)	5610	—×73×62	
626	24×18×4		5611	58×58×38	>FG 561
627			5612	16×16×20	
628		FE 621・622・593(F)	5613	20×20×10	FG 565
651	78×76×70	FE 652・653	5614	16×16×16	
652	32×14×42	FE 651・653	5615	36×28×24	
653	66×48×68	FE 651・652・FF 651	591	30×20×28	
F F 562		>FF 564	592	68×64×68	
563	38×38×30		593	58×20×76	FG 5911
564	(120)×86×54	<FF 562	594	18×(18×12)	>FG 595
568	78×54×39	FF 569	595	24×22×32	<FG 594
569	78×52×46	FF 568	596		FG 597
591	46×34×48	FE 598	597	28×28×14	FG 596
592	32×30×30		598	24×20×8	
593	110×92×82	FF 6211	599	18×16×24	FG 5912
594	30×26×22		5910	32×28×42	
595	(80)×60×56	>FF 599	5911		FG 593
596	18×18×12		5912		

— 西田遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FG 5913	20×20×12		FA 592	30×30×15	
621	40×40×34		FB 502	27×25×40	
622	68×68×88	>FG 624	503	85×78×45	
623	76×62×66	FG 627	504	33×27×55	
624	44×22×42	<FG 622	505	70×18×	
625	26×24×40		621	24×24×17	
626	36×30×40		622	18×15×8	
627	44×38×20	FG 623	FC 505		
651	72×68×84		506	25×20×	
652		FG 653・658・659	531	42×42×52	
653	60×48×18	FG 652・654	562	42×38×66	FB 56土壤墓
654	36×32×20	FG 653	FD 501	20×20×38	FC 502
655	44×36×66		502	42×24×10	FC 502
656	34×26×36	FG 657	503		FC 502
657		FG 656・6510・6511	504		
658	34×34×66	FG 652・659	505		
659	48×34×16	FG 652・658	506		
6510	36×22×32	FG 657・6511	507	20×16×38	
6511	48×34×32	FG 657・6511	531	60×39×54	<FD 533
6512	28×14×26	重複ピットか	532	46×36×25	
681	44×36×18		533	44×28×24	>FD 531
682	54×52×54		534	52×46×72	
FH 561	16×14×22	<FH 562	535	46×24×32	>FD 536
562	16×14×28	>FH 561	536	26×16×40	<FD 535
563		FH 566土壤墓	537	22×22×24	
564			538	30×26×46	<FD 539
565			539	22×18×32	>FD 538
591	34×30×44		5310	20×19×14	
592			5311	16×14×10	
593	22×20×12		5312	25×20×16	
594	20×18×18		561	58×40×34	<FD 563
595	20×20×20		562	98×84×40	
596	42×38×48		FD 563	24×24×24	>FD 561
598	20×20×12		564	20×14×16	
599	18×18×24		565	26×24×15	
622	32×26×22		566	20×20×9	
623	26×22×24		591		
624	24×(24×10)		594		FD 593(F)
652	30×(30×34)		595		FD 593(F)
653	40×22×30	>FH 654	596		FD 593(F)
654	40×22×30	<FH 653	FE 501	78×48×76	
655	40×26×18		502	18×18×50	<FE 505
656	20×18×10		503	42×36×48	
681	40×36×48		504	36×34×32	
682	50×42×42		505	34×32×38	>FE 502
B群			506	36×26×58	
FA 591	17×16×14		507		
			508		

— 西田遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FE 531	50×48×49		FF 566	50××33	< FF 565
532		FE 5310	567	22×22×28	FE 563
536	27×21×27		036	45±×41	
537	42×40×21		039	100±×60	< FF 0310 FF 0311 FF 507
5310		FE 532	0310	95±×42	FF 036• FF 039
5311	20×20×20		0311	54±×67	FF 039
5312	48×40×34		FG 501	40×50×44	
5313	22×20×10		502	52×34×38	
5314	32×32×54		503		
5315	14×12×14		506		
562	42×36×60		509	23×23×22	
563	116×100×82		5010	20×20×12	
564		FE 561	5015	32×28×34	
565	22×21×8		5016	16×14×7	
566	18×14×16		5017	36×32×12	
567	16×14×24		5018	24×22×19	
568			5019	33×26×30	
5910		> FE 591	5020	18×18×32	
5911		FD 593• FE 5912	5021		FG 5315
5912		FE 5911	5022		FG 5023
FF 501	60×58×68	> FF 506	531	48×46×40	
502	42×40×32		532	46×40×26	
503	40×32×30		533	26×18×35	
504	35×28×61	FF 5012• 5013	534	18×18×14	
506	18×10×22	< FF 501	535	16×14×7	
507	38±×60	FF 039	536	28×21×14	
508	34×28×42		537	12×10×8	
509	82×73×71		538	23×22×16	
5010	24×24×44		539	17×17×10	
5011	34×30×38		5310	18×18×12	
5012	12×—×24	FF 504• 5012• 5013	5311	18×18×13	
5013	21×13×45	FF 504• 5012	5312	51×44×34	
5014	31×21×60	FF 504• 5012	5313	20×14×14	
5015	16×16×13		5314	22×18×22	
531	51×50×51		5315	23×20×24	< FG 5021
532	36×34×16		5316	23×20×24	
533	37×30×24	FF 538	5317	20×20×20	
534	47×39×30	FF 535• 537	FG 5318	20×18×10	
535	19×18×29	FF 534	5319	24×22×18	
536	40×35×46		5320		
537	46×38×26	FF 531	FH 504	30×23×14	FH 506
538	22×20×20	FF 533	505	20×20×16	
539	24×20×19		506	28×26×14	FH 504
5310	30×24×18		5010		
5311	33×30×15		5011	22×14×11	
5312	16×12×16		5015	50×40×16	
5313	12×17×17		531		
5314	30×28×19		532	20×16×16	
565	58×54×62	< FF 566	533	14×12×12	

— 西田 遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 534	22×16×14	FH503 土塙墓	FE 031	35×31×29	
535	20×20×12		032	43±×76	<FE062
536	14×14×16		033	25×21×13	
537			034	27±×11	<FE062
C 群			035	20×18×21	
FD 033	23×20×14		036	35±×34	
034	43±×43	>FD039	061	70±×34	>FD062
035	32±×12	FD039	063	27×25×33	
039	66±×38	FD034+035	064	16×15×15	
061	32×26×53		065	23×22×31	
062	36±×21	<FE061	066		
063	19×16×7		094	41×37×89	
064	23×21×15		095	19×16×27	
065	27±×22		122	100±×65	FD127 FD128 FE124
066	44×42×74		123	63×57×69	
091	82×74×72		124	24±×37	FE122
092	77×73×26		126	24×19×13	
093	45±×44	FD0912	127	60±×38	
094	39±×48		151	20×18×24	
095	20×14×32		FF 031	68±×19	<FF032
096	15×12×14		032	25±×19	>FF031
097	23×21×52		033	68±×50	FF035
098	15×15×8		034	31×26×43	
099	15×14×9		035	34±×50	FF033
0910	23×19×17		037	63×47×50	
0911	18±×24		038	43×39×14	
0912	21±×25	FD093	0312	57±×21	<FF062+FF034+FF0614
0913	21×19×9		061	54±×59	<FF0616
0914	22×18×41		062	32×25×46	
122	110×40×65		063	45±×46	FF036
123	24×19×28		064	58×54×28	
124	21×18×35		065	30×26×33	
125	16×12×8		066	45±×34	>FF096
126	14×12×15		067	33±×22	>FF068
127	14±×41		068	44±×55	>FF069 <FF067
128	32±×54		069	47±×42	<FF068>PG062>PG061
129	17×16×9		0610	28×25×23	
1210	19×17×8		0611	83±×25	<FE062+FF0614
1211			0612	55±×71	<FE062+FF0613+FF0615
152	67×56×34		0613	30±×41	<FF062+FF0612
153	25×25×30		0614	50±×90	FE062+FF0611+FF0612
154	25±×24		0615	80±×30	<FF0617
155	16±×30		0616	46±×28	>FF061
156	31±×32	>FD157	0617	35±×26	>FF0615
157	16±×22	<FD156	0618	32±×32	<FF0619
182			0619	28±×30	>FF0618
183			0620	52×45×80	
184			0621	23×23×14	
			0622	33×29×24	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FF 0623	21±25	FF096	FG 0610	55±55	<FG065
091	30±27		0611	25×20×10	
092	46±49	>FF093	0612	23×19×35	
093	30±30	<FF092	0614	30±17	
094	64×51×43		0615	19×17×23	
095	79±74	FF0916 FF096	0616	54±77	<FG0618
096	50±40	FF0623 FF066	0617	28×25×20	
097	27×25×35		0618	23±19	>FG0616
098	13×12×10		091	84±49	FG096
099	25×22×40		092	33×27×28	
0910	20×13×18		093	47×42×50	
0911	30×28×40		094	65×55×103	
0912	21×19×16		095	43×38×30	
0913	35×34×41	FF0914	096	42±49	<FG091
0914	19×18×10	FF0913	097	25×20×7	
0915	20±18		098	21±10	
0916	22±36	<FF095	099	25±27	
121	58×50×73		0911	17×16×18	
122	43×37×21		0912	22±21	>FG0913
123	23×22×52		0913	21±11	<FG0912
FG 031	29±21		0914	21×19×16	
032	81±83	>FG033	FH 031	36×28×26	
033	63±66	<FG032	032	26×23×22	
034	23×21×56		033	15±19	
035	25±×	FG036	034	32×26×57	
036	75±43	FG035	035	35×30×38	
037	39×36×24		036	39×25×46	
038	22×17×9		037	19×14×10	FH038
039	32×27×13		038	17×12×18	FH037
0310	20×15×21		039	21×16×31	
0311	29±15		0310		
501			0311		
504	38±20		501	35×28×40	
505	21±18	<FG507 FG508	502	31×25×23	
507	32±13		507		
508	27±×	>FG505	508		
5011	21±30	>FG5012	509		
5012	69±44	<FG5011	5012	30×22×9	
5013	34±15	<FG5014	5013	31±20	
5014	23±12	>FG5013	5014	23×17×22	
061	37±41	<FF069>FG062	061	68±27	>FH064
062	37±54	<FF069>FG061	062	22×21×13	
063	33×28×31		063	62±37	FH0619
064	34×29×33		064	18±16	<FH061
065	18±19	>FG0610	066	26×23×26	
066	37±32	<FG068	067	28×22×17	
067	46±45	FG069	068	23×21×14	
068	87±70	FG066 FG067	069	20×18×40	
069	52±48	FG067	071	19×17×28	

—西田遺跡—

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 0612	18 ± × 9	FH0614	FF 182	29 × 25 × 36	
0613	22 ± × 28	< FH0614	183	17 × 12 × 43	
0614	26 ± × 26	FH0612 FH0613	184	52 × 46 × 52	
0615	23 ± × 34	< FH0616	FG 094	66 × 55 × 106	
0616	27 ± × 29	> FH0615	0910	28 ± × 59	
0617	25 × 22 × 13		121	65 ± × 81	FG1213 FG124
0618	26 × 22 × 29		122	47 × 40 × 55	
0619	27 ± × 32	FH063	123	37 × 33 × 25	
092	52 ± × 46	FH093	124	47 ± × 57	FG1213
093	55 ± × 56	FH092 FH094	125	33 × 30 × 37	
094	37 ± × 66	FH093	126	30 × 26 × 11	
F I			127	16 × 14 × 17	
031			128	40 ± × 51	< FG129
035			129	37 ± × 40	> FG128 < FG1210
036			1210	46 ± × 42	> FG129
062	33 ± × 63	< FI 063	1211	37 × 30 × 35	
063	35 ± × 46	> FI 062 < FI 064	1212	50 ± × 33	FG1214
064	46 ± × 70	> FI 063	1213	25 ± × 35	FG121-124
065	23 × 21 × 22		1214	40 ± × 54	> FG1212
067	34 × 31 × 14		151	80 ± × 97	> FG156
D 群			152	88 ± × 66	> FG153
FE18(住) pit 1	40 × 30 × 57		153	68 ± × 98	< FG152
pit 2	29 ± × 65	< FG158	154	45 ± × 56	> FG156 < FG155
pit 3	58 ± × 58	< FG1816	155	53 ± × 62	< FG154
pit 4	33 × 30 × 47		156	28 ± × 34	< FG151 FG154
pit 5	35 × 30 × 45	< FE152	158	28 ± × 10	FE18(住) pit 2
pit 6	30 × 27 × 48		159	27 × 26 × 36	
pit 7	17 × 15 × 24		181	36 ± × 45	< FG182 FG185
FE			182	38 ± × 20	> FG183 FG185 FG181
152	97 × 43 × 52	> FE18(住) pit 5	183	26 ± × 35	< FG182
181	70 × 50 × 30		184	14 ± × 24	FG185
182	90 ± × 65		185	27 ± × 34	FG184 FG182
183	35 × 30 × 14		186	41 ± × 57	< FG187
212	27 × 24 × 21		187	31 ± × 58	> FG186
213	43 × 19 × 35		188	37 ± × 49	< FG189 FG1814
FF			189	42 ± × 53	> FG188
151	59 × 50 × 69		190	52 × 42 × 36	
152	66 ± × 62	< FG1214	1911	35 ± × 40	< FG1812
153	23 × 21 × 43		1912	77 ± × 54	> FG1811
154	30 × 28 × 76		1914	65 ± × 50	FG188 FH1810
155	37 × 33 × 45	< FF156	1915	72 × 67 × 43	
156	50 ± × 35	> FF155	1916	68 ± × 57	> FE18(住) pit 3
157	60 ± × 37	< FF158	211	36 × 35 × 32	
158	58 ± × 41	> FF157	F H		
159	16 × 15 × 33		091	43 × 38 × 56	
1510	32 × 28 × 25		092	52 ± × 46	FH093
1511	20 × 17 × 36		095	39 × 37 × 30	
1512	20 × 18 × 12		096	30 × 26 × 36	
1513	23 × 19 × 65		097	23 × 20 × 17	
1514	34 × 27 × 16		098	23 × 18 × 14	
181	67 × 60 × 62				

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 099	44×37×61		FH 216	40×38×54	
0910	40×35×28		217	35±×55	>FH218
0911	40±×19		218	24±×17	<FH217
0912	21×19×24		219	28×20×21	
0913	18×12×10		507	20×17×14	
121	42±×32	<FH126	508	18±×9	<FH509
122	25±×32	FH1212	509	32±×13	>FH508
123	72×61×90		F I 061	38×33×30	
124	42×34×36		066	17×14×31	
125	35±×32		068		
126	45±×36	>FH121	091	33±×32	
127	46±×38	>FH1210	092	19±×21	F I 0913
128	47±×52		093	29±×24	
129	17±×18		094	38±×	F I 124
1210	35±×41	<FH127	095	24×21×22	
1211	35×34×41		096	27×25×20	
1212	31±×7	FH122	097	20×17×22	F I 098
151	70±×67		098	21×19×11	F I 091+097
152	32×34×45		099	20×17×15	
153	85±×80	FH157+1512	0910	23±×32	F I 124
154	80±×66	<FH155+152	0911	26±×24	F I 124
155	49±×70	>FH154	0912	20±×18	F I 124
156	30±×47	<FH157	121	37±×30	<F I 122
157	32±×25	>FH156	122	55±×38	>F I 121
158	22×18×28		123	52×43×65	
159	20×17×18		124	140±×43	F I 094 F I 0910 F I 0911 F I 0912
1510	35±×39		125	40×32×22	
1511	40×35×62		126	54±×76	<F I 127
1512	31×28×34		127	27±×41	>F I 126 <F I 124
181	26×20×57		128	40±×55	
182	41±×58	>FH183<FH184	129	84×67×93	
183	37±×50	<FH182	1210	40×30×42	
184	32±×31	<FH182	1211	23×18×25	
185	48×39×27		1212	32×24×13	
186	40×30×24		1213	25×22×23	
187	66×56×64		1214	22±×24	>F I 127
188	42×35×55		151	39±×68	>F I 152
189	42×40×36		152	48±×102	<F I 151
1810	38±×54	FG1814	153	27±×38	
1811	70×48×32		154	22×19×20	
1812	58×46×32		155	28×24×19	
1813	27±×57	FH1814	156	40±×33	>F I 157
1814	30±×	FH1813	157	46±×68	<F I 156
1815	41×32×43		158	55±×65	F I 159
211	30×25×26		159	35±×42	F I 158
212	32×28×35		1510	35×32×47	
213	35×28×40		1511	44×41×43	
214	22×21×19		1512	59×55×77	
215	38×30×21		1513	31±×33	>F I 1514

—西田遺跡—

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
F I 1514	32±45	<FI 1513	F J 183	33±23	>FJ 181
1515	32×24×41		187	46±45	>FJ 182 FJ 18 pit 5
181	46×39×38		188	42×39×35	
182	51×45×82		F J 18住 pit 2	31×24×17	
183	27×25×30		pit 3	16±21	F J 182 F J 187
184	43×41×9		pit 5	53±11	<F J 187
185	40×35×38		pit 6	82±14	F J 155
186	37×32×26		GA 091	50±16	<GA 092
187	40×36×16		092	34±20	>GA 091
188	40×35×54		125	40×30×52	
189	43×38×35				
1810	55±60	>FI 1811	E 群		
1811	40±22	<FI 1810	F I 21住 pit 3		
1812	41×34×27		F I 215	101×77×50	
211	24×22×38		216	86±60	>F J 212
212	29×27×15		F J 18住 pit 4	26×23×38	
213	30±14		F J 153	73±64	>F J 153-(1) & F J 153-(2)
214	32×30×59		153-(1)	27±44	<F J 153
216			(2)	22±26	>F J 153
21住 pit 1			158	39±48	<F J 159 & F J 18住 pit 1
2			159	31±52	>F J 158 & F J 18住 pit 1
F J 068			F J 18住 pit 1	16×10×32	>F J 158 & F J 159
091	33±15		184	49×43×43	
092	48×35×43		185	31×21×34	
093	25±18	>F J 094	186	34×29×46	
094	20±14	<F J 093	189	47±41	>F J 1810
095	20×18×22		1810	94±44	<F J 189
096	21×20×20		211	80×72×50	
098			212	20±87	<F I 216
099			GA 093	29±26	<GA 094
121	24±28		094	24±15	>GA 093
122	31×27×41		124	22±23	
123	22×17×29		126	31×28×17	
124	37×32×57		1210	52×33×15	
125	40±22	>F J 127	154	28×22×29	
126	35±37		155	40±15	
127	28±43	<F J 125	156	29×26×23	
128	27×22×28		157	25×21×31	
129	27×24×32		158	45×40×36	
1210	37×30×10		159	27×23×29	
151	35×27×46		1515	58×52×22	
152	20×15×13		1516	60×40×55	
154	39×24×48		181	85±50	<GA 183
155	24±13	F J 18住 pit 6	182	82×66×64	
156	66±71		183	104±32	>GA 184 & GA 181 & GA 186 & GA 185 & GA 2113
157	30±28	F J 156	184	39±23	<GA 183
1510	25×19×40		185	32±45	<GA 183 & GA 186 & GA 2113
181	37±47	<F J 183	186	38±40	>GA 185
182	70±85	<F J 187 F J 18住 pit 3	187	30×27×28	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GA 211	36×31×48	<GA2110<GA2114	GC 184	38×34×54	
2110	74 ± 43		185	36×34×50	
2111	48×44×51		186	47×41×35	
2112	56×44×31		187	37×31×17	
2113	35 ± 16	<GA183>GA185	188	58×35×60	
2114	32 ± 49	<GA2110>GA211	189	63×58×28	
GB 123	31×29×30		211	46 ± 49	>GC214
151	27×25×23		212	45 ± 76	>GC214
152	32×31×12		213	50×52×46	
153	27×23×29		214	57 ±	<GC211 GC212
154	35×27×40		GD 211	43×34×13	
155	40×30×10		212	33×31×21	
156	20 ± 15	>GB157	213	48×42×46	
157	26 ± 30	<GB156	214	41×34×22	
158	31 ± 27	>GB159	F 群		
159	45 ± 49	<GB158	GC 123	27 ± 12	GC124
1510	45×36×33		GD 121	30 ± 17	GD127
1511	26×25×20		122	29×22×19	
1512	36×30×15		127	30 ± 21	GD121
1513	30×29×18		128	25×22×16	
1514	23×20×26		151	27×24×16	
181	30×29×26		152	35×34×28	
182	24×23×15		153	22×21×27	
183	38×36×27		155	37×33×15	GD156
184	55×35×14		156	31×26×17	GD155
185	39×39×17		157	45×34×13	
186	70×58×25		158	35×32×45	GD159
187	79 ± 50	<GB188	159	30×26×14	GD158
188	40 ± 47	>GB187	1510	29×27×33	
189	66 ± 58	GB187 GB1810	1511	31×27×43	
1810	33 ± 28	GB187 GB189	181	41 ± 54	<GD182
211	27×25×12		182	38 ± 25	>GD181
212			183	34×25×20	
213	41×35×24		184	36×34×24	
214	56 ± 56	<GB215	185	35×30×20	
215	50 ± 37	>GB214	186	38×34×48	
216	36×34×18		187	49×34×20	
GC 092	34×31×12		188	40 ± 49	
151	32×29×17		215	66×58×61	
152	44×40×30		216	69×53×39	
153	43×38×18		217	77×65×25	
154	42 ± 45		219	40×29×21	
155	35×25×29		2110	39×34×26	
156	27 ± 36		GE 121	33 ± 40	GE122
157	27 ± 36	>GC158	122	95 ± 23	GE121 GE124
158	27 ± 36	<GC157	124	20 ± 48	GE122
181	26 ± 52	>GC182	125	26×22×18	
182	46 ± 34	<GC181	151	33 ± 15	<GE155
183	33×27×20				

— 西田遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GE 152	35±×18		GF 2110	53±×38	>GF 21柱穴 I
153	33×27×18		GF 21柱穴 1	28±×44	<GF 2110
154	31×28×19		GF 21柱穴 4	28×24×36	
155	30±×7	>GE 151	2111	48×42×26	
156	37×36×22		2112	35±	GF 2113
157	26×24×17		2113	55±	GF 219 GF 2112
158	50±×45	<GE 1811	GG 185	20×19×32	
159	28×27×15		186	37×32×17	
1510	35×32×30		1811	39×26×27	
1512	26×24×15		1813	29×26×18	
1513	27×24×25		211	32×23×32	
1514	32×28×20		212	27×23×16	
1515	35±×35		213	28×21×14	
181	31×26×31		214	26±×14	<GG 215
182	50×37×28		215	29±×13	>GG 214
183	18±×15		216	66±×46	>柱穴 3
184	85×45×28		柱穴 3	×44	GG 216
185	25±×14		217	31×27×22	
186	31×26×26		GH 211	31×24×12	
187	46×30×36	GE 189	G 群		
188	32×27×17		GE 065		
1810	29×25×15		066		
1811	52±×28	GE 158	067	27×25×16	
1812	28±×14	<GE 1813	093		
1813	24±×32	>GE 1812	094		
1814	20±×17	GE 1812	095		
1815	25±×4		GF 037	25×24×20	
212	36±×52	>GE 213	063	43×37×37	
213	48±×67	<GE 212	095	35×32×29	
214	57×46×50		096	39×37×26	
215	73×60×45		121	46×35×22	
216	36×33×19		122	33×31×25	
217	28×23×15		123	50×42×57	
GF 181	52×44×35		125	48×30×19	
182	41±×32	<GF 188	151	52×45×28	
183	46×26×50		152	38×35×60	
184	35×30×14		153	35±×22	
185	39×37×17		154	32×33×21	
186	25×21×41		GG 031	43×38×35	
187	27×24×20		032	32×27×32	
188	31±×25	>GF 182	033	26×24×13	
211	20±	GF 212	034	40×33×17	
212	36±×31	>GF 214 GF 211 GF 217	035	50±×51	
214	38±	<GF 212	036	19×17×17	
215	48±×45	<GF 21柱穴 2 GG 214	037	20×16×12	
GF 21柱穴 2	26±×41	<GF 215	061	46×42×15	
217	37±×31	GF 212	062	30±×19	
218	47×36×37		063	44×40×43	GG 064
219	30±	GF 2113			

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GG 064	31 ± × 33		GG 062	GH 038	44 × 40 × 10
065	36 × 30 × 20			039	50 × 44 × 32
066	31 × 26 × 13			061	62 ± × 34
067				062	> GH 062 45 ± × 29
068	32 ± × 18	< GH 061		063	< GH 061 45 ± × 21
091		> GG 093		064	> GH 065 30 ± × 15
092	45 × 43 × 52			065	< GH 064 40 ± × 42
093		< GG 091 < GG 121		066	42 ± × 37
094	58 × 48 × 40			067	56 × 40 × 28
095	29 × 28 × 23			068	40 × 35 × 37
096	40 ± × 37	> GH 097		069	36 × 29 × 31
097	44 ± × 36	< GH 096		091	67 × 59 × 51
098				092	86 ± × 65
121		> GG 091 > GG 093		093	> GH 093 57 ± × 71
122	47 × 20 × 18			094	< GH 092 47 ± × 41
123	60 ± × 47	< GG 124		095	GH 098 60 × 50 × 40
124	60 ± × 32	> GG 123		096	45 × 38 × 47
125	65 × 27 × 55			098	51 ± × 68
126				121	GH 094 68 × 76 × 65
127	56 ± × 26	GG 128		122	58 ± × 69
128	29 ± × 45	GG 127		123	> GH 123 60 ± × 58
151	35 ± × 46			124	< GH 122 < GH 124 28 ± × 35
153	27 × 23 × 25			125	> GH 124 36 ± × 28
154	45 × 40 × 15			126	34 × 28 × 31
155	42 ± × 35	< GG 156		128	34 × 29 × 31
156	43 ± × 21	> GG 155		151	65 × 61 × 74
157	31 ± × 32			152	51 × 49 × 53
158	73 × 61 × 64			153	62 × 56 × 62
181	44 × 37 × 54			154	55 × 48 × 80
182	34 × 31 × 23			155	38 × 34 × 26
183	37 × 33 × 19			156	50 × 43 × 41
184	29 × 25 × 15			157	60 × 31 × 57
187	35 × 31 × 18			158	61 ± × 34
188	44 × 40 × 56			159	> GH 159 < GH 1510 20 ± × 26
501	25 × 22 × 10			181	< GH 158 < GH 1510 26 × 20 × 26
502	45 ± × 20	> GG 503		182	63 ± × 51
503	33 ± × 31	< GG 502		183	GH 183 34 ± × 42
505	33 × 30 × 24			184	GH 182 58 × 50 × 36
506	30 × 27 × 21			185	28 × 23 × 38
507	30 × 26 × 10			186	56 ± × 38
508	30 × 25 × 19			187	> GH 187 70 ± × 43
509	33 × 30 × 13			0610	< GH 186 45 × 40 × 48
GH 031	28 ± × 29	GH 034 > GH 032		0611	< GH 063 23 ± × 37
032	55 ± × 39	< GH 031 > GH 034		0612	> GG 068 27 ± × 10
033	29 × 24 × 24			0613	37 × 32 × 28
034	36 ± × 17	GH 031 GH 032		0614	50 × 42 × 35
035	38 × 30 × 30			1510	40 ± × 29
036	26 × 25 × 31			1511	> GH 158 30 × 26 × 15
037	35 × 31 × 30			211	29 × 24 × 11

— 西 田 遺 跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GH 561	40×38×35		G J 151	52×50×58	
562	27×21×21		152	24×24×29	
563	55×36×30		153	55×40×58	
564	25±×	GH566	154	68×57×46	
565	27×23×26		181	24×21×23	
566	20±×	GH564	182	23×21×13	
G I 091	83×74×73		183	23×20×52	
092	76×61×63		184	22×21×16	
093	104×73×15	<G I 096	H 群		
095	33×31×55		G I 031	41×36×25	
096	38×30×56	>G I 093	032	40×35×39	
099	35±×39		033	40×33×25	
121	63×39×45		034	38×32×21	
122	47×41×71		035	35×23×18	
123	48±×65	>G I 1211	036	61±×34	G I 067 G I 0616
124	28±×25	>G I 125	037	41×35×49	
125	31±×16	<G I 124·>G I 126	038	27×27×23	
126	40±×57	>G I 128·<G I 125	039	27×24×18	
127	46±×67	>G I 151	061	37×34×17	
128	30±×39	<G I 126	062	53±×35	<G I 063·G I 0614
129	45±×72	<G I 151	063	46±×35	>G I 062
151	88±×80	>G I 129·<G I 127	064	36×32×32	
152	60±×62		065	50±×	G I 066
153	55±×41	>G I 1511	066	116±×45	G I 066 G I 0617<G I 0610
154	53±×55	<G I 1510	067	73±×34	>G I 068 G I 0616 G I 036
155	76×64×63		068	×75	<G I 067 G I 0616<G J 0613
156	44±×50	G I 158	0310	31×24×35	
157	38±×48		0311	41±×36	<G I 0312
158	30±×35	G I 156	0312	34±×13	>G I 0311
182	36×32×36		0610	69±×56	>G I 066 G I 069
183	50×44×45	G I 185·G I 184·G I 186	0611	36×35×39	
184	39±×48	G I 185·G I 183	0612	28±×16	
185	46±×42	G I 183·G I 184	0613	33×23×14	
186	41±×66	G I 183	0614	28±×34	G I 062
211	18×17×25		0616	55±×40	G I 067 G I 068 G I 0613 G I 036
0615	48×45×39		0617	69±×48	G I 066
1210	80×65×80		094	69±×83	>G I 097
1211	76±×70	<G I 123	097	50±×62	<G I 094
1510	25±×28	>G I 154	G J 031	79±×45	>G J 034
1511	47±×64	<G I 153	032	61×58×90	
1513	74×60×60		033	42±×40	
G J 091	69×60×85		034	33±×27	<G J 031
092	53×49×62		035	29±×40	<G J 036
093	51×61×30		036	35±×54	>G J 035
121	81×71×78		037	37×33×41	
122	75×72×65		061	40×34×27	
123	70×66×79		062	57×53×49	
124	46×41×60		063	45±×56	
125	57×53×62				

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GJ 064	49±59		GI 532	55±62	<GI 533
065	55×40×37		533	52±55	>GI 532 >GI 534
066	40±43	>GJ 069	534	58±77	<GI 533 >GI 535
067	26×24×37		535	65±81	<GI 534
068	41±29	>GJ 0611	536	53±30	GI 5316 GI 5312 GI 538
069	54±20	<GJ 066 GJ 0610	537	47±43	<GI 5313
0310	53×45×54		538	23±65	GI 5313 GI 5311 GI 5312
0610	20±31	GJ 069	539	25±38	GI 5316
0611	61±105	<GJ 068 <GJ 0612	5310	50±49	>GI 539
0612	24±45	>GJ 0611	5311	54±64	GI 5313 GI 538 <GI 5312
0613	45±45	<GJ 068 GJ 0616	5312	59±41	>GI 5311 GI 538 GI 536
HA 031	58×54×72		5313	44±47	>GI 537 GI 538 GI 5311
032	46±65		5314	25±22	
061	48×39×42		5315	28×21×12	
062	40×32×40		5316	23±27	GI 536
063	43×50×50		5317	20×24×13	
091	73×61×82		561	63×69×66	
092	47×37×46		562	57×48×66	
HB 061	33±27	HB 062	566	52×49×55	
062	51±36	HB 061	568	23×21×25	
063	101±42	HB 064	569	28×21×25	
064	40±29	HB 063	5610	68×62×66	
HC 061	33×32×38		5611	56×44×35	
1群					
GG 532	24×22×21		GI J 038	58×55×71	
535	23×22×14		039	29×31×16	
565	25±30		0311	62×57×66	
GH 501	33×32×21		501	77±86	>GI 502 GJ 509
502	23×20×24		502	65±85	<GI 509 GJ 501
503	50±72	GI 501	503	49×45×25	
531	23×20×21		504	65±91	GJ 5010
532	34×25×21		505	47±46	<GJ 508
533	25×22×30		506	50±59	<GJ 508
GI 501	49±75	GH 503	507	105×90×62	
502	80±69	GI 503>GI 5011	508	66±37	
503	47±52	GI 502	509	70±79	GJ 5011 GJ 501 GJ 501
504	52±24	>GI 5011	510	22±44	GJ 504
505	62±44	<GI 506	5011	45±62	GJ 509
506	33±31	>GI 505 GI 5014	5013	40×35×20	
507	34×32×29		531	68±76	GJ 535 GJ 538
508	46±54	>GI 5012 GI 5010>GI 509	532	78±71	GJ 535 GJ 539
509	80±28	GI 5010<GI 508 GI 5012	533	37×30×32	
5010	33±32		534	55±42	<GJ 537
5011	30±35	<GI 502<GI 504	535	85±77	<GJ 531 GJ 532
5012	472×71	<GI 508>GI 509	536	43×31×44	
5013	72×64×75		537	53±42	>GJ 534
5014	45±41	GI 506	538	47±45	GJ 531
531	45±37	5310	539	31±23	<GJ 532
			561	90±78	<GJ 562
			562	82±83	>GJ 561